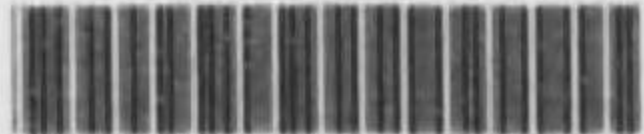


50

50-9カ



1200501262866



始



藥學博士下山順一郎纂著

改正

增補

# 生藥學



梅渙書院藏版



50-9  
2E66

生薬學下巻目次

第八章 葉類

ヤボランヂ葉	二
ブッコ葉	七
ココ葉	九
オイカリプツス葉(ユーカリ葉)	一一
アルテア葉	一四
ラウロツエラズス葉	一七
バクチ葉	二〇
ハマメリス葉	二二
センナ葉	二三
ウソウルシ葉	二九
ペラドンナ葉	三二
ブエホアシア葉	三六

第九章 花類

曼陀羅華葉	三六
烟草葉	三八
チギタリス葉	四一
薄荷葉	四八
皺葉薄荷	五二
綠薄荷	五三
サルウイア葉	五三
迷迭香葉	五五
メリッサ葉	五八
睡菜葉	六〇
茶葉	六一
サフラン	八〇
コソ花(クソソ一花)	八六
玫瑰花(薔薇花)	八九

丁香(丁子).....	九〇
丁香葉.....	九四
母丁香.....	九四
橙花.....	九四
錦葵花.....	九五
菩提樹花.....	九六
ラヘンデル花.....	九八
接骨木花.....	一〇〇
シナ花(セメンチナ).....	一〇二
アルニカ花.....	一〇四
カミルレ花.....	一〇七
羅馬カミルレ花.....	一一〇
<b>第十章 果實類</b>	
杜松實.....	一一五
日本産杜松實.....	一一六

小荳蔻(マラバルカルダモム).....	一一七
長形カルダモム(錫蘭カルダモム).....	一一九
縮砂.....	一二〇
伊豆縮砂.....	一二一
益智.....	一二一
白荳蔻.....	一二二
ワニルラ.....	一二二
葎澄茄.....	一二八
胡椒(黒胡椒).....	一三二
白胡椒.....	一三四
藜麥.....	一三四
山椒(蜀椒).....	一三五
大茴香(八角茴香).....	一三六
日本産大茴香(檜實、莽仲實).....	一三七
橙皮.....	一三八
未熟橙實.....	一四〇

枸櫞皮.....	一四一
ラムヌス實.....	一四二
鼠李子.....	一四四
アニーヌ實.....	一四四
茴香(小茴香).....	一四六
羅馬茴香(甘茴香).....	一四八
カールム實.....	一四八
コニウム實(チクータ實).....	一五〇
タマリンド.....	一五二
タマリンド果泥.....	一五二
コロシント實.....	一五五
番椒.....	一五七
<b>第十一章 種子類</b>	
檳榔子.....	一六〇
コルヒクム子.....	一六二

サパデルラ子.....	一六六
肉荳蔻.....	一六七
肉荳蔻花(肉荳蔻子被).....	一七一
芥子.....	一七二
黒芥子.....	一七五
歐洲産白芥子.....	一七六
カ、オ子(カ、オ豆).....	一七七
亞麻仁.....	一八〇
蓖麻子.....	一三八
巴豆.....	一八四
苦扁桃.....	一八六
杏仁.....	一九二
桃仁.....	一九三
甘扁桃.....	一九四
カラバル豆.....	一九五

トシコ豆……………一九八

番木鱧子(馬錢子)……………二〇〇

イグアナチウス子……………二〇四

カッフェー豆(コッフェー豆)……………二〇四

ストロファンツス子……………二〇七

ヒスピツス子……………二〇九

コンマエ子……………二〇九

綿……………二二二

**第十二章 ゴム類**

アラビヤゴム……………二二四

トラガカンタ(トラガントゴム)……………二二六

**第十三章 甘味ヲ有スル滲出物類**

マンナ……………二二九

**第十四章 ゴムヲ混有スル樹脂類**

藤黄……………二二二

**第十五章 揮發油及ゴムヲ混有スル樹脂類**

ミルラ……………二二三

花浸薬及煉浸薬……………二二四

乳香……………二二五

阿魏……………二二六

ガルバスム……………二二九

アンモニアクム(ゴムアンモニアク)……………二二二

**第十六章 著量ノ揮發油ヲ含有スル樹脂類**

テレピンチーナ(尋常テルペンチン)……………二三五

ウエネチアテレピンチーナ(落葉松テレピンチーナ)……………二三七

加奈陀テレピンチーナ(カナダバルサム)……………二三八

松脂……………二三九

コロフォニウム……………二四〇

コバイババルサム……………二四一

グルユンバルサム……………二四四

**第十七章 樹脂類**

琥珀……………二四六

サンダラック……………二四七

コパール……………二四八

亞弗利加産コパール……………二四九

亞米利加産コパール……………二五〇

ニュージラランド及ニューカレドニアコパール……………二五一

カリリヤクコパール……………二五一

マニラコパール……………二五二

ダムマル脂(ダムマルゴム)……………二五二

瘡瘡木脂……………二五四

マスチキス……………二五六

安息香……………二五六

蘇門答臘安息香……………二五八

暹羅安息香……………二五八

**第十八章 バルサム類**

流動蘇合香(蘇合香)……………二六一

ペルーバルサム……………二六四

トルーバルサム……………二六六

**第十九章 乳液及其成分類**

阿片(小亞細亞阿片)……………二六九

土耳其阿片……………二七二

埃及阿片……………二七四

百見矢亞阿片……………二七四

支那阿片……………二七五

印度阿片……………二七五

日本阿片……………二七五

ラクツカリウム……………二七九

オイフォルビウム……………二八一

彈力ゴム(カウチユック)……………二八二  
グッタペルカ……………二八九  
**第二十章 越幾斯類**  
蘆薈……………二九一  
甘草羔(尋常甘草越幾斯)……………二九六  
キノ……………二九七  
阿仙藥……………二九九  
ヘゲ阿仙藥……………二九九  
カムピール阿仙藥(カムピール)……………三〇〇  
**第二十一章 粉末性生藥類**  
ホップ腺(ルプリン)……………三〇三  
カマラ……………三〇五  
**第二十二章 動物界ヨリ出ツル生藥類**  
海綿……………三〇八

臙脂蟲(呀喇蟲、コヘニール)……………三二〇  
カンタリス(豆斑蟊)……………三二三  
壳書……………三二〇  
白阿膠……………三二〇  
魚膠……………三二二  
麝香……………三二三  
カストレウム(海狸香)……………三二八  
稠厚牛膽……………三三一  
**追加**  
ファルファラ葉……………三三三  
ウエルバスクム花……………三三四  
**附録**  
稀用生藥(下)……………三三七  
生藥學下卷目次了

# 生藥學 下

東京帝國大學醫科大學教授藥學博士ドクトル

下山順一郎 纂著

藥學士 大島太郎 增補

柴田承桂 校訂

## 第八章 葉類 Folia. Blätter.

夫葉植物發育の始ニ當リ莖幹ノ頂部ヨリ發生スルモノニシテ爾後二葉ノ間ニ於ケル枝節延長スルトキハ幹節(Internodium)ヲ生ス葉ノ附着スル部位ヲ結節(Node)ト云フ結節ハ著シク膨起セルコトアリ例之バ薯科胡椒科禾本科ノ植物ニ於ケルガ如シテ葉ノ着生スル點ヲ附着點(Insertio)ト云フ葉ハ其莖幹ニ配列セル位置ニ由リ之ヲ螺旋葉十字葉茶葉等ニ區別ス柄ヲ具有スル葉ハ葉體及葉柄ノ二部ヨリ成リ葉體ノ葉柄ニ移ル部位ニ屢小ナル葉片ヲ附着スルコトアリ之ヲ小葉膜(Tigula)ト云フ而シテ葉柄ノ基礎處管狀ニ發育シ莖ヲ圍擁スルコトアリ之ヲ葉鞘(Vagina)ト云フ副葉(Stipula)ハ素ト葉鞘ニ屬スヘキモノニシテ主葉ノ基礎部ニ發育シ多クハ主葉ト其形態及色澤ヲ異ニス。

葉ノ形狀ハ極メテ種々ナレトモ葉體ノ擴展シテ扁面ヲナセルモノ最モ多シ同一種ノ葉ニシテ其發育スル部位ノ異ナルニ由リ其形狀ヲ異ニスルモノアリ之ヲ名ケテ**不同葉**(Heterophyllo)ト云フ凡ソ葉ハ日光ノ補助ヲ藉リ炭酸ヲ同化スルノ任ヲ負フルガ故ニ其綠色ノ葉面ヲ太陽ニ向露スルモノナリ但シ此機能ヲ有スルモノハ所謂眞正葉ニ限ル。

●**眞正葉**(常葉)(Folia)ハ主トシテ根ト花ノ間ニ於ケル植物幹軸ノ部位ニ發育スルモノナリ。

●**鱗葉**(下葉)(Squamula)ハ常葉ト異ニシテ莖幹ノ基礎部根莖節節莖等ニ着生シ大抵類褐色或ハ淡綠色ヲ有シ植物ノ柔弱ナル發育部ヲ包庇シ保護ト看做スベキモノナリ彼ノ肉質様ナル莖葉モ亦鱗葉ニ屬ス其他幼弱ナル葉芽ヲ擁護スル所ノ芽鱗モ亦鱗葉ノ一種ニシテ莖幹ノ上部ニ發育シ葉芽ヲ包庇スルノ器官ナリ。

●**子葉**(Cotyledon)ハ鱗葉ニ屬スルモノナレトモ其官能ハ全ク之ニ異ナリ。

●**苞葉**或ハ**高葉**(Bractea)ハ葉ノ一種ニシテ花ノ發育セル部位ニ着生シ多クハ嫩弱ニシテ花ノ底護スルノ任ヲ負フ。

葉殊ニ眞正葉ニ在テハ下葉ハ展全ク(七葉茶)或ハ其一部分(例之ハ種々)變形シテ莖トナルモノアリ然レトモ莖ハ總テ葉ノ變形ニ由テ生スルモノニ非ス(例之ハ葡萄屬植物)變形シテ葉トナルモノアリ然レトモ莖ハ總テ葉ノ變形ニ由テ生スルモノニ非ス(例之ハ葡萄屬植物)

(基原)

ヤボランデナル語ハ南米ブラジルニ於ケル種々ナル植物ノ稱呼ニ

●ヤボランデ葉 Folia Jaborandi.

(獨) Zaborandiblätter.  
 (英) Jaborandi leaves.  
 (佛) Feuilles de Jaborandi.

圖一第



シテヤボランデ葉ハ一千八百七十三年初メテ南米ペルナムブッコヨリ佛國巴里市ニ齎致セラレ高サ大約三mニ至ル芸香科(Rutaceae)ノ灌木 *Pilocarpus peltatifolius* Lemaire ノ葉ニシテ南米ブラジルノ東部ニ産ス**第一**圖ハ此灌木ノ一翼葉ヲ縮小シテ示ス。

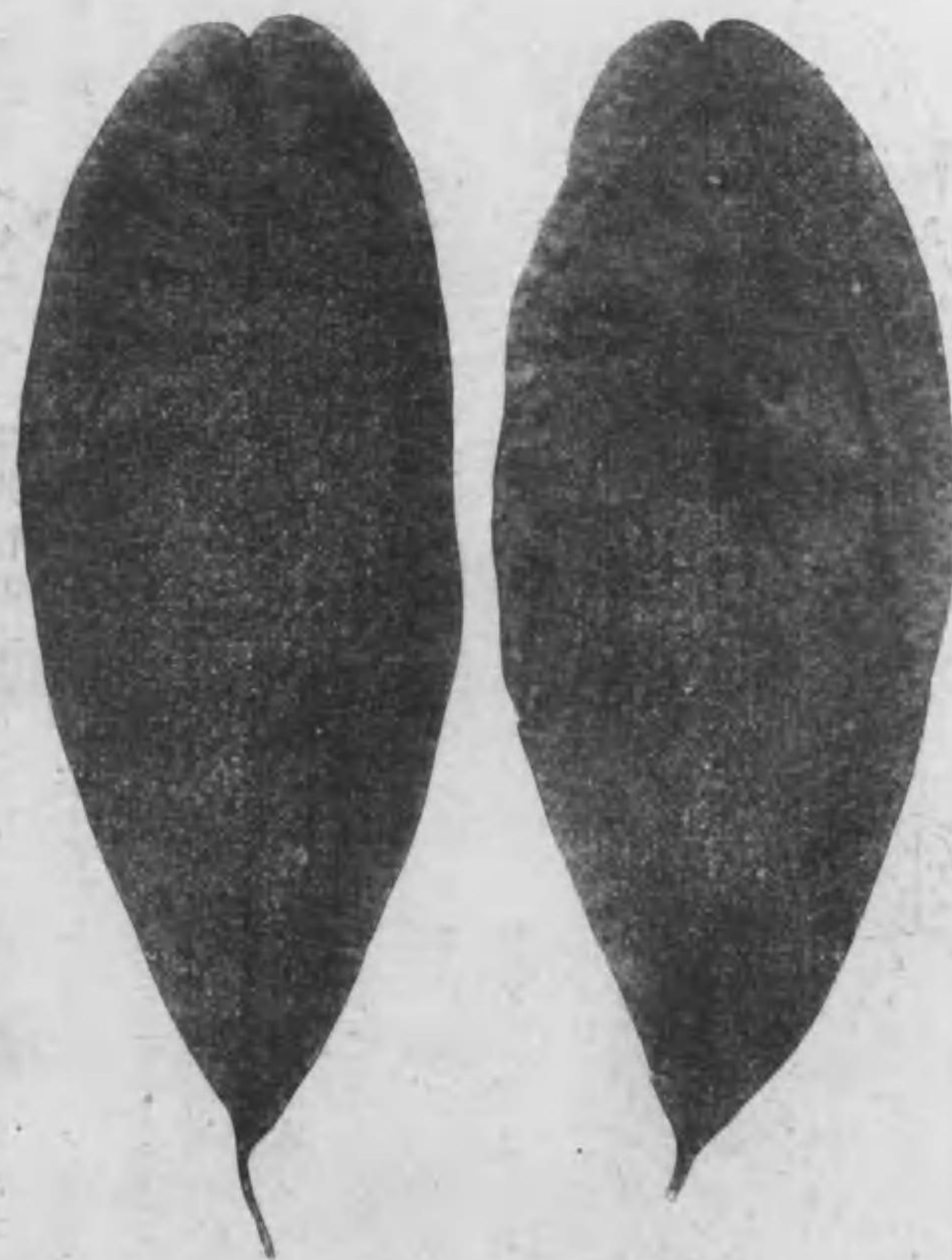
圖二第



(ヤボランデ葉、大約天然大ノ半)

列乃至五列ヨリ成リ衛葉ヨリ大ナラザル有柄性ノ奇葉端ヲ戴ク其翼葉柄ハ

第三圖



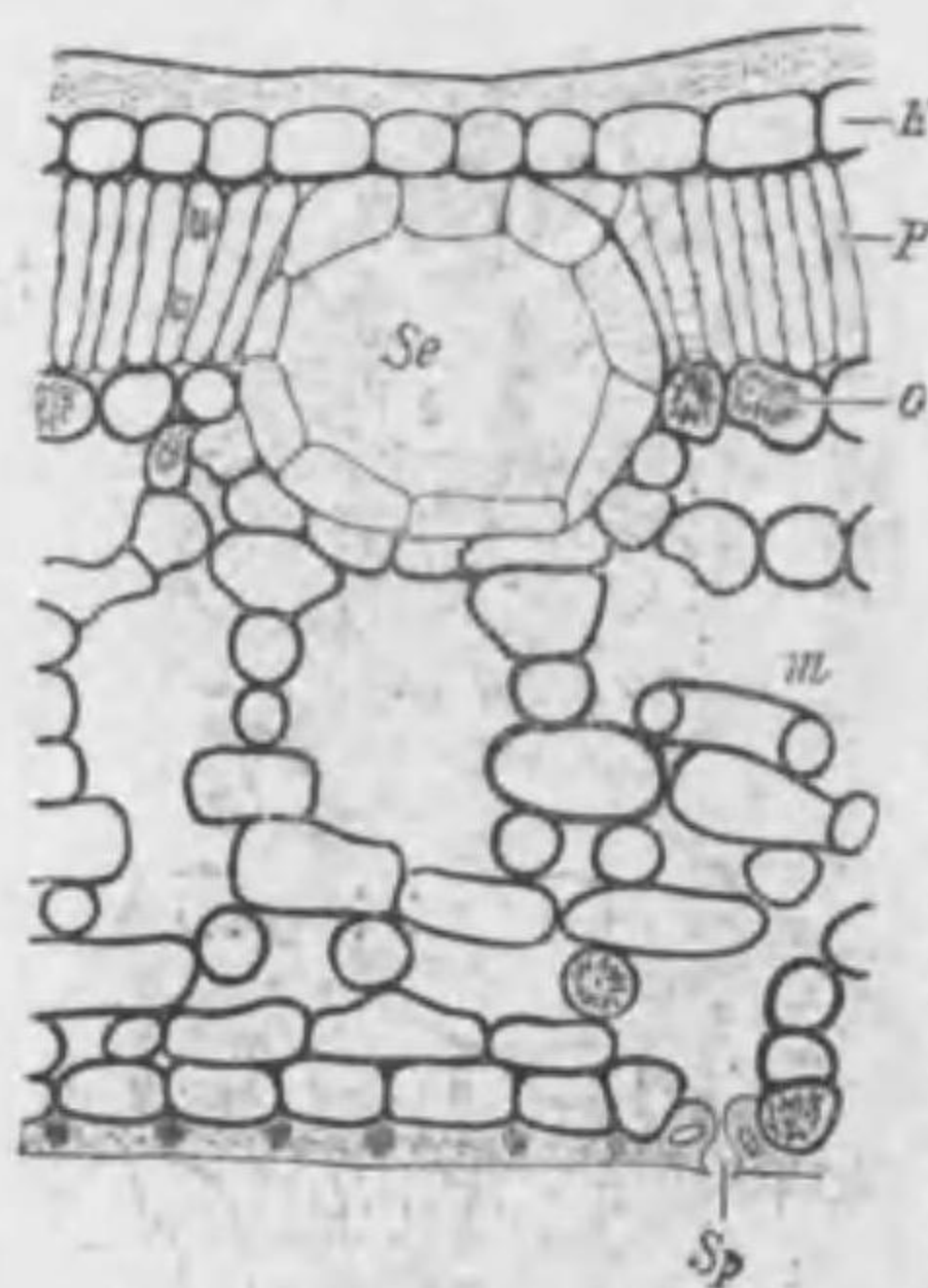
最下位ノ衛葉ノ下ニ於テ長サ七cmニ至ルコトアリ各小葉ハ鍔針形ニナリ乃至椭圆形ノ全葉ヲ有シ強剛棘革様ニシテ長サ十六cm其最廣部ノ幅七cmニ至ル頂端鈍ク

全圖或ハ少シク凹入シ同圖邊緣平坦ニノ稍卷曲ス葉面暗綠色ヲ有シ平滑ニノ稀ニハ下面ノミニ毛茸ヲ帶フルコアリ日光ニ向テ透視スレバ透映性ノ斑点(油室、第四圖Se)ヲ現ハス、第三圖ハヤボランザ菜ノ自然大寫真圖ナリ。

(顯微鏡的構造)

上面ノ上皮ハ之ヲ其表面ヨリ望視スレバ多方形ニシテ厚壁性細胞ヨリ成リ之ニ被ムレル上皮ハ波動狀ノ條紋ヲ現ハス(第五圖)下面ノ上皮ハ率ネ上面ノ上皮ト構造ヲ同ウシ略ホ圈輪狀ヲナセル裂口(第六圖)ノ甚タ多數ヲ具有ス其閉鎖細胞ハ二箇乃至四箇ノ副細胞(ロ)ヨリ圍繞セラレ、

第四圖



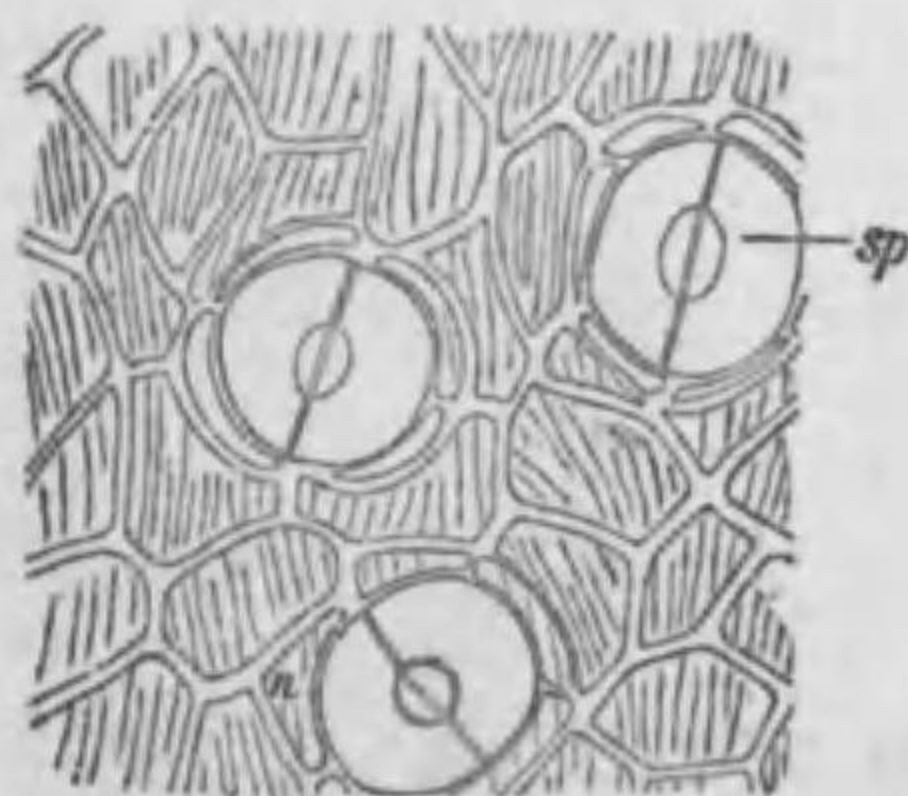
上下兩面ノ上皮ニハ脱落セル毛茸ノ痕(第五圖)ヲ存シ稀ニハ單一ノ細胞ヨリ成レル圓錐體形ノ毛茸ヲ帶フルコアリ、中層組織ハ葉ノ上面ニ於テハ比較的狭キ柵狀細胞ノ一層ヨリ成リ其柵狀細胞ノ厚サハ全葉體ノ厚サノ大約三分ノ一乃至四分ノ一ヲ占ム此柵狀細胞中細小ナル植酸カルチウムノ簇晶ノ一箇乃



第五圖



第六圖



至二箇ヲ包藏セルモノアリ、海綿組織ハ大ニ間隙ヲ存シ甚タ粗糙ナル組織、第四圖(m)ヨリ成リ之ヲ形成セル細胞ハ主トシテ葉面ノ方向ニ延長セリ、柵狀細胞ノ直下ニ位スル中層組織細胞中ニハ彼ノ海綿組織中ニ見ル所ト同一ノ棧酸鹽簇晶ヲ包有スルモノアリ、油室ハ多數アリ巨大圓錐體形ヲナシ上下兩面ノ表皮ニ密接シテ散在ス。

第四圖ハヤボランザ葉ノ横断面ヲ示ス、而シテEハ上皮、Pハ柵狀細胞、Oハ棧酸鹽簇晶、mハ海綿組織、Spハ裂口トス。

第五圖ハ上面ノ上皮ヲ示ス其ハ脱落セル毛茸ノ痕痕トス。

第六圖ハ下面ノ上皮ヲ示ス其Spハ裂口、Hハ副細胞トス。

ヤボランザ葉ハ其味著シク青烈ナラザレトモ之ヲ咀嚼スレバ唾液ノ分泌ヲ

旺盛ナラシム。

**(成分)** 大約〇・五%ノ揮發油ヲ含ム、有效成分ハ「ピロカルピン」(Pilocarpin  $C_{11}H_{16}N_2O_2$ )ナル「アルカロイド」ナリ又「ピロカルピジン」(Pirokarpidin  $C_{16}H_{18}N_2O_2$ )ナル「アルカロイド」其他「ヤボリン」(Jaborin  $C_{22}H_{31}N_3O_2$ )及「ヤボリジン」(Jaboridin  $C_{16}H_{18}N_2O_2$ )ナル「アルカロイド」ノ少量ヲ傍有ス。

南米ニ於テハ發汗ノ効力アル他ノ芸香料及胡椒科ノ植物葉ヲモ之ヲ「ヤボランザ葉」ト總稱ス然レトモ此等ノ葉ハ本條ノ生薬ト錯誤スルノ恐ナシトス。

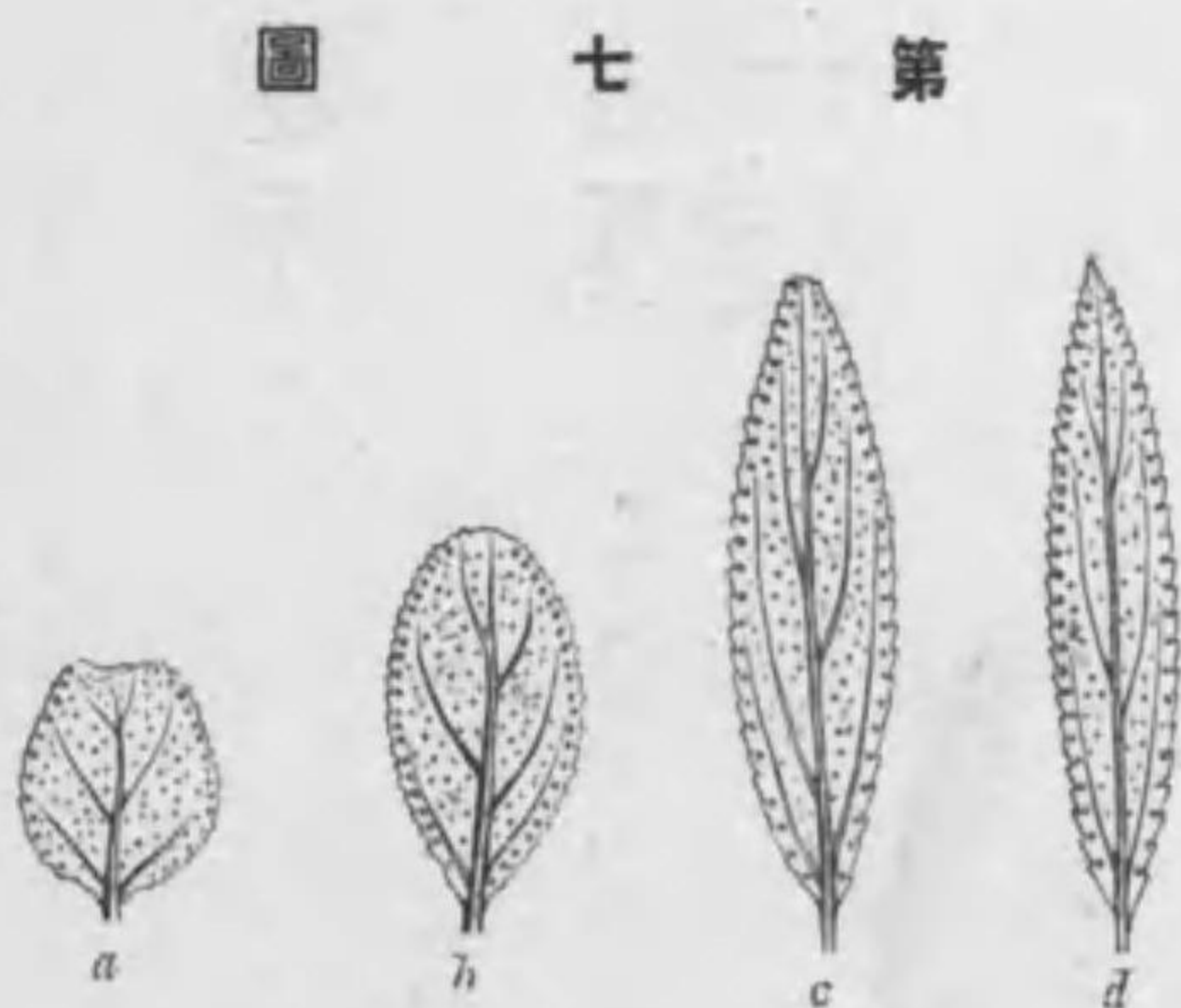
**(應用)** 發汗薬トシテ應用セラレ大抵之ヲ浸劑トナス、又「ピロカルピン」ヲ製スルノ原料タリ。

●ブッコ葉 Folia Bucco.

**(基原)** ブッコ葉ハ「阿弗利加喜望峯」地方ニ産スル芸香料 (Rutaceae) ニ屬スル Barosma 屬植物ノ葉ヲ採集セルモノナリ。

**(形状)** 廣形ブッコ葉又ハ圓形ブッコ葉 (Folia Bucco lata seu rotunda) ト稱スルモノハ Barosma crenulata Hooker, B. crenata Kunze, B. behulina Bartt. et Wendl. 等ノ葉ナリ、B. crenulata ノ葉ハ第七圖(c)ニ示ス如ク長卵圓形ヲナシ長サ二乃至三cmニ至リ邊緣細微ノ鋸齒ヲ帶フ、B. crenata ノ葉ハ倒卵圓形ニシテ長サ二cm幅

(獨) Buffoblätter.  
(佛) Buchu leaves.  
(英) Feuilles de Buccu ou Bucco.



1 cm 乃至 1.5 cm (同圖 b)、*Betulina* ノ葉ハ菱狀倒卵圓形ヲナシ邊緣ニ不整ノ鈍鋸齒ヲ着ク(同圖 a)、第八圖ハ「ブッコ葉廣長兩種ノ者ノ各表面及背面ヲ現ハセル寫真圖ナリ。

(顯微鏡的構造) ブッコ葉ハ其橫斷面ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ上面

ノ上皮下ニハ粘液層ヲ具有シ上皮細胞中ニハ <sup>(K. V. K. H. A.)</sup> Hesperidin  $C_{28}H_{36}O_{12}$  ト稱スル配糖體ヲ包藏ス、ブッコ葉ヲ數日間稀酒精ニ浸漬シテ顯微鏡下ニ檢スレバ「ヘスベリヂン」ハ特異ナル球狀ノ結晶トナリテ現出スベシ又中層組織中ニハ油室及糖酸鹽簇品ヲ認ム。

(獨) *Rofabätter.*  
(英) *Coca leaves.*  
(佛) *Feuilles de Coca.*

右ニ掲グル圓形ブッコ葉ノ外ニ長形ブッコ葉 (*Folia Bucco longa*) ナルモノアリ此ブッコ葉ハ *Barosma serratifolia Willd.* *Empleurum ensatum Birt. et Zeyl.* (亦共ニ喜望峰ノ西南地方ニ産ス) ノ葉ヨリ成リ甲ハ長鉞形ヲナシ邊緣ニ鋭鋸齒ヲ帶フ(第七圖 d、第八圖左方) 乙ハ其形狀頗ル甲ニ類ス但シ邊緣ノ鋸齒ハ甲ニ比シテ疎ラナリ此二種ノ葉ハ亦以テ藥用ニ供スルヲ得ベシ。

**(成分)** ブッコ葉ハ揮發油一乃至二%ヲ含有ス、此揮發油ハ其香氣頗ル薄荷油ニ類シ <sup>(C<sub>10</sub>H<sub>16</sub>O<sub>2</sub>)</sup> Diosphenol (C<sub>10</sub>H<sub>16</sub>O<sub>2</sub>) ト稱スル化合物ヲ含有ス其他ノ成分ハ「ヘスベリヂン」(上文ヲ見ヨ) 粘液、樹脂等ナリ。

**(應用)** 多ク英國ニ於テ利尿藥及興奮藥トナシ普通ハ浸劑トシテ用ユ。

● **コカ葉** *Folia Coca.*

**(基原)** コカ葉ハ從前ヨリ南米秘魯ノ人民之ヲ食スルトキハ勞力ニ堪ヘ或ハ飢餓ヲ凌クコトヲ得ルトシテ常ニ嗜好スルノ慣習ヲ有ス、秘魯ニ旅行セシ歐洲人中往々コカ葉ヲ食シテ其實效アルコトヲ經驗セシモノアリト雖トモ世人ハ曾テ之ヲ顧ミルコトナカリキ、二千八百八十四年ヨリ一千八百八十五年ニ至ルノ際、奧國維納市ノ <sup>Koller</sup> コルレル氏ガ「コカイン」ノ局處麻酔ニ效力アルコトヲ檢明セシヨリ以來「コカイン」ハ首要ナル藥品ノ位置ヲ占ムルニ至レリ。

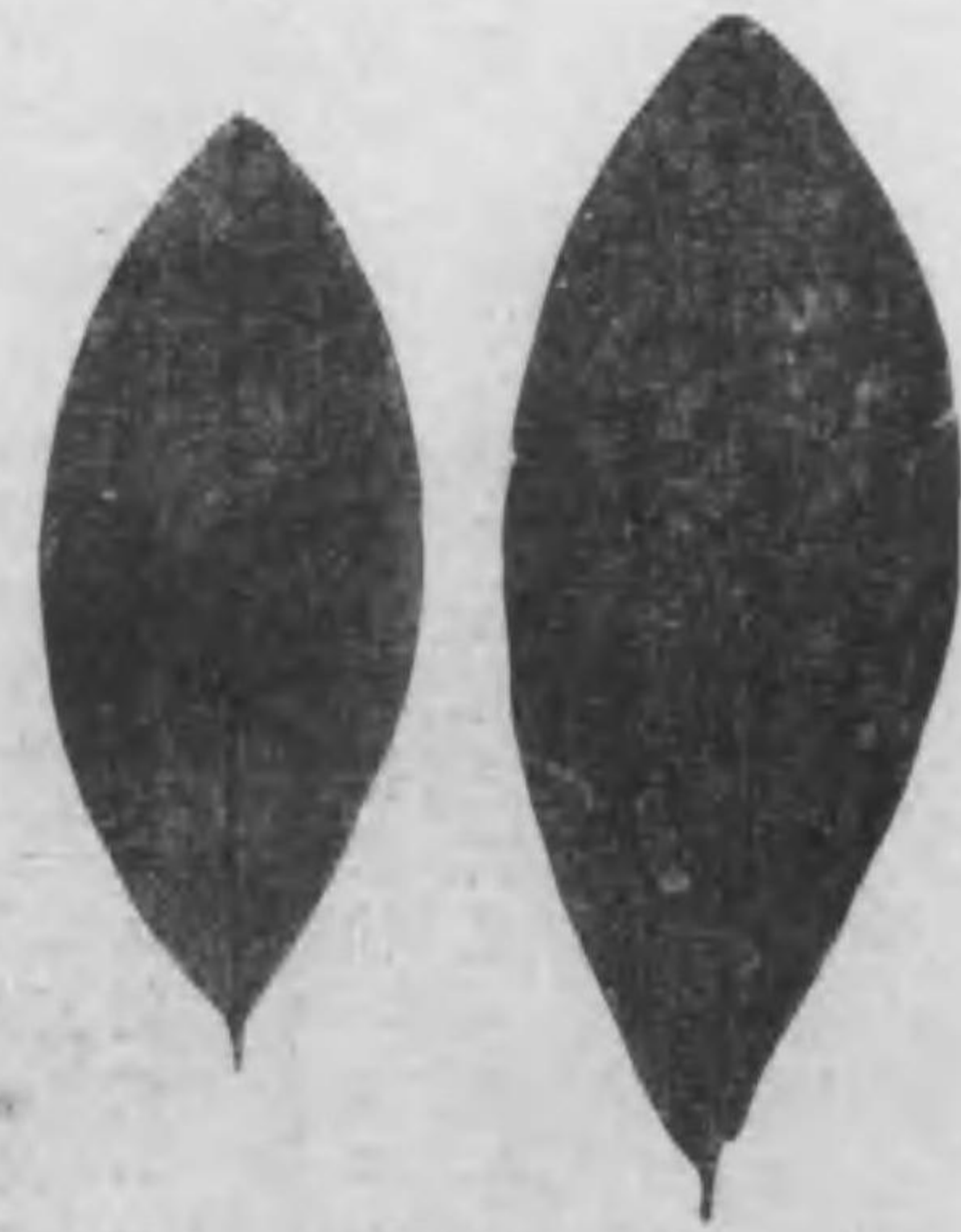
コカ葉ハ「エリトロキシロン科 (Erythroxylaceae)」ニ屬スル Erythroxylon Coca Lamourk ナル灌木ノ葉ニシテ恐  
ラクハ素ト南米秘魯ノ南部ノ産ニシテ同國ウルバシバ洲其他グスコ洲並ニボリヱア等ニ培植  
セラレ、現今ハ西印度ノジャマイカ島、東印度ノ錫蘭島、其他サンジバル、濠洲等ニ之ヲ移植セリ。

**(形状)** コカ葉ハ薄クシテ卵圓形ヲ爲シ頂端尖銳ニシテ長サ六〇mm幅其半バ  
ニ至リ葉柄  
短ク邊緣平  
坦ニシテ少  
シク反卷ス  
多クハ其主  
脈ノ各側ニ  
稍、弓狀ニ彎  
曲セル線條  
ヲ現ハス是

第九圖



第十圖



レ其葉ノ萌芽ヲ爲セルトキニ卷疊シアリタル痕跡ナリ、第九圖ハコカ葉ノ概  
型ヲ示ス圖中主脈ノ各側ニ位スル弧線ヲ明視シ得ヘシ、第十圖ハコカ葉ノ自

然大寫眞圖ナリ、コカ葉ノ臭氣及味ハ較著ナラズ略、茶葉ニ類ス。

坊間ノ、コカ葉ニハボリヱア産、秘魯産及瓜哇産等ノ諸種アリ而シテボリヱア産ヲ以テ最佳  
品トス。

**(成分)** コカイン (Kokain  $C_{17}H_{19}NO_3$ ) ナルアルカロイドヲ含ム、其含量ハ甚タ不  
同ニシテ多クモ〇・七五%ニ超エズ、又ヒグリン (Hygrin  $C_8H_{15}NO$ ) ナル液狀アル  
カロイドノ少量ヲ含ム其他一種ノ鞣酸及揮發油ノ痕跡ヲ含ム。

**(應用)** コカ葉ハ主トシテ「コカイン」ヲ製スルニ用ユ只稀ニ丁酸液劑等トシテ應用スルノミ。

● オイカリプツス葉 Folia Eucalypti.

**(基原)** オイカリプツス葉ハ其醫藥上ノ應用近ク一千八百七十九年ニ始マレリ石榴科 (Myrt-  
aceae) ノ植物 Eucalyptus globulus Labillardiere ノ葉ナリ此樹ハ多數ナル Eucalyptus 屬植物ノ一ニシテエル、  
アラウン氏ニ據レバ濠洲中山林ノ樹木大約四分ノ三ハ此樹ヨリ成ル、又ハ「セル、ギモ、セル」ト氏ニ  
據レバ此樹ハ高サ百三十mニ達スル大喬木ニシテ殊ニ濠洲ノ東部及タスマニア島ニ産ス而シテ  
生上有害ナル沼澤地ニ之ヲ植ウルトキハ其生長甚タ速ニシテ水濕ヲ吸取スルト他ノ原因ニ由テ  
其地ノ瘴氣ヲ撲滅シ自然ニ氣候ヲ佳良ナラシムルト唱フル學說ノ一トタヒ世ニ出テシヨリイ  
トリア、伊國ノ或ル地方、佛國ノ南部、西班牙其他歐洲外ノ諸國埃及アルセリア、南米、諸邦等ニ多ク培  
植スルニ至レリ。

葉 (獨) Eucalyptusblätter.  
(英) Eucalyptus leaves.  
(佛) Feuilles d' Eucalyptus.

(形状)

オイカリプツス葉ハ所謂不同葉ノ一ニシテ二形ヲ有ス即チ稚樹ノ

圖一十第



葉ハ草様ニシテ  
卵圓形ヲ有シ葉  
柄ヲ有セズ坊間  
ニ販賣セル葉ハ

只老樹ヨリ

採レル葉ヨ

リ成ル此葉

ハ棘革様ニ

シテ鎌狀ヲ

ナシ頂端漸

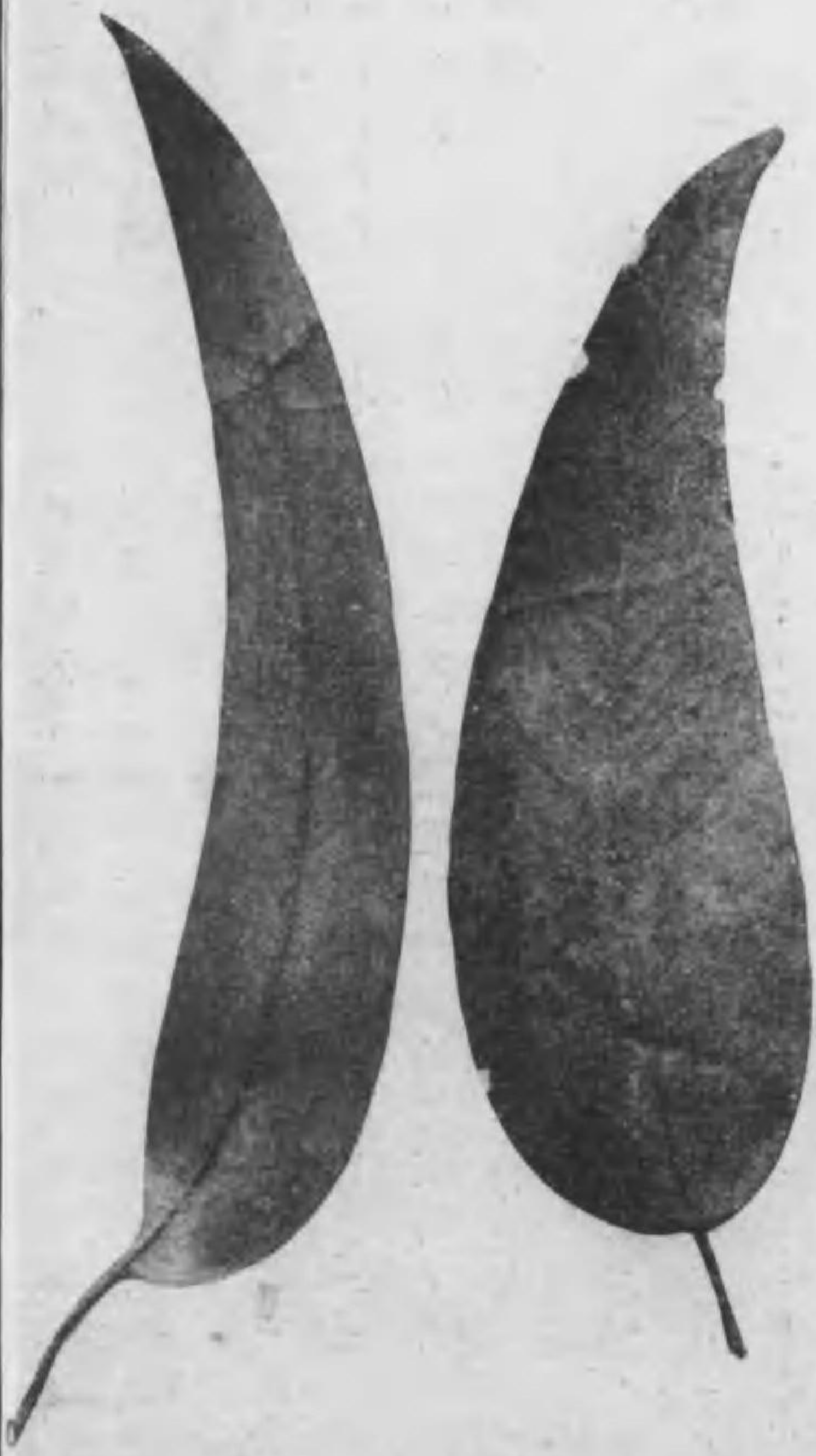
ク狭細トナ

リ葉柄ヲ有

ス長サ三十

cmニ至リ葉

圖二十第



體厚ク破折シ易ク帶灰綠色ヲ有シ褐色ノ胞疣ヲ帶ヒ邊緣ハ厚化シ少シク卷  
曲ス日光ニ透視スレバ斑點ヲ現ハス葉柄ハ二乃至三cmニシテ屢振轉セリ其  
主脈ヨリ銳角ヲ成シテ分出セル枝脈ハ葉ノ邊緣ニ近接シ相連絡シテ邊緣ト  
並行ニ通走ス第十一圖ハオイカリプツス葉ノ概型縮小圖ニシテ(a)ハ鎌狀葉  
(b)ハ尖卵圓形葉ヲ示ス第十二圖ハ同鎌狀葉三分二大ノ寫真圖ナリ。

(顯微鏡的構造)

オイカリプツス葉ハ多角形ノ上皮ヲ被ムリ頗ル強厚ノ

表皮アリテ其上ヲ覆フ柵狀細胞ハ葉

ノ上下兩面ニ存シ二列或ハ四列ヨリ

成リ中ニ溶解性油室ヲ包藏ス。

第十三圖ハ葉ノ橫斷面ヲ示シspハ裂

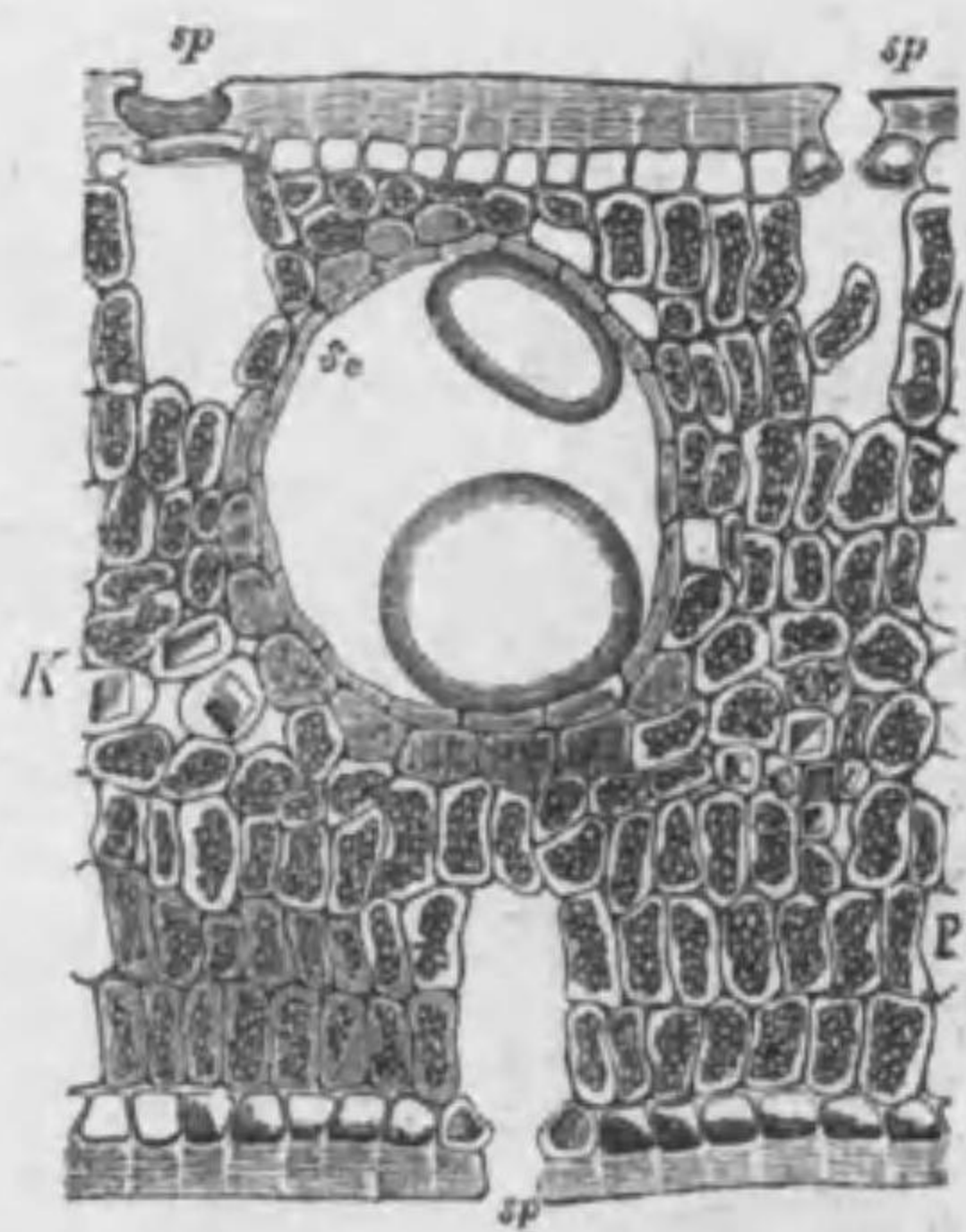
口、Pハ多層性ノ柵狀細胞、Kハ棧酸カ

ルチウムノ結晶、Scハ斑點ノ存スル處

即チ油室トス。

本品ハ強キ芳香ヲ有ス味ハ微ニ苦ク

圖三十第



收斂性ニシテ初メ温ク後冷涼ナリ。

(成分)

オイカリブツス葉ハ平均一%ノ揮發油即チ、オイカリブツス油(Oleum Eucalypti)ヲ含ム此揮發油ノ有效成分ハ Eucalyptol 又 Cineol (C<sub>10</sub>H<sub>18</sub>O) ナル 酸素含有性ノ化合物トス 其他 Eucalypten (C<sub>10</sub>H<sub>16</sub>) 及 Eucalyptolene ナル二種ノ炭水素ヲ含有ス。

(應用)

オイカリブツス葉ハ一時ハ解熱藥・防腐藥トシテ頗ル聲價ヲ博シタレトモ當時殆ント廢棄ニ歸セリ其製品ハ丁酸劑ナリ又オイカリブツス油(Oleum Eucalypti)ヲ製造スルノ用ニ供ス。

● アルテア葉 Folia Althaeae.

(基原)

アルテア葉ハ錦葵科 (Malvaceae) ニ屬スル Althaea officinalis L. ノ葉ヲ乾燥セルモノナリ。 Althaea officinalis ナル植物ハ越年草ニシテ生草ニ在テハ其莖ノ高サ一mニ超エサレトモ培養草ニ在テハ其高サ往々右ニ二倍スルモノアリ花ハ帶紅白色ニシテ上部ニ於ケル葉腋ヨリ出テ短キ梗ヲ有ス、果實ハ錦葵科植物ニ特異ノ形狀ヲ有シ背部圓形ヲナセル十五乃至二十個ノ分果ヨリ成ル第十四圖ハ本植物ノ一枝ヲ示ス。本植物ハ本邦ニ産セス、歐洲及亞細亞ノ中央部ニ産シ鹽分ニ富メル地ニ適ス、専ラ獨乙ニ於テ培養ス、本邦ノ地味ニモ適スヘシ。

(形狀)

アルテア葉ハ長サ十cm 幅八cmニ至リ葉柄ノ長サ葉體ノ半ニ居ル略、三角形ヲ有シ基礎部ニ廣ク、下部ノ葉ハ概シテ廣シ基礎部心臟形ヲナシ淺キ五瓣ヲ有ス(第十五圖)、上部ノ葉ハ小形ニシテ概シテ三瓣ニ分ル(第十六圖)、稚

(獨) Altheebblätter.

(英) Marsh-mallow leaves.

(佛) Feuilles de guimauve.

第十四圖



葉ハ卵圓形ヲ有ス殆ト瓣裂セス邊縁ニハ交互ニ大小ノ銳鋸齒或ハ鈍鋸齒ヲ着ク、葉體ハ厚クシテ破綻シ易ク兩面共ニ灰色ノ毛茸ヲ帶フ新鮮ノ葉ハ綠色ヲ有シ乾燥スレバ灰綠色トナル。

(顯微鏡的構造)

上面ノ上皮下ニハ概シテ一層ヨリ成レル柵狀細胞ヲ具シ其細胞中間、隔壁ニ由テ分割セラレ、モノアリ海綿組織ハ數層ヨリ成リ甚タ鬆疎ナリ上下兩面ノ上皮ハ平等ニ裂口ヲ具有シ其上皮細胞ハ上面ヨリ

圖 五 十 第



圖 六 十 第

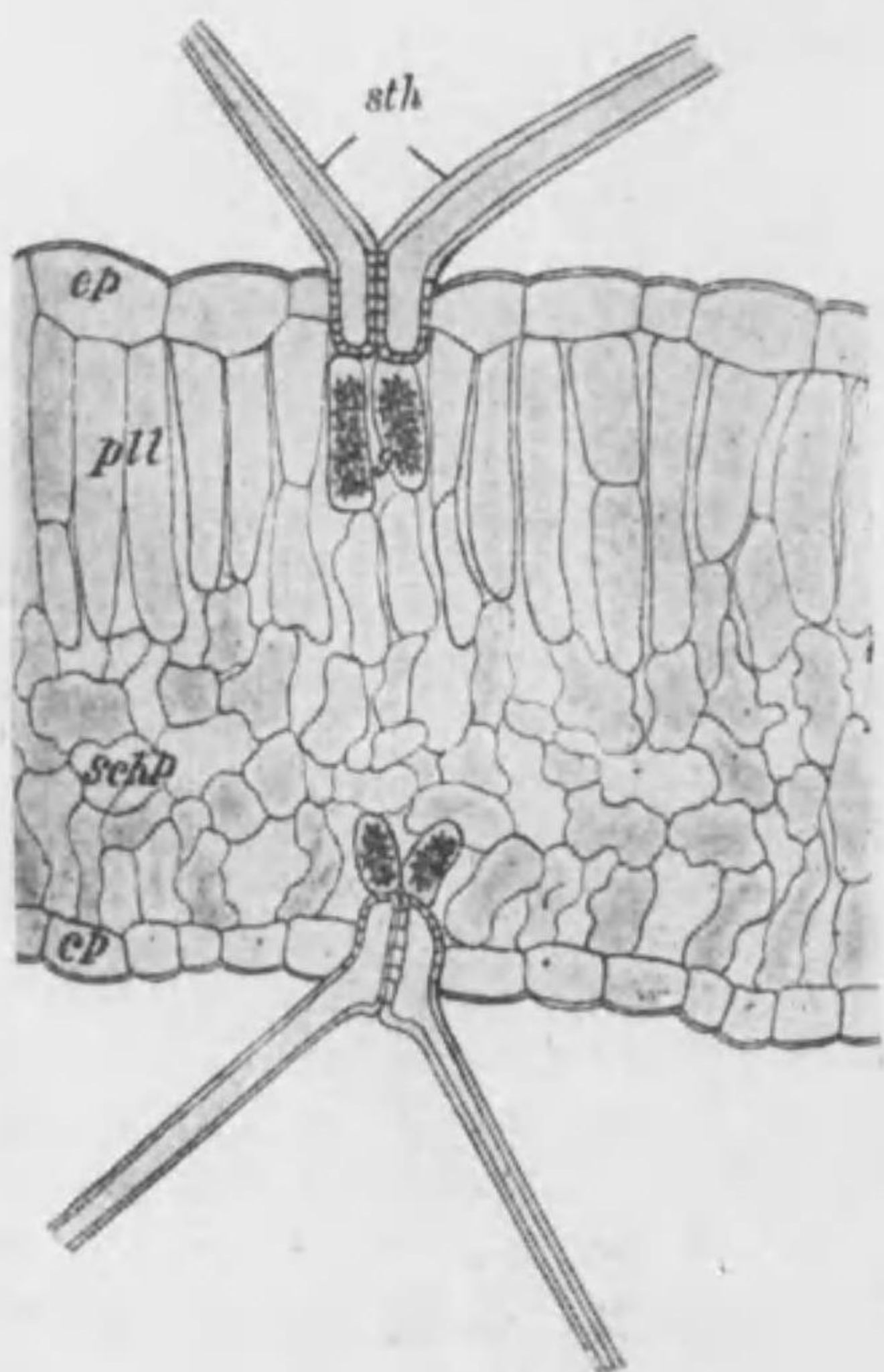


望視スレバ著シク波濤狀ニ  
彎曲セル皮壁ヲ有ス上下ノ  
表皮ニハ多割性ノ線毛ト甚  
々大ナル星毛第十七圖sthヲ  
帶フ而シテ其星毛ノ直下ニ  
位スル中層組織ノ各細胞中  
ニハ一箇ノ棉酸カルチウム  
ノ簇晶ヲ包有ス。

第十七圖ハアルテア葉ノ横  
断面ヲ示ス其epハ上皮sthハ  
星毛plハ柵狀細胞schpハ海綿  
組織gハ棉酸カルチウムノ  
簇晶ナリ。

アルテア葉ハ臭氣ナク味ハ  
粘液性ナリ。

圖 七 十 第



料トナスコトアリ内用ニハ加答兒性疾患ニ用ユ。

● ラウロツエラズス葉 Folia Laurocerasi.

(基原)

ラウロツエラズス葉ハ一千六百年代ノ中葉始メテ伊國ニ腐致セラレ同百年紀ノ終リ  
ニ於テ獨乙及英國ニ輸致セリ從前愛蘭土ニ於テラウロツエラズス水ヲ麩包燒酒等ニ調和セシガ  
偶々一千七百三十一年ノ頃其毒ニ中リシモノアリシヨリ始メテ之ガ醫藥上ノ用途ヲ知ルニ至レ

(成分) 多量ノ  
粘液ヲ含有スル  
ノ外別ニ特異ト  
稱スベキ物質ヲ  
含有セス。

(應用) 粘滑藥ニ  
屬ス外用ニハ懸布ト  
ナシ又煎劑トナシ刺  
戟ヲ鎮靜スル目的ヲ  
以テ浣腸料トナシ又  
口腔及咽喉炎ニ含嗽

(獨) Kirjchlorbeerblätter.  
 (英) Cherry-laurel leaves.  
 (佛) Feuille des laurier-cerise.

リ面シテ一千八百三年ニ至リ獨乙伯林市ニ於テ其チアン水素ヲ含有スルコトヲ發明セリ。  
 ラウロツエラズス葉ハ薔薇科 (Rosaceae) ノ植物 Prunus laurocerasus L. ノ葉ナリ此樹ハ百兒矢亞ノ北  
 部及カウカーズ地方ヨリ黒海ノ南北ニ至ル諸國ニ産ス而シテ現時ハ歐洲ノ温帶諸國ニ移植セ  
 リ。

**(形状)** ラウロツエラズス葉ハ棘革様ニシテ綠色ヲ有シ大ニ光澤ヲ帯ビ其基  
 礎部ハ圓形ニシテ頂端ハ短ク廣ク尖レリ葉柄ハ短シ長サ往々二ミヨヲ超エ幅  
 七ミニ至ル邊縁ハ反卷シ疎ニ鋸齒ヲ有ス下面ハ其色淡白ニシテ著大ナル主  
 脈ノ各側ニ大約十二條ノ枝脈ヲ分出ス其基礎ニ密接セル部位ニハ三乃至五  
 箇多クモ七箇ニ過キサレ砂糖ヲ分泌スル著大ノ腺點ヲ有ス。

**(顯微鏡的構造)** ラウロツエラズス葉ヲ横斷スレバ其上層ハ柵狀細胞ヨリ  
 成リ下層ハ海綿組織ヨリ成ルヲ見ルベシ其組織ノ或ル細胞中ニハ植酸カル  
 チウムノ結晶ヲ包藏ス油室ハラウロツエラズス葉中ニ發現セス。

ラウロツエラズス葉ヲ搗挫スレバ苦扁桃油ニ類スル臭氣ヲ發ス之ヲ嗅メバ微  
 ニ苦ク收斂性ニシテ忽チ劇烈ノ苦味ヲ發ス。

**(成分)**

ラウロツエラズス葉ハ之ヲ水ト共ニ蒸餾スルトキハチアン水素及ベンツアルデヒド

(Benzaldehyd) (C<sub>6</sub>H<sub>5</sub>·COH) 所謂ラウロツエラズス油ヲ抽出ス此ラウロツエラズス油ハ苦扁桃油ト其本性

第十八圖



彼ノ苦扁桃中ニ含有スル Amygdalin ニ類スル Prunasin C<sub>15</sub>H<sub>19</sub>O<sub>5</sub> ナル配糖體ヲ含有ス之ヨリチ  
 アン水素ヲ生成スル機轉ハアミグダリンニ類ス。

葉類 ヲウロツエラズス葉

チ同ウスル者ナリ植  
 物ノ發育最モ盛ナル  
 時季ニハ新鮮ナルラ  
 ウロツエラズス葉一千  
 分ヨリ平均チアン水  
 素一二五分ヲ得然レ  
 トモ其乾燥セル葉ヨ  
 リハ殆ント之ヲ得ル  
 コト無シ零下十五度  
 ノ強寒ハラウロツエラ  
 ズス葉ヲ枯死セシメ  
 其チアン水素ヲ生成  
 スル機能ヲ失ハシム  
 ラウロツエラズス葉ハ

水ト共ニ蒸餾シテ「チアン水素」ヲ生スル葉ハ特リ「ラウロツエラズ」ノ葉ノミナラズ、歐洲ニ産スル他ノ蔷薇科ノ植物 Prunus Pallas I. (ミズミズ) 等モ亦能ク之ヲ生成ス。

**(應用)** 専ラ「ラウロツエラズ」水ヲ製スルニ用ユ。

● **バクチ葉** Folia Pruni macrophyllae.

**(基原)** 本生薬ハ専ラ歐洲ニ於テ彼ノ「ラウロツエラズ」水ヲ製出スルノ原料トノ使用セラル、**「ラウロツエラズ」**葉ニ換ヘテ應用シ得ベキモノナリ而シテ本生薬ハ本邦伊豆四國等ノ如キ暖地ニ産スルばくち樹即チ Prunus macrophylla Sieb. et Zucc. ノ葉ナリ。

**(形状)** バクチ葉ハ、鋸鋸形ヲナシ長サ約十五 cm、幅五 cmニ至リ上端尖鋭ニシテ邊緣ハ鋭鋸齒ヲ帶フ葉體ハ棘草様ニシテ上面ハ綠色、光澤ヲ有シ下面ハ其色稍淡明ナリ主脈ハ葉ノ下面ニ著シク隆出シ其上面ニハ之ニ應スル溝渠ヲ現ハス主脈ヨリ分出スル枝脈ハ葉ノ邊緣ニ達セス上方ニ向テ弧曲シ互ニ連結ス、葉柄ハ短ク上側ニ溝渠ヲ現ハシ葉體ノ基部ニ近接シテ左右ニ腺體ヲ具有ス、本葉ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ柵狀細胞ハ上面ノミニ存在シ處々ニ尿酸鹽簇品ヲ包藏ス、第十九圖ハ「バクチ葉」ノ自然大寫眞圖ナリ。

(獨) Bakutibblätter.  
(英) Leaves of Bakuti.  
(佛) Feuilles de Bakouti.

**(成分)**

本生薬ヲ搗碎シ水ト共ニ蒸餾スルトキハ「チアン水素」及「ペンツアルデヒド」ヲ生スル



第十 九 圖

チ水ノ製造ニハ常ニ新鮮葉ヲ用ユルノ必要アリ。

コト毫モ「ラウロツエラズ」ニ異ナルコトナシ故ニ本葉中ニモ亦彼ノ「チアン水素」ヲ生スルノ原質タル Prunasin 即チ無晶形ノ Amygdalin ナ含有スルヤ疑ナシ、乾燥葉ハ殆ト「チアン水素」ヲ生スルコトナシ故ニ「バク



(應用)

バクチホナ製スルニ用ユ。

● ハマメリス葉 Folia Hamamelidis.

(獨) Hamamelisblätter.  
(英) Hamamelis leaves.  
(佛) Feuilles de Hamamelis.



(基原) ハマメリス葉ハ金縷梅科(Hamamelidaceae) 所屬 Hamamelis virginica L. (本邦ニ産スル金縷梅 Hamamelis japonica S. & Z. ノ一種)ノ葉ヲ採集セルモノナリ本植物ハ北米ミシシッピ河域ノ東部ヨリ墨西哥及加拿陀ニ至ル地方ニ産ス。  
(形状) ハマメリス葉ハ卵圓菱形ヲナシ葉柄短シ上面暗綠色或ハ類褐綠色ニシテ下面ハ較、淡明ナリ基礎部ハ圓形或ハ心臟形ヲナシ上端尖銳ニシテ邊緣ニ不整ノ鈍鋸齒ヲ帶フ長サ七乃至十五ミ主脈ノ兩側ヨリ銳角ヲナシテ分出セル約六條ノ枝脈ハ著シク露出シ最大ノ鈍鋸齒中ニ走入シ其枝

脈間ニハ顯著ノ網脈ヲ現ハス、味ハ少シク收斂性ナリ、第二十圖ハハマメリス葉自然大三分二ノ寫真圖ナリ。  
(顯微鏡的構造) 上下兩面ノ上皮ノ皮壁ハ共ニ灣狀ニ彎曲ス、裂口ハ只下面ニ存スルノミ、下面ノ上皮ハ束毛ヲ着ク、柵狀細胞層ハ只上面ノ上皮下ニ存ス、海綿組織中ニハ著シク厚化シ分岐セル石核細胞ヲ有ス。  
(成分) 沒食子酸、鞣酸等ナリ。  
(應用) 赤痢、内部器官ノ出血、痔疾等ニ用ユ。

● センナ葉 Folia Sennae.

(獨) Senneblätter.  
(英) Senna leaves.  
(佛) Feuilles de sené.

(基原) センナ葉ノ醫藥上ノ應用ハ素ト亞拉昆亞ノ醫師ニ始マルモノトス。センナ葉ハ決明科(Caesalpinjaceae)ニ屬ス、Cassia angustifolia Vahl(第二十一圖)ハ其一枝、Bハ其莢果ヲ示ス、及 Cassia acutifolia Delile (C. lenitiva Bischoff)(第二十二圖)ノAハ其一枚、Bハ其莢果ヲ示スナル二種ノ植物ニ基原ス、甲ハ紅海東部及南部ノ沿岸諸地亞弗利加東部ノ海岸及印度西北部ノ諸國ニ産シ乙ハ亞弗利加ナイル河ノ中域北緯二十四度ト十四度ノ間ニ位スル地方ニ産ス。

(形状)

右ニ掲クル二種ノ植物ハ四對乃至七對ヨリ成レル翼葉ヲ有シ其葉

圖 一 十 二 第



片ノ形状ニ由テ異ナルノミナラス、甲ハ其莢果長形ニシテ殆ト弧曲セス、乙ハ其莢果少シク鎌狀ニ彎曲ス而シテ甲ノ葉ヲチンネウエルリーセンナト稱シ乙ノ葉ヲアレキサンドリアセンナト稱シテ藥用ニ供ス。  
一(甲)チン子ウエルリーセンナ葉。 *Cassia angustifolia*

*angustifolia*ノ翼葉ニシテ此樹ガ前印度ノ南端チンネウエルリー地方ニ培植セラ

ニ長クシテ其長サ五cm幅一cmニ至ル、主脈ヨリ出ツル第一級枝脈ハ邊緣ニ

圖 二 十 二 第



卵形ヲ有シ通常ハ長サ三cmニ達セス幅九mmニ過キス(第二十四圖A)、アレキ

(B)ハ其莢果トス。  
一(乙)アレキサンドリアセンナ葉。本品ハ前述 *Cassia acutifolia*ノ翼葉ニシテ亞弗利加ナイール河中域ヨリ埃及アレキサンドリア港ヲ經テ歐洲各地ニ輸出セラル、ガ故ニ此名稱ヲ有ス、此葉ハ甲種ノセンナ葉ヨリモ小形ニシテ尖

サンドリアセンナ葉ニハ往々アルゲル葉即チ白前科(Asclepiadaceae)ノ植物 *Cyanantherum Argel Del.* (又 *Solenostema Argel Heine.* ト名ク)ノ葉ヲ混有スルコトアリ而シテアルゲル葉ハ帶灰綠色ヲ有シ剛強韌革様ニシテ葉體彎曲シ且ツ上下ノ

圖三十二第



兩面ニ密ニ毛茸ヲ帶フルヲ以テ韌スク之ヲセンナ葉ト判別スルコトヲ得又此種ノセンナ葉ニハ間、扁平非薄ノ莢果ヲ混有スルコトアリ、第

二十四圖

圖四十二第



(A)ハアルゲル葉ノ概型、(B)ハ其

莢果(C)ハアルゲル葉ヲ示ス。

圖五十二第



圖六十二第



第二十五圖ハチンネウエリーセンナ葉、第二十六圖ハアルゲル葉ノ寫真圖ナリ。

總テセンナ葉ハ葉體扁平ニシテ反曲セス

剛強ナレトモ薄ク帶黃綠色或ハ帶藍綠色ヲ有シ葉柄短ク或ハ之ヲ有セス基礎部均等ナラス邊緣平坦ニシテ頂端尖銳ナリ、上面ハ殆ト毛茸ヲ帶ヒス下面ニハ微ニ細毛ヲ被ムリ枝脈弧狀ニ分出ス。

(顯微鏡的構造) 上下兩面ノ上皮ハ多角形細胞

(第二十七圖ヨリ成リ單細胞性毛茸ヲ着ク(同圖)。

上下兩面ノ表皮(第二十八圖)ハ裂口ハ毛茸上下上皮ノ直下ニハ各一屬ヨリ成レル柵

圖七十二第

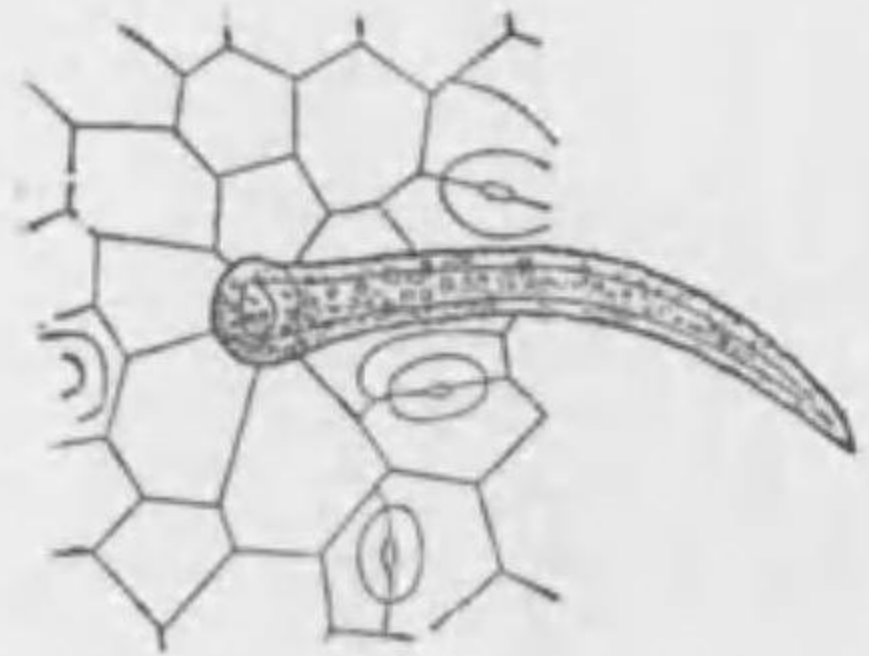
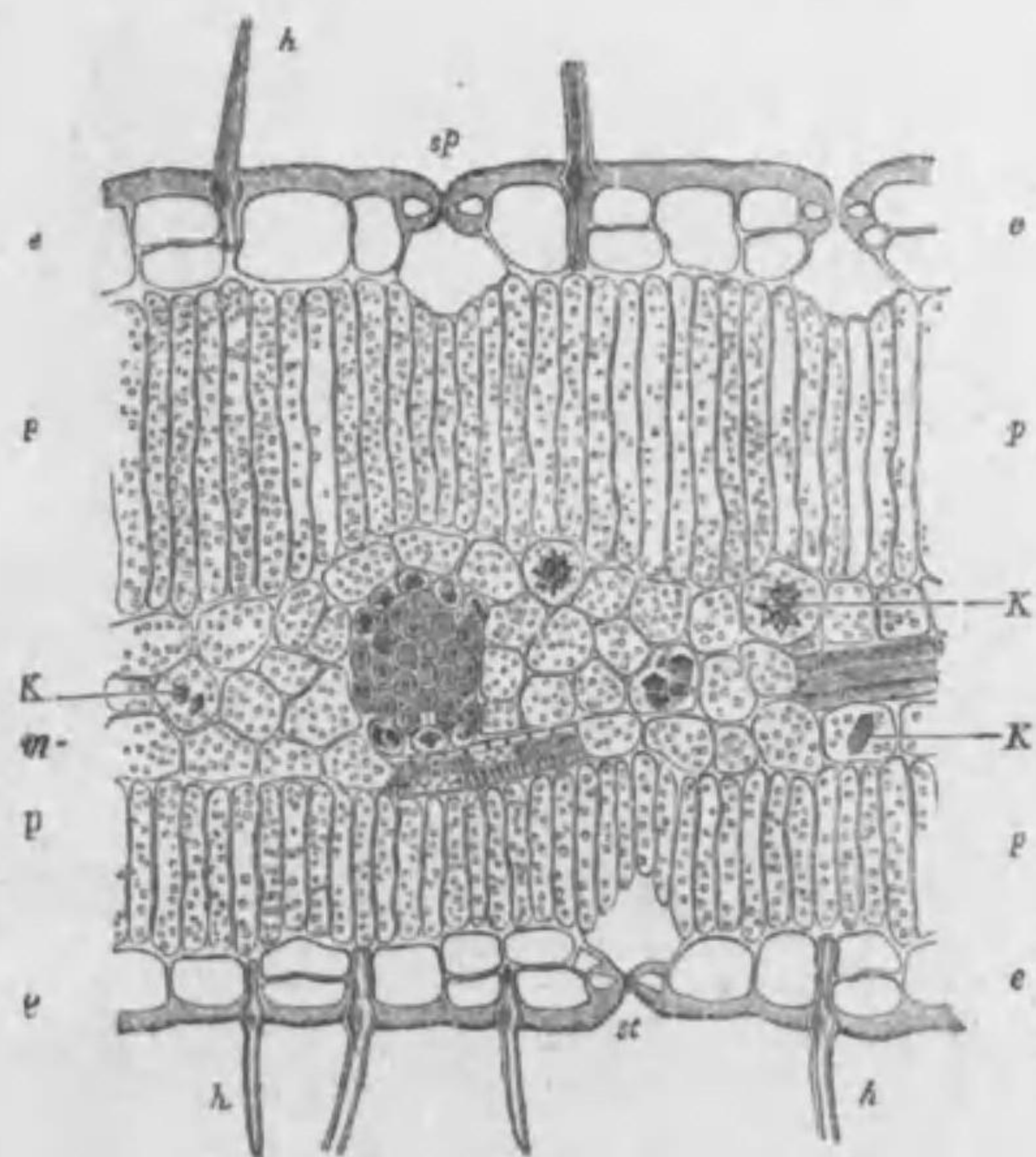


圖 八 十 二 第



リ遊離セシメタル「カタルチン酸ハ無晶形ノ塊ヲナシ瀉利ノ効力ヲ有ス又  
Kathartmannit ト名クル一種ノ砂糖及 Chrysophan (大黃ノ條成分ノ) ヲ含有ス、其他  
夥シク酒石酸鹽類ヲ含ム。

狀細胞ヲ具有ス(同圖P)葉體  
ノ中層ハ圓形ノ細胞ヨリ成  
リ(同圖M)殊ニ其柵狀細胞ニ  
近接セル細胞中ニ棧酸カル  
チウムノ簇品(K)ヲ包藏ス。  
**(成分)** センナ葉ノ有効成  
分ハ未タ其純精ナルモノヲ  
製出スルコトヲ得ス「センナ  
葉ヲ水ニ浸漬スレバ「カタル  
チン酸 (Katharinsäure) ノ「カル  
チウム鹽及マグネシウム鹽  
ヲ溶出ス而シテ此諸鹽類ヨ

(獨) Säentraubenblätter.  
(英) Bearberry leaves.  
(佛) Feuille de bussérol.

圖 九 十 二 第



● ウワウルシ葉 Folia Uvae Ursi.

**(應用)** センナ葉ハ其瀉利ノ効驗確實ナルガ故ニ目下尙ホ瀉下藥トシテ一日一〇乃至三〇ヲ  
浸劑・紙劑・茶藥粉劑トナシ多クハ佐藥ニ伍シテ與フ其藥局方ニ於ケル藥劑ハ複方センナ浸劑方セ  
ンナ紙劑・センナ舍利別等アリ。

**(基原)** ウワウルシ葉ハ前百年紀ノ中葉ヨリ醫藥ニ供セラレ石南科(Ericaceae

ニ屬スル小灌木 *Arctostaphylos Uva ursi Sprengel.*  
ノ葉ナリ北半球ノ諸地  
ニ播布シ北地ニ於テハ  
平地ニ南地ニ於テハ山  
嶺ニ産ス、第二十九圖ハ  
此小灌木ノ花ヲ帶フル  
一枝ヲ示ス。

**(性状)** ウワウルシ葉  
ハ倒卵圓形(第三十圖A)



圖一十三第



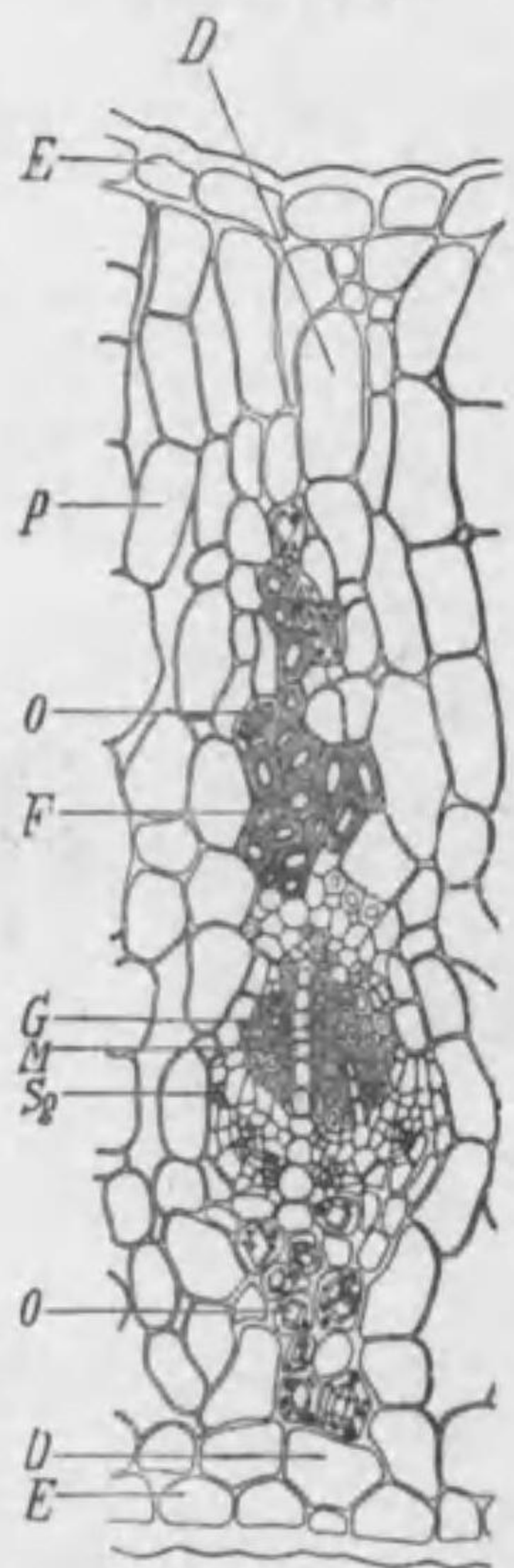
或ハ扁匙狀(同圖U)ヲ爲シ長サ其短キ葉柄ヲ合スルモ二〇〇ニ超エス幅其半バニ居ル厚ク剛強ニシテ邊縁ハ平坦ナリ其頂端ハ少シク卷曲セルニ由リ凹入セルガ如キ觀ヲ呈ス、上面ハ暗綠色ニシテ著シク隆起セル網脈アルニ由テ皺縮ス。

第三十圖ハ天然大ニ於ケル(ウワウルシ葉第三十一圖ハ其表面及背面ヲ示セル寫真圖ナリ。

(顯微鏡的構造) 上皮ハ上面ヨリ檢視スレバ多角形ノ細胞ヨリ成リ第三十二圖E、裂口ハ廣橢圓形(第三十三圖Sp)ヲナス、主脈ハ其上下兩側ニ捺酸カルチウムノ單品ヲ包藏ス(第三十二圖O)。

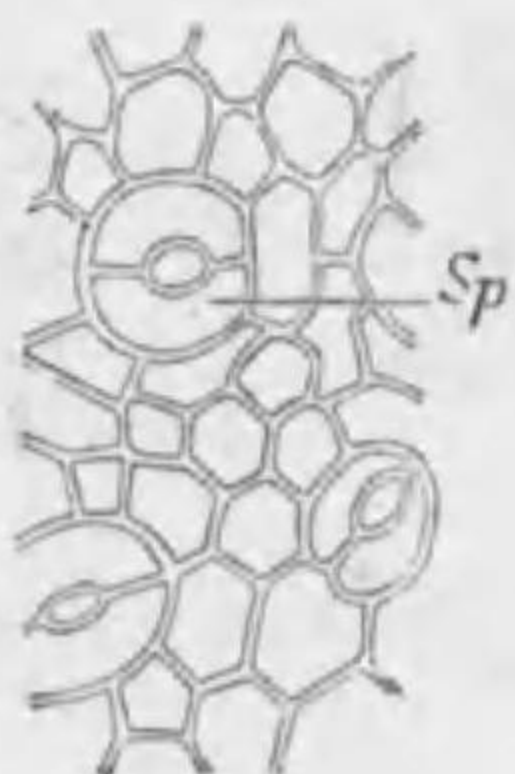
第三十二圖ハ本葉主脈ノ存スル位置ノ横截面ヲ顯微鏡下ニ檢視セルモノニシテ主脈ノ上下ニ捺酸カルチウムノ單品(O)ヲ包藏セル細胞ヲ見ル、而シテEハ上皮、Fハ纖維、Gハ脈管、Mハ髓線、Sgハ篩管、P Dハパレンヒームトス、第三十

圖二十三第



ウワウルシ葉ニ類似ノ葉類(越橘等の)多クアレハ大抵邊緣ニ鋸齒ヲ有シ又之ニ大約五十倍ノ冷水ヲ加ヘテ浸出シ其濾液ニ硫

圖三十三第



酸鐵ノ一小片ヲ投加スレバ本條ニ掲タル反應即チ紫色(沒食子酸)ヲ呈セサルヲ以テ本品ト鑑別シ得ベシ。

(成分)

ウワウルシ葉ハ沒食子酸(Gallussäure)ヲ含有ス又 Arbutin (C<sub>8</sub>H<sub>10</sub>O<sub>4</sub> + 1/2 H<sub>2</sub>O) ナル結晶性ノ配糖體ヲ含ム此配糖體ハ酸類ニ逢フトキハ葡萄糖 Hydrochinon 及 Methylhydrochinon ニ分裂ス其他 Methylarbutin (C<sub>8</sub>H<sub>10</sub>O<sub>4</sub>), Erikolin ナル無晶形ノ配糖體及 Urson ナル中性化合物ヲ含ム。

米國ニハ大形ウツウルシ葉ト稱スル一種ノウツウルシ葉アリテ往々本邦ニ輸入ス *Arctostaphylos glauca Lindl.*ノ葉ニシテ其大サ本條ノ生菜ニ二倍シアルブチンヲ含有スルヲ以テ是レ亦藥用ニ供スルヲ得ベシ。

**(應用)** ウツウルシ葉ハ膀胱加害兒及尿道諸症ノ收斂藥及防腐藥トシテ常ニ煎劑トシテ用ユ又近來其有效成分タル「アルブチン」ヲモ應用ス。

● **ベラドンナ葉** *Folia Belladonnae.*

**(基原)**

ベラドンナ葉ハ已ニ中古ノ時代ヨリ *Solanum tuberosum s. L.*トシテ世ニ知ラレタレトモ

(獨) Tollkirchblätter.  
(英) Belladonna leaves.  
(佛) Feuilles de belladone.

圖四十三第



圖五十三第



其醫藥ニ入りタルハ近ク一千六百年代或ハ一千七百年代ニ在リテ「ベラドンナ」(美女ノ義)ナル名稱ハ蓋シ一千五百年代伊國ノウコネチアヨリ傳來セシモノナリシ。

ベラドンナ葉ハ茄科 (*Solanaceae*) 植物 *Atropa Belladonna L.*ノ葉ニシテ此植物ハ歐洲ノ南部及中央部ヨリ前亞細亞ニ至ル諸地ニ播布シ、英國、佛國、米國等ニ培養ス。

**(形狀)**

莖ノ下部ニ附着セル葉ハ卵圓形ニシテ上端尖銳長サ二cm幅一cmニ超エス基礎部ハ漸ク狹細トナリ長サ八cmニ至ル所ノ葉柄ニ移ル其分枝ニハ稍小ナル二種ノ葉ヲ帶フ一ハ殆ト葉柄ヲ有セス廣キ卵圓形ヲ爲シ上端僅ニ尖レリ他ノ一ハ前者ノ二倍ヨリモ大ニノ比較的ニ狭ク短キ葉柄ヲ有ス。

圖六十三第

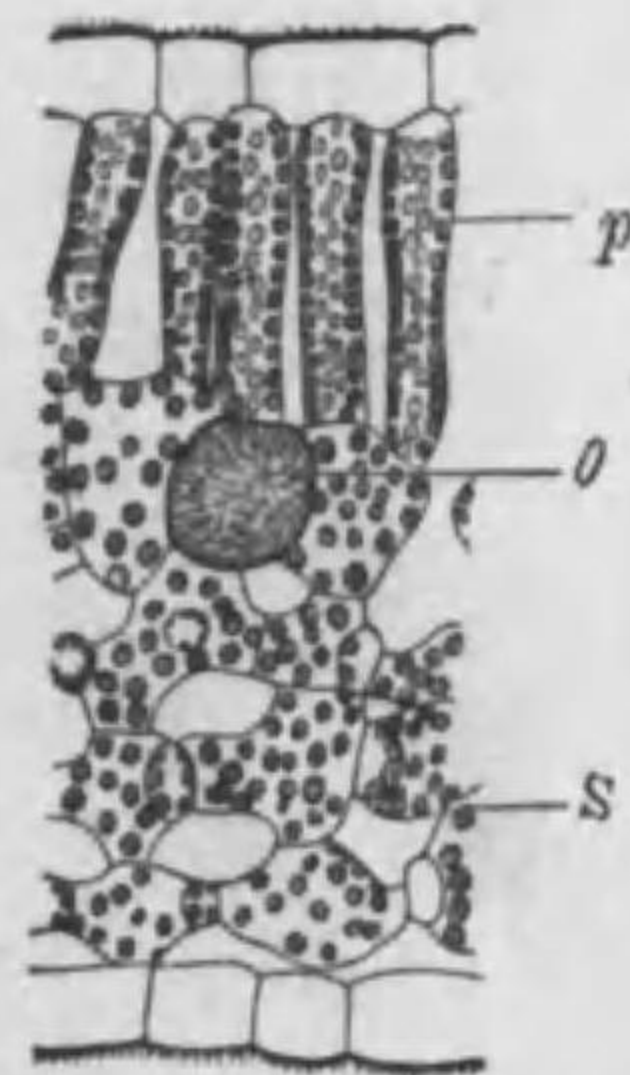


第三十四圖ハ花及果實ヲ帶フル全草上部ノ縮小圖ニシテ第三十五圖ハ分枝ニ位スル大小二種ノ葉ヲ示ス、總テベラドンナ葉ハ其邊緣平坦ニシテ毛茸ヲ帶ヒス或ハ極メテ疎ニ之ヲ帶ヒ處々ニ褐色ノ週邊ヲ有スル孔穴ヲ箝在シ兩面ニ白色ノ小點ヲ現ハス是レ砂狀ヲナセル植酸カリウム(第三十七圖)ヲ包藏セル細胞ニ係ル、ベラドンナ葉ノ乾燥セルモノハ甚タ薄ク揉碎シ易ク上面ハ類褐色ニシテ下面ハ類灰色ナルヲ常トス、第三十六圖ハベラドンナ葉自然大三分二ノ寫真圖ナリ、

(顯微鏡的構造)

本葉ノ橫斷面ヲ顯微鏡ニ檢視スレバ柵狀細胞層(第三十

圖七十三第



七圖)ハ只一層ヨリ成リ上面ノ上皮下ノミニ存在シ甚タ鬆疎ニシテ間隙ヲ存シ其柵狀細胞ニ連接シテ處々ニ植酸カルチウムヨリ成レル結晶砂ヲ有スル細胞(同圖)ヲ見ルベシ是レベラドンナ葉ノ他ノ類似ノ茄科植物

ノ葉ニ異ナルノ特徴トス、同圖ノsハ海綿組織ナリ。

ベラドンナ葉ハ新鮮ナルモノト雖トモ其臭氣顯著ナラズ乾燥スルニ當リ消

失ス、味ハ不快ニシテ微ニ苦シ。

(成分)

ベルラドンナ葉ハ「アトロピン (Atropin  $C_{17}H_{23}NO_3$ )」ヲ含有ス其量ハ大約

〇・五%ナリ又少量ノ「ヒオスチアミン (Hyoscyamin) (アトロピント同質異性體ヲナス)」及「ベラドンニン

(Belladonnin  $C_{17}H_{21}NO_3$ )」ヲ含有ス、ベラドンニン「ハラードンブルヒ氏ニ據レバ「アト

ロピン」ト酸化アトロピン」トノ混和物ニ外ナラス此諸アルカロイド」ノ含量ニハ

甚タ不同アリテ〇・二乃至〇・六%或ハ之ヨリモ多量トス其他少量ノ Asparagin,

Cholin 及藍色ノ螢石彩ヲ呈スル一種ノ物質 Skopolein  $C_8H_9(CH_3)_2O_4$ ヲ含有ス。

ベラドンナ葉ハ從前ヨリ花時歐洲ニ於テハ七月ニ採集セルモノヲ以テ其藥用上ノ効力最モ顯著トセリ而シテ近來ゲルラド氏ハ此說ノ果シテ信スヘキコトヲ證明セリ是レ諸國藥局方ニ花ヲ帶アル草ヨリ採リタル「ベラドンナ葉」ヲ藥用品ト規定セル所以ナリ然レトモ「ラフォール」氏ノ經驗ニ據ルトキハ「ベラドンナ葉」アルカロイド」ノ含量ハ野生植物ヨリ採レルモノト培養植物ヨリ採レルモノトノ間ニ差異ナキモ大地質ニ關係ヲ有スルモノニシテ石灰ニ富メル地ニ培植セルモノハ「アルカロイド」ニ富メリト云フ而シテ藥局方ノ規定ニ據レハ「ベラドンナ葉」ノ一年以上ヲ經タルモノハ藥用ニ堪ヘス。

(應用)

ベラドンナ葉ハ鎮痙藥及鎮痛藥トシテ用ユ藥局方ハ其生葉ヲ以テ「ベラドンナ」ニシテ製シ其乾燥葉ヲ以テ「ベラドン」丁幾ヲ製スルノ料トナス。

グユボアシア葉

●グユボアシア葉 *Folia Duboisiae.*

濠洲ニ産スル茄科植物 *Duboisia myoporoides* Forb. Brong. (著大ナル灌木)ノ葉ニシテ一千八百七十七年始メテ歐洲ニ齎致セリ此葉ハ長鉞針形ヲ爲シ長サ十二cmニ至リ葉柄短シ薄ク韌革様ニシテ坊間ノ品ハ多クハ大ニ損傷ス兩縁ハ平坦ニシテ少シク反曲シ主脈ハ著シク兩面ニ露出ス臭氣ナク味ハ微ニ苦ク峻烈ナリ、グユボアシア葉ハ *Duboisia* ナル「アルカロイド」ヲ含ム此物質ハ「ラテン」ブルグ氏ニ據レバ「ヒオスチアミン」ニ外ナラス又スコポラミン (*Scopolamin*) ナル「アルカロイド」ヲ含ム、本生薬ノ越幾斯及アルカロイドハ眼科ニ於テ往々瞳孔ヲ散大スルノ目的ニ應用スルコトアリ。

●曼陀羅華葉 *Folia Stramonii.*

(獨) Stechapfelblätter.  
(英) Thorn apple leaves.  
(佛) Feuilles de stramoine ou de vomme-épiscuse.

(基原) 曼陀羅華葉ハ茄科 (*Solanaceae*) 所屬曼陀羅華 *Datura* 屬植物ノ葉ヲ帶花ノ明節ニ採集シ陰乾セルモノナリ、本植物ハ本邦諸地殊ニ千葉縣下千葉市附近ニ多シ、本葉ハ乾燥スルニ當リ其重量大約八分ノ一トナル。  
普ク本邦ニ産スル曼陀羅華(ちよせんあさかほ)ハ *Tatura datura* 又 *D. tatiana* ト稱シ花淡紫色ニシテ莖軸暗紫色ナリ歐洲ニ産スル *Datura Stramonium* L. (第三十八圖)ノ變種ト看做スモキモノナリ *Datura Stramonium* ハ花白色ニシテ莖軸青シ *Datura alba* Nees ハ内地ニ産セス臺灣ニ産ス花頗ル長形ニシテ「ラッパ」ニ類シ莖軸青シ。

(形狀)

曼陀羅華葉ハ概シテ廣卵圓形又長卵圓形乃至鉞形ヲナシ長サ二

第三十八圖



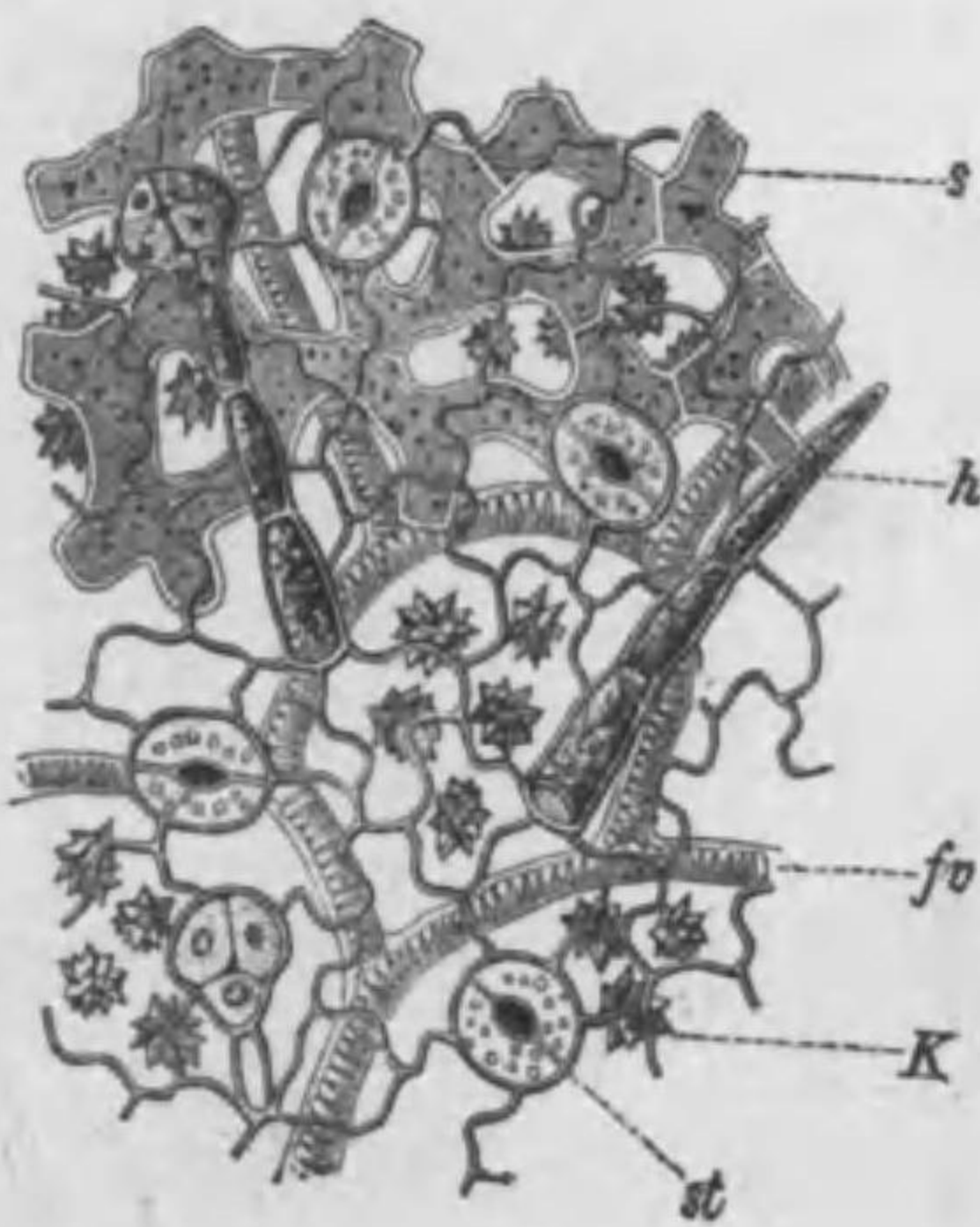
cmニ至リ暗綠色ヲ有ス上端尖銳ニシテ基礎部ハ楔狀或ハ畧心臟形ヲナス邊緣ニハ不同ナル大灣鋸齒ヲ有シ又ハ小鋸齒ヲ着ク葉柄ハ長クシテ圓ク上面ニ樋道アリ主脈ノ兩側ニハ三乃至五條ノ枝脈ヲ分出シ又狀ニ分岐シ其一枝ハ邊緣ニ於ケル鋸齒中ニ走入シ他ノ一枝ハ上部ニ於ケル第三級ノ枝脈ト連合ス。

(顯微鏡的構造) 裂口ハ上下

ノ節毛ヲ帶ヒ其節毛ハ皮壁厚化シ上端屢彎曲ス又二三ノ細胞ヨリ成レル頭



圖九十三第



腺ヲ見ル、中層組織中ニ於ケル多數ナル細胞ハ、棧酸カルチウムノ簇晶ヲ包裹ス但シ脈管東ノ附近ニハ砂狀ヲナセル、棧酸カルチウムノ結晶ヲ見ル而シテ右ノ簇晶ト節毛トハ本葉ヲ他ノ茄科植物葉ト區別スルノ特徴トナルモノトス、第三十九圖ハ本葉ノ下面ヲ顯微鏡ニ檢視セル

モノニシテ、(s)ハ中層組織、(h)ハ節毛、(fo)ハ脈管、(K)ハ結晶簇、(st)ハ裂口トス又頭腺ヲ明視スルヲ得ベシ。

**(成分)** 主要ナル成分ハ Hyoscyamine (ヒオスチアミン) ニシテ、傍ラ少量ノ Atropin (ヒオスチアミン) 同質異性體ナリ、從前 Daturin ト稱セシ本葉ノ有効成分ハ右二種アルカロイドノ混和物ニ外ナラス。

**(應用)** ペラドンナ葉ニ於ケルカ如シ然レモ現今ハ内用ニ供スルコト殆ト稀ナリ、喘息症ニ喫烟セシムルコトアリ但シ往々中毒症ヲ來スノ恐アリ。

●烟草葉 Folia Nicotianae.

**(基原)**

烟草ハ已ニ太古ノ時代ヨリ米國土人ノ嗜好セル所ニシテ、一千四百九十二年彼ノ亞米利加ノ發見者タルコロムブスノ一行初メテ之ヲタバコ島ニ發見セリ、爾後二千五百年代ノ中葉ニ至リ歐洲ニ於テ初メテ醫藥ニ入レリ而シテ Nicotiana ナル名稱ハジャンニコト氏ニ基クモノニシテ同氏ハ一千五百六十年巴里市ニ於テ烟草ヲ喫烟スルコトヲ開始セリ、本邦ニハ慶長十年葡萄牙人初メテ長崎ニ之ヲ齎致セ

圖十四第



烟草ハ茄科 (Solanaceae) ノ植物(第四十圖)ニシテ其種類多シト雖トモ汎ク倍植セルモノハ特リ Nicotiana glauca Tabacum L. ニシテ其他ノ烟草類ハ未ダ曾テ醫藥ニ供セシコトアラズ。

**(形狀)** 基立葉ハ廣キ鉞針形ヲ有シ長サ六〇cm、幅十五cmニ至リ其短キ葉柄ニ沿フテ漸ク狭細トナル、莖立葉ハ基立葉ヨリモ小ニシテ其頂端適ニ尖銳ナ

烟草 (獨) Tabaksblätter.  
(英) Tobacco leaves.  
(佛) Tabac.



一千六百年代ニ至リ英國ニ於テ始メテ醫家ノ應用スル所トナレリ。  
デギタリス葉ハ玄參科 (Scrophulariaceae) ノ二年生草本植物 *Digitalis purpurea* L. ノ

圖二十四第



莖軸ニ附着セル葉ヲ採集セルモノナリ此草ハ殊ニ歐洲ノ西部及北部ヨリハルツ山ニ至ル諸地ニ産ス。

又醫藥ノ目的ニ對シ處々ニ培植ス或ハ又花ヲ愛玩セン

ガ爲メ庭園ニ培養ス第四十二圖ハ花ヲ帶フルデギタリス草ヲ縮小シテ示ス。  
**(形狀)** デギタリス草ハ初年ニ於テハ只基立性葉ノミヲ出タス此基立葉ハ

其長サ葉柄ノ長ヲ合スレハ遙ニ三吋ニ超ユルモノアリ初年生葉ハ醫藥上ノ効力弱シ藥用ニ堪ヘス第四十三圖ハ初年生葉ノ寫眞圖ナリ二年ニ至リ莖ヲ抽

第四十三圖

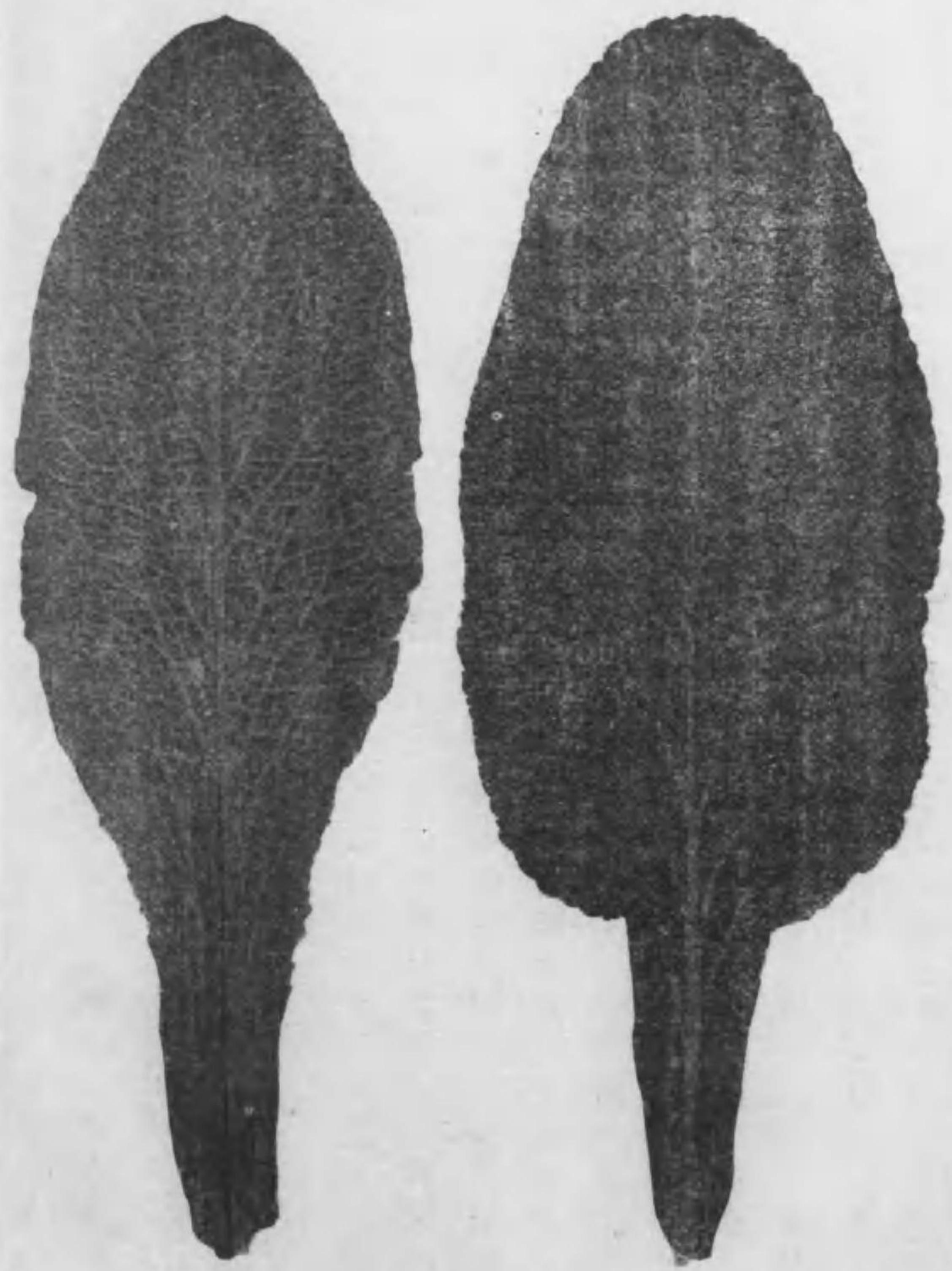


キ花ヲ開クデギタリス葉ハ花ヲ帶フル二年草ノ莖軸ニ附着セル葉ヲ採收セルモノヲ用ユ莖軸ノ下部ニ附着スル葉ハ長卵圓形ヲ有シ葉柄ニ沿フテ漸ク狹長トナリ邊緣ハ不正ノ鈍鋸齒ヲ有ス長サ葉柄ト共ニ大約三吋廣サ十五cmニ至ル而シテ莖軸ノ上部ニ於ケル葉ハ細小ニシテ葉柄ヲ闕如シ其邊緣ニ於ケル鋸齒遙ニ大ナリ是レ又藥用ニ供スルヲ得ヘシデギタリス葉ハ總テ葉體薄ク皺縮ス第一級枝脈ハ銳角ヲナシテ主脈ヨリ發生シ第二級及第三級ノ枝脈ト共ニ葉ノ裏面ニ露出セル脈絡ヲ形成シ日光ニ透見スレバ更ニ其間ニ細微ナル網脈ヲ認ム。

第四十四圖ハ莖軸ノ下部ニ附着スル葉ノ一片ヲ稍縮小シタル寫眞圖ナリ第四十五圖ハ殊ニ網脈ヲ明示センガ爲メ葉ノ一片ヲ稍縮小シタル寫眞圖ナリ。

圖四十四第

圖五十四第



圖六十四第

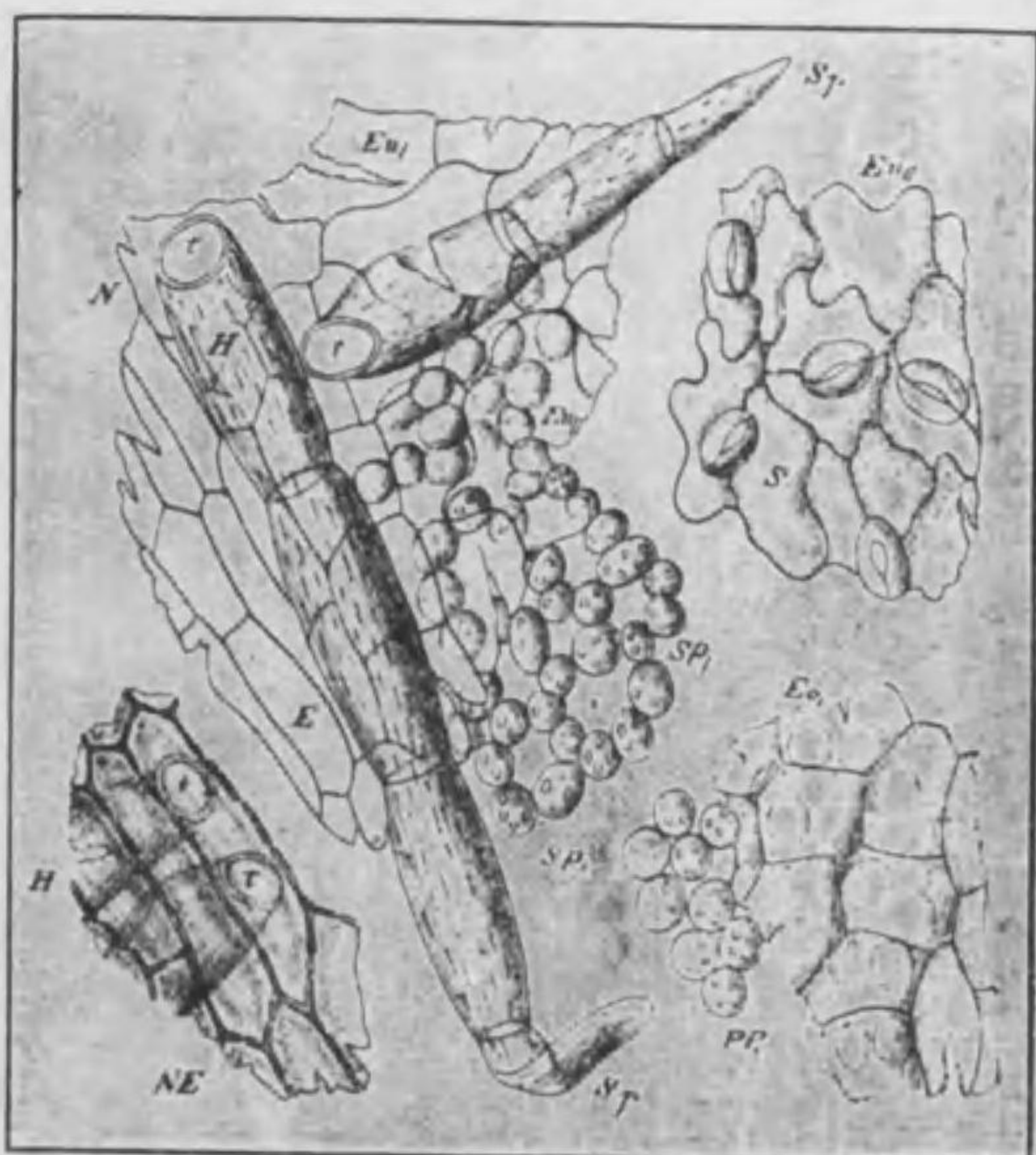


(顯微鏡的構造) 上面ノ上皮ハ殆ト彎曲セサル或ハ多少波濤狀ニ彎曲セ  
ル皮壁ヲ有スル細胞ヨリ成ル、上面ノ上皮ハ裂口ヲ缺キ、下面ノ上皮ハ多數ノ  
裂口ヲ着ク、上下兩面ノ上皮ハ一箇乃至四箇ノ細胞ヨリ成レル稍、尖銳ナル毛  
茸有頭腺毛ヲ帶フ、而シテ上面ノ上皮ハ只  
脈絡ノミニ腺毛ヲ有ス。

中層ハ葉體ノ上部ニ一層ヨリ成レル短キ  
柵狀細胞ヲ具有シ下部ハ稍、緻密ナル短腕  
性ノ海綿組織ヨリ成ル、ヤギタリス葉ノ組  
織ハ全ク檸檬酸鹽晶ヲ包藏セス。  
第四十六圖ハヤギタリス葉ノ下面ノ上皮  
ヲ上面ヨリ窺視セル狀ヲ示ス茲ニモ亦裂  
口毛茸及腺毛ヲ見ル。

第四十七圖ハヤギタリス葉碎粉ノ表面的顯微鏡圖ニシテEoハ上面ノ上皮、其  
下ニ柵狀細胞(PP)アリ、Eu<sub>1</sub>ハ下面ノ上皮、其下ニ海綿パレンヒーム(SP<sub>1</sub>)アリ、iハ胞  
間腔H及Spハ節毛、tハ其附着部、Eu<sub>11</sub>ハ表面ヨリ見タル裂口(S)ヲ有スル下面ノ

圖七十四第



上皮碎屑、Eハ細キ葉脈ノ上皮、NEハ太トキ葉脈ノ上皮ナリ(二百倍圖)コッホ氏ニ據ル。ヤギタリス葉ハ其味不快ニシテ苦シ。

(成分)

ヤギタリス葉ノ有效成分ハ配糖體トス其最重要ナルモノハ Digitoxin  $C_{41}H_{64}O_{11}$  (Schmieleberg氏ニ據ル)ナリ此配糖體ハ白色無臭結晶性ノ粉末ニシテ熔融點ハ二

百三十八度乃至二百四十度ニ在リ水ニ溶解セス「エーテル」ニモ亦殆ト溶解セシテ是レ亦配糖體トス二百三十度乃至二百三十二度ニ於テ熔融ス、ヤギタリス葉ハ「ヤギタリス種子」中ニ含有セラル、所ノ Digitalin, Digitonin 及 Digitalin ヲ

含有セサルガ如シ然レトモ未タ精檢ヲ經ス、其他ヤギタリス葉ハ Digitoflavon ( $C_{18}H_{16}O_6 \cdot H_2O$ ) ナル色素-Iscovit 等ヲ含ム。

ヤギタリス葉ハ日本藥局方ノ規定ニ據レバ之ヲ採集シテ後一年以上ヲ經タルモノハ藥用ニ堪ヘス而シテ本葉ノ一年以上ヲ經タルヤ否ヤハ之ヲ鑑定シ難シト雖トモ左ニ掲クル所ノ試験法ハ畧、本葉ノ藥用ニ堪ユルヤ否ヤヲ判知スルニ足ルベシ。

ヤギタリス葉ニ十倍量ノ沸湯ヲ加ヘテ得タル浸液ニ其冷却スルヲ待テ「タンニン酸」溶液ヲ滴加スルトキハ夥シク沈澱ヲ生スベシ而シテ更ニ「タンニン酸」ノ多量ヲ加フレバ其沈澱ハ徐々ニ溶解スルヲ要ス(第三改正藥局方)此反應ハ主トシテ本品中ニ含有セル配糖體ヨリ來リ恐クハ又他ノ物質ヨリモ現ハルルモノナラン。

又ケルレル氏ニ據レバ本葉ニ十倍量ノ沸湯ヲ加ヘテ得タル澄明ノ浸液ニ酒精ニ至三割ヲ加ヘ之ヲ分液漏斗ニ入レ「クロ、フォルム」十割ト共ニ振盪シ其クロ、フォルム分ヲ分取シ「クロ、フォルム」ヲ以テ潤ホセル濾紙ヲ用キテ濾過シ重湯煎上ニ蒸發シテ「クロ、フォルム」分ヲ除去スルノ後其殘留物ヲ氷醋酸

ニ溶解シ之ニ稀薄ナル過クロール鐵溶液(1:10)ノ一滴ヲ添加シ徐々ニ強硫酸ヲ注入シテ二液層ヲ造ラシムルトキハ赤色ノ層ヲ生シ其上部ニ藍綠色ノ輪帶ヲ認ムベシ此藍綠色ノ輪帶ハ本品中ニ含メル「ヂギトキシ」ニ係リ赤色ハ他ノ配糖體ニ原因スルモノトス。

藥局方ノ規定ニ據レバ「ヂギタリス」葉ハ花ヲ帶フル草ヨリ採集シ採集後一年以上ヲ經タルモノハ藥用ニ供ス可カラズトナセドモ「ヂギタリス」葉ハ必スシモ帶花ノ季節ニ於テ最モ有效ナルモノト定メ難シ如何トナレバ「ハーゲル」氏ノ如ク落花後ニ採集セル者ヲ以テ效力最モ較著ト爲スノ説チナス者アレバナリ而シテ又「シュロフ」氏ハ「ヂギタリス」葉ハ野生品ナルモ培養品ナルモ其效力ニ差異無シトセリ。

**(應用)**

「ヂギタリス」葉ハ血行器官殊ニ心臟ニ作用スル藥品トシテ實用セラル即チ所謂心臟強壯藥ノ第一位ヲ占ムルモノナリ其製品ハ「ヂギタリス」糖・「ヂギタリス」越幾斯「ヂギタリス」丁幾等ナリ。

● 薄荷葉 *Folia Menthae.*

**(基原)** 薄荷ハ本邦及支那ニ於テハ太古ノ時代ヨリ醫藥及民間藥トシテ之ヲ慣用セリ英國ニ於テハ一千六百九十六年始メテ薄荷アルコトヲ知り一千

(獨) Pfefferminz.  
(英) Peppermint.  
(佛) *Menthe poivrée.*

七百二十一年ニ至リ英國藥局方ニ之ヲ收載セリ而シテ薄荷水ハ獨逸ニ於テハ一千七百七十七年以來藥用ニ入レリ。

薄荷トハ培植セル唇形科 (*Labiatae*) ノ植物 *Mentha* 屬諸種ノ通稱ニシテ他ノ植



物ニ認メサル所ノ特異ノ香氣ヲ有スルモノナリ獨逸其他歐洲諸國ノ藥局方ハ其原植物ヲ *Mentha piperita* Linn. ト爲セリ而シテ

日本藥局方ニ掲クル薄荷葉ハ *Mentha arvensis* Linn. var. *piperascens* Holmes (松村任三氏編纂日本植物名彙中ニ *Mentha arvensis* L. var. *vulgaris* Benth. ト掲クル者) ナル植物ノ葉ナリ本邦ニ於テハ薄荷腦ヲ採ルノ目的ヲ以テ殊ニ米澤、新潟、山陽道

圖八十四第

地方千葉縣下等ニ多ク培植ス、第四十八圖ハ其全草ヲ示ス(大約四分一縮小圖)、  
 (a)ハ花ノ廓大圖ニシテ(b)ハ之ヲ裂開セルモノナリ。  
 英國及獨逸ニ藥用及諸用ニ供スル薄荷ハ *Mentha piperita* L. ハ其穗花頂立性(本

圖九十四第



邦産ニ於テハ  
 花序ハ葉腋ヨ  
 リ出テ茶筌狀  
 花ニ類スル觀  
 ヲ呈ス)ニシテ  
 香氣頗ル佳良  
 ナリ飲食物ニ  
 調和スルニハ  
 特ニ英國産ヲ  
 賞用ス第四十

九圖ハ其全草ヲ示ス。

(形狀) 日本藥局方ニ掲クル薄荷葉ハ六七月ノ候花ヲ帶フル植物ノ葉ヲ採

圖十五第



リ蔭乾セルモノナリ、薄荷葉ハ卵圓鉞形ヲ爲シ長サ大約八〇mm幅二〇mmニ至  
 リ葉柄ヲ具ヘ基礎ノ邊緣ハ平坦ニシテ上部ノ邊緣ハ鋸齒ヲ有シ下面ハ色淡  
 ク毛茸ヲ帶ヒス或ハ只脈管上ニ之ヲ帶フルノ  
 ミル(ペ)ヲ以テ檢視スレバ其兩面殊ニ其下面  
 ニ褐色ノ小球(油腺又腺鱗)ヲ認ム主脈ハ著シク  
 露出シ之ヨリ銳角ヲ爲シテ分出セ

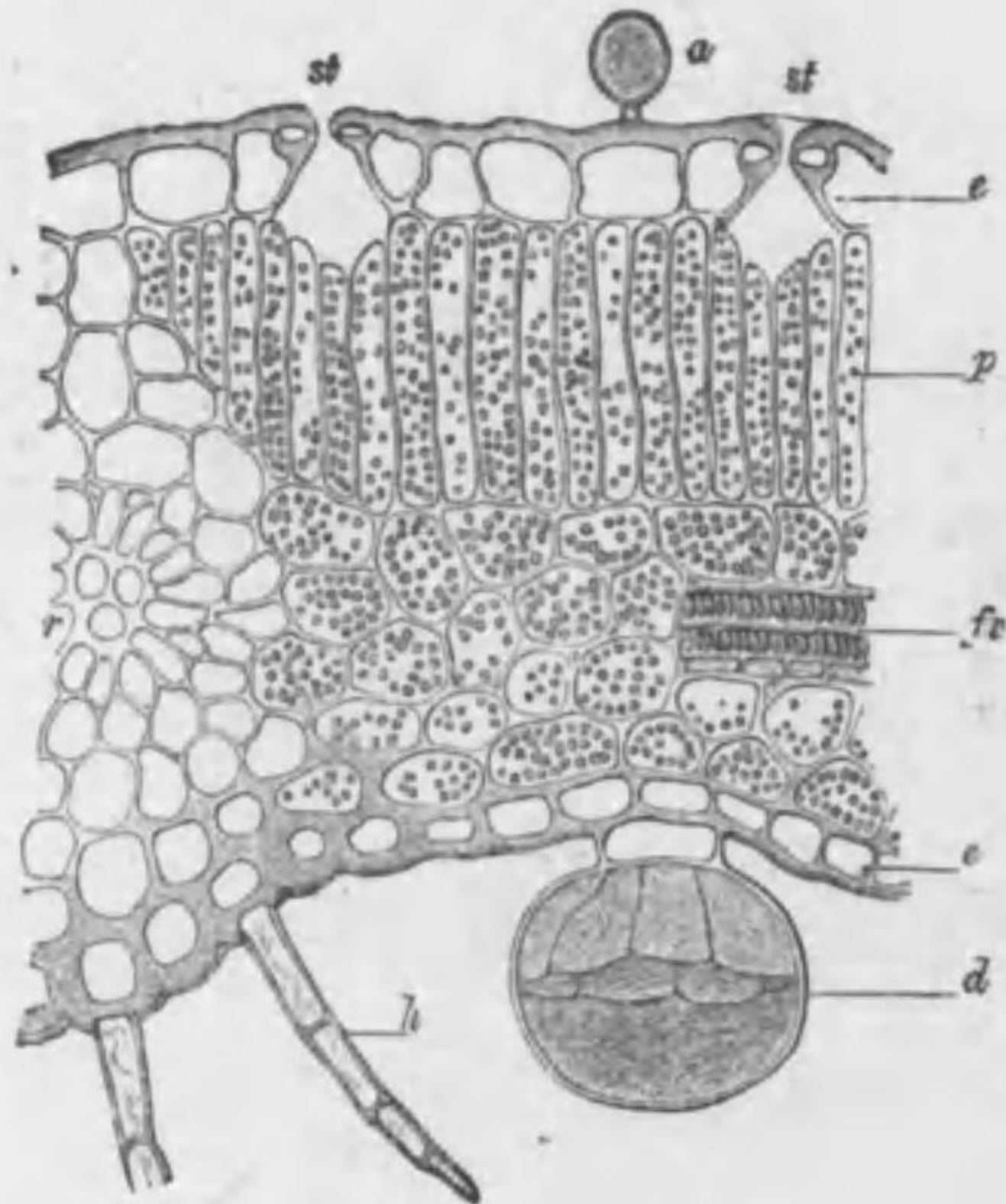
ル側脈管ハ較著ナラザル脈絡ヲ爲  
 ス薄荷ハ特異峻烈ノ芳香ヲ有シ味  
 ハ初メ灼クガ如ク芳香性ニシテ後  
 清凉ナリ。

第五十圖ハ歐洲産薄荷葉ノ寫真圖

ナリ(カルステン氏ニ據ル)第五十一

圖ハ薄荷葉ノ橫斷面ヲ示シ(d)ハ油  
 腺(腺鱗)(a)ハ頭毛(e)ハ上皮(st)ハ裂  
 口(p)ハ柵狀細胞(fe)ハ枝脈ノ脈管束

圖一十五第



(r)ハ主脈、(h)ハ毛茸トス。

**(成分)** 新鮮ナル薄荷葉ハ之ヲ水ト共ニ蒸餾スルキハ大約一%ノ揮發油(薄荷油)ヲ生ス薄荷油ハ薄荷腦(Menthol  $C_{10}H_{18}(OH)$ )、Menthon  $C_{10}H_{16}O$  種々ノ「テルペン類」アルデヒッド體ヨリ成ル、其香氣ハ產地品種ノ異ナルニ從テ一定ナラス而シテ其香氣ノ特異ナルハ恐ラクハ薄荷腦ノ含量ニ關スルモノニシテ本邦産薄荷油ハ殊ニ薄荷腦ニ富ミ大約五十%ノ多キニ至ル宜シク製藥化學下巻薄荷油ノ條ヲ參照スヘシ

**(應用)** 薄荷葉ハ茶劑トシテ胃痛・痙攣・腸内瓦斯ノ膨滿・下利等ノ諸症ニ處方セラレ、又薄荷油薄荷水等ヲ製スルニ用ユ。

皺葉薄荷

●皺葉薄荷 *Mentha crispata L.*

圖二十五第



此薄荷ハ佐ノ薄荷ニ異ナル一種ノ芳香ヲ有シ歐洲ノ庭園ニ栽培ス然レトモ尋常ノ薄荷ノ如ク多カラズ其薄荷ト異ナルノ要點ハ葉面淡綠色ニシテ皺紋ヲ有シ葉緣波濤狀ニ彎曲セルニ在リ、雜葉薄荷ノ葉ハ卵圓形ヲ有シ葉柄ナク或ハ短キ葉柄ヲ有シ其各邊緣ニハ彎曲シテ齊一ナラザル所ノ鋸齒大約十箇ヲ具有ス大ナル葉ニ在テハ其基礎部心臟形ヲ爲ス而シテ油腺ハ葉ノ兩面ニ附在シ往々其傍ニ毛茸ヲ帶フ第五十二圖ハ雜葉薄荷ノ自然大三分二寫眞圖ナリ(カールステン氏)雜葉薄荷ノ特異ノ芳香

(獨) Salbeiblätter.  
(英) Garden sage.  
(佛) Feuilles de sauge.

圖三十五第



カールステン( $C_{10}H_{16}O$ )ノ外カルウキール(Carvol  $C_{10}H_{18}O$ )ナル化合物ヲ含有スルニ由ル此カルウキールハ嫩形科植物 *Carum Carvi L.* ノ種子(カールム子)ノ揮發油中ニ含メル右旋性カルウキールト異ニシテ左旋性ナリ、雜葉薄荷ハ薄荷ト同一ノ目的ニ應用セラレレトモ現今ハ殆ト廢棄ニ歸セリ。

●サルフィア葉 *Folia Salviae.*

**(基原)** サルフィア葉ハ已ニヒポクラータス氏之ヲ「醫療ニ供セリト云フ唇形科(Labiatae)ノ草

本植物 *Salvia officinalis L.* ノ葉ニシテ本來此草ハ歐洲中部ノ植物ニ屬スレトモ當時歐洲諸國殊ニ



圖四十五第



伊國及佛國ニ培植ス又處々ニ野生シ諾威ニモ能ク生育ス第五十三圖ハ稍縮小セル「サルフィア草ノ花ヲ帶フル一枝ヲ示ス。

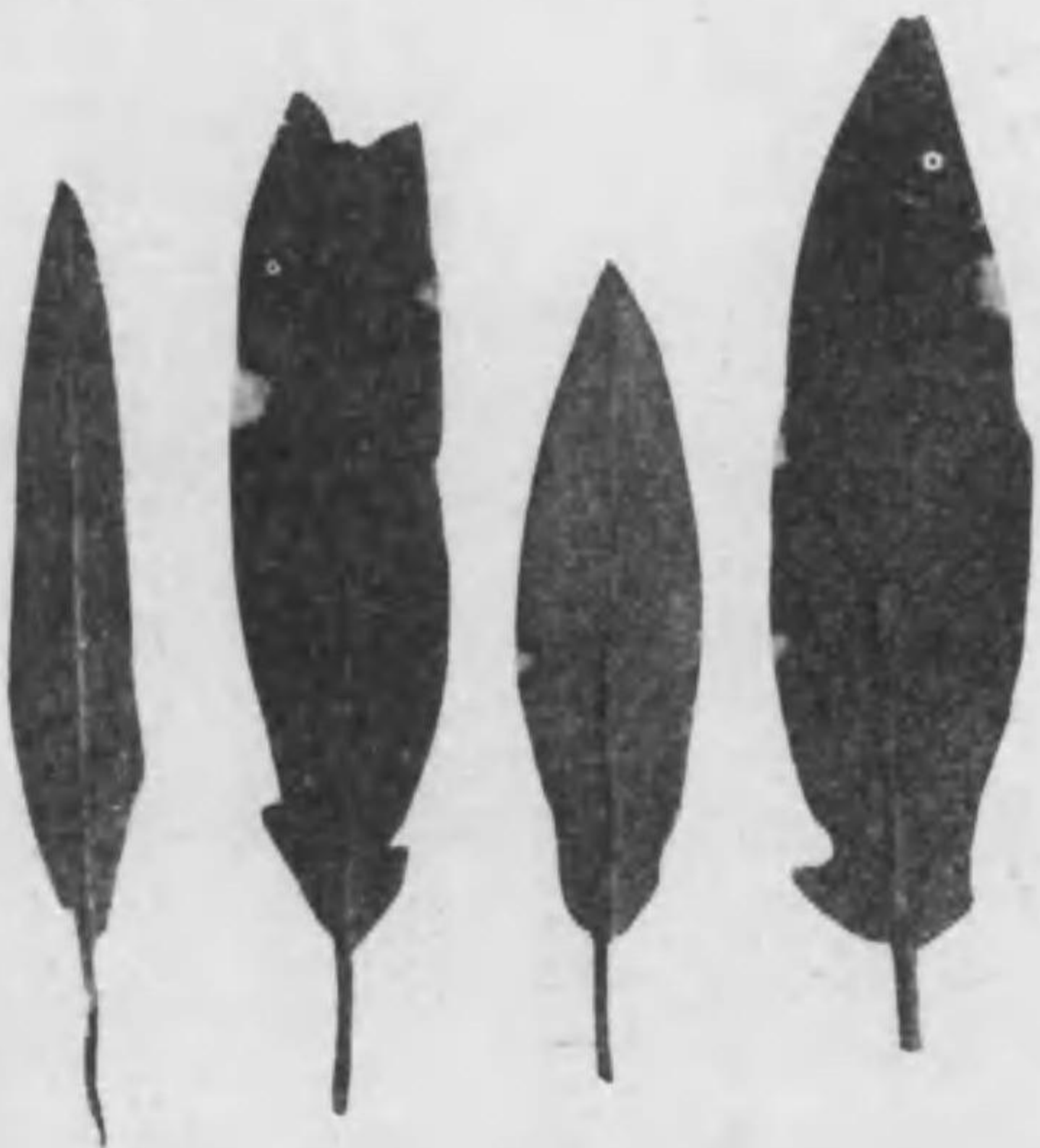
(a) 獨逸産サルウイア葉  
(b) 伊太利産サルウイア葉

(形状)

庭園ニ培植セル「サルフィア

ア葉ハ厚硬ニシテ幅廣、五〇日長サ一〇cmニ至リ葉柄ノ長サニ四倍セルモノアリ又之ヨリモ小ナルモノアリ時トシテハ基礎部ノ兩側ニ小葉ヲ着ケ(第五十四圖略、耳狀ヲ裝フモノアリ此小葉ハ殆ント鉞針形乃至鈍卵圓形ヲ爲ス、サルフィア葉ノ基礎部ハ多クハ略心臟形ヲナシ急ニ葉柄ニ沿フテ狭細トナリ邊緣ニハ微細ナル鈍鋸齒ヲ有ス、葉面ハ脈絡ヨリ形成

圖五十五第



圖六十五第



第五十六圖、又有頭腺毛及揮發油ヲ包裹スル腺鱗(薄荷油ノ條ヲ見ヨ)ヲ具有

セラ、網眼ノ間ヨリ隆起スルニ由リ略縮緬様ノ紋理ヲ呈ス葉面ハ上下兩面共ニ細密ノ毳衣ヲ被ムル此毛茸ハ甚タ狭細厚壁ニシテ特異ノ形狀ヲ有ス  
ス、第五十五圖ハ獨逸産及伊太利サルウイア葉ノ自然大寫真圖ナリ。  
サルフィア葉ハ本植物ニ固有ナル特異ノ芳香ヲ有シ味ハ芳香性ニシテ稍苦ク收斂性ナリ。

(成分)

揮發油サルフィア油ノ含量一・二五%ニ至ル此揮發油ハ Pinon C<sub>10</sub>H<sub>16</sub> (沸騰點百五十六度、

シネオール C<sub>15</sub>H<sub>24</sub>O (沸騰點百七十六度)、Salviol C<sub>15</sub>H<sub>16</sub>O (又 Triujon ト名ク沸騰點二百度) 大約二百六十度ニ於

(應用)

サルフィア葉ハ屢咽喉炎ニ含嗽水トシテ使用セラ、ル、モノナリ。

● 迷迭香葉 Folia Rosmarini.

(基原)

迷迭香葉ハ其香氣ノ佳絶ナルニ由リ已ニ太古希臘及羅馬時代ヨリ供用セラレタル

迷迭香葉 (獨) Rosmarinblätter.  
迷迭香葉 (英) Rosmary leave.  
迷迭香葉 (佛) Feuilles de rosmarin.

藥品ニ屬シ唇形科 (Labiatae) ノ常緑性灌木 Rosmarinus officinalis L. ノ葉ナリ地中海ノ沿岸ニ産ス然レトモ其東部ノ地ニハ産セズ又中央歐洲ニ發育セズ專ラ伊國及佛國ニ培養ス。

(形狀)

迷迭香葉ハ強硬ニシテ厚ク絲狀ヲ爲シ長サ三〇ミニ至リ幅二乃至四mm頂端ハ鈍シ其乾燥スルニ從テ針狀トナリ僅ニ一mm半ニ過ギザルニ至ル

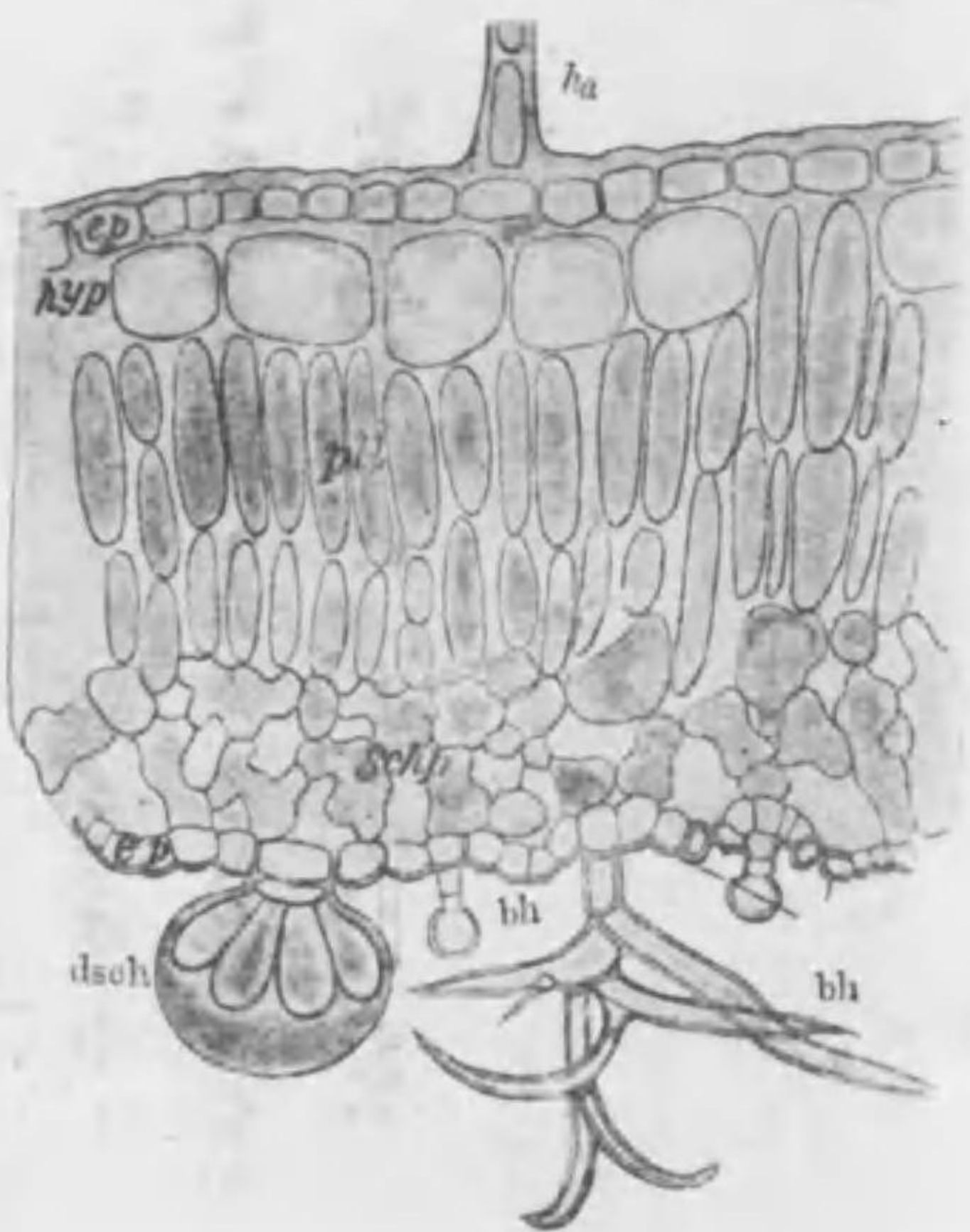
圖七十五第



其際屢縦軸ノ方向ニ彎曲シ葉ノ邊緣卷曲シ素ト滑澤ナル上面著シク皺縮ス上面ハ綠色ニシテ光澤ヲ帶ヒ淺キ縱溝アリテ通走シ下面ニハ唯灰色ノ絨毛ヲ帶フル主脈ヲ見ルノミ、第

五十七圖ハ迷迭香葉ノ約二倍大寫真圖ニシテ右ハ葉ノ上面左ハ背面トス。  
(解剖學的構造) 迷迭香葉ノ特徴トスル所ハ柵狀細胞組織(第五十八圖pl)ハ二乃至三層ヨリ成リ海綿組織ハ之レニ反シテ甚タ狭ク(同圖sch)柵狀細胞組織ハ只或ル部位ニ於テノミ上面ノ上皮ニ接觸シ上面ノ上皮ノ直下ニハ概シテ無色木組織ノ一細胞層(同圖hyp) (處ニ由リテハ二細胞層)ヲ存ス(此ノ細胞

圖八十五第



密生シ其間ニ鱗腺(dsch)及頭毛(bh)ノ潜伏スル等ニ在リ。

(成分)

迷迭香葉ハ之ヲ水ト共ニ蒸餾スレバ揮發油(迷迭香油 Oleum Rosmarini) 大約一%ヲ得、迷迭香油ハ主トシテ Terpenyl(C<sub>10</sub>H<sub>16</sub>)ヨリ成リ其他 Cineol C<sub>15</sub>H<sub>26</sub>O 並ニ左旋性及右旋性ノ樟腦及龍腦ヲ傍有ス。

(應用)

迷迭香葉ハ蒸溜劑トシテ只外用ニ供セラル、ノミ而シテ又迷迭香油ヲ疥癬ニ應用スルコトアリ。

層ハ葉體ノ内部ニ於ケル組

織ノ甚シク日光ヨリ直射熱熱セラル、ヲ防遮スルノ任ヲ負フルモノナリ、上面ノ上皮(ep)ハ厚壁性ニシテ平坦ナル表皮ヲ被ムリ處々ニ破折セル毛茸(同圖ha)ヲ存ス又上面ノ上皮ハ裂口ヲ具有セス、葉ノ下面及其卷曲セル内面ニハ著大ナル束毛(同圖bh)ヲ

(獨) Melissenblätter.  
(英) Balm-mint leaves.  
(佛) Feuilles de mélisse.

● メリッサ葉 Folia Melissae.

(基原) メリッサ葉ハ歐洲ニ於テ已ニ上古ノ時代ヨリ世ニ知ラレ中世ノ末季ニ至リ亞爾伯山北ノ各地ニ移植シテ之ヲ採集セリ其母種ハ唇形科 (Labiatae) ノ宿根草 *Melissa officinalis* Linn. ニシテ地中海濱及黑海濱各地并ニ小亞細亞ニ天生シ今ハ汎ク藥用並ニ蜜蜂ノ餌食ニ供センガ爲メ中歐地方ニ培養ス。

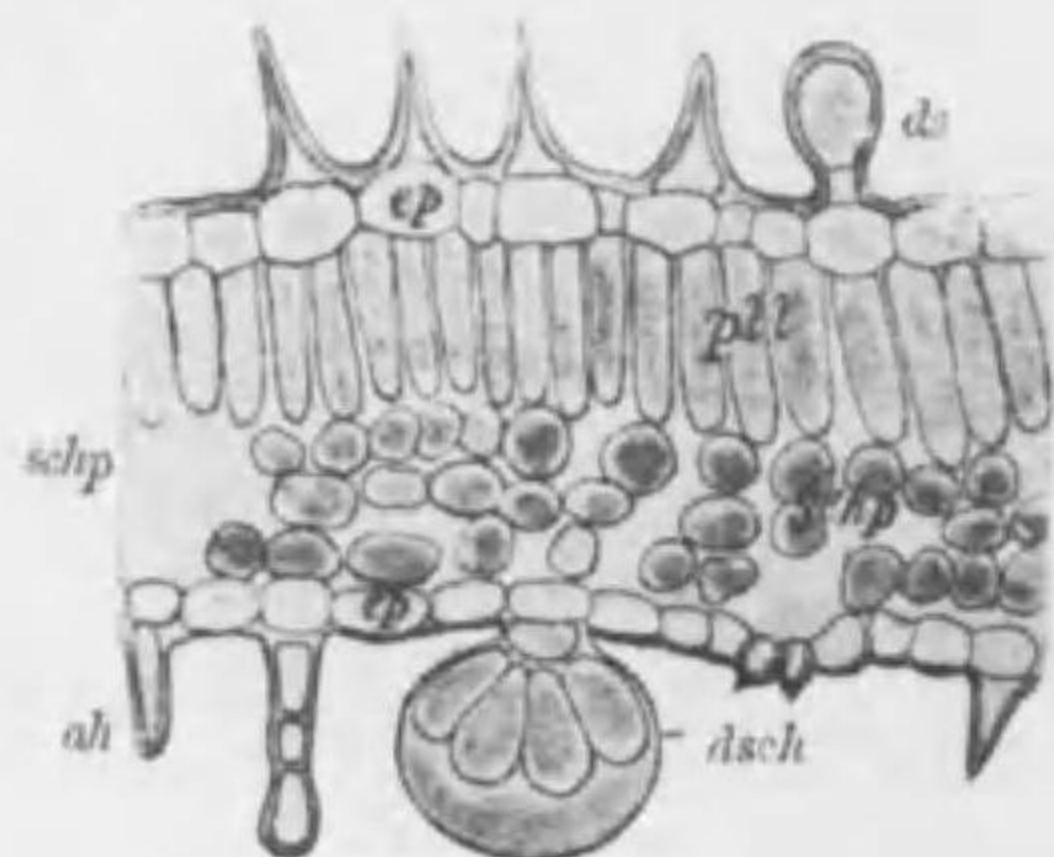
第五十九圖



(形狀) メリッサ葉(歐洲藥品市場ノ品ハ培養草ノ葉ヲ採ル)ハ卵圓形或ハ心臟形ヲナシ長サ四cmニ過キス廣サ三cmニ至リ下部ノ葉ハ稍長キ葉柄ヲ有シ葉質ハ薄ク背面ニ於テ軟キ毛茸アリ兩邊ニハ鈍鋸齒裂ヲナシ上端ハ鈍キ尖端ニ終ル上面ニハ巨大ナル剛毛ヲ散布シ鱗腺ハ殊ニ淡明ナル背面ニ散在ス。

第五十九圖ハメリッサ葉ノ概型圖ナリ。  
(解剖學的構造) メリッサ葉ハ上面ノ上皮下ニ柵狀細胞ノ一層ヲ現ハシ其

第六十圖



下部ニハ三乃至四列ヨリ成レル鬆疎ナル海綿組織ノ存在スルヲ見ル上下兩面ノ上皮ハ單一ノ細胞ヨリ成レル短キ圓錐體形ノ毛茸ノ多數ヲ着ケ殊ニ脈絡上ニ三乃至五箇ノ細胞ヨリ成レル厚壁性ノ長キ剛毛ヲ帶フ又彼ノ唇形科植物ニ特異ナル鱗腺ヲ存シ頭毛ヲ着ク裂口ハ只下面ノ表皮ニ存在スルノミ。  
第六十圖ハメリッサ葉ノ橫斷面ヲ示ス其 *pl* ハ柵狀細胞、*ep* ハ上皮、*schp* ハ海綿組織、*ah* ハ單一ノ細胞ヨリ成レル圓錐形ノ毛茸、*dsch* ハ鱗腺、*ds* ハ頭毛ヲ示ス。  
メリッサ葉殊ニ乾燥ノ後佳快ノ芳香性ヲ有シ稍構織ニ類ス但シ峻烈ナラス七八月ノ候花ヲ帶フルモノヨリ採集ス。

(成分)

極メテ少量(大約一%)ノ揮發油ヲ含有ス而シテ此揮發油ハ  $C_{10}H_{16}O$  及  $C_{10}H_{14}O$  及  $C_{10}H_{12}O$  及  $C_{10}H_{10}O$  及  $C_{10}H_{8}O$  及  $C_{10}H_{6}O$  及  $C_{10}H_{4}O$  及  $C_{10}H_{2}O$  及  $C_{10}H$  及  $C_9H_{10}O$  及  $C_9H_8O$  及  $C_9H_6O$  及  $C_9H_4O$  及  $C_9H_2O$  及  $C_8H_{10}O$  及  $C_8H_8O$  及  $C_8H_6O$  及  $C_8H_4O$  及  $C_8H_2O$  及  $C_7H_{10}O$  及  $C_7H_8O$  及  $C_7H_6O$  及  $C_7H_4O$  及  $C_7H_2O$  及  $C_6H_{10}O$  及  $C_6H_8O$  及  $C_6H_6O$  及  $C_6H_4O$  及  $C_6H_2O$  及  $C_5H_{10}O$  及  $C_5H_8O$  及  $C_5H_6O$  及  $C_5H_4O$  及  $C_5H_2O$  及  $C_4H_{10}O$  及  $C_4H_8O$  及  $C_4H_6O$  及  $C_4H_4O$  及  $C_4H_2O$  及  $C_3H_{10}O$  及  $C_3H_8O$  及  $C_3H_6O$  及  $C_3H_4O$  及  $C_3H_2O$  及  $C_2H_{10}O$  及  $C_2H_8O$  及  $C_2H_6O$  及  $C_2H_4O$  及  $C_2H_2O$  及  $C_1H_{10}O$  及  $C_1H_8O$  及  $C_1H_6O$  及  $C_1H_4O$  及  $C_1H_2O$  及  $C_1H$  及  $C_1$  及  $H_2$  及  $H_4$  及  $H_6$  及  $H_8$  及  $H_{10}$  及  $H_{12}$  及  $H_{14}$  及  $H_{16}$  及  $H_{18}$  及  $H_{20}$  及  $H_{22}$  及  $H_{24}$  及  $H_{26}$  及  $H_{28}$  及  $H_{30}$  及  $H_{32}$  及  $H_{34}$  及  $H_{36}$  及  $H_{38}$  及  $H_{40}$  及  $H_{42}$  及  $H_{44}$  及  $H_{46}$  及  $H_{48}$  及  $H_{50}$  及  $H_{52}$  及  $H_{54}$  及  $H_{56}$  及  $H_{58}$  及  $H_{60}$  及  $H_{62}$  及  $H_{64}$  及  $H_{66}$  及  $H_{68}$  及  $H_{70}$  及  $H_{72}$  及  $H_{74}$  及  $H_{76}$  及  $H_{78}$  及  $H_{80}$  及  $H_{82}$  及  $H_{84}$  及  $H_{86}$  及  $H_{88}$  及  $H_{90}$  及  $H_{92}$  及  $H_{94}$  及  $H_{96}$  及  $H_{98}$  及  $H_{100}$  及  $H_{102}$  及  $H_{104}$  及  $H_{106}$  及  $H_{108}$  及  $H_{110}$  及  $H_{112}$  及  $H_{114}$  及  $H_{116}$  及  $H_{118}$  及  $H_{120}$  及  $H_{122}$  及  $H_{124}$  及  $H_{126}$  及  $H_{128}$  及  $H_{130}$  及  $H_{132}$  及  $H_{134}$  及  $H_{136}$  及  $H_{138}$  及  $H_{140}$  及  $H_{142}$  及  $H_{144}$  及  $H_{146}$  及  $H_{148}$  及  $H_{150}$  及  $H_{152}$  及  $H_{154}$  及  $H_{156}$  及  $H_{158}$  及  $H_{160}$  及  $H_{162}$  及  $H_{164}$  及  $H_{166}$  及  $H_{168}$  及  $H_{170}$  及  $H_{172}$  及  $H_{174}$  及  $H_{176}$  及  $H_{178}$  及  $H_{180}$  及  $H_{182}$  及  $H_{184}$  及  $H_{186}$  及  $H_{188}$  及  $H_{190}$  及  $H_{192}$  及  $H_{194}$  及  $H_{196}$  及  $H_{198}$  及  $H_{200}$  及  $H_{202}$  及  $H_{204}$  及  $H_{206}$  及  $H_{208}$  及  $H_{210}$  及  $H_{212}$  及  $H_{214}$  及  $H_{216}$  及  $H_{218}$  及  $H_{220}$  及  $H_{222}$  及  $H_{224}$  及  $H_{226}$  及  $H_{228}$  及  $H_{230}$  及  $H_{232}$  及  $H_{234}$  及  $H_{236}$  及  $H_{238}$  及  $H_{240}$  及  $H_{242}$  及  $H_{244}$  及  $H_{246}$  及  $H_{248}$  及  $H_{250}$  及  $H_{252}$  及  $H_{254}$  及  $H_{256}$  及  $H_{258}$  及  $H_{260}$  及  $H_{262}$  及  $H_{264}$  及  $H_{266}$  及  $H_{268}$  及  $H_{270}$  及  $H_{272}$  及  $H_{274}$  及  $H_{276}$  及  $H_{278}$  及  $H_{280}$  及  $H_{282}$  及  $H_{284}$  及  $H_{286}$  及  $H_{288}$  及  $H_{290}$  及  $H_{292}$  及  $H_{294}$  及  $H_{296}$  及  $H_{298}$  及  $H_{300}$  及  $H_{302}$  及  $H_{304}$  及  $H_{306}$  及  $H_{308}$  及  $H_{310}$  及  $H_{312}$  及  $H_{314}$  及  $H_{316}$  及  $H_{318}$  及  $H_{320}$  及  $H_{322}$  及  $H_{324}$  及  $H_{326}$  及  $H_{328}$  及  $H_{330}$  及  $H_{332}$  及  $H_{334}$  及  $H_{336}$  及  $H_{338}$  及  $H_{340}$  及  $H_{342}$  及  $H_{344}$  及  $H_{346}$  及  $H_{348}$  及  $H_{350}$  及  $H_{352}$  及  $H_{354}$  及  $H_{356}$  及  $H_{358}$  及  $H_{360}$  及  $H_{362}$  及  $H_{364}$  及  $H_{366}$  及  $H_{368}$  及  $H_{370}$  及  $H_{372}$  及  $H_{374}$  及  $H_{376}$  及  $H_{378}$  及  $H_{380}$  及  $H_{382}$  及  $H_{384}$  及  $H_{386}$  及  $H_{388}$  及  $H_{390}$  及  $H_{392}$  及  $H_{394}$  及  $H_{396}$  及  $H_{398}$  及  $H_{400}$  及  $H_{402}$  及  $H_{404}$  及  $H_{406}$  及  $H_{408}$  及  $H_{410}$  及  $H_{412}$  及  $H_{414}$  及  $H_{416}$  及  $H_{418}$  及  $H_{420}$  及  $H_{422}$  及  $H_{424}$  及  $H_{426}$  及  $H_{428}$  及  $H_{430}$  及  $H_{432}$  及  $H_{434}$  及  $H_{436}$  及  $H_{438}$  及  $H_{440}$  及  $H_{442}$  及  $H_{444}$  及  $H_{446}$  及  $H_{448}$  及  $H_{450}$  及  $H_{452}$  及  $H_{454}$  及  $H_{456}$  及  $H_{458}$  及  $H_{460}$  及  $H_{462}$  及  $H_{464}$  及  $H_{466}$  及  $H_{468}$  及  $H_{470}$  及  $H_{472}$  及  $H_{474}$  及  $H_{476}$  及  $H_{478}$  及  $H_{480}$  及  $H_{482}$  及  $H_{484}$  及  $H_{486}$  及  $H_{488}$  及  $H_{490}$  及  $H_{492}$  及  $H_{494}$  及  $H_{496}$  及  $H_{498}$  及  $H_{500}$  及  $H_{502}$  及  $H_{504}$  及  $H_{506}$  及  $H_{508}$  及  $H_{510}$  及  $H_{512}$  及  $H_{514}$  及  $H_{516}$  及  $H_{518}$  及  $H_{520}$  及  $H_{522}$  及  $H_{524}$  及  $H_{526}$  及  $H_{528}$  及  $H_{530}$  及  $H_{532}$  及  $H_{534}$  及  $H_{536}$  及  $H_{538}$  及  $H_{540}$  及  $H_{542}$  及  $H_{544}$  及  $H_{546}$  及  $H_{548}$  及  $H_{550}$  及  $H_{552}$  及  $H_{554}$  及  $H_{556}$  及  $H_{558}$  及  $H_{560}$  及  $H_{562}$  及  $H_{564}$  及  $H_{566}$  及  $H_{568}$  及  $H_{570}$  及  $H_{572}$  及  $H_{574}$  及  $H_{576}$  及  $H_{578}$  及  $H_{580}$  及  $H_{582}$  及  $H_{584}$  及  $H_{586}$  及  $H_{588}$  及  $H_{590}$  及  $H_{592}$  及  $H_{594}$  及  $H_{596}$  及  $H_{598}$  及  $H_{600}$  及  $H_{602}$  及  $H_{604}$  及  $H_{606}$  及  $H_{608}$  及  $H_{610}$  及  $H_{612}$  及  $H_{614}$  及  $H_{616}$  及  $H_{618}$  及  $H_{620}$  及  $H_{622}$  及  $H_{624}$  及  $H_{626}$  及  $H_{628}$  及  $H_{630}$  及  $H_{632}$  及  $H_{634}$  及  $H_{636}$  及  $H_{638}$  及  $H_{640}$  及  $H_{642}$  及  $H_{644}$  及  $H_{646}$  及  $H_{648}$  及  $H_{650}$  及  $H_{652}$  及  $H_{654}$  及  $H_{656}$  及  $H_{658}$  及  $H_{660}$  及  $H_{662}$  及  $H_{664}$  及  $H_{666}$  及  $H_{668}$  及  $H_{670}$  及  $H_{672}$  及  $H_{674}$  及  $H_{676}$  及  $H_{678}$  及  $H_{680}$  及  $H_{682}$  及  $H_{684}$  及  $H_{686}$  及  $H_{688}$  及  $H_{690}$  及  $H_{692}$  及  $H_{694}$  及  $H_{696}$  及  $H_{698}$  及  $H_{700}$  及  $H_{702}$  及  $H_{704}$  及  $H_{706}$  及  $H_{708}$  及  $H_{710}$  及  $H_{712}$  及  $H_{714}$  及  $H_{716}$  及  $H_{718}$  及  $H_{720}$  及  $H_{722}$  及  $H_{724}$  及  $H_{726}$  及  $H_{728}$  及  $H_{730}$  及  $H_{732}$  及  $H_{734}$  及  $H_{736}$  及  $H_{738}$  及  $H_{740}$  及  $H_{742}$  及  $H_{744}$  及  $H_{746}$  及  $H_{748}$  及  $H_{750}$  及  $H_{752}$  及  $H_{754}$  及  $H_{756}$  及  $H_{758}$  及  $H_{760}$  及  $H_{762}$  及  $H_{764}$  及  $H_{766}$  及  $H_{768}$  及  $H_{770}$  及  $H_{772}$  及  $H_{774}$  及  $H_{776}$  及  $H_{778}$  及  $H_{780}$  及  $H_{782}$  及  $H_{784}$  及  $H_{786}$  及  $H_{788}$  及  $H_{790}$  及  $H_{792}$  及  $H_{794}$  及  $H_{796}$  及  $H_{798}$  及  $H_{800}$  及  $H_{802}$  及  $H_{804}$  及  $H_{806}$  及  $H_{808}$  及  $H_{810}$  及  $H_{812}$  及  $H_{814}$  及  $H_{816}$  及  $H_{818}$  及  $H_{820}$  及  $H_{822}$  及  $H_{824}$  及  $H_{826}$  及  $H_{828}$  及  $H_{830}$  及  $H_{832}$  及  $H_{834}$  及  $H_{836}$  及  $H_{838}$  及  $H_{840}$  及  $H_{842}$  及  $H_{844}$  及  $H_{846}$  及  $H_{848}$  及  $H_{850}$  及  $H_{852}$  及  $H_{854}$  及  $H_{856}$  及  $H_{858}$  及  $H_{860}$  及  $H_{862}$  及  $H_{864}$  及  $H_{866}$  及  $H_{868}$  及  $H_{870}$  及  $H_{872}$  及  $H_{874}$  及  $H_{876}$  及  $H_{878}$  及  $H_{880}$  及  $H_{882}$  及  $H_{884}$  及  $H_{886}$  及  $H_{888}$  及  $H_{890}$  及  $H_{892}$  及  $H_{894}$  及  $H_{896}$  及  $H_{898}$  及  $H_{900}$  及  $H_{902}$  及  $H_{904}$  及  $H_{906}$  及  $H_{908}$  及  $H_{910}$  及  $H_{912}$  及  $H_{914}$  及  $H_{916}$  及  $H_{918}$  及  $H_{920}$  及  $H_{922}$  及  $H_{924}$  及  $H_{926}$  及  $H_{928}$  及  $H_{930}$  及  $H_{932}$  及  $H_{934}$  及  $H_{936}$  及  $H_{938}$  及  $H_{940}$  及  $H_{942}$  及  $H_{944}$  及  $H_{946}$  及  $H_{948}$  及  $H_{950}$  及  $H_{952}$  及  $H_{954}$  及  $H_{956}$  及  $H_{958}$  及  $H_{960}$  及  $H_{962}$  及  $H_{964}$  及  $H_{966}$  及  $H_{968}$  及  $H_{970}$  及  $H_{972}$  及  $H_{974}$  及  $H_{976}$  及  $H_{978}$  及  $H_{980}$  及  $H_{982}$  及  $H_{984}$  及  $H_{986}$  及  $H_{988}$  及  $H_{990}$  及  $H_{992}$  及  $H_{994}$  及  $H_{996}$  及  $H_{998}$  及  $H_{1000}$  及  $H_{1002}$  及  $H_{1004}$  及  $H_{1006}$  及  $H_{1008}$  及  $H_{1010}$  及  $H_{1012}$  及  $H_{1014}$  及  $H_{1016}$  及  $H_{1018}$  及  $H_{1020}$  及  $H_{1022}$  及  $H_{1024}$  及  $H_{1026}$  及  $H_{1028}$  及  $H_{1030}$  及  $H_{1032}$  及  $H_{1034}$  及  $H_{1036}$  及  $H_{1038}$  及  $H_{1040}$  及  $H_{1042}$  及  $H_{1044}$  及  $H_{1046}$  及  $H_{1048}$  及  $H_{1050}$  及  $H_{1052}$  及  $H_{1054}$  及  $H_{1056}$  及  $H_{1058}$  及  $H_{1060}$  及  $H_{1062}$  及  $H_{1064}$  及  $H_{1066}$  及  $H_{1068}$  及  $H_{1070}$  及  $H_{1072}$  及  $H_{1074}$  及  $H_{1076}$  及  $H_{1078}$  及  $H_{1080}$  及  $H_{1082}$  及  $H_{1084}$  及  $H_{1086}$  及  $H_{1088}$  及  $H_{1090}$  及  $H_{1092}$  及  $H_{1094}$  及  $H_{1096}$  及  $H_{1098}$  及  $H_{1100}$  及  $H_{1102}$  及  $H_{1104}$  及  $H_{1106}$  及  $H_{1108}$  及  $H_{1110}$  及  $H_{1112}$  及  $H_{1114}$  及  $H_{1116}$  及  $H_{1118}$  及  $H_{1120}$  及  $H_{1122}$  及  $H_{1124}$  及  $H_{1126}$  及  $H_{1128}$  及  $H_{1130}$  及  $H_{1132}$  及  $H_{1134}$  及  $H_{1136}$  及  $H_{1138}$  及  $H_{1140}$  及  $H_{1142}$  及  $H_{1144}$  及  $H_{1146}$  及  $H_{1148}$  及  $H_{1150}$  及  $H_{1152}$  及  $H_{1154}$  及  $H_{1156}$  及  $H_{1158}$  及  $H_{1160}$  及  $H_{1162}$  及  $H_{1164}$  及  $H_{1166}$  及  $H_{1168}$  及  $H_{1170}$  及  $H_{1172}$  及  $H_{1174}$  及  $H_{1176}$  及  $H_{1178}$  及  $H_{1180}$  及  $H_{1182}$  及  $H_{1184}$  及  $H_{1186}$  及  $H_{1188}$  及  $H_{1190}$  及  $H_{1192}$  及  $H_{1194}$  及  $H_{1196}$  及  $H_{1198}$  及  $H_{1200}$  及  $H_{1202}$  及  $H_{1204}$  及  $H_{1206}$  及  $H_{1208}$  及  $H_{1210}$  及  $H_{1212}$  及  $H_{1214}$  及  $H_{1216}$  及  $H_{1218}$  及  $H_{1220}$  及  $H_{1222}$  及  $H_{1224}$  及  $H_{1226}$  及  $H_{1228}$  及  $H_{1230}$  及  $H_{1232}$  及  $H_{1234}$  及  $H_{1236}$  及  $H_{1238}$  及  $H_{1240}$  及  $H_{1242}$  及  $H_{1244}$  及  $H_{1246}$  及  $H_{1248}$  及  $H_{1250}$  及  $H_{1252}$  及  $H_{1254}$  及  $H_{1256}$  及  $H_{1258}$  及  $H_{1260}$  及  $H_{1262}$  及  $H_{1264}$  及  $H_{1266}$  及  $H_{1268}$  及  $H_{1270}$  及  $H_{1272}$  及  $H_{1274}$  及  $H_{1276}$  及  $H_{1278}$  及  $H_{1280}$  及  $H_{1282}$  及  $H_{1284}$  及  $H_{1286}$  及  $H_{1288}$  及  $H_{1290}$  及  $H_{1292}$  及  $H_{1294}$  及  $H_{1296}$  及  $H_{1298}$  及  $H_{1300}$  及  $H_{1302}$  及  $H_{1304}$  及  $H_{1306}$  及  $H_{1308}$  及  $H_{1310}$  及  $H_{1312}$  及  $H_{1314}$  及  $H_{1316}$  及  $H_{1318}$  及  $H_{1320}$  及  $H_{1322}$  及  $H_{1324}$  及  $H_{1326}$  及  $H_{1328}$  及  $H_{1330}$  及  $H_{1332}$  及  $H_{1334}$  及  $H_{1336}$  及  $H_{1338}$  及  $H_{1340}$  及  $H_{1342}$  及  $H_{1344}$  及  $H_{1346}$  及  $H_{1348}$  及  $H_{1350}$  及  $H_{1352}$  及  $H_{1354}$  及  $H_{1356}$  及  $H_{1358}$  及  $H_{1360}$  及  $H_{1362}$  及  $H_{1364}$  及  $H_{1366}$  及  $H_{1368}$  及  $H_{1370}$  及  $H_{1372}$  及  $H_{1374}$  及  $H_{1376}$  及  $H_{1378}$  及  $H_{1380}$  及  $H_{1382}$  及  $H_{1384}$  及  $H_{1386}$  及  $H_{1388}$  及  $H_{1390}$  及  $H_{1392}$  及  $H_{1394}$  及  $H_{1396}$  及  $H_{1398}$  及  $H_{1400}$  及  $H_{1402}$  及  $H_{1404}$  及  $H_{1406}$  及  $H_{1408}$  及  $H_{1410}$  及  $H_{1412}$  及  $H_{1414}$  及  $H_{1416}$  及  $H_{1418}$  及  $H_{1420}$  及  $H_{1422}$  及  $H_{1424}$  及  $H_{1426}$  及  $H_{1428}$  及  $H_{1430}$  及  $H_{1432}$  及  $H_{1434}$  及  $H_{1436}$  及  $H_{1438}$  及  $H_{1440}$  及  $H_{1442}$  及  $H_{1444}$  及  $H_{1446}$  及  $H_{1448}$  及  $H_{1450}$  及  $H_{1452}$  及  $H_{1454}$  及  $H_{1456}$  及  $H_{1458}$  及  $H_{1460}$  及  $H_{1462}$  及  $H_{1464}$  及  $H_{1466}$  及  $H_{1468}$  及  $H_{1470}$  及  $H_{1472}$  及  $H_{1474}$  及  $H_{1476}$  及  $H_{1478}$  及  $H_{1480}$  及  $H_{1482}$  及  $H_{1484}$  及  $H_{1486}$  及  $H_{1488}$  及  $H_{1490}$  及  $H_{1492}$  及  $H_{1494}$  及  $H_{1496}$  及  $H_{1498}$  及  $H_{1500}$  及  $H_{1502}$  及  $H_{1504}$  及  $H_{1506}$  及  $H_{1508}$  及  $H_{1510}$  及  $H_{1512}$  及  $H_{1514}$  及  $H_{1516}$  及  $H_{1518}$  及  $H_{1520}$  及  $H_{1522}$  及  $H_{1524}$  及  $H_{1526}$  及  $H_{1528}$  及  $H_{1530}$  及  $H_{1532}$  及  $H_{1534}$  及  $H_{1536}$  及  $H_{1538}$  及  $H_{1540}$  及  $H_{1542}$  及  $H_{1544}$  及  $H_{1546}$  及  $H_{1548}$  及  $H_{1550}$  及  $H_{1552}$  及  $H_{1554}$  及  $H_{1556}$  及  $H_{1558}$  及  $H_{1560}$  及  $H_{1562}$  及  $H_{1564}$  及  $H_{1566}$  及  $H_{1568}$  及  $H_{1570}$  及  $H_{1572}$  及  $H_{1574}$  及  $H_{1576}$  及  $H_{1578}$  及  $H_{1580}$  及  $H_{1582}$  及  $H_{1584}$  及  $H_{1586}$  及  $H_{1588}$  及  $H_{1590}$  及  $H_{1592}$  及  $H_{1594}$  及  $H_{1596}$  及  $H_{1598}$  及  $H_{1600}$  及  $H_{1602}$  及  $H_{1604}$  及  $H_{1606}$  及  $H_{1608}$  及  $H_{1610}$  及  $H_{1612}$  及  $H_{1614}$  及  $H_{1616}$  及  $H_{1618}$  及  $H_{1620}$  及  $H_{1622}$  及  $H_{1624}$  及  $H_{1626}$  及  $H_{1628}$  及  $H_{1630}$  及  $H_{1632}$  及  $H_{1634}$  及  $H_{1636}$  及  $H_{1638}$  及  $H_{1640}$  及  $H_{1642}$  及  $H_{1644}$  及  $H_{1646}$  及  $H_{1648}$  及  $H_{1650}$  及  $H_{1652}$  及  $H_{1654}$  及  $H_{1656}$  及  $H_{1658}$  及  $H_{1660}$  及  $H_{1662}$  及  $H_{1664}$  及  $H_{1666}$  及  $H_{1668}$  及  $H_{1670}$  及  $H_{1672}$  及  $H_{1674}$  及  $H_{1676}$  及  $H_{1678}$  及  $H_{1680}$  及  $H_{1682}$  及  $H_{1684$

睡菜葉  
(獨) Bitterkleeblätter.  
(英) Bidder clover leaves.  
(佛) Feuilles de ménianthe.

● 睡菜葉 Folia Trifolii fibrini.

(基原) 睡菜葉ハ歐洲ニ於テ始メテ中世ノ末期ヨリ醫藥トシテ應用セラルル其母植ハ龍膽科 (Gentianeaceae)ノ宿根草 *Menyanthes trifoliata* Linn. (みすがしわ) (第六十一圖ニシテ汎ク北半球各地亦本邦ノ沼地ニ産ス。

圖 一 十 六 第



(形状) 睡菜葉ハ其横走性ノ根莖ヲ鞘狀ニ包擁スル者ニシテ三瓣ニ分レ長サ十cm太サ五mmノ葉柄ヲ有シ三分葉ノ各齒ハ卵圓形ニシテ各亦短柄ヲ帶ヒ長サ八cmニ至リ邊緣缺裂セス或ハ粗ク波動ヲ現ハ

圖 二 十 六 第



方苦味丁幾等ノ主成分タリ。

● 茶葉 Folia Theae.

ス毛茸ヲ有セス其中脈ハ廣ク凹陷ス葉質ハ厚ク末端ハ尖銳ナラス、第六十二圖ハ其葉ノ一片ヲ縮示ス(大約三分一)。

(成分) 其苦味成分トシテ一種ノ配糖體メニアナンチン *Menyanthin*  $C_{15}H_{20}O_{14}$ ヲ含有ス而シテ此配糖體ハ *Menyanthol*  $C_{15}H_{20}O_{13}$ ト糖トニ分解ス。  
(備考) 又本邦ニハ *Menyanthes Crista-galli* Menz. (みづいてふ)ナル睡菜ノ一種ナリ亦藥用ニ堪ユルヤ疑シ。

(應用) 苦味藥トシテ應用セラル、獨逸藥局

茶葉 (獨) Thee.  
(英) Tea.  
(佛) Thé.

(基原)

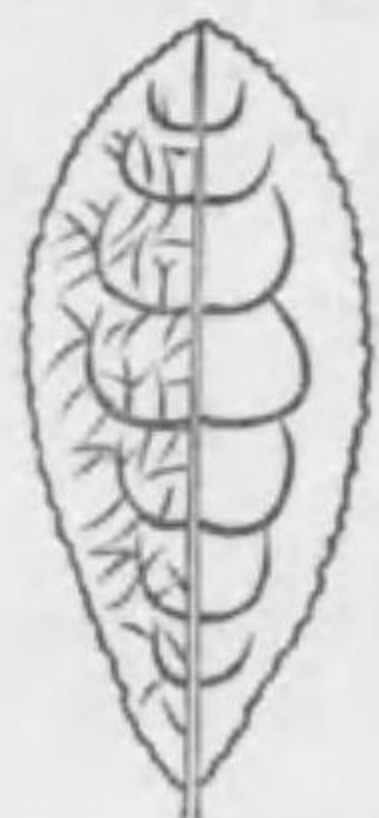
茶葉ハ山茶科 (Theaceae) ノ灌木 Thea sinensis L. ノ葉ニシテ此植物ハ恐クハ東印度北部ニ天生シ早ク支那ニ移植セラレ始メテ歐洲ニ廣シハ一千五百年代ニ在リ獨逸ニ於テハ一千六百年紀ノ中葉ヨリ之ヲ藥舖ニ販賣セリト云フ而シテ此時ヨリ茶ノ需用漸ク歐洲ニ擴布セリ、本邦ニハ千光及明惠ノ兩僧支那ニ渡航シ茶種ヲ携ヘ歸リ之ヲ筑前國青振山ニ蒔キ爾後之ヲ山城、大和等ノ諸國ニ移植セリト云フ而シテ本邦ニ於テ最モ多ク茶ヲ培養スル地ハ山城國宇治・醍醐・尾等ニシテ次ハ近江・駿河等ナリ然レトモ目下又諸國ニ培養ス、今茶樹培養法ノ大畧ヲ左ニ掲ク。  
茶樹ハ冬ノ初期花ヲ開キ翌年開花ノ頃ニ至リテ其實始メテ熟ス、此時ニ當リ果殼自ラ破綻シ種子地ニ墮ツ之ヲ種子ト稱シ最佳ノ種子トシテ之ヲ保貯シ十二月ニ至テ蒔ク、已ニ三年目ニ嫩芽ヲ摘取スルコトヲ得、其季節ニ氣候ノ寒暖等ニ由リ一定ナラサレトモ大抵五月立夏ノ節稚芽三葉ヲ出シタル時ヲ以テ最モ適當トス、四葉乃至五葉ヲ出スニ至レバ其葉剛強ニシテ佳真ノ茶トナシ難シ一番茶ヲ摘了セル後大約三十日間ヲ經テ二番茶ノ摘採ニ着手ス、茲ニ摘採シタル葉ヲ製茶トナスニハ先ツ蒸籠中ニ蒸熟スルノ後之ヲ筵上ニ擴布シ團扇ニテ煽キツ、冷却セシメ焙爐中ニ致シ手掌ニテ捻揉シ暑、其乾燥スルニ至リ極メテ微火ヲ施シ更ニ一夜間焙爐中ニ擴布シテ充分ニ乾燥セシム斯ノ如ク製出セル茶ヲ竹篩ニ掛ケテ茶葉ニ附着セル塵ヲ篩去ス之ヲ裏切ト云フ、爾後其ニテ粗葉ト塵埃トテ之ヨリ篩去シ更ニ反復大小種々ノ篩ニ掛ケテ粗葉ト細葉トヲ種別シ攪盪ニ致シ攪分シテ上中下ノ三種品トナス、右ノ如ク製成シタル茶ヲ貯フルニ當リ更ニ之ヲ焙爐ニ上セテ乾燥スルヲ要ス、爾後設樂燒ノ壺ニ收メ其蓋ノ間

隙ニハ透榻ニテ厚紙ヲ貼附シ密封シテ貯フ、又茶ハ十月十二月二月五月等氣候變移ノ時ニ臨ミ焙爐ニ懸クルトキハ翌年新茶ノ出ツル時期ニ至ルモ其氣味色澤等ヲ變スルコト無シト云フ、挽茶(薄茶)及濃茶モ亦同種ノ茶樹ヨリ製スルモノニシテ只其樹ノ培養法ニ少シク差異アルノミ而シテ之ヲ製出スルニハ多年ヲ經タル勝地ノ茶樹ヲ以テ薄茶園ニハ毎年浦汁ヲ施スコト五六回濃茶園ニハ十回トス、八十八夜ヨリ大約三十日前ニ葎費ヲ以テ該園ノ四方上面ヲ圍繞シ又苦蕒ヲ以テ其上ヲ覆ヒ霜雨ヲ防キ立夏ノ時ニ至リ葎費ヲ除キ最初ニ茶梢ノ頂端ニ抽出セル三葉ヲ摘取ス(之ヲ三つ葉ツゲト云フ)爾後之ヲ蒸熱調製スル等概シテ尋常茶ノ製法ト異ナルコト無ク只多ク注意ヲ施スノミ、晚茶ハ摘ミ後レタル葉及老葉ヨリ製出スルモノニシテ最モ下等品ニ屬ス、之ヲ製スルハ廢棄ニ歸スル葉ヲ利用スルノミナラス又其摘採スルニ由テ翌年新芽ノ發生ヲ増加セシムルヲ得ルノ益アルモノトス、紅茶(黑茶)ヲ製出スル法ノ大要ハ摘採セル茶葉ヲ先ツ一日間放置シテ凋萎セシメ次ニ捻揉シテ卷縮セシメ爾後蒸蒸法ヲ施スノ後日乾シ更ニ焙爐ニ上セテ乾燥スルニ在リ而シテ其製法ハ多田元吉氏編紅茶製法纂要ニ詳記セリ讀者宜シク參照スヘシ。  
輸出品トシテ静岡縣下ニ於テ製造セル綠茶ハ光澤ヲ附セル等普通ノ綠茶ト全ク異ナル形狀ヲ有ス。

(形狀)

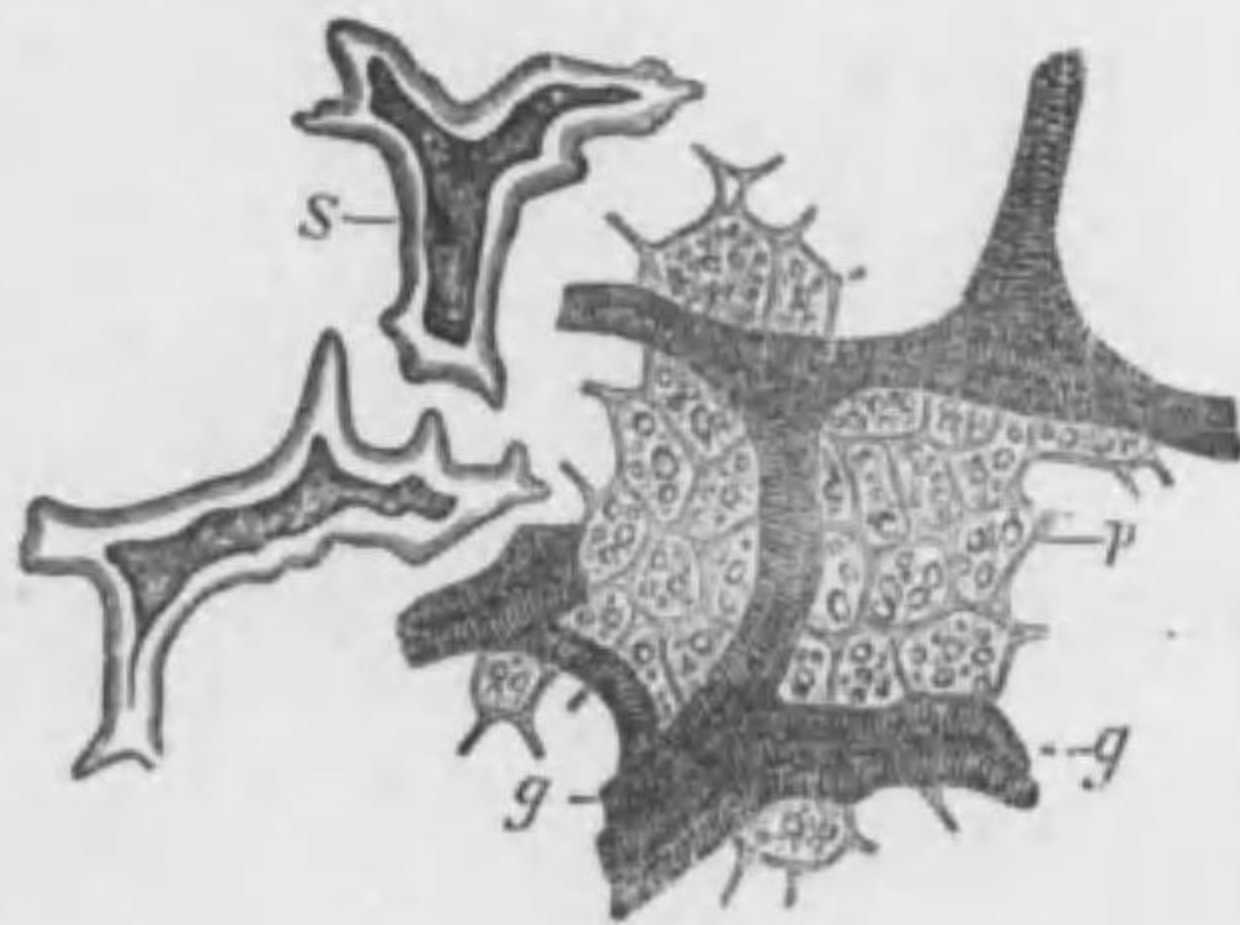
茶葉ハ長サ屢一cm 幅五cm 至ル長卵圓形ヲナシ頂端少シク尖銳ニシテ下部ハ短キ葉柄ニ沿フテ狹細トナル殊ニ上端ニ近接セル部位ニ短鋸

圖三十六第



齒二三箇ヲ有ス而シテ圖中ニ見ル如ク其葉脈ハ枝脈ガ主脈ニ對シ直角ヲナシ約三分二ノ處ニ至リ上方ニ彎曲スルヲ特徴トス、第六十三圖ハ茶葉ノ概型ヲ示ス

圖四十六第



茶葉ヲ暫時抱水クロラール二分及水一分ノ溶液中ニ浸シ之ヲ橫斷シテ顯微鏡下ニ檢視スレバ上面ノ上皮下ニハ二層ヨリ成レル柵狀細胞ヲ具ヘ下面ノ上皮下ニハ海綿組織第六十四圖ノP及螺旋脈管(g)ヲ有ス而シテ其海綿組織中ニハ圓形ノ結晶腺(糖酸カ)ヲ箝在ス上下兩面ノ上皮下ニハ圍壁厚強ニシテ細孔ヲ有シ屢々不整ノ二股ニ分岐セル石核細胞(S)アリテ上下ノ上皮ヲ支持ス是レ茶葉ニ特異ナル細胞ニシテ凡ソ茶ノ擬造ニ使用セル他ノ葉中ニハ未タ曾テ見ザル所ナリ故ニ茶葉ハ其石核細胞ニ由テ容易ニ之ヲ他ノ類似ノ葉ト鑑別スルコトヲ得、又幼稚

第六十五圖



ナル茶葉ノ表皮ニハ甚タ長キ一箇ノ細胞ヨリ成レル厚壁性ノ剛毛ヲ附着ス  
第六十五圖。

(成分)

茶ノ有効成分ハ茶素 Thein 一名カフェイン Caffein ニシテ C<sub>8</sub>H<sub>10</sub>N<sub>4</sub>O<sub>2</sub>ニシテ H<sub>2</sub>O 二分子ヲ含ム。ナリ而シテ其含有量ハ茶ノ品質ニ由テ多少アリ、今余ガ明治十九年九種ノ茶ヲ實驗ニ微シテ得タル所ノ量ヲ示セバ左ノ如シ。

茶名	一片ノ價	百分中茶素ノ含有量
川柳生葉	六錢七厘	一・三八〇
相葉	十錢七厘	一・九〇〇
若葉	十六錢五厘	一・八〇〇
喜葉	二十錢	二・五〇〇
鷹代	三十三錢三厘	二・四四〇
千代	四十一錢七厘	二・四〇〇
清壽	五十一錢	二・八八〇
花橋	七十一錢	二・八六〇
玉峯	九十錢	二・九六〇

目下市販ノ最上等茶中ノカツフェイン含量ヲ示セハ左ノ如シ。

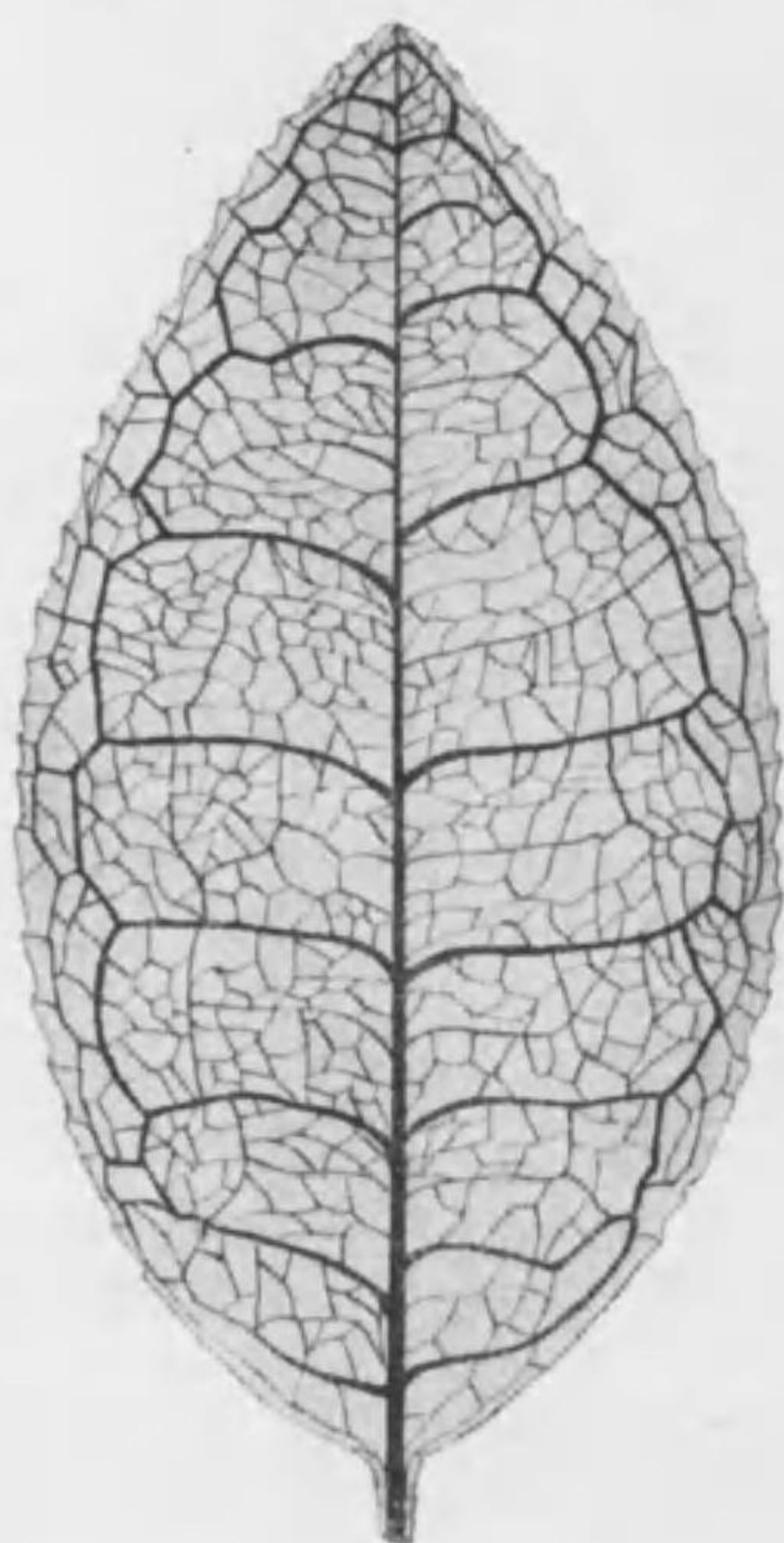
茶名	一斤ノ價	百分中茶葉ノ含有量
玉露	壹圓	一・八六
綾霧	貳圓	二・〇五
芥雪	參圓	二・〇八
梅衣	四圓	二・三五
露花	六圓	二・九七

右ハ明治四十三年十二月藥學生市川山口三根三氏ノ醫科大學生藥學教室ニ於テ定量セシ所ニ係ル。

又茶ハニメチールキサントン即チ Theophyllin ( $C_7H_{10}O_2 + H_2O$ ) ナ含有ス此物質ハ極メテ少量ニ存スルノミ其他茶葉ハ鞣酸ノ含量十二%ニ至リ其水製越幾斯分ノ量ハ少ナクモ三十%ニ居ル而シテ茶ハ之ヲ燃燒スルトキハ七%以上ノ灰分ヲ留メザルモノトス茶ハ其越幾斯分、灰分等ノ多少ニ由リ其眞質精粗ヲ判知スルコトヲ得即チ一旦煎浸セル殘渣ヲ混合スルモノハ越幾斯分少ナク灰分多シ。

(備考) 又本邦ニハたうちや(韋蘆)ト稱スル一種ノ茶アリ學名ヲ *Thea sinensis* L. var *macrophylla* Sieb. ト稱ス土州高知山中ニ自生スト云フ東京ニ於テハ小石川區巢鴨ノ植木商中ニ其苗ヲ貯フルモノアリ又東京府下南多摩郡津川村ニ本茶ヲ栽培シ製茶スルモノアリ椿茶ト稱シテ販賣ス。普通茶トたうちやトハ其大サニ於テ著キ差アリ今生葉ニ就テ比較スルニ普通茶葉ハ大ナル

第六十六圖



モノニ在テハ長サ八 cm 幅三 cm 主脈ト第一支脈トノナス角度ハ五十乃至六十度ナリ然ルニたうちやハ遙カニ巨大ニシテ長サ五乃至十五 cm 幅二・八乃至七 cm ニシテ主脈ト第一支脈トナス角度ハ六十乃至八十度ナリ第六十六圖ハ天然大ニ於ケル本茶葉ヲ示ス其脈路ヲ明視スルヲ得ベシ脈路ノ紋狀ハ兩葉相酷似セリ此等ノ關係ニ由ツテ考フルト

至テハ普通茶葉ニ見ル所ト毫モ異ナルコトナシ只組織ノ疎大ナルノミニテ亦茶葉ニ特異トセル石核細胞及剛毛等ヲ認ム。

本茶ノ水分・灰分・越幾斯鞣酸・カフェイン等ハ普通茶ト大差ナシ「カフェイン」ノ含量ハ二・一五%ニ至ル本茶ニ關シテハ明治四十三年一月十日發行藥劑誌第百三十八號ニ藥學士山科權作及柳原謙吉兩氏ノ研究記事アリ其他本邦ニハハニにばなちや (*Thea rostrata* O. Kze.) ナル一種ノ茶アリ本茶ハ花色紅色ニシテ葉ハ暗綠色ニシテ紅色ヲ帶ブ。

(應用) 茶ハ本邦中古來唯一ノカフェイン含有性嗜好品トシテ行ハレ又興奮藥トシテ醫藥ニ供スルコトアリ。

### 第九章 花類 Flores. Blüten.

花ハ種子ヲ生殖スル器官ナリ其形態上ヨリ論スレバ其枝節延長セサル芽軸ニシテ之ニ附着セル葉花葉ハ一定ノ規律ヲナシテ排列シ植物蕃殖ノ目的ニ副フテ特異ノ形狀ニ發育スルモノトス花葉ハ其形狀最モ種々ニシテ萼葉(萼)花葉花冠(雄蕊葉(雄蕊)及果葉(心蕊)等ノ別名アリ。

(一)萼(Calyx)ハ通常綠色ヲ有スル葉ヨリ成レル花ノ最外部ノ圍輪ヲナスモノナリ。

(二)花冠(Corolla)ハ大抵鮮麗ナル色彩ヲ有スル一箇或ハ數箇ノ葉輪ヨリ成ル。

(三)雄蕊(Stamina)ハ粉囊(Anther)及之ヲ戴ク所ノ絲狀部分即チ粉絲(Filamentum)ヨリ成ルヲ常トス而シテ粉囊ハ所謂花粉(Pollen)ヲ保有スルノ器官ナリ。

(四)雌蕊(Pistillum)一箇或ハ許多ノ心蕊(果葉)ノ總合ニ由テ生シタル器官ニシテ花ノ中心ニ占居ス而シテ雌蕊ハ二部分即チ最下部ニ位シテ卵巢ヲ包圍スル所ノ實體(Ovarium)及其實體ヨリ起リテ漸ク狹細トナリ中ニ小囊(粉道)ヲ通シ頂端ニ柱頭(Stigma)ヲ帶フル蕊柱(Style)ヨリ成レルモノナリ。

以上掲ケル所ノ花ノ諸器官ハ特異ノ形狀ヲ有スル莖軸ノ末端花床ニ占居ス而シテ花床ハ圓錐形或ハ圓板形ヲナシ又窪凹シテ碗形ヲナスモノナリ。

夫レ卵巢ハ花粉ニ由テ受胎スルニ非サレバ蕃殖ノ機能アル種子ヲ發育シ能ハザルモノナリ故ニ雄蕊及雌蕊(即チ粉囊及卵巢)ヲ花ノ實性部(主要部)トナス而シテ此兩器官一花中ニ存スルトキハ之ヲ全花(Flores hermaphroditus)ト云ヒ只其一器官ノミヲ有スルモノヲ不全花(Fl. inoornotus)ト云フ不全花ニシテ雌蕊ノミヲ具フルモノヲ雄蕊花(雌性花)ト稱シ雌蕊ノミヲ帶フルモノヲ雌蕊花(雌性花)ト稱ス。

一箇ノ植物ニ雄蕊花及雌蕊花ヲ併有スルトキハ之ヲ一家花(Fl. monoicus)ト稱シ之ニ反シテ一株ノ植物ニハ只雌蕊花ノミヲ帶ヒ雌蕊花性ノ一株ノ植物ニ別居スルトキハ之ヲ兩家花(Fl. dioicus)ト稱ス而シテ又不全花ノ傍ラ全花ヲ帶フル植物アリ之ヲ多性花(Fl. polygam)ト云フ上記兩種ノ主要部ヲ圍知スル花ハ種子ヲ發育スル機能ナキモノトス。

萼及花冠ハ之ヲ花被(Perianthium)ト稱ス花ノ虛性部(不要部)ニ屬シ雄蕊及雌蕊ヲ包被スルノ器官ニシテ又花粉ヲ運輸シ卵巢ノ胚胎ヲ幫助スル所ノ昆蟲ヲ招引スルノ標牌タリ。

### 華本 Inflorescentia. Blütenstrände.

凡ソ植物ニシテ只一箇ノ花ヲ發生シ或ハ葉腋ニ單一ノ花ヲ帶フルモノハ甚ダ稀ニシテ多クハ其主幹ニ許多ノ花ヲ帶フル多數ノ側軸ヲ出シ其花ハ屢高葉或ハ包葉ノ腋ニ占居ス斯ノ如ク一定ノ規律ヲナシテ枝分シ間高葉ニ由テ支持セラレ、帶花ノ莖軸ヲ華本又花序(Inflorescentia. Mitosenstände)ト云フ。



華本ノ分枝形狀ノ異ナルニ從ヒ之ヲ別テ周擴分枝華本 (monopodiale Blütenstände) 及假軸性華本 (sympodiale Blütenstände) トナシ又其分枝ノ單一ナルト複雜ナルトニ由リ單性華本及複性華本トナス。

(甲) 周擴分枝華本 Inflorescentia monopodiale.

周擴分枝華本ニ於テハ延長シ或ハ矮縮セル主軸ノ下方ヨリ上方ニ向テ花ヲ後生ス、今主軸及花梗發育ノ異ナルニ從ヒ單性周擴華本ヲ左ノ四種ニ小別ス。

(一) 穗狀花 (Spica) 穗狀花ハ主軸延長シ其花ニ花梗ヲ具ヘサルモノナリ (第六十七圖 2)。

(二) 有梗穗狀花又葡萄狀花 (Racemus) 有梗穗狀花ハ其花梗ヲ有スルヲ以テ穗狀花ト異ナルノミ (第六十七圖 1)。

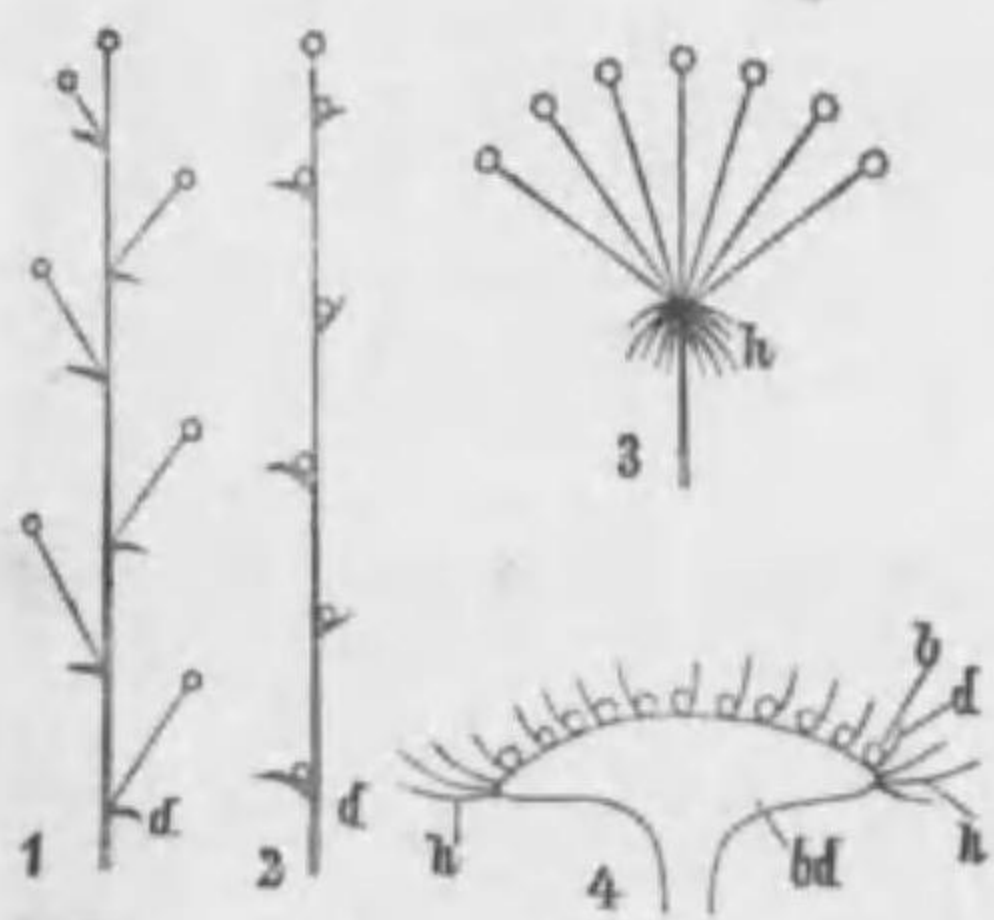
(三) 傘形花 (Umbella) 傘形花ハ主軸矮縮シ其花殆ント同長ノ花梗ヲ有シ略均等ノ平面ヲナシテ排列セルモノナリ (第六十七圖 3)。

(四) 頭狀花 (小華頭) (Capitulum) 小華頭ニ於テハ主軸矮縮シ坐花ヲ有スルモノナリ (第六十七圖 4)。

左ノ諸華本ハ穗狀花ノ別種ト看做スヘキモノトス。

(一) 花梗向穗花又棍穗花 (Spadix) 花梗ハ穗狀花ニシテ主軸

圖七十六第



肉體ニ肥厚シ其周圍ニ花ヲ密生シ間ニ花冠ニ類スル總苞アリテ之ヲ圍擁スルモノトス。

(二) 莖莢花 (Amentum) 莖莢花モ亦穗狀花ノ一ニ居リ其主軸ハ狹細柔弱ニシテ苞鱗ノ腋ニ出ツル細小ノ花 (多クハ不全花) ナ帶フルモノナリ (楊柳)。

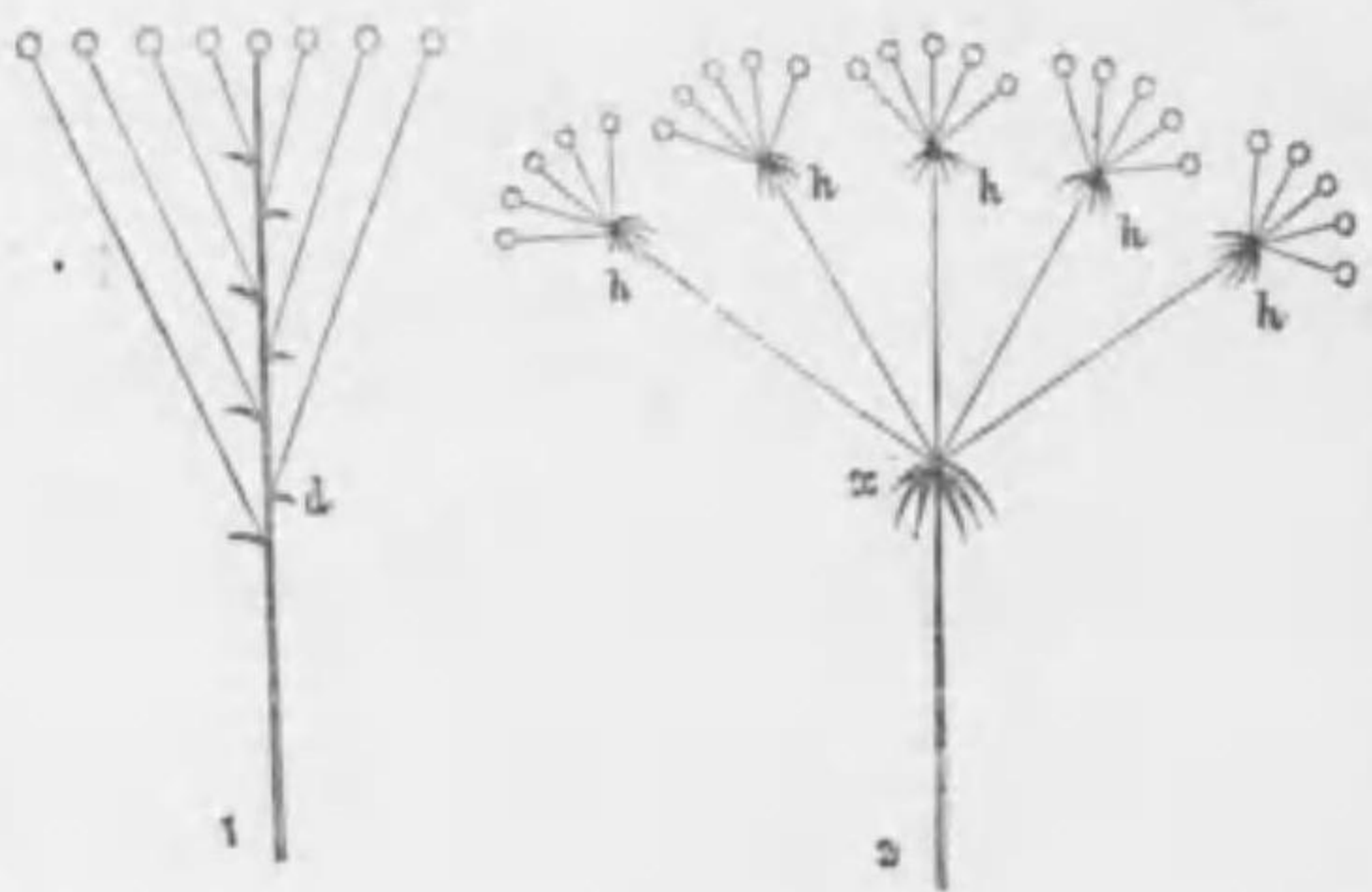
(三) 傘狀葡萄花又平梗穗狀花 (Corymbus) 亦穗狀花ノ一ニシテ其主軸ノ各部ニ位スル花梗均等ノ高サヲ取リテ排布シ下ナルモノハ長ク上ナルモノハ短ク略傘狀花ノ觀ヲ呈スルモノアリ

(第六十八圖 1)。

以上掲ケル所ノ各種華本ニ於テハ主軸ノ末端ニ花ヲ戴カス主軸ノ延長セルモノニ在リテハ漸次下部ヨリ上方ニ向ヒ主軸ノ短縮セルモノニ在テハ外方ヨリ内方ニ向テ (求心的) ニ開花スルモノナリ。

複穗狀花有梗穗狀花及複傘形花ハ複性周擴華本ニ屬シ其主軸ノ分枝單一ノ花ヲ戴カス更ニ華本トナルヲ以テ各之ニ對應スル單性周擴華本ト異ナレリ (第六十八圖 2) ハ複傘形花ヲ示ス。複有梗穗狀花ニシテ寬疎ノ觀ヲ呈シ其周圍ノ齊端ナラサルモノ之ヲ複總狀花 (複房花) (Panicle) ト云ヒ又複有梗穗狀花ニシテ花ヲ密生シ其全體畧圓錐體ノ形狀ヲ有スルモノ之ヲ圓錐狀花 (Thyrus) ト云フ。

圖八十六第



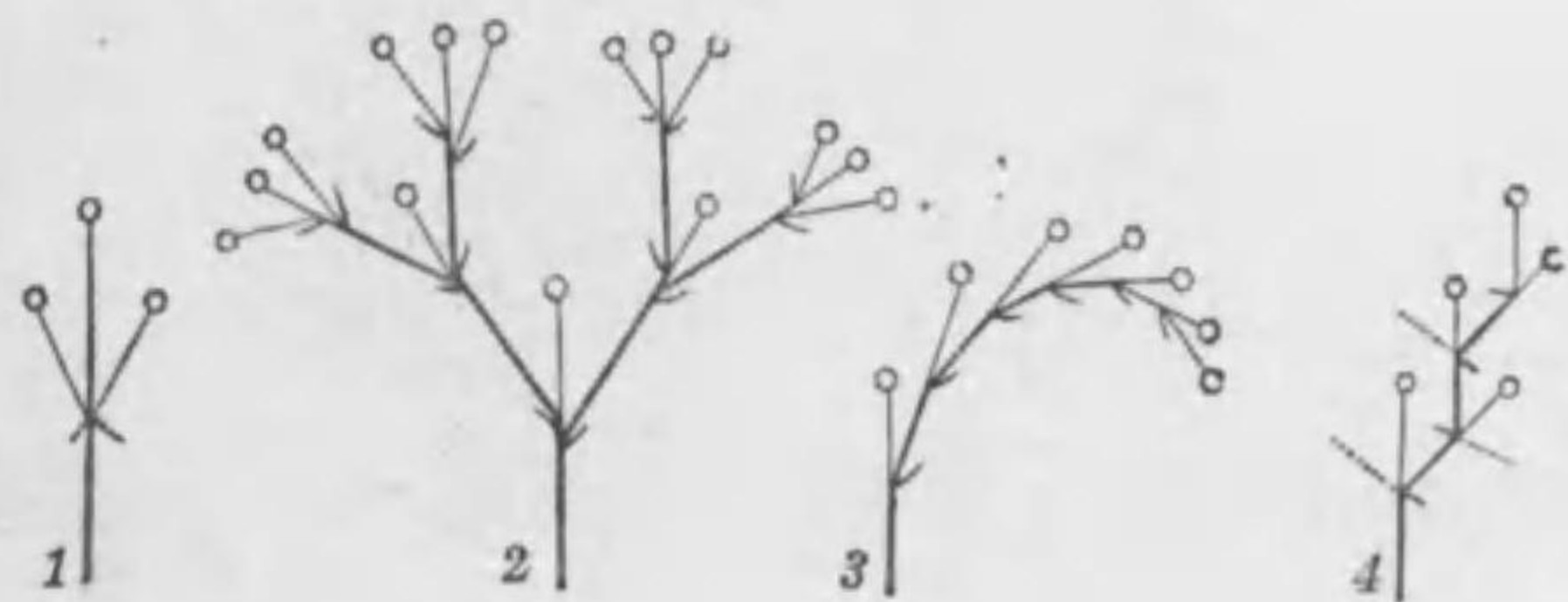
(2) 假軸性華本 Inflorescentia sympodiale.

假軸性華本ハ其頂端ニ花ヲ帶フル主軸發育ヲ休止シ頂端ノ下部ニ一箇或ハ數箇ノ側軸ヲ發生シ其側軸主軸ト同様ニ分枝セルモノナリ左ニ掲クル各種ノ華本之ニ屬ス。

(一) 擬傘花 (Oyma, Plectanastium.) 矮縮セル主軸頂端ノ下部ノ兩側ニ相對峙セル二箇ノ側軸ヲ出シ其側軸各一箇ノ花ヲ帶フルモノ之ヲ擬傘花ト云フ(第六十九圖1)故ニ擬傘花ハ三箇ノ花ヲ帶フルモノトス而シテ其各側軸更ニ分枝スルトキハ複擬傘花(第六十九圖2)ヲ生ス然レトモ主軸ノ一側ニ於テ左右交互ニ只一箇ノ側軸ヲ發生スルトキハ二側假軸性華本 (Dichastium) (第六十九圖4)ヲ生シ之ニ反シテ側軸ノ發生主軸ノ一側ノ一方ニ於テノミスルトキハ一側假軸性華本 (Monoclastium) (第六十九圖3)ヲ生スルモノトス。

花被 Perianthium. Blütenhülle.

花被ハ只形狀及色澤ヲ同ウスル葉ノ單圓ヨリ成ルモノアリ之ヲ單花被 (Perianthium simplex) ト名ク然レトモ花被ハ色澤ヲ異ニスル



圖九十六第

葉ノ二圓即チ萼及花冠ヨリ成ルヲ常トス而シテ花被ハ往々短縮シテ之ヲ圓如スルガ如キ觀ヲ呈スルモノアリ花被ハ其形狀ノ異ナルニ從ヒ萼狀及花冠狀ノ別アリ。

萼 Calyx. Kelch.

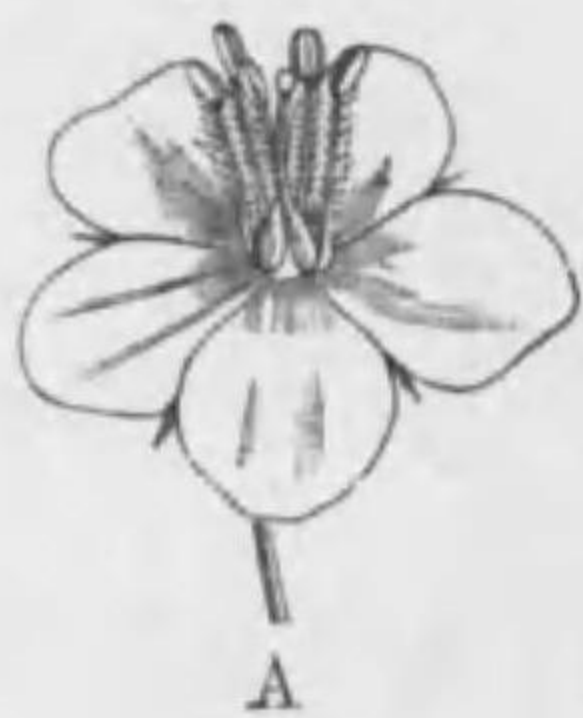
萼ハ多クハ狹細綠色ノ葉ヨリ成リ其葉ハ或ハ齊一或ハ不同ニシテ全ク數葉ニ分レ或ハ全ク一葉ニ癒着シ或ハ多少癒着ス之ニ整形萼不整形萼多葉萼一葉萼等ノ諸種アリ。

萼ハ間ニ花冠ト其外觀ヲ均ウスルコトアリ此場合ニ於テハ之ヲ重萼(外萼及内萼)ト云フ而シテ或ル植物ニ於テハ葉狀或ハ鱗様ノ外萼アリテ萼ヲ圍繞スルコトアリ第七十圖(A)ハ五葉性ノ萼ニシテ(B)ハ三葉性ノ外萼トス(例之バ葵ノ類)萼ハ花冠ト共ニ脱落スルモノアリ或ハ落花後果實ニ伴フテ生長スルモノアリ又或ル植物ニ於テハ已ニ開花ノ際脱落スルモノアリ(例之バ罌粟花)。

花冠 Corolla. Krone.

花冠ハ其數常ニ一定シテ變異セサルモノアリ或ハ不定ナルモノアリ而シテ其大小形狀及色澤ニ於テモ亦著ルシキ差異アリ其形狀端整ナルモノヲ整形花冠トナス即チ其中心ヲ通シテ切斷スル

圖十七第



圖一十七第

圖二十七第



トキハ何レノ部分ニ於テスルモ常ニ同形ノ二片トナスコトヲ得然ルニ不整形花冠ニ在テハ或ル一定ノ部分ニ於テセサルトキハ二箇ノ均等ナル半片トナシ雖キモノナリ整形花冠ハ其形狀ニ從ヒ之ヲ車輪狀花冠漏斗形花冠鐘狀花冠管狀花冠等トナス第七十一圖(A)ハ整形花冠(B)ハ唇形科ノ不整形花冠トス。

圖三十七第

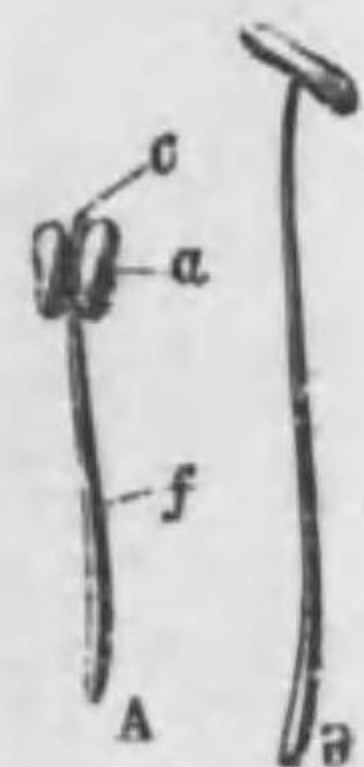


花冠ハ全ク交互ニ分離シテ數瓣トナリ多少或ハ全ク癒着セルモノアリ而シテ又花瓣ノ下端往々狹細トナレルモノアリ之ヲ瓜瓣ト名ク(例之バ石竹ノ花瓣第七十二圖)。  
副花冠(Panacrolia)ハ花冠ノ内面ニ存セル葉狀或ハ絲狀ノ附着物ニシテ内花冠ト看做スヘキモノナリ第七十三圖ハ水仙ノ花ニシテハ其(n)ハ副花冠トス。  
蜜槽(Nectarium)ハ亦花ノ附屬物ニシテ多クハ花ノ内面ノ下部ニ存シ糖質ヲ分泌スルノ器官トス。

雄蕊 Androecium. Staubblatter.

雄蕊ハ花被ノ内部ニ存シ生殖ヲ營爲スルノ任ヲ負フルモノニシテ花ノ主要部ニ屬ス花底又ハ萼或ハ花冠ニ附着シ粉囊(Anther)及粉絲(Filamentum)ノ二部分ヨリ成ル粉囊ハ上文ニ述フル

圖四十七第



テ各粉囊ハ多クハ二房ヲ有スルモノトス第七十四圖ノ(A)ハ雄蕊ノ全體ヲ示シ(了)ハ粉絲(a)ハ粉囊(c)ハ囊帶トス其(B)ハ囊帶ヲ有セサル粉囊ヲ示ス。  
花粉(Pollen)ハ多クハ箇々分散セル顆粒(細胞)ヨリ成リ外膜及内膜ノ二膜ヲ有シ其外膜ハ強厚ニシテ内膜ハ柔弱ナルモノトス第七十五圖ハ花粉ヲ示ス。

圖五十七第



圖六十七第



圖七十七第



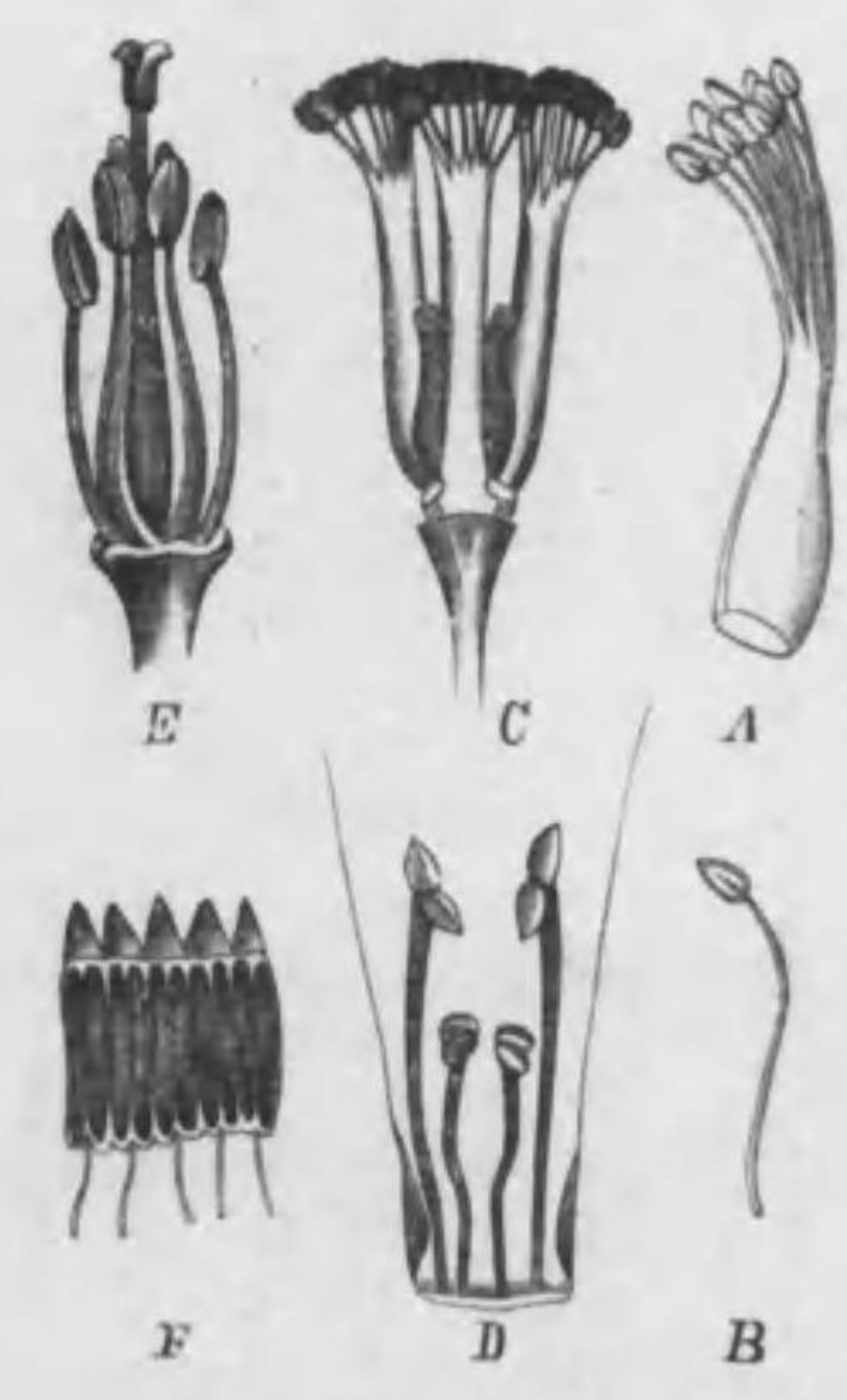
花粉已ニ稔熟スルトキハ粉囊自ラ破綻シテ花粉ヲ放出ス而シテ粉囊ハ多クハ上部ヨリ下部ニ向ヒ縱裂チナシテ破綻シ稀ニハ横裂或ハ孔穴ヲ生シ又ハ瓣狀ニ開口シテ花粉ヲ出スコトアリ(第七十六圖ノd E Fヲ見ヨ)。  
花粉ハ蘭科植物ニ在テハ單一ノ顆粒チナサス粘着性ノ物質ニ由リ互ニ連結セル花粉團(Pollenium)チナス(第七十七圖)。

雄蕊ノ數、其長短附着スル部位、互ニ癒合スル狀態等ヲ確知スルハ植物分類學ニ於テ最モ緊要ノ件トス。

雄蕊互ニ癒合シテ一束・二束或ハ數束ヲナストキハ一束雄蕊 (Stamina monadelphica) 二束雄蕊 (S. diadelphica)、多束雄蕊 (S. polyadelphica) ト云フ一花中四箇ノ分離セル雄蕊アリテ其二箇他ノ二箇ヨリ長キトキハ之ヲ二長雄蕊 (Stamina didynamia) ト云ヒ(例之ハ唇形科ノ植物及雄蕊六箇ノ中其四箇自餘ノ二箇ヨリ長キトキハ四長雄蕊 (S. tetradynamia) ト云ヒ(十字科植物ノ如シ)又雄蕊ノ粉囊癒合シテ管狀ヲナスモノアリ之ヲ連囊雄蕊 (S. syncnemia) ト名ク(菊科植物ニ於ケルガ如シ)

其他紛囊ノ實體ト癒着セルモノアリ之ヲ連囊雄蕊 (S. Synandria) ト稱ス(例之ハ蘭科ノ如シ)。

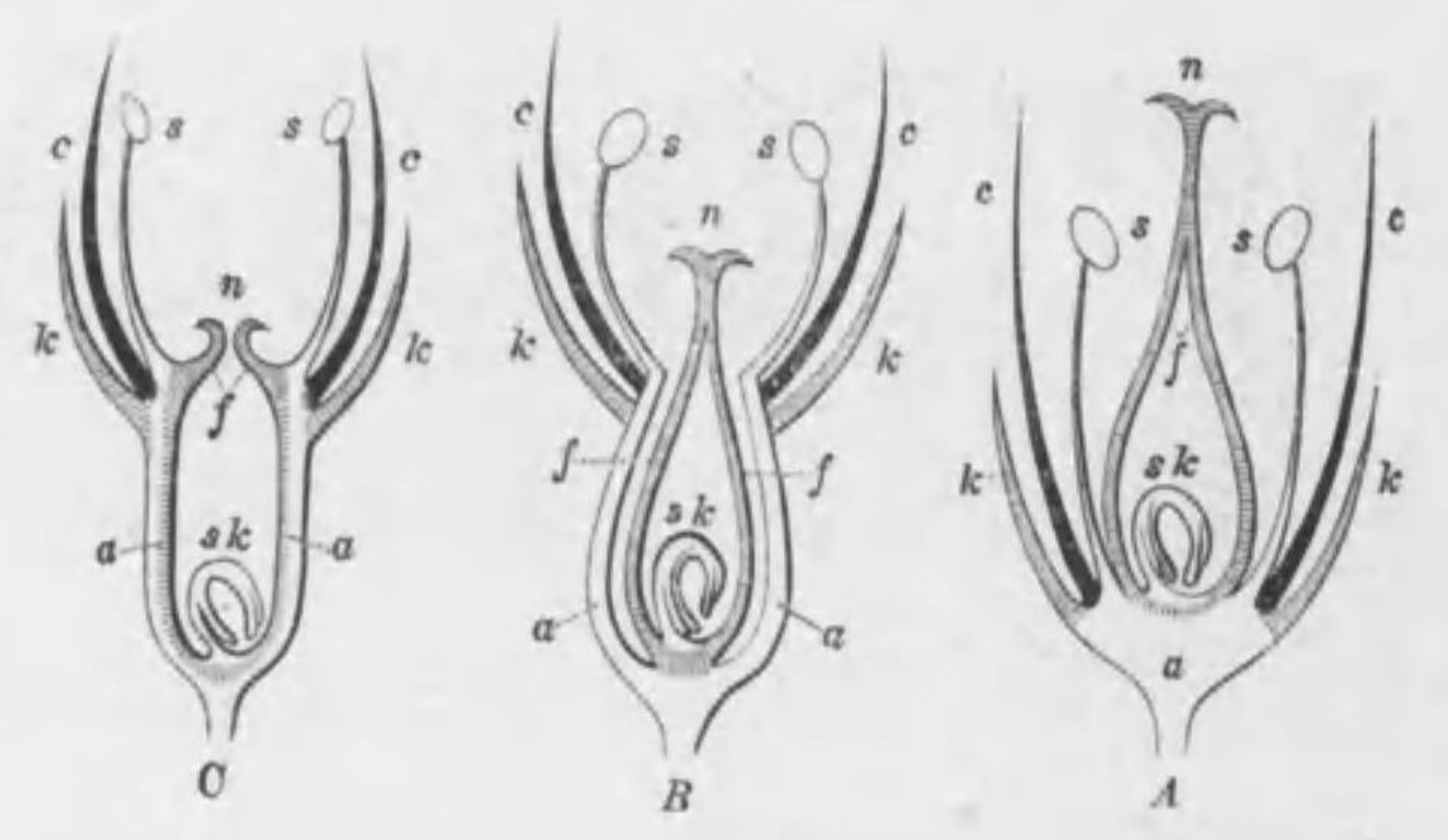
圖 八 十 七 第



雌蕊 Gynaceum Fruchtblätter.

第七十八圖ノ(A B)ハ蝶形花ノ二束雄蕊ヲ二束ニ分離セルモノ、(C)ハ金絲梅ノ多束雄蕊(D)ハ二長雄蕊(E)ハ四長雄蕊(F)ハ菊科植物ノ連囊雄蕊ヲ開展セルモノトス。

圖 九 十 七 第



雌蕊ハ花ノ中心ニ占居シ種子ヲ發生スル器官トス而シテ其最モ重要ナル部分ハ實體(Ovary)ニシテ其他ノ諸器官ニ對スル狀態ニ從ヒ上立性實體・中立性實體及下立性實體ノ三種アリ、上立性實體ハ花床圓錐體形ヲナスモノニ在リテハ雄蕊及花被ノ附着スル部位ノ上邊ニ位シ花床ノ扁平ナルモノニ於テハ其中央ニ占居ス、中立性實體ハ空洞ナル花床ノ心底ニ位シ花床ト癒着セス而シテ花ノ他ノ諸器官ハ花床ノ上邊ニ占居スルモノナリ下立性實體ハ其皮壁空洞ナル花床ヨリ形成セラル、今實體ノ上立性ナルトキハ花ノ他ノ諸器官ノ下立性ナルヤ自カラ明瞭ナリ、第七十九圖ノ(A)ハ上立性實體、(B)ハ中性立性實體、(C)ハ下立性實體ノ想像圖ニシテ、(a)ハ花床、(f)ハ實體、(g)ハ卵果、(k)ハ萼、(c)ハ花冠、(s)ハ粉囊、(n)ハ柱頭ヲ示ス。

ノ心蕊ノ邊、緣腹線ニ沿フテ癒合スルモノトス、多雄蕊實體ハ許多ノ心蕊ヨリ成レルモノニシ

實體ハ心蕊ヨリ成レル花ノ一器官ナリ、實體ノ一箇・二箇或ハ許多ノ心蕊ヨリ形成セラル、ニ從テ之ヲ一雌蕊實體・二雌蕊實體及多雌蕊實體ノ別アリ、一雌蕊實體ハ一箇ノ心蕊ノ邊、緣腹線ニ沿フテ癒合スルモノトス、多雄蕊實體ハ許多ノ心蕊ヨリ成レルモノニシ

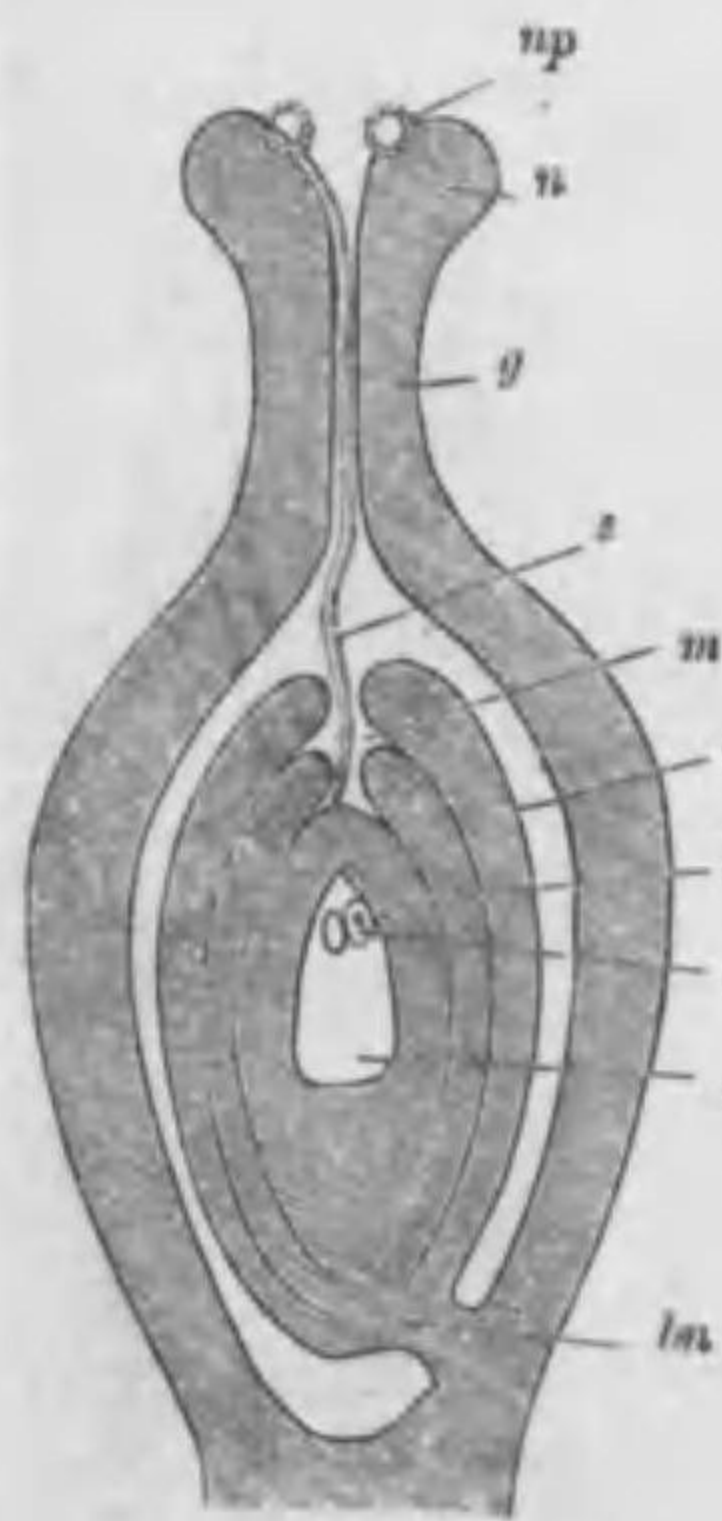
圖 十 八 第



テ其心蕊各一箇ノ實礎ヲ形成スルコトアリ、此場合ニ於テハ其花多數ノ雌蕊ナ有ス然レトモ許多ノ心蕊種々ノ方法ニ由リ互ニ癒合シテ只一箇ノ複實礎ヲ生スルコト最モ多シ、一雌蕊實礎ハ一箇ノ房ヲ有スルヲ常トシ(單房實礎)、多雌蕊實礎(複房實礎)或ハ一箇ノ房ヲ有シ或ハ半徑ノ方向ニ排列セル多數ノ中隔(隔壁)ニ由テ數房ニ區別セラレ、コトアリ(多房實礎)、第八十圖ノ(A)ハ一雌蕊實礎、(B)ハ二雌蕊實礎、(C)ハ三雌蕊實礎ヲ示ス。

實礎ハ多クハ單一、稀ニハ分岐セル蕊柱 *Stylus* ナキ歟ク、蕊柱ハ其内部ニ狹細ナル溝渠ヲ有ス之ヲ粉道ト名ク、實礎ハ往々蕊柱ヲ圍如スルコトアリ、又一箇ノ實礎多數ノ蕊柱ヲ載クコトアリ、此場合ニ於テハ實礎ハ必ス蕊柱ト同數ノ心蕊ヲ有ス。

圖 一 十 八 第



柱頭 *Stigma* ハ蕊柱ノ頂端ニ位スル腺性ノ一器官ニシテ種々ノ形狀ヲ有シ粘着性ノ物質ヲ分泌シ花粉ヲ受納シ受胎ヲ媒介スルノ任ヲ負フルモノトス、實礎ハ其内部ニ卵(第八十一圖b)ヲ有シ其卵巢ノ發育ノ初期ニハ細小ノ顆粒ヲナシ又之ヲ芽核ト名ク而シテ其芽核生長シテ一定ノ大サニ達スレバ其基礎

圖 二 十 八 第



部ヨリ一箇或ハ二箇ノ皮膜(卵膜 *Involucrum*)ヲ生シ之ヲ被包スルニ至ル而シテ其卵膜ハ常ニ一小孔ヲ存ス之ヲ卵門 (*Micropyle*)ト名ク、其卵門ニ背ケル部位ヲ卵底 *Chazara*ト名ク、第八十一圖ハ實礎ヲ示ス、其(a)ハ卵(子)ノ柱頭、(b)ハ柱頭、(c)ハ花粉ニシテ、(d)ハ其花粉發芽シテ囊帶ヲ出タセル狀、(e)ハ外卵膜、(f)ハ内卵膜、(g)ハ卵門、(h)ハ卵室、(i)ハ卵胞トス。

或ル植物ニ於テハ内卵膜ノ上ニ更ニ皮膜ヲ生スル事アリ、是レ長ク生長シテ子衣 (*Arillus*)トナルモノナリ、例之ハ肉豆蔻花ノ如シ。

卵(子) *Ovulum* ハ大抵多少延長セル梗柄アリテ支持セラル之ヲ卵梗 (*Funiculus*) (第八十一圖h)ト云フ而シテ卵(子)ハ屢々實礎ノ内壁ニ附着シ或ハ中隔ヨリ構成セラレ、隅角ニ附着セルコトアリ、又卵(子)ハ實礎ノ内部ニ花軸ノ延長ヨリ生シタル中心柱ニ附着シ或ハ實礎ノ内部ニ存スル肉様ノ隆起物ニ占居スルコトアリ。

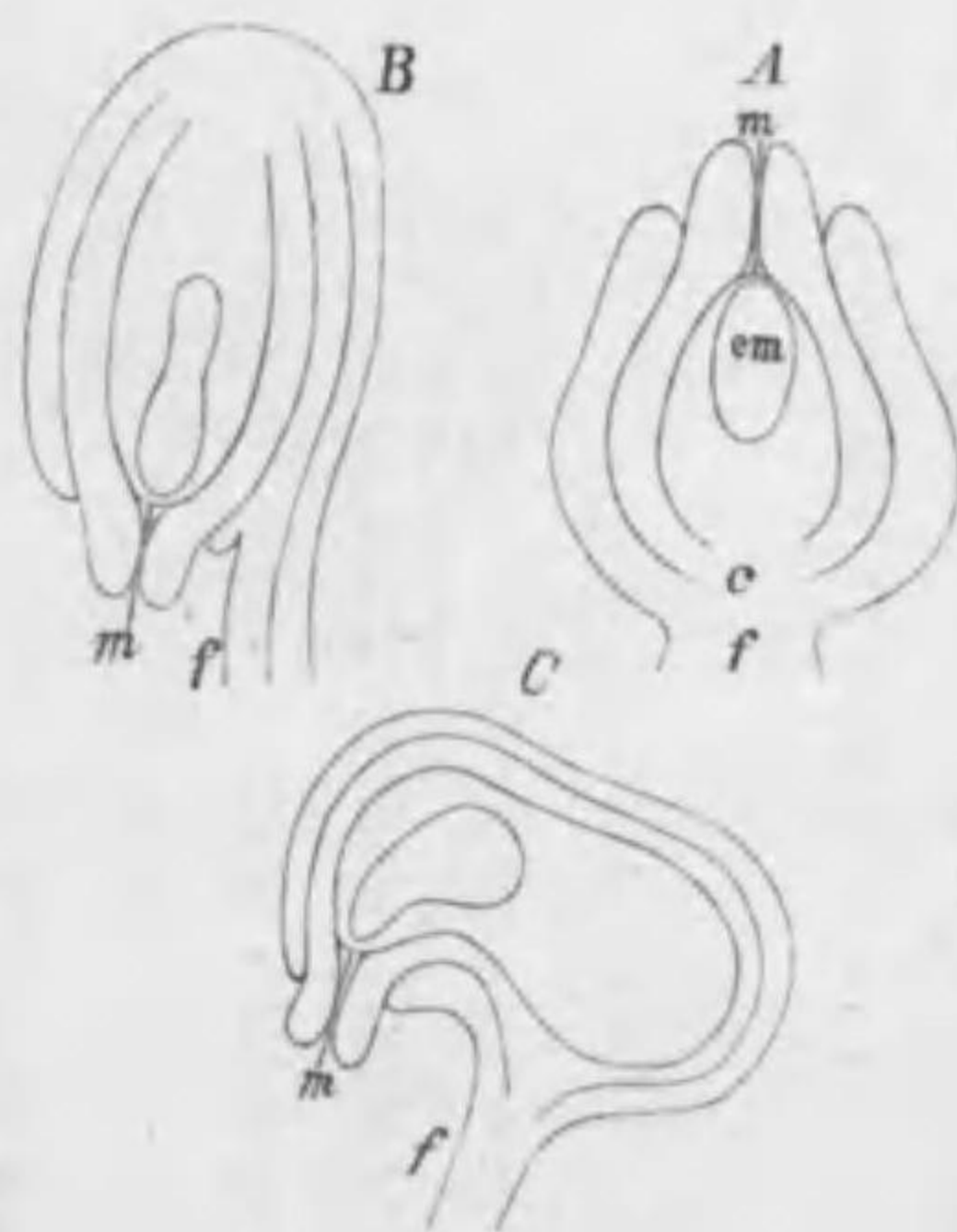
松欏科ノ植物及之ニ近似セル植物ニ總テ其卵(子)閉合セル實礎中ニ存セス、開放扁平ノ果葉(實鱗)ニ附着スルヲ以テ自餘ノ植物ト異ナレリ、是レ種子植物ヲ大別シテ裸子植物 (*Gymnospermen*) 及被子植物 (*Angiospermen*) トナス、所以ナリ、第八十二圖ハ松欏科ノ開放實礎、(f)ハ果葉、

(a)ハ卵(子)トス。

卵巢ニ三種ノ別アリ直卵 (*Ovulum orthotropum*)、對卵 (*Ovulum anatropum*) 及彎卵 (*Ovulum campylotropum*) 是ナリ、卵門全ク卵梗ニ背ケル部位ニ存スルモノ之ヲ直卵ト云ヒ、卵門卵梗ノ傍ニ位スルモノ之ヲ對卵

(獨) Safran.  
(英) Safron.  
(佛) Safron.

圖三十八第



而シテ「コソ花 (Flores Koso) モ亦華本ニ屬ス、菊科植物ノ花ニ在テハ總萼ヲ除去セスシテ用ユル  
コトアリ、玫瑰花(薔薇花) (Flores Rosae) ハ單ニ花冠瓣ノミヨリ又サフラン (Crocus) ノ如キハ柱頭ノ  
ミヨリ成ル。

(甲) 單子葉植物ノ花類 Blüten der Monokotyledonen.

● サフラン Crocus. Stigmata Croci.

(基原) サフランハ其特異ノ芳香ヲ有スルト美麗ナル色素ヲ含有スルトニ

圖四十八第



由リ己ニ太古ノ時代ヨリ世人ノ賞用スル所トナリ殊ニ中古ノ時代ニ於テハ  
最モ尊重セラル、所ノ香味料タリキ然レトモ往古サフランハ頻用ノ藥品ニ  
屬セザリシナリ。

サフランハ鳶尾科 (Iridaceae) ノ植物 Crocus sativus L. ノ雌蕊頭ナリ素ト恐クハ  
地中海東南ノ濱岸諸地ヨリ小亞細亞及百兒矢亞ニ至ル各地ニ天生セシモノ  
ナラン方今ハ殊ニ西班牙ノ南部及佛國オルレアン市ノ東北ニ於ケルロアル  
州ノガチネー郡  
等ニ培植ス其他  
伊國・バイエルン・  
瑞西・奧國・マセド  
ニア等ノ諸國ニ  
培養スレハ甚タ  
少ナシ又本邦ニ  
於ケル「サフラン」  
ノ培養ハ明治十九年相模國中郡國府本郷添田辰五郎氏ノ創始セル所ニ係ル。

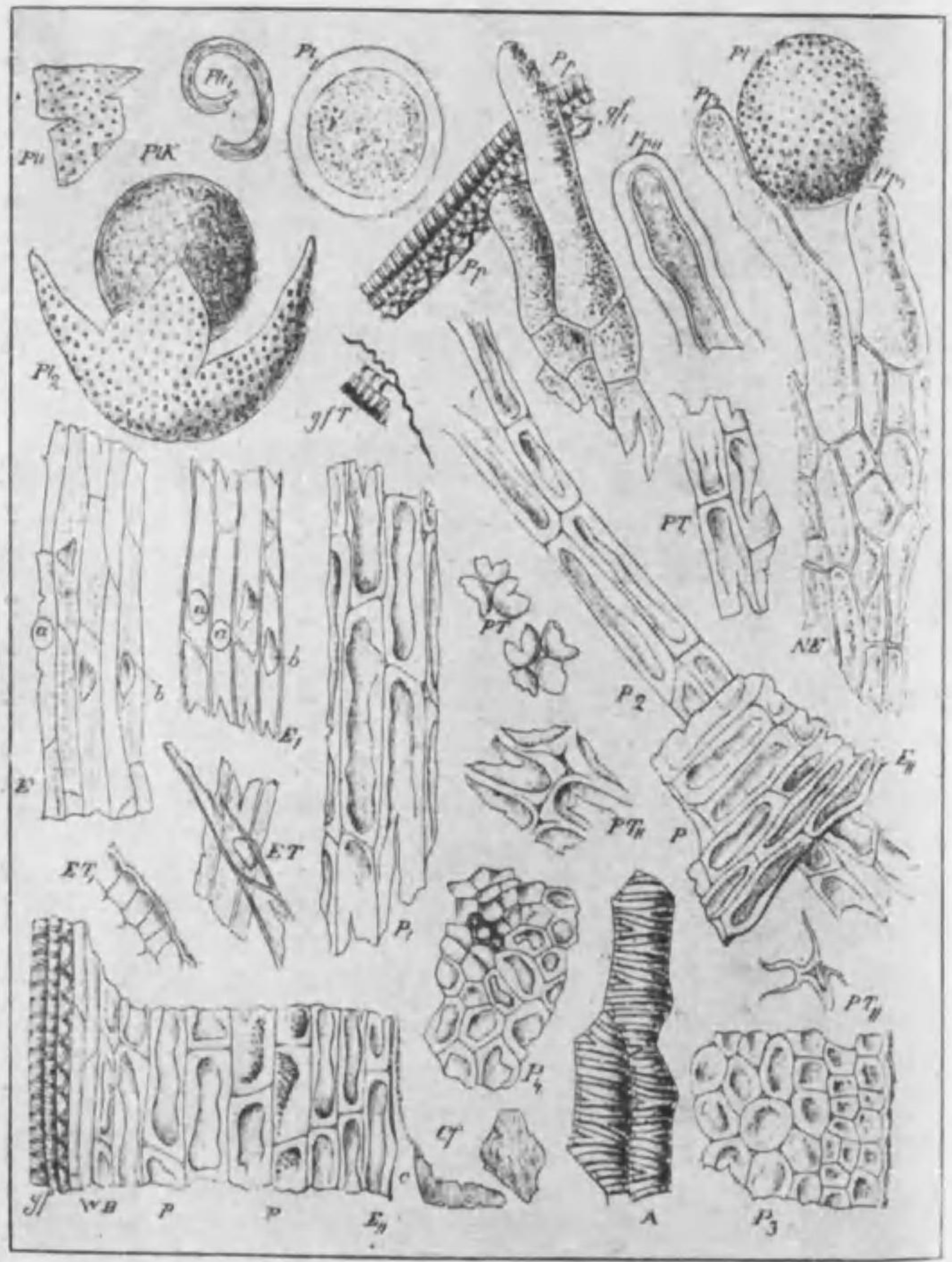
**(形状)** 上記ノ植物即チ *Crocus sativus* L. (第八十四圖) (A)ハ全植物、(B)ハ雌蕊ヲ示スハ秋季ニ於テ直チニ其球根ヨリ莖ヲ出シ其頂端ニ漏斗形ヲ有シ六瓣ニ分裂セル紫色ノ花ヲ開ク其花ハ三箇ノ雄蕊ト一條ノ雌蕊ヲ有シ其黄色ナル雌蕊ハ上部三箇ノ雌蕊頭ニ分裂シ花瓣ノ間ニ懸垂ス藥用ニ所謂サフランハ即チ其雌蕊頭ヲ採集乾燥セルモノナリ。



雌蕊頭ニシテ其一方ニ開裂セル狀ヲ明視スルヲ得ヘシ。サフランヲ水アムモニア水エーテル或ハ酒精ニ浸セバ此諸液ヲ帶黄赤色ニ

サフランハ暗赤褐色ニシテ長サ三cmニ至ル小管ヲナシ上部ニ向テ漸ク擴大ス水ニ浸シテ之ヲ開展スレバ其上端ニ鈍鋸齒ヲ現ハシ一側ニ於テ開裂ス、第八十五圖ノ(A)ハ大約二倍ニ廓大視セル雌蕊ノ上部ニ雌蕊頭ヲ戴クモノニシテ(B)ハ大約五倍ニ廓大視セル

圖 六 十 八 第



染ム又サフランニ二十萬倍ノ水ヲ加フルモ尙ホ其水ニ黄色ヲ呈セシム。

第八十六圖ハ「サフラン粉末ノ顯微鏡圖ニシテPハ縱面ヨリ見タル雌蕊頭脚、Qハパレンヒム(柔組織)ニシテ上皮(E)ハ軟内皮(F)及脈管(G)ヲ具有ス、Gハ脈管ノ碎屑、Hハ伸長形細胞ヨリ成レル、Pハパレンヒムノ一部、Iニ於テ線狀ノ細胞分離セントス、Lハパレンヒムノ横斷面、Mハ縱位及横位ノパレンヒム、Nハ雌蕊頭脚ノ上皮、Oハ其乳嘴、Pハ其附着部、Qハ表面及横面ヨリ見タル上皮碎屑、Rハ雌蕊頭脚ノ上皮、Sハ雌蕊頭乳嘴、Tハ表皮碎屑、Uハ花粉、Vハ其破開セル者、Wハ花粉外膜ノ碎屑、Xハ雌蕊ノ碎屑ナリ(二百倍)(コッホ氏ニ據ル)。

サフランノ香氣ハ峻烈芳香性ニシテ味ハ苦ク芳香性ナリ。

(成分)

サフラン「ポリクロイト (Polychroit C<sub>4</sub>H<sub>7</sub>O<sub>2</sub>)」或ハ「クロチン (Crocin) ナ

レ黄色ノ色素ヲ含有ス此色素ハ配糖體ニ屬シ葡萄糖及クロセチン (Crocetin

C<sub>21</sub>H<sub>36</sub>O<sub>6</sub>)ナル化合物ニ分裂シ、硫酸ニ逢ヘバ藍色ヲ呈ス彼ノ胡羅蔔中ニ含メル

黄色ノ色素カロチンモ亦此反應ヲ呈ス又鹽酸ニ接觸スレバ黄色ヲ呈ス。

サフランハ百度ノ温ヲ以テ之ヲ乾燥スレハ其重量ヲ減却スルコト(水分ヲ放

十二乃至十四%トス此乾燥セル「サフラン」ハ「クロ、フェルム」ニハ越幾斯分六乃

至七%、水ニハ其十三乃至十四七%ヲ溶出シ之ヲ熱灼スレバ灰分四四乃至七

%ヲ留ム日本藥局方規定ノ検査法ハ左ノ如シ。

(一)本品一分二十萬分ノ水ヲ加ヘテ振盪スルニ其水著ク純黄色ヲ呈セサル可カラズ是レ本品ハ已ニ一トタヒ丁幾等ノ製造ニ使用セルモノナル可カラザルコトヲ證スルモノナリ、本試験ヲ行フニ本品一二條ヲ時計硝子ニ取り水二三ccmヲ加ヘ軟化セシメ其水ノ着色スルヤ否ヤヲ檢スベシ、(二)本品ヲ百度ニ於テ乾燥スルニ百分ニ付キ十五分以上ノ重量ヲ失ハス又其乾燥セルモノヲ灰化スルニ爆噴セス百分ニ付キ七・五以上ノ固性物ヲ殘留ス可カラス、本品ノ水分及灰分ノ含量ニ就テハ上文ヲ見ルヘシ而シテ灰化スルノ際爆噴スルモノハ「サフラン類似」ノ色素ヂニトロクレソールカリウムヲ以テ着色スルノ證トス。

凡ソ「サフラン」ハ淡黄色ノ雌蕊柄ノ混有愈、鮮少ナレバ愈、以テ佳品トス佛國カレルアン市ノ東北ニ於ケルガチネー郡ヨリ出ツル「サフラン」ハ暗褐赤色ヲ有シ殆ト雌蕊柄ヲ混有セス最佳品ニ屬ス西班牙ノウレンチア産サフランハ其品位佛國産ニ讓ラス而シテ西班牙ノアリカント州ヨリ出タスモノハ其色澤淡泊ニシテ多ク黄色ノ雌蕊柄ヲ夾雜シ劣品トス、本品ヲ水ニ浸シ軟化セシメテ開展スルトキハ異種ノ「サフラン」其他紅花、アルニカ花、金盞花、菊花、肉纖維等ノ如キ稍、外見ノ「サフラン」ニ類似スルモノ、夾雜ハ其形狀ニ由テ辨ク之ヲ發見スルコトヲ得例之ハ異種ノ「サフラン」(Black Aker)ハ其上端第八十七圖ニ示ス如ク膨起スルヲ以テ眞正ノ「サフラ



圖七十八第



ント判別スルニ難カラサルヘシ  
又本品ニ硫酸バリウム炭酸カル  
チウム石膏等ヲ用井テ重量ヲ増  
加セシメタル者ハ之ヲ水ニ浸漬  
スルニ當リ白色ノ物質ヲ器底ニ  
沈着スヘシ。

(應用)

本品ハ婦人生殖器ノ諸病ニ應用シタレドモ現今ハ殆ト廢棄ニ歸シ唯諸製劑ニ香氣  
及色澤ヲ附スル等ニ應用スルニ過キス藥局方ニ於テハ丁幾芳香阿片酒ヲ製スルニ用ユ。

(貯法)

本品ハ大氣ニ觸ルハトキハ濕氣ヲ吸收シ香氣ヲ減却シ日光ニ感スルトキハ其色ヲ  
褪消スルガ故ニ密閉シ日光ヲ遮斷シテ貯フヘシ。

(乙) 雙子葉植物ノ花類 Blüten der Dikotyledonen.

● コソ花 *Flores Koso. Kouso.*

(基原) コソ花ハ亞弗利加洲アピシニア國ノ山嶺地ニ天生シ又ハ村落ニ培  
養スル喬木 *Hagenia ab ssnica Willdenow* 又ハ *Banksia abyssinica Bruce* ト稱スル喬  
木科 (*Fosaeone*) 喬木ノ雌性華木ヲ落花後ニ採集乾燥セルモノナリ。

(獨) *Rofoublüthen.*  
(英) *Couso.*  
(佛) *Kouso.*

コソ花

(性狀)

坊間ニ鬻ク所ノ品ハ通常莎草科ノ植物 (*Cyperus articulatus*) かやつりぐ  
さノ類ノ莖ヲ以テ纏絡シ長サ大約三乃至五 *cm* 太サ六乃至八 *mm* 重サ百二十  
グラムニ至ル束トナセリ此華本ハ複雑ニ枝分シ硬毛ヲ帶フル梗ヨリ成リ多  
數ノ雌性花ヲ密簇シ其花ハ二片ノ前葉アリテ支持セラル内外二重ノ萼ヲ具  
有シ此萼ハ落花後ニ著シク發育シ花冠ノ觀ヲ呈ス即チ藥用ニ供スル主要部  
ナリ外萼ハ四乃至五瓣ヨリ成リ長サ一 *cm* 乃至リ暗赤色ヲ有シ網脈ヲ現ハシ

圖八十八第

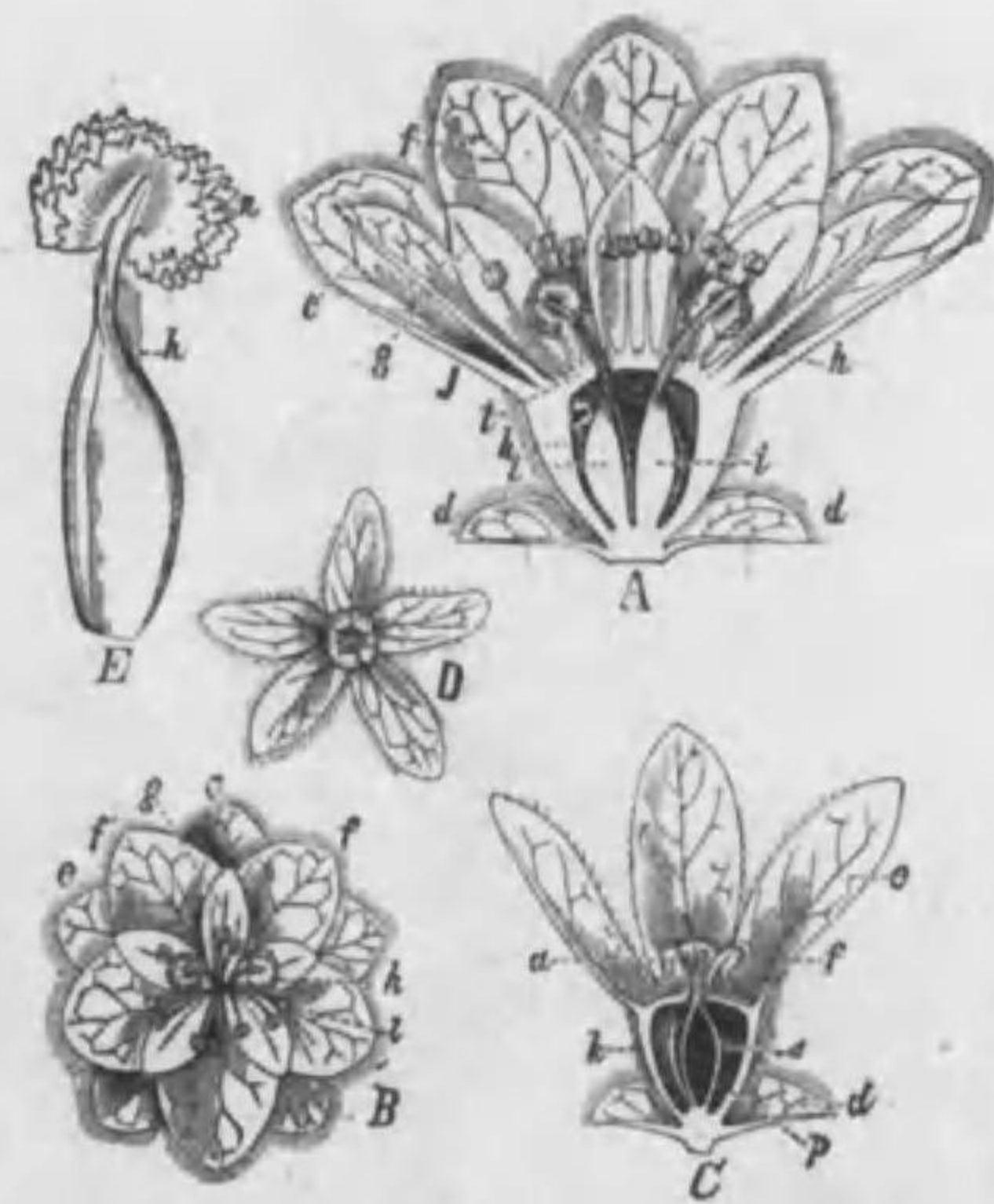


基礎部ニ硬毛ヲ帶ヒ全花上ニ  
挺出ス内萼ハ三 *mm* ニ過キス  
内萼ノ内部ニハ顯著ナラサル  
類白色ノ花冠及萎縮セル雄蕊  
(假雄蕊)ヲ附着ス而シテ花冠ハ  
闊如スルヲ常トス花床ハ壘子  
狀ヲ爲シ中ニ二條ノ雌蕊ヲ包  
藏ス。

第八十八圖ハ花ヲ帶フル本植物

ノ一枝ヲ大約三分一ニ縮示セルモノナリ。

第 八 十 九 圖



第八十九圖(A)ハ開花セル雌性花ノ縱斷面其(d)ハ前葉(c)ハ外萼(f)ハ内萼(g)ハ花冠(h)ハ萼形ヲナセル花床(h)ハ萎縮雄蕊(i)ハ雌蕊ナリ、同圖Bハ開花セル雌性花ヲ上部ヨリ望視セルモノ、同圖Cハ果實稔熟前ニ於ケル雌性花ニシテ(p)ハ果殼(s)ハ種子(a)ハ萎縮雄蕊トス、同圖Dハ落花後ニ於ケル雌性花ニシテ内外ノ兩萼及雄蕊ヲ

視ルヘシ、同圖Eハ雌蕊ニシテ其(h)ハ毛茸、(k)ハ柱頭トス。

コソ花ハ其味粘液性苛辣ニシテ苦ク收斂性ナリ。

コソ花ハ花梗ヲ除キテ用ユヘシ而シテ上文ニ述フル如ク落花後ニ採集セルモノヲ以テ薬用品トナス其正當ノ期節ニ採集セルモノハ外萼著大ニ發育シ

乾燥ノ後ト雖トモ紅色ヲ有ス其陳舊ニシテ褐色ヲ有スルモノハ薬用ニ堪ヘス又雄性花ハ殺蟲ノ効力弱シ而シテ雄性花ハ其外萼内萼ヨリモ細小ニシテ多ク之ヲ混有スルモノハ其色紅色ヨリモ寧ろ褐色ニ近シ。

**(成分)** 有効成分ハ *Kosotoxin* ト稱スルモノニシテ其分解ニ由リ *Kosin* ヲ生成ス「コシン」ナルモノハ市販品ニモ在リテ結晶性ヲ有シ少クモ二種ノ物質ヨリ成リ其一ハ頗ル彼ノ綿馬酸ニ類シ傍ラ綠鐵性鞣酸ヲ含有ス「コシン」ハ硫酸ニ由テ赤色ヲ呈シ「コソ花」ノ果實ニ就キ直接ニ之ヲ鑑識スルヲ得ベシ。

**(應用)** 雌蟲ヲ驅除スルニ應用ス、振盪合劑トナシ又ハ粉末トナシ板狀ニ壓縮シテ與フ。

● 玫瑰花 薔薇花 Flores Rosae.

**(基原)** 本條ノ生薬ハ薔薇科 (Rosaceae) 所屬玫瑰 (*Rosa rugosa Thunb.* はまなす)ノ花ヲ其充分ニ開綻セルヲ待テ採集シ萼ヲ去リ成ルベク急速ニ日乾セルモノナリ、玫瑰花ハ本邦東北地方殊ニ秋田縣下ヨリ出ツ、新鮮ノ花瓣八分ハ之ヲ乾燥スルトキハ大約一分トナル、本邦ニ於テハ普通市場ニ得ラルヘキ玫瑰ノ花瓣ヲ用ユルトモ他ノ薔薇屬植物ノ花ニシテ佳香ヲ有スルモノハ隨意適用シテ妨ナシ例之バ獨乙藥局方ニ於テハ *Rosa centifolia* ノ變種 *Rosa gallica* ノ花瓣ヲ用ユルガ如シ。

**(形狀)** 玫瑰花ハ紫紅色ニシテ廣卷圓形或ハ倒心臟形ヲ有シ下端ハ厚化シ

玫瑰花  
(獨) Rosenblätter.  
(英) Rose-petals.  
(佛) Petales des roses.

テ弧曲ス 馥郁タル 佳香ヲ有ス

**(成分)** 玫瑰花ノ佳香ハ專ラ揮發油ニ基因ス、揮發油ハ未タ研究ヲ經スト雖トモ其成分ハ普通薔薇油ト概シテ異ナルコトナカルヘシ。

**(應用)** 藥用ノ目的ニハ普ク婦臭藥トシテ使用セラル、薔薇水ヲ製スルニ用ユ、民間ニハ粉粧料トシテ汎ク之ヲ賞用ス。

● 丁香 *Caryophylli. Caryophyllus.*

**(基原)** 丁香ハ支那ニ於テハ已ニ古代ヨリ粉粧料及藥用ニ供シ三百年代ニ於テ始メテ歐洲ニ齎致セリ。

丁香ハ *Eugenia aromatica Bail.* (*Eugenia caryophyllata Thunberg, Caryophyllus aromaticus L.*) ト稱スル **石櫛科** (*Myrtaceae*) 植物(第九十圖)ノ花蕾ナリ、此植物ハ従前ハ蘭領印度群島モルッケン諸島及フィリッピン島ノ南部ニ培養セルニ止マリシガ現今ハフィリッピン島ノ南部ニ位スル諸島其他亞弗利加ノ東岸サンジバル及ペンバ等ノ諸地ニ之ヲ移植セリ。

**(形狀)** 丁香ハ花蕾ニシテ其花床ハ長サ大約一 cm 太サ三 mm ニ過キス上端ニハ四瓣ニ分裂セル三角形棘草様ノ萼ヲ戴ク其内部ニハ四箇ノ花瓣アリテ

多數ノ雄蕊ヲ擁包シ 雌蕊ヲ壓迫ス。

雌蕊ノ基部ハ著シク膨起シ之ニ花瓣及雌蕊ヲ附着ス、實礎ハ萼ノ下部ニ位シ

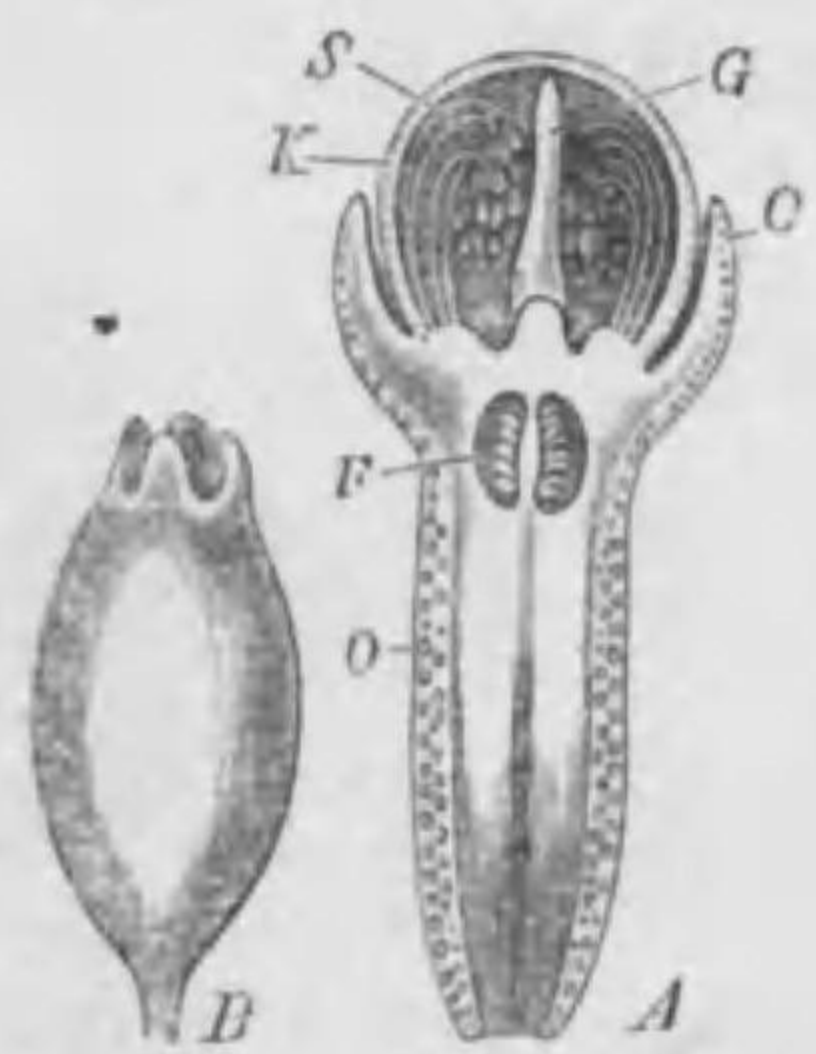
中ニ二房ヲ存シ大約二十箇ノ種子ヲ有ス、花床ノ下部ノ空洞ナラサル部分ハ長サ展、實礎ニ四倍シ其横斷面ハ銳菱形或ハ橢圓形ヲ有シ其外方ニ於テ二列或ハ三列ヲナシテ密ニ排置セル甚タ巨大ナル油室ヲ存ス而ノ此油室ハ縱斷

第九十圖



面ニ於テハ圓形或ハ卵圓形ヲナシ壓扁セラレテ細小ナル細胞ヨリ圍繞セラレ石榴科、橙科、芸香科等諸科ノ植物ニ特異ナル融解性油室ニ屬ス、丁香ハ蕾ニ

圖一十九第

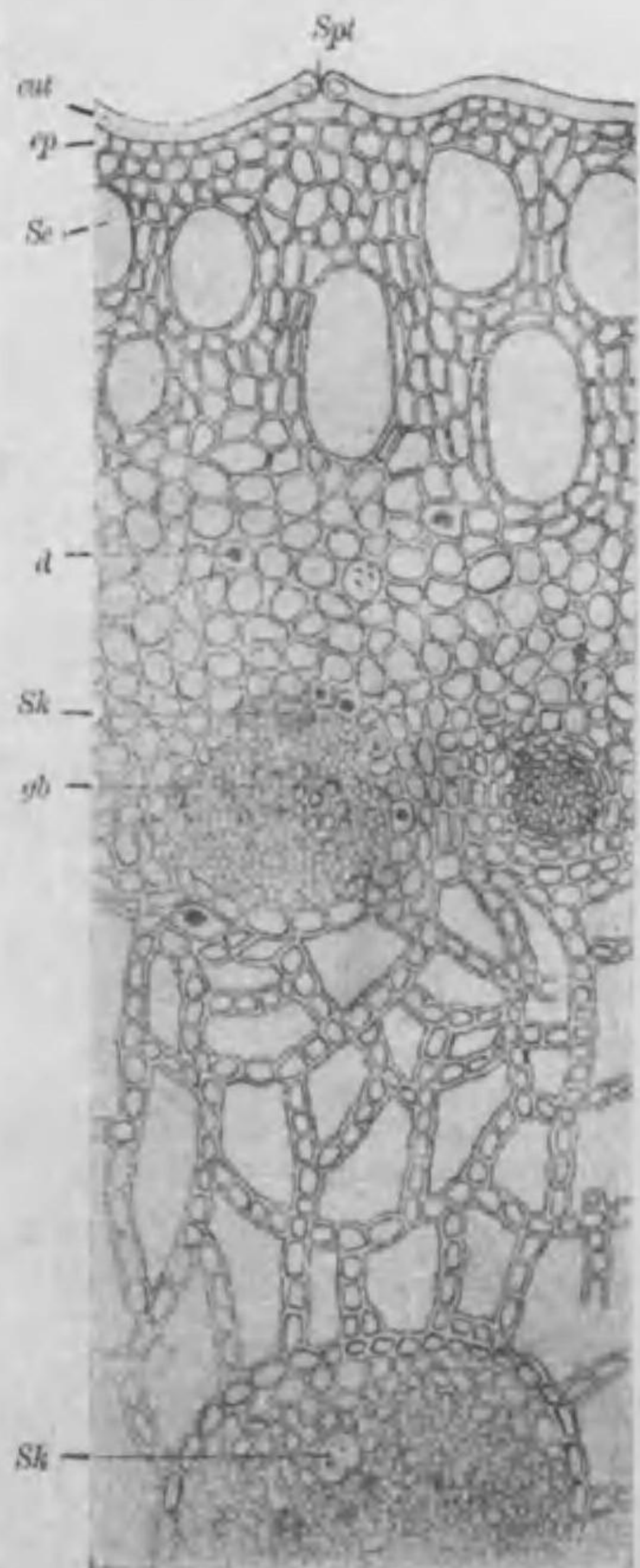


稔熟セルモノハ其香氣遙ニ弱シ故ニ丁香ハ未開ノ花(花蕾)ヲ採集スルヲ要ス、

其花床ニ油室ヲ存スルノミナラス其他ノ諸器官ニモ之ヲ具有シ大ニ揮發油ニ富メルヲ以テ容易ニ搾出スルコトヲ得。

丁香ノ内部ノ組織中ニハ多數ノ脈管ヲ存シ又 糖酸カルチウムノ結晶ヲ包藏スル組織ヲ籍在ス、丁香ハ特異峻烈ノ芳香ヲ有ス丁香ノ充分ニ

圖二十九第



第九十一 圖ハ丁香ヲ稍、廓大視セルモノニシテ(A)ハ其縦断面(B)ハ母丁香即

チ未熟果實ナリ、而シテ(A)圖中ノ(C)ハ萼・(K)ハ花瓣・(S)ハ雄蕊・(G)ハ雌蕊・(F)ハ實礎ニシテ(O)ハ油室ヲ示ス。

第九十二圖ハ丁香ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢視セルモノニシテ其cutハ表皮、epハ上皮、Sptハ裂口、Scハ油室、gbハ脈管束、Skハ纖維、dハ糖酸カルチウムノ簇品トス(二百八十七倍)。

(成分)

丁香ハ揮發油(丁香油)ヲ含有スルコト二十%ノ多キニ至ル、丁香油ハ其質水ヨリ重ク之ヲ水面ニ點スレバ沈降ス是レ丁香油ハ主トシテオイゲノール

ール (Eugenol)  $C_{15}H_{14}O_2$   $\begin{matrix} \text{OCH}_3 \\ | \\ \text{OH} \\ | \\ \text{CH}_2-\text{CH}=\text{CH}_2 \end{matrix}$  ヨリ成レバナリ而シテ丁香ノ香氣ハオイゲノール

ニ職由スルモノニシテオイゲノールハフェノール(Phenol)類ノ化合物ニ屬シ「フェノール」ニ固有スル特徴ヲ現ハス例之バ丁香油ニ石灰水ヲ加ヘテ振盪スレバ「オイゲノール」カルチウムヲ析出シ其沈澱ノ上部ニ位スル溶液分ヲ傾去シ之ニ酒精ヲ混攪スルノ後過クロール紙ヲ加フレバ綠色或ハ藍色ヲ呈スルカ如キ是ナリ、又カリオフィルリン(Caryophyllin)ナル一半テルペンノ少量ヲ含有ス是レ細小ナル針狀ノ結晶ヲナシ無味無臭ナルモノナリ。

凡ソ揮發油分ニ富メル良好ノ丁香ハ之ヲ以テ紙面ヲ壓スレバ油斑ヲ留ム而シテ又良好ノ丁

香ハ之ヲ水中ニ投スルトキハ沈下シ或ハ水面ニ縦直ニ浮遊スレトモ揮發油分ヲ排出セルモ  
ノ或ハ陳舊ニシテ自然ノ蒸發ニ由リ多少揮發油分ヲ消失セシモノハ水面ニ横ハリテ浮遊ス  
ベシ。

丁香ノ粉末ヲ購求スルトキハ宜シク之ヲ顯微鏡下ニ檢視スヘシ異物ヲ混有スルトキハ糠ク  
之ヲ發見スルコトヲ得而シテ揮發油ノ量ハ十五%以上又灰分ハ六%以下ナルベシ。

丁香莖 (Sipites Caryophyllorum) ナルモノアリ丁香ノ莖ニシテ丁香粉末ハ往々之ヲ以テ質偽セルコ  
トアリ而シテ丁香莖ハ其揮發油ノ含量平均六%以下ニ在リ。

又母丁香 (Anthophilii) ナルモノアリ充分ニ乾燥セサル丁香ノ果實ニシテ揮發油ノ含量甚々少ナ  
シ前記ノ如ク第八十一圖B)ハ母丁香ヲ示ス。

**(應用)** 芳香性ノ調味藥トシテ應用セラル藥局方ニ於テハ芳香散・芳香丁・幾芳香阿片酒等ヲ  
製スルニ用ユ其他汎ク粉粧料トシテ行ハル。

● 橙花 Flores Aurantii.

**(基原)** 橙花ハ橙科 (Aurantiaceae) 植物 Citrus Bigaradia Dulcis (だいだい) 其他 Citrus 屬植物ノ花ナリ。

**(形狀)** 橙花ハ未タ放開セス或ハ始メテ開放セル花 **第九十三圖** ニシテ其萼  
ハ細小五瓣ニ分裂ス花冠モ亦五瓣ヨリ成リ之ヲ透見スレバ長形ノ斑點(油腺)  
ヲ現ハス雄蕊ハ其數大約二十箇ニノ四束乃至五束ニ癒着ス實礎ハ上立性ニ

シテ中ニ八箇乃至十二箇ノ房ヲ存ス雌蕊ハ頭形ノ柱頭ヲ戴ク。

橙花ハ特異峻烈ノ佳香ヲ有ス其味ハ  
芳香性ニシテ稍苦シ。

**(成分)** 本邦ニ産スル橙花ノ揮發油ハ未タ  
檢査ヲ經ス恐クハ歐洲産ノ橙花油(即チ Citrus  
vulgaris Risso. ノ花ヨリ得タル者ト大差ナカルベ  
シ。

歐洲産佛國産橙花ハ之ヲ水ト共ニ蒸餾スレバ  
揮發油(橙花油)僅々〇・〇一乃至〇・〇一五%ヲ得  
此揮發油ハ類褐色ノ液ニシテ鮮紅色ノ螢石彩

ヲ現ハス所ノ固形揮發油 (Arnado) ト名ク及螢石彩ヲ現ハサハル液狀成分ヨリ成レリ。

**(應用)** 橙花ハ前藥局方ニ於テ橙花水ヲ製スルニ用ユ橙花油ハ其香氣極メテ佳絶ナルガ故  
ニ醫藥ニハ嬌臭藥・調味藥トシテ用ユ香水・香油等ノ製造ニ賞用ス。

第三十九圖



● 錦葵花 Flores Malvae.

**(基原)** 錦葵 Malva silvestris Linn. ハ廣ク亞細亞及歐羅巴ニ繁殖セル錦葵科 (Malvaceae) ノ草ニシ  
テ上古ヨリ其花並ニ藥ヲ藥用ニ供セリ。

(獨) Maloenblüten.  
(英) Mallow flowers.  
(佛) Fleurs de mauve.

**(形狀)** 錦葵花ハ其萼ハ高サ五三三ニ分レ星毛ヲ帶ヒ二箇ノ鉸針狀細長硬毛性ノ苞葉ニ由テ保托セラル、花冠モ亦五箇アリテ長サ往々二三ニ超エ萼ヨリモ四五倍長クシテ迥ニ其外ニ挺出シ基底ニハ粗毛ヲ有シ短キ雄蕊管ト癒合シ前端ハ凹入ス其基部ハ藍色ニシテ黯紫色ノ脈官東アリテ通走ス、其新鮮ナル花ハ寧ロ紅色ヲ呈シ酸類ヲ得レバ赤色トナリ「アルカリ」ニ逢ヘバ綠色ヲ呈ス、臭氣ナク味ハ粘漿性ナリ、**第九十四圖**ハ

圖四十九第



錦葵花ノ寫眞圖ナリ。

*Malva neglecta Walpole.* *Malva rotundifolia Lam.* 等同屬ノ花モ亦其形狀之ニ類スレトモ本條ノ錦葵花ノ如ク花冠ノ萼ニ比シテ長カラサルヲ以テ之ヲ區別シ得ベシ。

**(成分)**

其色素粘液素ノ外特別ノ有効成分含有セス。  
**(應用)** 緩和藥トナシテ應用シタレトモ今ハ多ク用ヰズ。

● 菩提樹花 Flores Tiliae.

**(基原)** 菩提樹花ハ歐洲ニ於テハ中古ノ時代ヨリ醫藥ニ供用セラレタル藥品ニシテ黃麻科 (*Tiliaceae*) 所屬 *Tilia ulmifolia Scop.* 及 *Tilia platyphyllos Scop.* ノ華木ヲ乾燥セルモノナリ本邦ニ産ス

(獨) Lindenblüthen.  
(英) Lime-tree flowers.  
(佛) Fleur de tilleul.

菩提樹 (*Tilia ulmifolia Scop.*) ノ花ノ藥用ニ堪ユキ十百十ハ暫ク疑問ニ屬ス、甲種植物即チ *Tilia ulmifolia* ハ歐洲及小亞細亞ノ諸地ニ産ス、葉ハ兩面共ニ毛茸ヲ帶ヒス下面ハ藍色ニシテ第二級ノ葉脈ニ沿フテ鋪黃色ノ毛ヲ着ク華木ハ擬繖花ヲナシ五乃至十三箇ノ花ヲ帶ヒ其高葉ノ廻旋ニ由リ上方ニ向ヘリ花冠ハ車輪狀ヲナシ雄蕊ハ四十乃至四十條ヨリ成ル、蒴果ハ不明ナル稜角ヲ有シ其皮殼ハ菲薄ナリ。  
乙種植物即チ *Tilia platyphyllos* ハ本來歐洲東南部ノ産ナレトモ今ハ諸地ニ汎布ス葉ハ兩面共ニ同色ヲ有シ柔毛ヲ帶ヒ擬繖花ハ三乃至五箇ノ花ヲ着ク垂下セリ蒴果ハ稜角ヲ有シ木質様ノ皮殼ヲ破ル。

圖五十九第



**(形狀)** 菩提樹花ノ華木ハ巨大舌狀ノ高葉ヲ具有シ花ハ兩性ニシテ低キ圓錐形ノ花床ヲ具ヘ萼ハ五葉アリテ萌芽ノトキハ卷振セル五葉ノ類黃色ナル花冠ト交互ニ排列ス雄蕊ハ花冠ノ上ニ挺出シ其數三十乃至四十條アリ楯狀ノ粉囊ヲ具有シ實礎ハ上立五房性ニシテ淺ク

五瓣ニ分レタル柱頭ヲ戴ク果實ハ一箇稀ニハ二箇ノ種子ヲ包藏ス、花梗、萼花冠等ノ組織中ニハ粘液ヲ包裏セル巨大ノ間隙ヲ存ス。

第九十五圖ハ乙種植物ノ華本ヲ示ス其ハ高葉トス。

**(成分)**

揮發油ノ痕跡、結液、蠟、砂糖、鞣酸等ナリ。

**(應用)**

菩提樹花ハ專ラ民間藥トシテ使用セラレン醫師ノ之ヲ處方スルコト稀ナリ、緩和ナル發汗藥及鎮痙藥トシテ用ユ、又藥湯料及含嗽料トナス。

● **ラベンデル花** Flores Lavandulae.

**(基原)**

ラベンデル花ハ *Lavandula vera* D. C. ノ花ノ乾燥セルモノナリ本植物ハ唇形科 (Labiatae) ニ屬スル半灌木ニシテ花ヲ着クル枝ハ短毛ヲ帶ヒ直立シ葉ハ線狀乃至鉞形ヲナシ邊緣反卷シ下面ハ油腺ヲ着ク華本ハ長梗上ニ位シ穗狀ヲナシ各箇ノ花ハ無柄ニシテ茶筌狀ニ聚簇シ藍色ナリ歐洲諸國殊ニ英國佛國及獨乙ニ於テ最モ多ク培養ス、第九十六圖ハ本植物ノ枝尖及花ヲ示ス。

**(形状)**

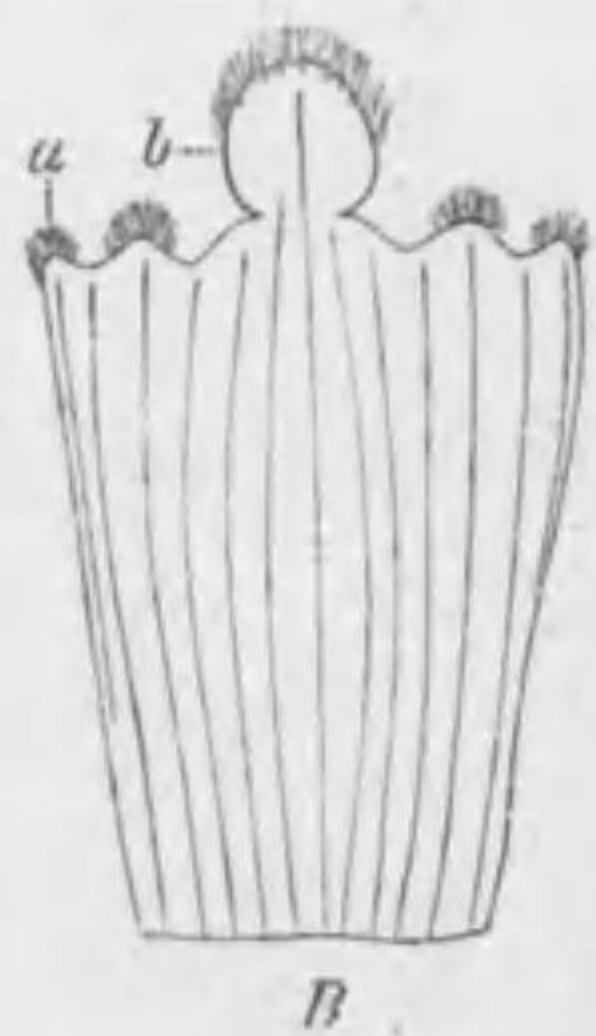
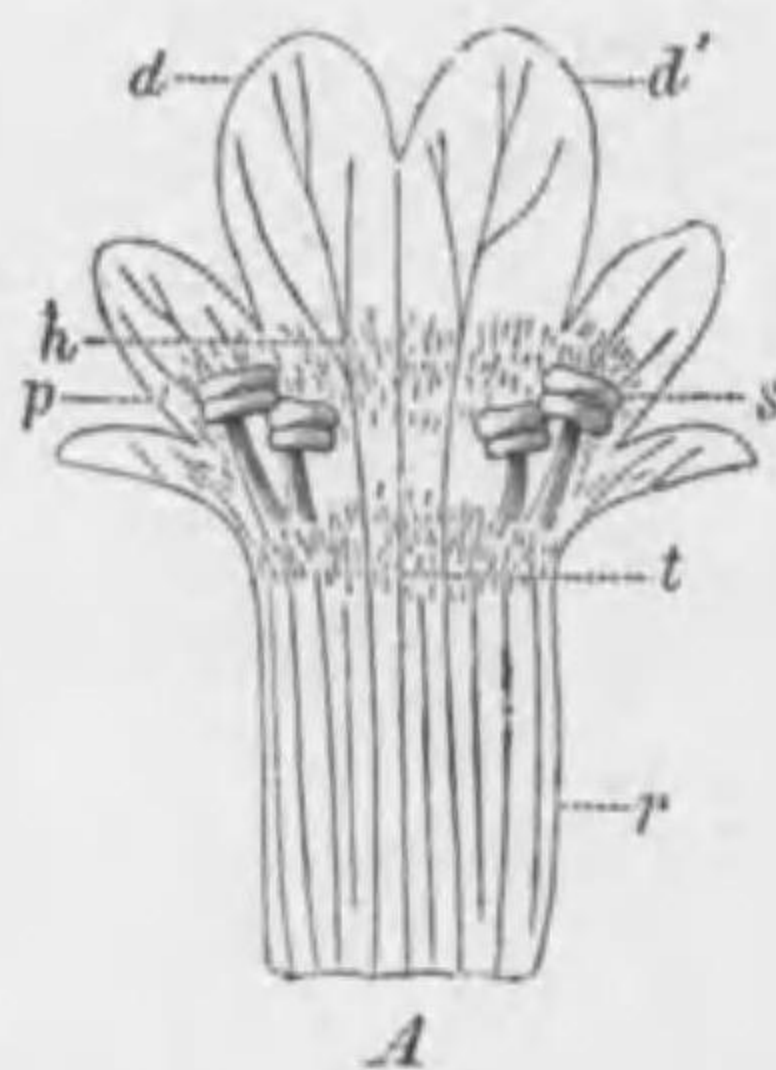
ラベンデル花ハ其充分ニ開花セサル前ニ採集シ乾燥セルモノナリ其萼ハ長サ五ミミニ至リ圓筒形鐘狀ヲナシ白色ノ絨毛ヲ被ムリ十三條ノ脈

圖六十九第



理ヲ有シ  
銅藍色或  
ハ類褐色  
ノ光彩ヲ  
帶ヒ上端  
ニ五齒ヲ  
具ヘ其五  
齒中ノ一

圖七十九第



ハ他ノ四齒ヨリモ頗ル肥大ニ發育シ黯色ヲ有ス花冠ハ遙ニ萼ヨリ長ク其下部管狀ヲナシ上端ハ上下ノ二唇ニ分カレ上唇ハ大ニシテ二瓣ヨリ下唇ハ小ニシテ三瓣ヨリ成ル新鮮ナルトキ

ハ鮮紫藍色ヨリモ寧ロ類褐色ニ近シ香氣ハ甚タ佳快ニシテ味ハ苦シ本品ハ梗及葉ヲ除去シ花ノミヲ用ユヘシ。

第九十七圖(A)ハ本花ノ花冠ヲ開展セルモノニシテ(s)ハ雄蕊(d d')ハ上唇(p)ハ下唇(h)ハ上方ノ毛輪(茸毛ノ輪圈)(t)ハ下方ノ毛輪(r)ハ花冠管トス而シテ同圖(B)ハ萼ヲ開展セルモノニシテ其中央ノ一齒(b)ガ佗ノ四齒(u)ニ比シテ肥大ニ發育セルヲ見ルベシ。

(成分) 主要ノ成分ハ揮發油即チラヘンデル油 *Oleum Lavendulae* ニシテ英國産ノ花ハ之ヲ水ト共ニ蒸餾スルトキハラヘンデル油一・二乃至一・六%獨乙産ハ二・八%佛國産ハ一・二%ヲ生ス、本揮發油ノ成分ハ主ニ醋酸リナリール *Linallylacetat*  $C_{10}H_{17}OCH_2CO$  ヨリ成リ傍ラ少量ノ「セラニオール」ヲ含ム。

(應用) 本品ハ其香氣佳絶ナルノ故ニ浴湯トナシ又ハ其浸劑ヲ洗滌料トス民間昆蟲ヲ驅クルニ用ユルノ慣習アリ。

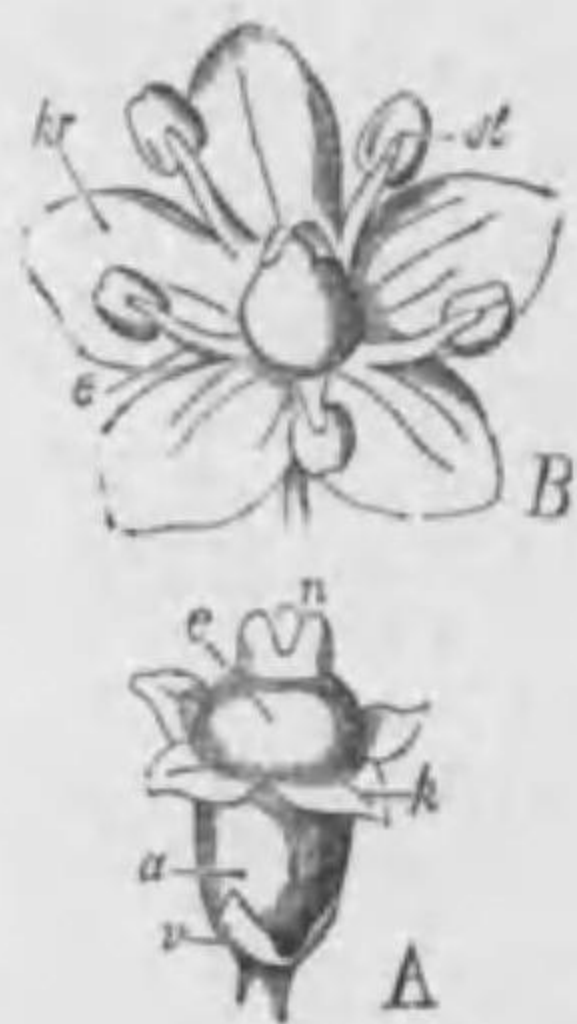
●接骨木花 *Flores Sambuci.*

(基原)

接骨木花ハ忍冬科 (*Caprifoliaceae*) ノ植物 *Sambucus nigra* L. (ニハセ、ノ類) ノ花ナリ最北地方ヲ除クノ外歐洲及中央亞細亞ノ諸處ニ産ス歐洲ニ於テハ「巴」ニ太古ヨリ醫藥ニ供用セラル。

(形狀)

接骨木花ノ華本ハ其主軸ノ末端五箇ニ分枝シ其中央ノ分枝ハ主軸ノ末端ニ占居シ他ノ四枝ハ各二枝ツ、相對生シ其外方ニ位スル分枝ハ内部ニ位スルモノノ末端ニ占居スルモノヨリ延長シ諸分枝殆ント平等ノ高サニ於テ配置セラレ平頭有極穗狀花ノ狀ヲナス而シテ各分枝ハ反復又狀ニ分岐シ其花ハ細小ニシテ萼ハ五瓣ニ分レ花冠モ亦五瓣ニ分裂ス其花瓣ハ萼ヨリ三倍長ク萼瓣ト交互ニ排列ス甚タ短キ花冠管ニ着生セル五箇ノ雄蕊ハ著大ノ粉囊ヲ載キ花ハ其黄色ノ花粉ヲ被ムル實礎



第九十八圖

ハ周立性ニシテ中ニ二房乃至三房ヲ有シ稔熟ノ後黑色ノ漿果トナル。

第九十八圖(A)ハ接骨木花ノ花冠ヲ除去セルモノヲ示ス(k)ハ三角形ノ萼(a)ハ實礎(e)ハ雌

蕊(n)ハ柱頭トス、(B)ハ接骨木花ヲ上部ヨリ望視セルモノナリ、(kr)ハ車輪形ヲナセル花冠、(e)ハ雄蕊、(st)ハ粉囊トス。

接骨木花ハ新鮮ナルトキハ白色ナレトモ乾燥セシムルニ當リ大ニ萎縮シテ黄色トナル。

(獨) *Soffunderblüten.*  
(英) *Elder flowers.*  
(佛) *Fleurs de sauran.*

接骨木花



接觸木花ハ之ヲ乾燥セシムルトキハ其香氣愈々較著ニ發生ス其味ハ粘液性ニシテ微ニ甘ク後稍苦辣ナリ満開ノ季節晴天ニ乘シテ採集シ直チニ日光ニ直露シテ乾燥スルヲ要ス蓋シ異色ヲ呈スルノ虞アレバナリ藥用ニハ莖軸ヲ除去シテ用ユヘシ。

**(成分)**

接骨木花ハ其本性ノ未タ詳カナラサル揮發油ノ少量ヲ含有ス。

**(應用)** 茶劑トシテ發汗ノ目的ニ用ユ歐洲ニテ於ハ民間藥トシテ多ク嗜用ス。

本邦ニハ接骨木 *Sambucus racemosa* L. var. *Sieboldiana* Miy. ナルモノアリ此植物ノ華本ハ圓錐狀花ヲナシ其分枝ハ反復叉狀ニ分歧シ花ノ形狀ハ概シテ本條ノ生藥ト異ナルコトナシ然レトモ本邦産ノ接骨木花ハ之ヲ乾燥スルトキハ黒色ヲ呈シ其香氣佳快ナラザルガ故ニ本條ノ生藥ニ代用シ難シ。  
其他本邦産ニハ薊類(こくご) *Sambucus javanica* Bl. ナルモノアリ藥用ニ堪ユルヤ疑シ。

● **シナ花** *Flores Cinae.*

(獨) Wurmfamen.  
(英) Worm-seed.  
(佛) Semen contra.

**(基原)** シナ花ハ *Apsinthion* 或ハ *Abisinthion* ナル殺蟲ノ効力アル藥草トシテ已ニ古代ヨリ世人ノ知ル所トナリ中古ニ至リ其殺蟲ノ効力ハ殊ニ其華頭ニ在ルコトヲ知レリ従前ハ伊國ノ藥種商之ヲ *Semenzina* ト稱セリ *Semen Cinae* ナル本品ノ舊稱ハ蓋シ此語ニ淵源ス前藥局方ニ於テハ *Artemisia maritima* L. var.

圖 九 十 九 第



*Szechuanianiana* Besser ヲ以テ本生藥ノ基本植物トナシタレトモ第三改正藥局方ニ於テ之ヲ *Artemisia Cina Bery* ニ改メタリ此植物ハ菊科(Compositae)ニ屬シ土耳其斯坦ノキルギ

一セン湖邊ニ産スル半灌木ナリ(第九十九圖)。  
**(形狀)** シナ花ハ未タ開綻セサル小華頭ニシテ新鮮ナルトキハ帶綠黃色ヲ有シ時日ヲ經ルニ從ヒ褐色トナル長サ四mmニ過キス此小華頭ハ屋瓦狀ニ排列セル十二箇乃至二十箇ノ總萼ヨリ包被セラレ中ニ幼稚ナル花三乃至五箇ヲ有ス而シテ總萼ハ鉞針形ヲ有シ其背面ニ類黃色或ハ類褐色ノ著シク隆起セル稜線(脈管束ニ係ル)ヲ有シ其兩

圖 百 第



面ニ著シク隆起セル稜線(脈管束ニ係ル)ヲ有シ其兩

側ニ多數ノ油腺ヲ着ク其邊緣ハ薄ク皮膜狀ヲナス、第百圖ハ著シク廓大視セルニシナ花ニシテ(A)ニ於テ稜線及油腺ヲ明視スルヲ得ヘシ、(B)ハ縦断面ニシテ幼稚ノ花ヲ存スル狀ヲ示ス。

シナ花ハ強キ芳香ヲ有シ其味ハ不快ニシテ冷涼ナリ。

**(成分)** シナ花ハ揮發油ノ含量三%ニ至ル其揮發油ハ炭化水素及酸素ヲ含有セル液狀化合物 Cineol ( $C_{15}H_{14}O$ ) ノ混合物ヨリ成ル、有効成分即チ殺蟲ノ効力アル成分ハ「サントニン (Santonin)  $C_{15}H_{14}O_2$ 」ニシテ其含量大約二%ニ至ル、シナ花ニ石灰乳及稀酒精ヲ加ヘテ煮沸スレハ「サントニン酸カルチウム」ノ溶液ヲ得而シテ此溶液ニ炭酸ヲ通シテ「サントニン」ヲ遊離セシムルノ後之ヲ蒸餾シテ酒精分ヲ驅逐スルトキハ其結晶ヲ析出ス此反應ニ由リシナ花中サントニンノ量ヲ測定スルコト得。

**(應用)** シナ花ハ其儘ニ或ハ粉末トナシテ蠅蟲ヲ驅逐スル目的ニ應用ス然レトモ通常ハ「サントニン」ヲ提用ス。

● **アルニカ花** Flores Arnicae.

**(基原)** アルニカ花ハ獨乙ニ於テハ一千五百年代乃至一千六百年代ヨリ醫

(獨) *Woloverleibblüten.*  
(英) Arnica flowers.  
(佛) *Fleurs d'arnica.*  
アルニカ花

第 百 一 圖



シ暗褐色ノ脈理八乃至十條アリテ通走ス、中心花管狀花ハ遙ニ多數ニシテ短

藥ニ供用セララル、ニ至レリ菊科 (Compositae) ノ植物 *Arnica montana L.* ノ花ナリ此植物ハ北半球ノ中部及北部ノ諸國ニ産ス、第百一圖ハ其縮小セル全圖ヲ示ス。

**(形狀)** アルニカ花ハ小華頭ニシテ二重ニ排列セル二十乃至二十四葉ノ總

萼アリテ之ヲ圍包ス其花牀ハ直徑六 mmニ至リ小窩ヲ現ハシ鱗毛ヲ具フ藥用ニハ總萼及花牀ヲ除去シ舌狀花及管狀花ノミヲ用ユ其舌狀花(邊緣花)ハ大約二十個ヨリ成リ著シク花牀外ニ挺出シ末端三齒ヲ有

ク管状ヲナス而シテ其花ハ總テ赤黄色ヲ有シ菊科植物ノ花ニ固有スル構造ヲ有ス實礎ハ不明ナル五稜ヲ有シ二箇ノ細胞ヨリ成レル毛茸ヲ附着ス(第百三圖)又實礎ハ長サ六ミミニ至リ帶黄灰色乃至類黑色ヲ有シ其上端ニ長サ大約八ミミニ至レル尖銳硬強ナル毛冠ヲ戴ク(第百二圖)ハ放線狀花ニシテ其脈理末端ノ三齒ヲ明視スベシ(B)ハ中心花(扁板花)ニシテ(C)ハ之ヲ縦斷シタル



第百三圖



モノトス(P)ハ總テ毛冠ヲ示ス而シテ此諸花ハ稍廓大シテ現ハセリ。アルニカ花ハ微ニ芳香ヲ有シ其味モ亦芳香性ニシテ少シク苦シ。

第百三圖ハ實礎ニ附着スル二箇ノ細胞ヨリ成レル特異ノ毛茸ヲ示ス。

アルニカ花ハ新鮮ナルモノト雖トモ往々其花牀中ニ昆蟲ノ潜伏スルコトアリ是レ總萼及花牀ヲ除去シテ應用スベキ所以トス。

アルニカ花ハ佗ノ菊科植物類ノ花例之バ金盞花 (*Calendula officinalis*) 紅花

(*Carthamus tinctorius*) 等ノ諸花ト錯誤スルノ虞ナシトセス然レトモ金盞花ハ

毛冠ヲ戴カス其舌狀花(放線花)ハ僅々四條ノ脈理ヲ有シ又紅花ハ毛冠ヲ帶

ヒサルヲ以テ之ヲアルニカ花ト判別スルニ難カラス其他蒲公英等ノ如キ

菊科植物ノ花ハ中心花(扁板花)ヲ闕如スルヲ以テ本條ノ生藥ト異ナレリ。

**(成分)** 少量ノ揮發油(一萬分中二三分)アルニチン ( $\text{Arnizin } \text{C}_{10}\text{H}_{16}\text{O}_2$ ) ナル苦味質等ナリ。

**(應用)** 内用ニハ神經系及脈管系ヲ興奮セシムル藥物トシテ應用ス大抵浸劑トシテ用ユ多

服スレバ中毒症ヲ發ス外用ニハ挫傷神經痛等ニ驅滯劑トナス。

● **カミルレ花** *Flores Chamomillae*.

**(基原)** カミルレ花ハ歐洲ニ於テ太古ヨリ醫藥ニ供用セララル *Matricaria Chamomilla L.* ナル菊科 (*Compositae*) 植物ノ花ニシテ此植物ハ北部ノ地方ヲ除クノ

(獨) Kamillenblüten.  
(英) German camomile.  
(佛) Fleurs de camomille d' Allemagne.

圖四百第



外殆ト全歐洲及前  
亞細亞地方ニ産ス  
又本邦ニモ之ヲ培  
養ス、**第四百圖**ハ其  
帶花枝梢ヲ示ス。

(形狀)

カミルレ  
花ハ小華頭ニシテ

圖五百第



毛茸ヲ帶ヒス末端鈍ク邊緣乾燥セ  
ル總萼アリテ空洞ナル花床ヲ圍包  
ス其花床ハ白色鍍針形ニシテ末端  
舌狀ヲナセル雌性ノ放線花十二乃  
至十八箇ト黄色管狀ノ兩性花扁板  
花ノ多數ヲ具有ス、果實ハ毛冠ヲ戴  
カス、其上端僅ニ隆起スルノミ花床  
ハ幼稚ナル植物ニ在リテハ僅ニ穹

窿シ開花ノ際著シク穹窿シテ圓錐形トナル其果實ヲ除去セル跡ニハ小窩ヲ  
現ハスモ鱗葉ヲ有セス(裸出セルヲ云フ)。  
カミルレ花ハ其香氣甚タ顯著ナラサルモ特異ナリ味ハ微ニ芳香性ニシテ苦  
シ、**第五百圖**ハカミルレ花ヲ廓大視セルモノニシテ(A)ハ之ヲ縱斷シテ花床ノ  
空洞ナルヲ示シ、(B)ハ放線花ヲ示ス。

(成分)

カミルレ花ハ其新鮮ナル者ヲ水ト共ニ蒸餾スレバ鮮藍色ナル揮發  
油ノ少量(大約五分)ヲ得其揮發油ハ「アツレイン(Azulen)」又ツェルレイン(Coerulein)  
ナル青色成分ノ傍ラ著シク「カミルレ花」ノ香氣ヲ有スル無色ノ揮發油(Cineol)  
其他高度ノ温ニ於テ沸騰スル炭水素及揮發シ易キ脂肪酸類ヲ含用ス。

カミルレ花ハ其花床空洞ニシテ鱗葉ヲ有セス、以テ(裸出性ナルヲ云フ)他ノ類似ノ菊科植  
物ノ花ト異ナリ例之バ Anthemis 屬ノ花ハ其花床空洞ナラズシテ其果實ノ基部ニ小船様ノ鱗  
葉(大條羅馬カミルレ花、**第六圖**)ヲ有シ其他 Chrysanthemum 屬ノ植物ハ花床圓錐形ヲナサス鱗  
葉ヲ有セス其花途ニ巨大ナリ。

(應用)

カミルレ花ハ醫師ノ處方スルニ稀ニシテ俗間之ヲ浸劑トナシ發汗驅風ノ目的ニ  
供用ス。

(獨) Römische Kamille.  
(英) Camomile flowers.  
(佛) Chamomille romaine.

● 羅馬カミルレ花 Flores Chamomillae romanae.

(基原) 羅馬カミルレ花ハ想フニ英國ニ於テ始メテ世人ノ着目スル所トナリ一千五百年代伊國ニ移植セルモノニシテ菊科植物 *Anthemis nobilis* L. ノ花ナリ歐洲ノ西部ヨリ英國ノ西部ニ至ル諸地ニ野生ス目下獨逸ノライプチヒ市及アルテンブルヒ市又英國倫敦ニ於テ多ク培植ス。

(形狀) 羅馬カミルレ花ハ其野生ノ花ニ在テハ白色雌性ノ放線花ノ數十二乃至十八箇ナレトモ培養スルトキハ大ニ其數ヲ増加シ著シク黃色ノ扁板花ヲ減却スルニ至ル然レトモ扁板花ノ盡ク

第百六圖



放線花トナルコトハ絶テ無キモノトス放線花ハ雌性ニシテ舌狀ヲナシ其末端三齒ニ分レ(第百六圖A)諸多ノ菊科植物ニ於ケル如ク四條ノ脈理(脈管束)ヲ有スルヲ常トス扁板花ハ上部鐘狀ニ擴張シ其果實ノ基部ニ小艇様ノ鱗葉(第百六圖B)ヲ具有ス花床ハ圓錐形ニシテ空洞ナラズ是レ他ノ類似植物ト異ナルノ點トス而シテ羅馬カミルレ花ノ小華頭ハ睫毛狀ノ鋸齒ヲ有シ毛茸ヲ帯ヒ邊緣乾燥セル總萼ヨリ包圍セラレ。

(成分)

羅馬カミルレ花ハ之ヲホト共ニ蒸留スルトキハ揮發油ヲ得ルコト一千分ノ八ニ至ル此揮發油ハ帶紅褐色ヲ有シ炭水素及アルコホル類ノ外アングリカ酸(Angelicasäure)、イソ酪酸(Isobuttersäure)、癩草酸(Valeriansäure)及巴豆酸(Figlinäure)ノ諸酸類トアミールアルコホル及プチールアルコホルヨリ成レル複性エーテルヲ含有ス。

(應用)

カミルレ花ニ於ケルガ如ク專ラ英國及佛國ニ行ハル。

第十章 果實類 Frucht. Früchte.

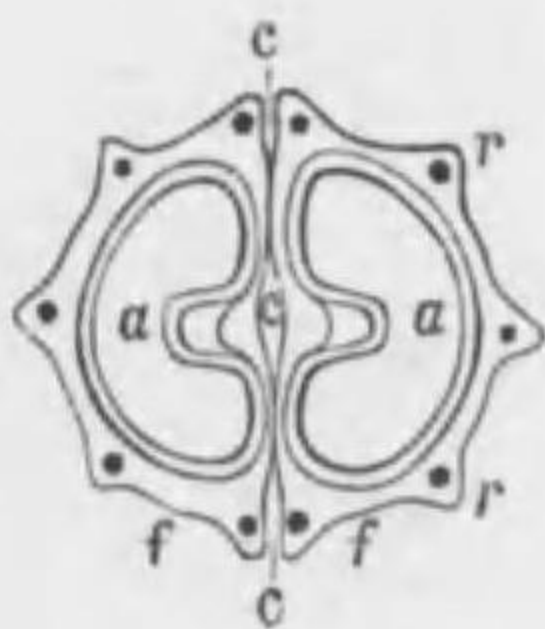
凡ソ果實トハ受胎ニ由テ發育稔熟セル實體ノ通稱ニシテ其際實體ノ外壁・胎壁及胎盤ハ種々ノ變化ヲ受ク而シテ花ニ屬セサル部分モ亦果體ノ生熟ニ參與スルコト間之アリ例之バ無花果・杜松實・林檎・蛇莓等ニ於ケル如シ故ニ此等ノ果實ヲ漿果(Fructus spiritus)ト云フ無花果・蛇莓及林檎ニ於テハ莖軸ノ上ニ漿果ノ發育ニ參與シ肉質性ヲ得ルニ至ル然ルニ杜松實ニ在テハ其三箇ノ包葉果體ノ發育ヲ分擔シテ肉質様トナル。

果實ノ皮壁ヲ果被(Pericarpium)ト云フ而シテ果被ニハ往々其構造或ハ色澤ヲ異ニスル三種ノ層壁ヲ認ムルコトアリ表層(Epicarpium)・中間層(Mesocarpium)及内層(Endocarpium)是ナリ表層ハ屢々外皮ノ構造ヲ有シ甚ク厚キ上皮(Epidermis)ヲ被ムリ又裂口ヲ具有スルコトアリ表層ハ間之又主トシテ石核細胞ヨリ成ルコトアリ中間層ハ其組織ノ構造甚ク種々ニシテ諸多ノ果實ニ在テハ肉質様ヲナシ津液ニ富ミ或ハ甚ク堅疎ナル組織ヨリ成ルモノアリ其組織ノ細胞大ニ津液ニ富

ミ類潰シ易キモノアリ之ヲ果泥 (Pulpa) ト云フ例之バ、タマリンドノ如シ、内層ハ實壁空洞ノ皮壁ヨリ發育スルモノニシテ堅牢ナル殻皮(石殻ト名ク)ヲナスモノアリ例之バ杏・桃等ニ於ケル如シ、又或ル果實ニ於テハ上文ニ掲グル三種ノ層壁ヲ明瞭ニ識別シ難キコトアリ。

●聚果 (Syncaepium) ハ許多ノ一心蕊性實壁ノ癒合ニ由テ生スルモノナリ例之バ大茴香ノ如シ。

●分聚果 (Moricarpium) ハ多房性實壁ノ各房分離シテ單一トナルモノナリ例之バ散形科植物ノ果實(第七圖)之ニ屬ス散形科植物ニ在テハ各分果ヲ連繫スル壘軸ヲ



擔柱 (Carpophor) ト云フ而シテ此分果ノ背面ニ存スル縱起線ヲ肋線 (Costae) (第七圖) ト云ヒ其肋線ノ間ニ更ニ細小ノ縱線ヲ具フルトキハ之ヲ副肋線 (Costae secundariae) ト云フ肋線ノ間ニ於ケル隆凹セル部位ヲ果谷 (Valleculae) (第七圖) ト云フ油谷 (Vittae) ハ常ニ果谷中ニ存スルモノナリ。

圖七百第

節裂果例之バ Rappanus (蕪蕪屬)ノ果實モ亦分裂果ニ屬シ箇々横形ニ分離ス。其他果實ニハ左ノ諸種アリ。

●(甲)乾果。果實ノ表層木質様又ハ韃革様ヲナセルモノ之ニ屬ス。

●(二)閉果。總テ開綻セザル果實之ニ屬ス閉果ヲ小別シテ左ノ諸種トナス。

●(イ)胡桃果 (Nux) ハ堅硬ナル表層ヲ有ス(例之バ大麻ノ果實)。

●(ロ)殼果 (Caryopse) ハ其表層皮膜様或ハ韃革様ヲナス、禾本科植物ノ果實之ニ屬ス。

翼果ナルモノアリ亦閉果ニ算入スベキモノニシテ其稔熟スルノ際果實翼狀ノ附着物ヲ

生スルヲ以テ其特徵トス例之バ (Ulmus) (榆屬) Betula (樺木屬)ノ如シ(第

百八圖)。

●(二)開綻果。其稔熟スルニ際シ開綻スル果實ニシテ多數ノ種子ヲ有ス、

之ニ左ノ諸種アリ。

圖八百第



●(イ)袋果 (Folliculus) ハ一箇ノ心蕊ヨリ成リ其腹縫ヨリ開綻スルモノナリ例之バ大茴香ノ如シ。

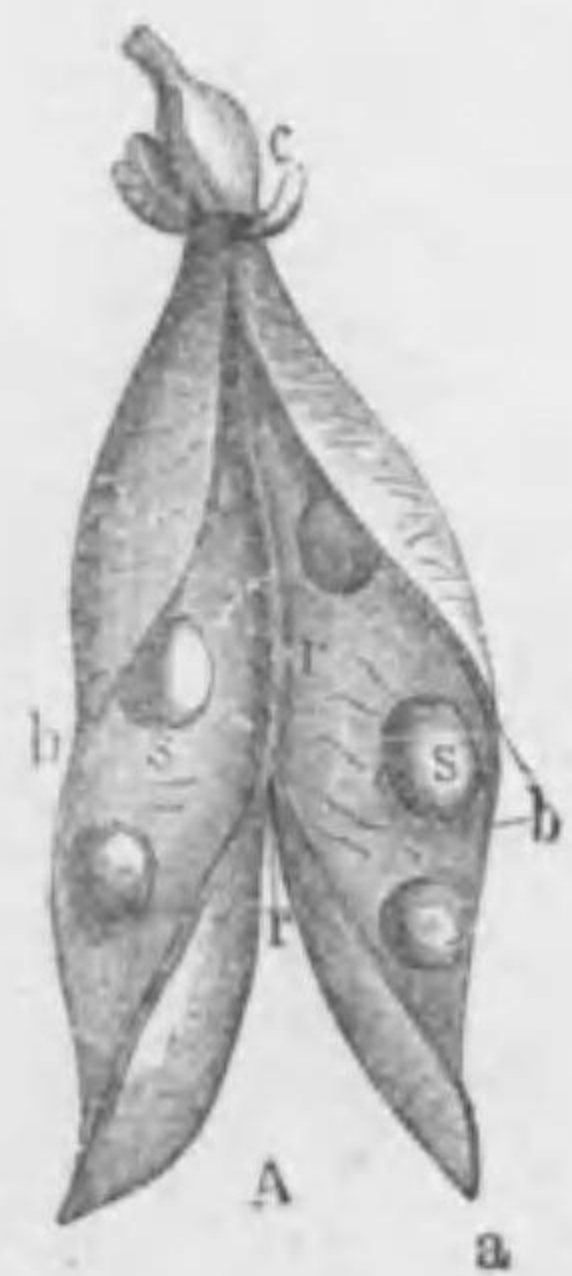
●(ロ)莢果 (Legumen) モ亦一箇ノ心蕊ヨリ成リ其腹縫ヨリ開綻スルモノトス豆科植物ノ果實之ニ屬ス(第九圖)ハ莢果ヲ示ス、其(α)ハ頂端、(c)ハ基礎、(b)ハ腹縫トス。

●(ハ)長角果 (Siliqua) ハ二箇ノ心蕊ヨリ構成セラレ、果實ニシテ下方ヨリ開綻シ其中腹縫壁ニ種子ヲ附着ス十字科植物ノ果實之ニ屬ス(第十圖)ハ開綻セル長角果ニシテ種子ヲ着ケル狀及中階(s)ヲ示ス。

●(三)蒴果。 (Capsula) (囊果又覆果) ハ許多ノ心蕊ヨリ構成セラレ稔熟スルニ途ビ上部ヨリ下部ニ向テ開綻シ(第十一圖)又稀ニハ下部ヨリ開綻スルモノナリ、其他上部ノ周圍ヨリ盒狀ニ破綻シ(例之バ莢若及ヒヨス)ノ果實)又孔穴ヲ生シテ開綻スルモノアリ(罌粟ノ果實)(第二十圖)ハヒヨスノ盒狀蒴果ニシテ(b)ハ其開綻セル狀ヲ示ス。

多房ヲ有スル蒴果ニシテ其癒着セル中隔ノ分離ニ由テ開裂セルモノ之ヲ中隔開綻 (Deliscentia septivalis) (第百十三圖 a) ト云フ例之ハ、コルヒクム (Colchicum autumnale) ニ於ケル如シ、覆果

圖九百第



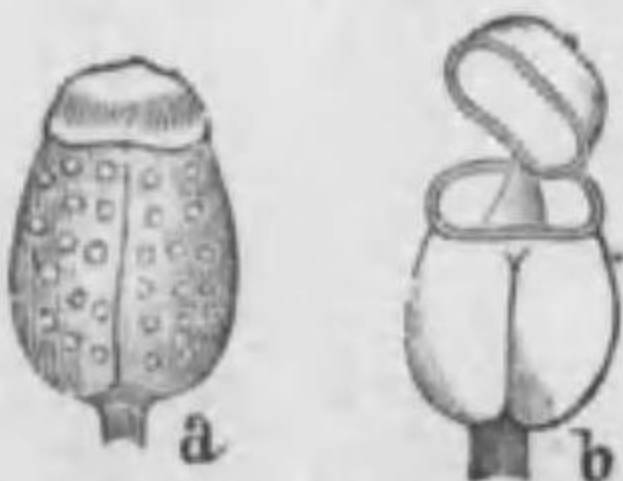
圖一十百第



圖十百第



圖二十百第



圖三十百第



若シ各心蕊ノ中央ヨリ開裂セルトキハ之ヲ房性開綻 (Deliscentia loculicida) (第百十三圖 b) ト云フ(例之ハ百合ノ類)房性開綻ニ於テ其種子ヲ附着セル中隔柱果壁ヨリ分離シ蒴果ノ中心ニ殘存スルモノ之ヲ柱立開綻 (Deliscentia stylicida) (第百十三圖 c) ト云フ。

(乙) 濕果 果實ノ肉質軟チナスモノナリ左ノ諸果之ニ屬ス。

(イ) 石果 (Drupe) 其々堅硬ナル肉層ヲ有シ開綻セサルモノナリ(扁桃・胡桃等)。

(ロ) 漿果 (Berry) 表層及間層津液ニ富ミ内層ハ間層堅硬ナリ(例之ハ葡萄・棗等)。

果實ハ往々其基礎ニ於テ輪形ノ附着物ヲ有スルモノアリ之ヲ殼斗 (Cupula) ト云フ(例之ハ榲桲ノ如シ)。

(甲) 裸子植物ノ果實 Früchte der Gymnospermen.

● 杜松實 Fructus Juniperi.

(基原) 杜松實ハ太古ノ時代ニ於テハ價值ナキ藥品ナリシガ中古ノ時代獨逸ニ於テハ多ク

之ヲ熏烟料及藥用ニ供シ目下尙ホ多少聲價アル藥品ニ屬ス。

杜松實ハ松柏科 (Coniferae) ニ屬スル Juniperus communis L. ノ果實ナリ北半球ノ諸地ニ産ス方今殊ニ

匈葛利・伊國・奧國・佛國南部等ヨリ輸出ス。

(形狀) 杜松實ハ漿果様ノ果實ニシテ三箇ノ果葉(果鱗)ノ癒合ニ由テ生ス其

初年ニハ卵圓形ヲ有シ綠色ヲ帶フ第二年ニ至リ始メテ稔熟シ球圓形トナル

而シテ稔熟セル杜松實ハ其直徑六乃至九 mm 暗褐藍色ヲ有シ蠟ノ分泌ニ由

リ白色ノ粉霜ヲ帶フ頂端ニハ三箇ノ縱痕ヲ現ハス是レ三箇ノ果葉ノ癒着シ

タル痕トス基礎部ニハ乾燥萎縮セル葉ヲ着ク果肉ハ頽潰シ易ク油室ヲ有シ

杜松實 (獨) Wacholderbeeren.  
(英) Juniper berries.  
(佛) Baies de genièvre.

三箇ノ種子ヲ包藏ス其種子ハ長卵圓形ヲナシ三箇ノ稜線ヲ現ハシ油囊ヲ着ク、**第百十四圖ノ(A)**ハ稍大セル杜松實ニシテ**(B)**ハ其横断面ヲ示ス。

杜松實ハ其味芳香性ニシテ甘ク微ニ苦シ而シテ時日ヲ經ルトキハ酸性ヲ呈スルニ至ル。



圖四十百第

**(成分)**

杜松實ハ揮發油(杜松實油)大約一・二%ヲ含有ス此揮發油ハ  $C_{10}H_{16}$  ナルテルペン ピネン  $C_{15}H_{24}$  及之ト百分算集成ナ同瓦斯ル炭化水素 カンペン  $C_{15}H_{22}$  ヨリ成ル糖分ノ含量ハ四十%ノ多キニ至ル。

**(應用)**

杜松實ハ利尿薬トシテ之ヲ應用シ又杜松實油ヲ製シ其他外國藥局方ノ杜松實精ヲ製スルニ用ユ但シ日本藥局方ノ杜松實精ハ杜松實油ヲ以テ製ス。

日本杜松實

●日本杜松實

*Fructus Juniperi rigidae.*

杜松 ニテ *Juniperus rigida Sieb. et Zucc.* ノ果實ハ歐洲産杜松實ト形狀ヲ同フシ其成分ハ恐クハ本條ノ生薬ト大異アルコトナカルベシ又能ク之ニ代用スルヲ得ルナラン然レトモ本邦ニ於テハ杜松實ハ杜松ヨリ採ラスはひねづヨリ (*Juniperus littoralis Maxim.*) ヨリ採集ス此杜松實ハ歐洲産ニ比シ遠ニ肥大ニシテ直径一五mmニ至リ莖葉黒赤褐色或ハ褐色ヲ有シ其成分ハ亦本條ノ生薬ト大差ナカル可シ本杜松實ハ常陸國鹿島郡房州等ヨリ出タス。

**(乙) 單子葉植物ノ果實類**

*Früchte der Monokotyledonen.*

●小荳蔻

マラバルカルダモム

*Fructus Cardamomi.*

*Cardamomum minus s. Malabaricum.*

**(基原)**

カルダモム類ハ印度地方ニ於テハ古代ヨリ醫藥ニ供用セラレ中古

ニ至リ香味料トシテ歐

洲ニ齋致セリ、小荳蔻ハ

*Elettaria Cardamomum White*

*et Watson.* ト名クル薑科

(*Zingiberaceae*) 植物**第百十**

**五圖**ノ果實ニシテ印度

南部ノ山林殊ニマラバ

ル半島ノ海岸ニ産シ又

培植ス。

**(形状)** 小荳蔻ハ覆果



圖五十百第

小荳蔻 (獨) *Cardamomen.*  
 (英) *Cardamoms.*  
 (佛) *Cardamomes.*



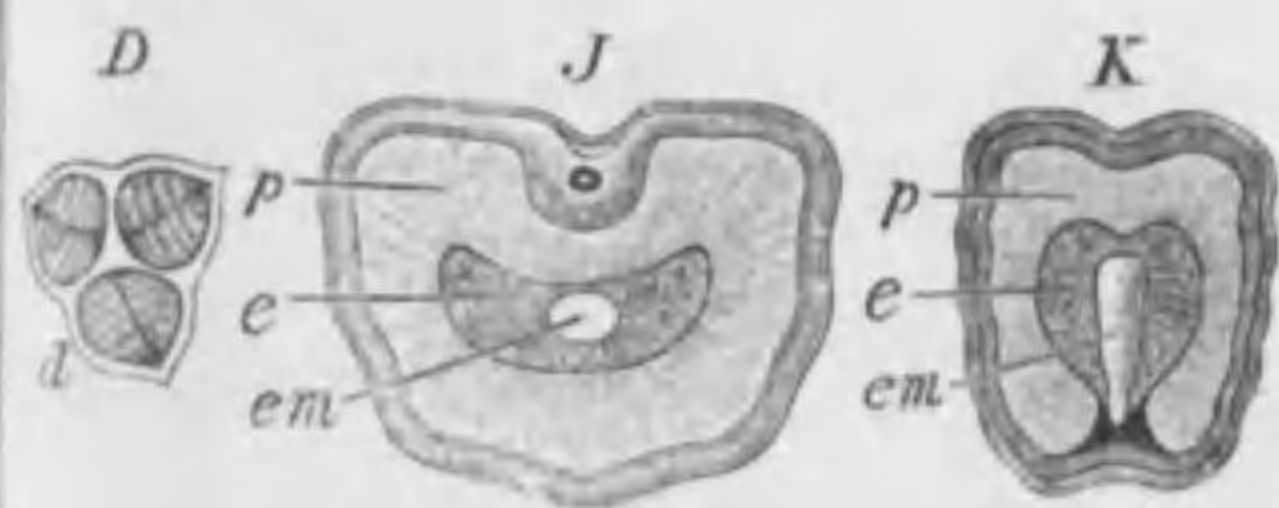
圖六十百第



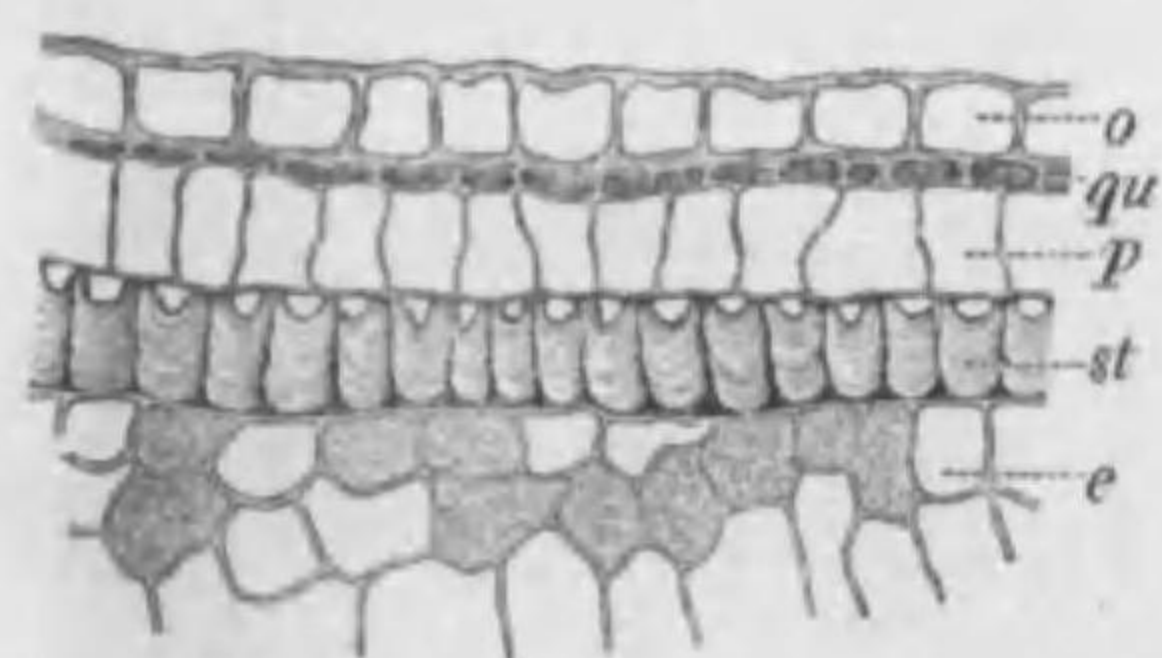
圖七十百第



圖八十百第



圖九十百第



ニシテ萼黄色ヲ有シ圓形或ハ長形ヲナシ長サ一乃至二cm直徑一cmニ過キス縦紋ヲ現ハシ間三箇ノ鈍稜ヲ有シ頂端ニ小嘴ヲ戴ク内部三房ニ分レ各房ニ種子五乃至六箇ヲ包藏ス其種子ハ太サ二mmニ過キス類褐色或ハ灰色ヲ有シ不整有角性ニシテ皺縮シ薄キ皮膜ニ由テ縦徑ニ團結セラル種子ハ外胚乳及内胚乳(胚乳ヲ有シ細小ナル芽胎ヲ包有ス。

第百十六圖(E)(F)(G)ハ天然大ニ於ケル種々ノ形狀ヲ有スル小豆蔻ヲ示シ第百十七圖ハ其寫真圖第百十八圖ノ(D)ハ其稍

較大セル横断面ニシテ其(d)ハ果壁トス(j)ハ著シク廊大セル種子ノ横断面、(k)ハ其縦断面ニシテ(p)ハ外胚乳(e)ハ内胚乳(em)ハ芽胎トス。

小豆蔻ノ種子ノ皮殻ノ横断面ヲ顯微鏡ニ檢視スレバ第百十九圖ニ示スガ如クo、qu、p、及stナル四層ヲ明視スルヲ得ベシ其内部ニ位置スル外胚乳eハ多方形菲薄ノ細胞ヨリ成ル。

小豆蔻ニ特異ナル峻烈芳香性樟腦様ノ氣味ハ特リ種子ニ存シ果殻ハ氣味ヲ有セス。

**(成分)** 小豆蔻ハ揮發油平均四二五%ヲ含有シ其灰分ハマンガンヲ含有ス。

**(應用)** 芳香性ノ健胃藥トシテ用ユ其製劑ハ芳香散苦味丁藥芳香丁藥等ナリ。

凡ソ「カルダモム」ト稱スルモノニ諸種アリ其中最モ佳快ノ氣味ヲ有スルハ本條ノ生藥即チ小豆蔻ニシテ現行日本藥局方ニ於テハ之ヲ藥用品ニ採用シ前藥局方ノ縮砂ニ換代セリ今各種ノ「カルダモム」ヲ左ニ列記スベシ。

●長形カルダモム 錫蘭カルダモム Cardamomum longum seu zeylanicum.

小豆蔻ノ一種ニシテ錫蘭ノ中央部又南部ニ産スル Eleutheria major Smith. ナル薑科植物ニ淵源スルモノナリ此果實ハ最モ小豆蔻ニ類スレトモ之ヨリモ遠ニ長ク長サ四cmニ超ユルモノアリ

長形カルダモム

圖 十二百第



大サハ八 mm ニ過キズ彎曲シ顯著ナル稜線ヲ現ハシ  
暗灰色ヲ有ス其味ハ小豆蔻ニ比スレバ佳快ナラズ精・苛  
烈ナリ水ト共ニ蒸餾スレバ揮發油三〇%ヲ得此揮發油  
ヨリ往々固形物ヲ析出スルコトアリ是レ恐ラクハ尋常  
ノ樟腦ニ外ナラス第百二十圖ハ長形カルダモムノ寫眞  
圖ナリ。

縮砂

●縮砂●  
Fructus Amomi.

縮砂ハ暹羅及其西方ニ位スル英領マナカリウム地方ニ産スル *Amomum xanthioides* Wallich. ノ

圖 一十二百第



果實ナリ其果殼ハ長サ一牛 cm 太サ一 cm ニ至ル長圓形

圖 二十二百第



ノ蒴果ヲナシ柔刺ヲ帶フルヲ以テ其特徴トス内部ニ三房ヲ有シ子衣ニ由テ團結セラル、多數ノ種子ヲ包藏ス坊間販賣ノ品ハ多クハ果殼ヲ去リ箇々ニ分散シ成ハ團結セル種子ヨリ成リ間々又果殼ヲ被ムルモノアリ其種子ハ堅硬多角性ニシテ暗褐色ヲ有シ太サ三 mm ニ過キズ種子ノ

伊豆縮砂

圖 三十二百第



氣味ハ頗ル小豆蔻ニ類ス第一板日本藥局方ハ此縮砂ヲ掲ケタレトモ第二板藥局方ヨリ小豆蔻ヲ以テ之ニ換代セリ蓋シ縮砂ハ古來ヨリ汎ク本邦市場ニ行ハル、ノ便アレトモ其氣味ノ小豆蔻ニ劣ルガ爲メナリ第百二十一圖ハ縮砂ノ果實ニ多數ノ果實ヲ簇着スルモノ並ニ其一果實ヲ割裂シテ種子ノ集團セルモノ及其種子ノ二三箇ヲ示ス第百二十二圖ハ天然大寫眞圖ナリ。

縮砂ハ余之ヲ實驗ニ微シ少量ノ揮發油及龍腦ヲ含有スルコトヲ檢明セリ。

本邦ニ伊豆縮砂ト稱スルモノアリ駿地ノ山麓陰地ニ産スル

*Alpinia japonica* Thunb. (山薑)ノ種子ナリ藥舖ニ販賣スル種子ハ多角

性ニシテ其實堅ク汚白灰色ヲ有シ太サ三 mm ニ至ル内部ハ白色ニシテ外胚乳及内胚乳ヲ有ス伊豆縮砂ハ芳香性ノ氣味顯著ナラス恐ラクハ藥用ニ堪ヘズ。

又漢藥ニ益智ト稱スルモノアリギブール氏ハ其原植物ヲ *Zingiber nitidum* Gaubert トナセトモ敢テ其當ヲ得サルモノ、如シ益智ハ蒴果ニシ

テ橢圓形或ハ卵圓形ヲ有シ頂端ニ小嘴ヲ載キ基部ニ果梗ヲ着ケ長サ一牛 cm ニ至ルモノアリ汚暗灰色ヲ有シ多數ノ縱脈ヲ有シ中ニ暗灰色多角性ノ種子多數ヲ包藏ス香氣佳快ナラズシテ味苦シ本條ノ生藥

益智仁

圖 四十二百第



白豆蔻

ニ代用シ雖シ、第百二十三圖ハ益智ノ天然大寫真圖ナリ。

●白豆蔻 Fructus Cardamomi rotundus.

一ニ之ヲ圓形カルダモムト稱ス。暹羅、瓜哇、スマトラ等ノ諸國ニ産スル Annonum Cardamomum L. ノ果實ナリ。其果實ハ圓形ニシテ鈍キ三稜ヲ現ハシ淡類白色ヲ有シ揉碎シ易シ微ニ縱脈ヲ現ハシ處々ニ短キ剛毛ヲ帶フ。内部三房ニ分レ各房中ニ八九箇乃至十二箇ノ圓結セル種子ヲ包藏ス。其種子ハ暗灰色ニシテ細微ナル皺紋ヲ帶ヒ樟腦性ノ味ヲ有ス。第百二十四圖ハ白豆蔻ノ寫真圖ナリ。

●ヲニルラ Fructus Vanilla.

(基原)

(獨) Vanille.  
(英) Vanilla.  
(佛) Vanille.

ヲニルラハ西班牙人始メテ之ヲ歐洲ニ齎致シ歐洲ニ於テハ一千六百年代已ニ貴重ナル香料料ノ位置ヲ占メタリ。ヲニルラハ蘭科 (Orchidaceae) ノ植物 Vanilla planifolia Andrews. (第百二十五圖) Aハ花ヲ帶フル植物、Dハ其莢果ノ縮小圖ノ果實ナリ。墨西哥東部ノ沿岸ニ於ケル溫暖ニシテ濕潤ナル森林中ニ野生シ又此地方ニ培植ス。當時ハ西印度、マウリチウス及レユニオン其他東印度ノ瓜哇及西印度ノタヒチ等ノ諸島ニ移植シ盛ニ其培養ヲ行フ。

今ヲニルラノ培養法及採集法ヲ茲ニ詳記センニ本植物ノ胚胎ヲ受ケタル後一兩日ヲ經テ葉ヲ帶ヒタル儘其幹ヲ長サ大約一尺宛ニ切り已ニ一定ノ位置ニ植エタル樹木又ハ木桿ノ下邊ニ大約五 cm 深ク之ヲ地ニ挿ムトキハ其挿

第百二十五圖



木ハ霖雨ノ期節ニ根ヲ發生シ漸ク生長シテ樹幹ニ攀昇ス。早魁時ニハ挿木ノ周圍ニ石ヲ置キテ常ニ濕氣ヲ保タシムルニ注意ス。種植後三年ニ至レバ花ヲ生シ此年ヨリ向フ十ヶ年間ハ年々一株ヨリ二十箇乃至三十箇ノ果實ヲ得ヘ

シ。爾後尙ホ十ヶ年間ハ結實スレトモ收穫ハ鮮ナシ。本植物ノ花ノ生活期間ハ甚タ短ク大約午前四時ヨリ正午十二時ニ至ルニ過キス。而シテ胚胎ハ單ニ昆蟲ノ媒介ノミニ一任シ置キ難キガ故ニ竹箸ヲ用キテ花粉ヲ採リ之ヲ他ノ花ノ柱頭ニ附着セシメ以テ受胎作用ヲ幫助スルヲ必要トス。斯ノ

如クシテ受胎ヲ營マシメタル後二三日ヲ經過スレバ已ニ果實ノ發育ヲ見ルニ至ルベシ。多數ナル小形ノ果實ヲ得ルヨリモ寧ロ少數ノ大果ヲ得ルヲ以テ利潤多シトスルガ故ニ穗花ヲナセル果實ノ一部分ヲ除去シ以テ肥大ナル果

實ヲ發生セシムルヲ常トス。

果實ハ胚胎ヲ受ケタル後一ヶ月ヲ經レバ已ニ發育ノ極度ニ達スレトモ其稔熟スル迄ニハ尙ホ六七ヶ月ヲ要ス、未熟ノトキハ綠色ヲ有シ香氣ナク漸ク黃色トナリ充分稔熟スルニ至リ始テ褐色ヲ呈シ下部ヨリ上部ニ向テ破綻ス而シテ該果實ハ褐色ヲ呈スルニ迫ビ漸ク佳快芳香性ノ氣味ヲ發生シ全然稔熟スルニ至リ復タ其香氣ヲ消失スルガ故ニ黃色ノ時之ヲ採集シ徐々ニ乾燥シテ芳香ヲ發生セシム已ニシテ果實黃色ヲ呈シ採集ニ適當ノ時節ニ至レバ成ルベク晴天ノ日ヲ撰ミ缺ヲ以テ穗花ヲ切り採ルナリ而シテ其收穫期ハレユニオン島ニ於テハ五月乃至八月ニシテ墨西哥ニ於テハ十二月トス。

墨西哥ニ行ハル、果實調製法ハ下ノ如シ即チ採取セルワニルラ莢果ヲ毛布ノ上ニ駢（ま）べ其上ヲ毛布ニテ覆ヒ亦其上ニ果實ヲ並置シ斯ノ如ク代ハル々々毛布ノ間ニ果實ヲ駢（ま）べ日光ニ曝シテ徐々ニ乾燥セシメ漸ク其黑色トナルニ至リ更ニ火熱ヲ施シテ乾燥セシムルニ在リ、又一説ニハ日中ニハ日乾シ夜分ニハ毛布ニ包ミタル儘鐵罐ニ入レ蓋閉シ置キ其際分泌セル油分ハ丁寧ニ之ヲ採集シ果實ニ佳香ヲ附スルニ適用スト云フ。

レユニオン島ニ於テハ果實ヲ採集スルヤ直チニ之ヲ結束シ二三分時間沸湯ニ浸ス是レ之ニ附着セル蟲類ノ卵ヲ殺滅スルノ目的ヲ有スルモノナリ而シテ又其果實ノ破綻ヲ豫防センガ爲メ油ニ浸シタル絲ヲ以テ之ヲ括リ毛布ニ包ミ數日間日乾シテ黑色ヲ呈セシメ更ニ一二週間乾燥室ニ入レテ乾燥セシメ大約五十箇ノ果實ヲ以テ一束トナシ油紙ニテ之ヲ包ミ大約五キログラム入ノ罐トシテ輸出スルナリ。

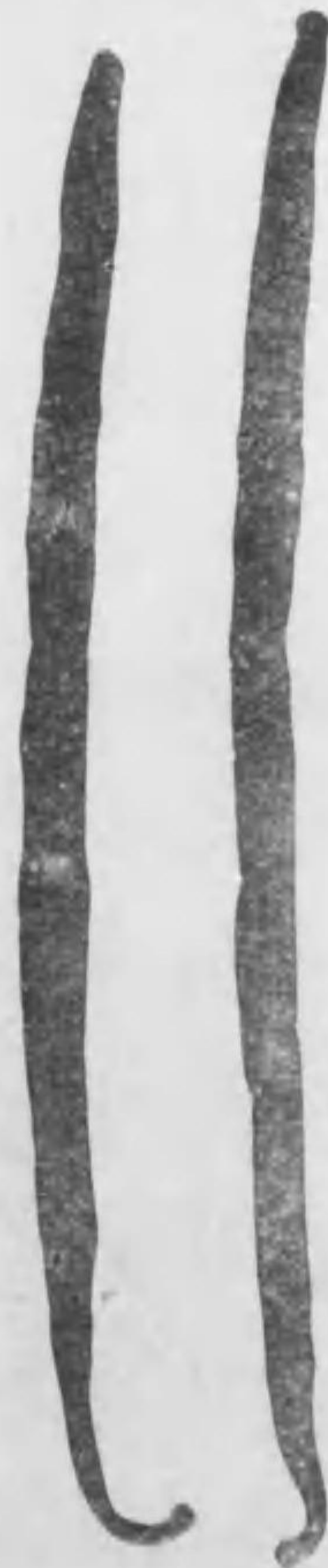
右ノ如ク果實ヲ罐ニ容ル、ハ常ニ之ヲシテ多少ノ濕氣ヲ帶ハシメ永ク柔軟ノ狀ヲ保存セシムル目的ニシテ封鎖緊密ナラサルトキハ果實自然ニ乾燥シテ破碎シ不良ノ外觀ヲ呈スルニ至ル。

本品ハ貯藏ノ際時日ヲ經ルニ從ヒ其外面ニ「ワニルリン」ノ結晶ヲ帶フルニ至ル市場最モ之ヲ賞美ス故ニ生産地ニ於テ往々反覆ワニルラヲ日光ニ曝シ或ハ罐封スル等種々ノ手段ニ由リ人工的ニ結晶ヲ生セシムルコトアリト云フ。

### (形狀)

ワニルラハ莢果ニシテ右ニ述フルガ如ク未タ稔熟セサル前其黃色ノ時期ニ至リテ之ヲ採集シ日光ニ晒乾シ或ハ温熱ヲ施シテ乾燥セシム此際類褐色ヲ呈スルニ至ル、ワニルラハ圓筒形ヲナシ多少扁壓セラレ長サ三〇三〇太

圖六十二百第

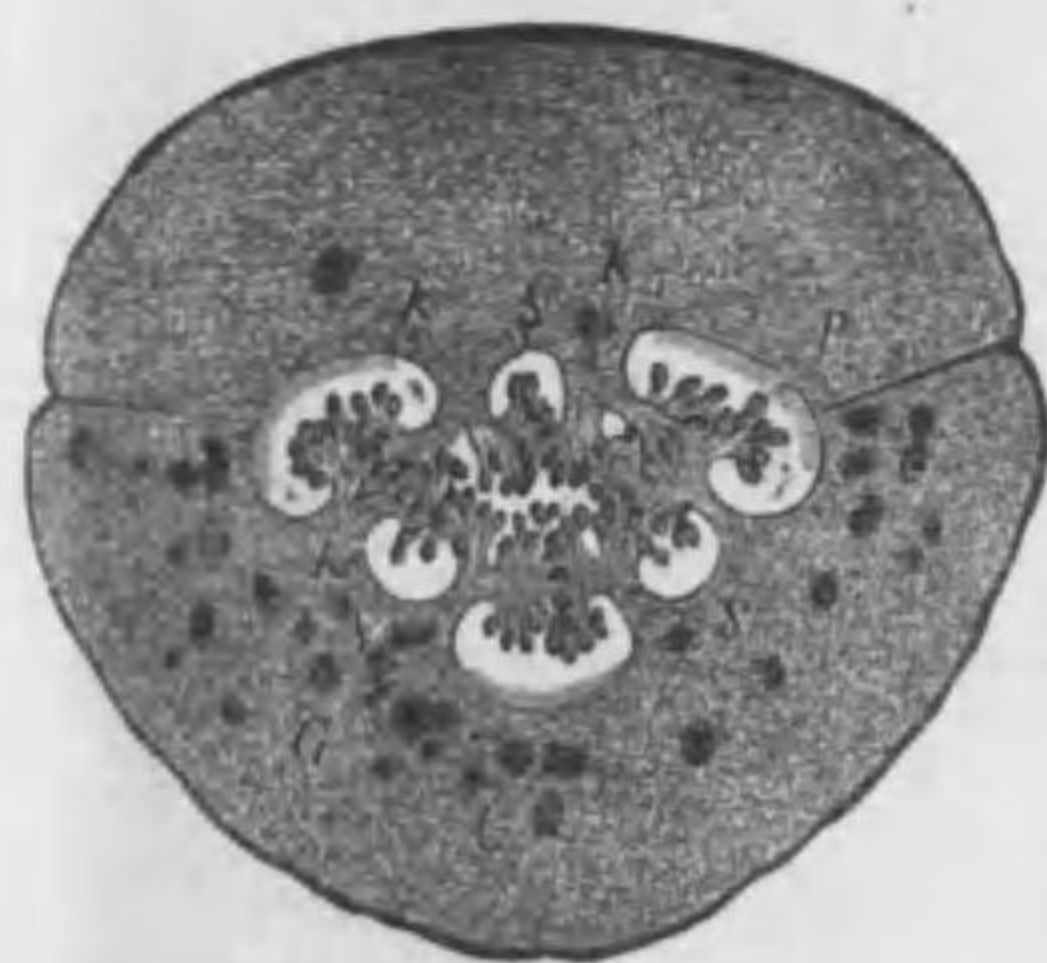


サ一 cm ニ過キス兩端ハ漸ク狹細トナリ外部ハ帶褐黑色ニシテ大ニ脂肪様ノ光澤ヲ帶ヒ深キ縦溝ヲ有ス佳品

ニ在リテハ間、白色ノ粉霜ヲニルリンヲ被ムル、横断面ニハ三箇ノ二股性胎盤

(第百二十七圖S)ヲ現ハシ其各股更ニ二股ニ分岐シ房中ニ遠曲シ其頂端ニ多數ノ種子ヲ着生ス。

圖七十二百第



第百二十五圖ハ花ヲ帶フルヲニルヲノ母植(A)及其莢果(D)ノ縮小圖、第百二十六圖ハワニルヲ實ノ自然大寫真圖、第百二十七圖ハ大約八倍ニ廓大セルヲニルヲノ横断面ニシテ(S)ハ胎盤、(K)ハ其兩股、(G)ハ脈管トス、房ノ空洞中

ニハ柔軟ナル果泥ヲ充填シ房壁ニハ長キ扁毛(P)ヲ着生ス。

ワニルヲニハ墨西哥産、ブルボン産及レユニオン産等ノ諸種アリ墨西哥産ヲ以テ最佳品トシ此品ハ曾テ歐洲ニ輸出スルコトナク專ラ北米ニ於テ使用セラレブルボン産及レユニオン産ノ二種ハ專ラ歐洲ノ市場ニ販賣セラル、モノナリ、其他爪哇産、マダガスカル産及タヒチ産等ノ諸種アレトモ品質劣等ニシテ歐洲ノ市場ニ於テハ曾テ聲價ナシ、ワニルロンス(Vanillois)ト稱スルワニルヲノ一種ハ多量ノ(Piperonal)ニ(Heliotropin)ト稱スヲ含有スルヲ以テワニルヲニ異ナル香氣ヲ有シ其基本植物ハ Vanilla Pompona Schiede 及 V. guianensis Split. 等ナリ。

(成分) 重要ナル成分ハ Vanillin (Methoxypropylprotonaldehyd)  $C_8H_8(OH)(OCH_3)CHO$  ニシテ其含量ハ墨西哥産ニ在テハ一・三二乃至一・六九%、ブルボン産ニ在テハ〇・七五乃至二・九〇%ニシテ爪哇産ハ一・五六乃至二・七五%トス其他ノ成分ハ少量ノ揮發油(〇・六二%)脂肪(五・七一%)砂糖(八・〇%)トス。

(應用) 本品ハ其氣味佳快ナルヲ以テ屢々調味藥トシテ應用セラレ間、又比斯的里、月經不調、萎黃病(鐵劑ニ伍ス)等ニ應用セララル通常ハ丁機又ハ糖劑トシテ用ユ、其主要ナル用途ハ茶、チョコレ

ト・アイスクリーム等ニ佳快ノ氣味ヲ附スルニ在リ但シ此目的ニハ目下去トシテ *Essenzol* (丁香油ノ主成分) ヨリ製出セラル、人工ニルリンチ用ユ。

(丙) 雙子葉植物ノ果實類 *Früchte der Dikotyledonen.*

● 菓澄茄 *Fructus Cubebae. Cubeba.*

(基原) 菓澄茄ハ一千百年代已ニ亞拉昆亞人之ヲ歐洲ニ齎致セリト雖トモ漸ク一千八百十八年ノ頃ニ於テ醫藥トシテ供用セラル、ニ至レリ。

菓澄茄ハ *Cubeba officinalis Mequ* ナル胡椒科 (*Piperaceae*) 植物(第百二十八圖)ノ果實ヲ成熟前ニ採收セルモノナリ、本植物ハ印度、爪哇及之ニ隣接セル諸島ニ野生シ或ハ培養セル高サ六mニ達スル蔓性灌木ニシテ又狀ニ分岐セル枝ヲ出シ其厚化セル關節ヨリ出ツル葉ハ基礎部斜心臟形ヲナシ葉體剛強ニシテ毛茸ヲ帶ヒ又短キ葉柄ヲ具有ス花ハ偏性ナリ雄性植物ハ長キ穗花ヲ出シ楯狀ノ苞葉ヲ帶ヒ其裏面ニ二箇或ハ三箇ノ雄蕊ヲ附着ス雌性植物ノ穗花ハ其卵圓形ヲナセル苞葉ノ腋ニ裡體ノ實礎ヲ附着シ熟スルニ從ヒ果梗ヲ生スルニ至ル、藥用ニ供スル菓澄茄ハ其果實ヲ未熟時ニ採集シ乾燥セルモノナリ、第百二

(獨) Rubeben.  
(英) Cubebs.  
(佛) Cubebs.

第百二十八圖



十八圖ハ本植物ノ雌性穗花ヲ示ス。

(形狀) 菓澄茄

ハ上文ニ述フル如ク未熟ノ時採集セル漿果ニシテ球圓形ヲナシ暗灰褐色ヲ有シ外面網狀ニ皺縮シ直徑大約五

三mm 基礎部ハ漸ク狹細トナリ長サ一cmニ過キササル果梗ニ移リ上部ニハ三乃至五瓣ニ分裂セル屢、不明ナル雌蕊頭ヲ戴ク内部ニハ只一箇ノ種子ヲ包藏ス、其種子ハ基立性ニシテ只其基礎部ニ於テノミ果壁ト癒着シ販賣品ニ於テハ往々萎縮スルコトアリ、種子ハ甚々著大ノ外胚乳ト顯著ナラサル胚乳、内胚

乳トヲ具有ス、但シ種子ハ粘縮セルヲ常トス。

圖九十二百第



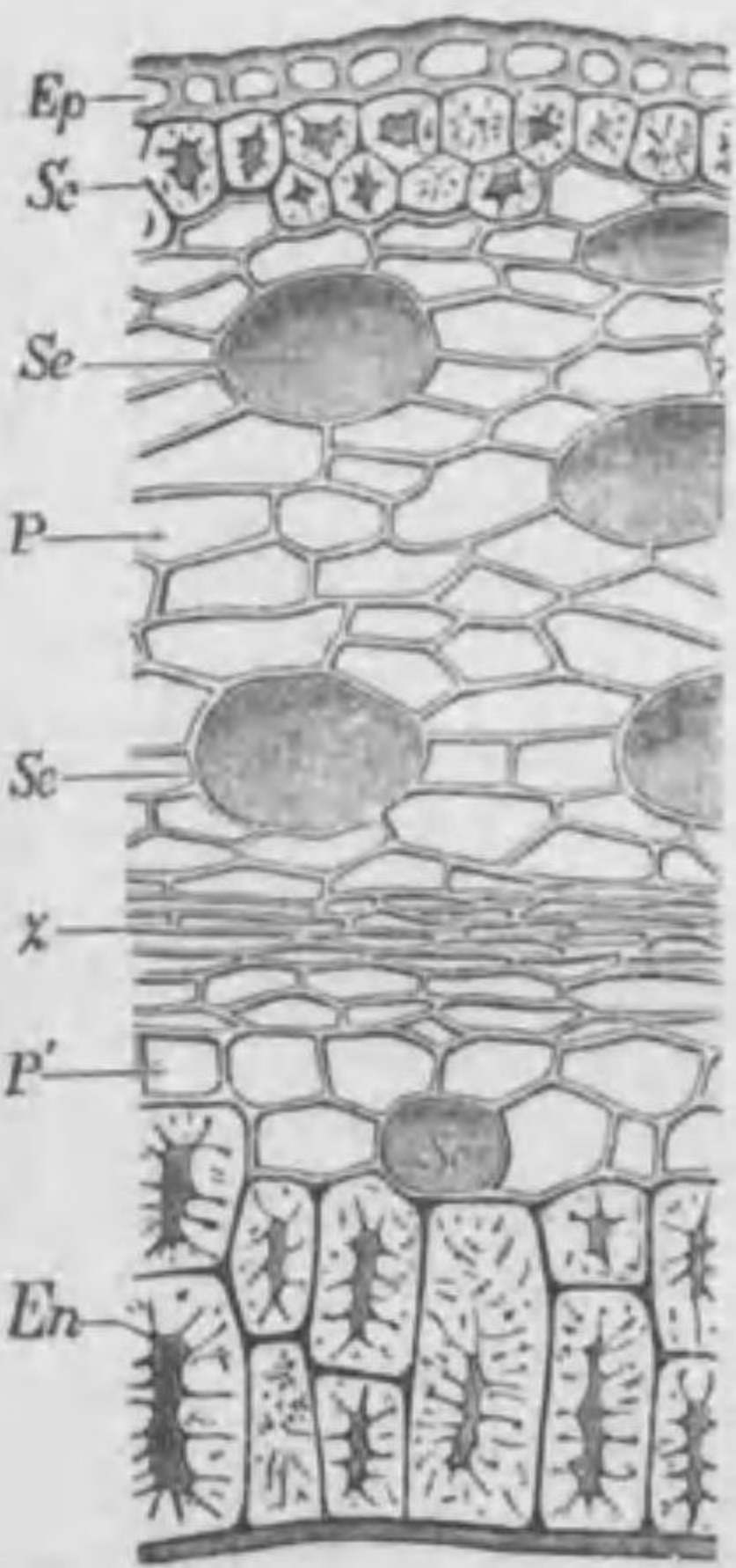
第二百二十九圖(A)ハ稍、廓大セル蕁澄茄ヲ示シ(B)ハ其縱斷面ナリ而シテB圖ノ(F)ハ果壁、(n)ハ雌蕊頭、(P)ハ外胚乳

(E)ハ胚乳(内胚乳)ニシテ(K)ハ芽胎トス。

蕁澄茄ハ其味竄透芳香性ニシテ苛烈ナラス少シク苦シ。

(顯微鏡的構造)蕁澄茄ノ果殼ノ橫斷面ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ其表層ハ

圖十三百第



部位アリ、之ヨリ内方ニ位スル果肉層ハ比較的厚ク葉綠及多クハ澱粉ヲ含有

上皮ヨリ成リ(第三百十圖)石核細胞層同圖(Sc)アリテ之ニ聯接ス石核細胞層ハ二列乃至三列ヨリ成リ其細胞ハ畧、骰子形ヲナシ皮壁頗ル厚化シ胞孔ヲ現ハス此層ニハ斷歇セララル、

スル細胞組織(P)ヨリ成リ之ニ次ケル層ハ壓迫セラレタル細胞組織(Sc)ヨリ形成セララル其内方ニハ小ナル細胞ヨリ成レル組織(P')ヲ見ル、果壁層中ニハ處々ニ分泌細胞(Sc)ヲ散在ス此分泌細胞ハ多クハ尙ホ液體ヲナセル分泌物ヲ包藏ス、最内側ノ層ハ半徑性ニ延長セル大ナル石核細胞(En)ノ二乃至三列ヨリ成ル。

(成分)蕁澄茄ハ揮發油ノ含量十三%ノ多キニ至ル此揮發油ハ主トシテ二

百六十四度ノ温ニ於テ沸騰スル所ノ炭水素(C<sub>15</sub>H<sub>22</sub>)ヨリ成リ往々C<sub>15</sub>H<sub>20</sub>(OH)ナル集成ヲ有スル一半、テルペンアルコールノ結晶ヲ析出スルコトアリ又クベニン(Kubebinin C<sub>18</sub>H<sub>26</sub>O<sub>2</sub>)ナル苦味質大約二・五%ヲ含有ス而シテ「クベニン」ハ往々果壁ノ組織中ニ結晶體トナリテ蓄積スルコトアリ、有効成分ハ「クベニン酸」(Kubebensäure C<sub>18</sub>H<sub>24</sub>O<sub>2</sub>)ナル無晶形樹脂様ノ物質ナリ。

本品ノ粉末ヲ購求スル場合ニハ顯微鏡的ノ検査ヲ行ヒ本品ニ特異ナル彼ノ石核細胞ノ有無ヲ檢ス又眞正ノ品ニ在テハ硫酸ヲ注加スレバ鮮紅色ヲ呈ス紅色ヲ呈セサルモノハ擬品トス。

(應用)

蕁澄茄ハ淋病ニ應用セラル、ノミ。

胡椒 (獨) Schwarzer Pfeffer.  
(英) Black pepper.  
(佛) Poivre noir.

(基原)

胡椒ハ已ニ太古ノ時代ヨリ香味料トシテ世人最モ之ヲ嗜好セリ。

●胡椒 黑胡椒 Fructus Piperi nigri. Piper nigrum.

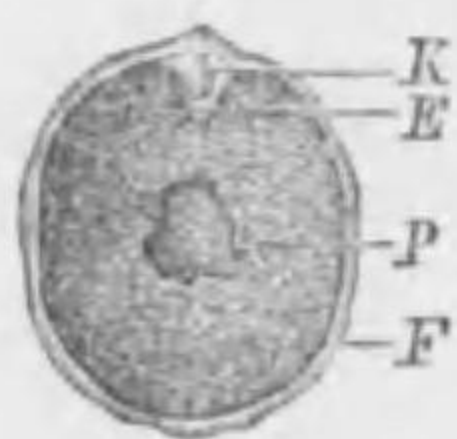
胡椒ハ Piper nigrum L.  
ナル胡椒科(Piperaceae)  
植物(第百三十一圖)ノ  
果實ナリ。前印度ノ西  
南地方ニ産シ現今ハ  
前印度地方及マラッカ  
海峡ノ沿岸ニ培植ス  
又西印度及北米ニ移  
植セリ。

圖 一 十 三 百 第

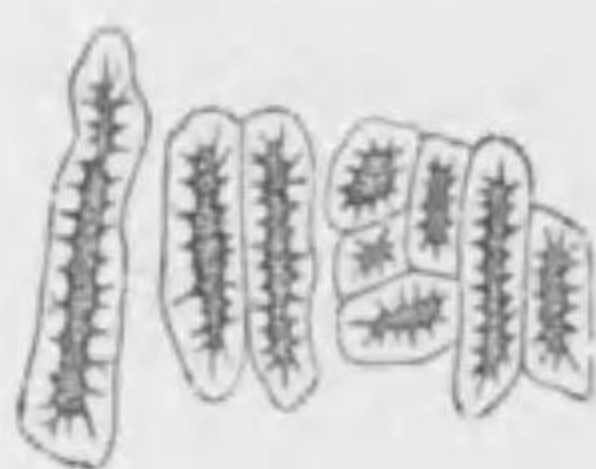


(形状) 胡椒ハ  
稔熟前ニ採集セ  
シモノニシテ球  
圓形ヲナシ黒褐  
色ヲ有ス坊間ノ

圖二十三第



圖三十三第



胡椒ハ氣味特異峻烈芳香性ニシテ灼クガ如シ。

(成分)

本品ニ特異ナル芳香性ノ氣味ハ樹脂ト揮發油トニ基因ス。揮發油ノ含量ハ二%ニ過  
キス。又 Piperin, C<sub>17</sub>H<sub>19</sub>N<sub>3</sub>O<sub>5</sub> ナル物質ヲ含有ス。此物質ハ無色稜柱狀ノ結晶ヲナシ殆ト無味ニシテ本品

品ハ乾燥セルヲ以テ大ニ皺縮シ直徑五mmニ過キス頂端ニ三乃至五瓣ニ分  
裂セル雌蕊頭ヲ戴キ基礎部ニハ果梗ヲ具有セス(稔熟前トノ區別)種子ハ果實  
ノ心底ニ附着ス其種子ハ殆ト外胚乳ヨリ成リ中央ニ空洞ヲ存ス胎卵ハ通常  
萎縮シ種子ノ尖端ニ位ス外胚乳ノ細胞ハ有角性ニシテ多クハ甚タ細小ナル  
澱粉ヲ包裹シ又ピペリン(成分ノ條)ヲ含有スル者アリ果壁ハ菲薄ニシテ其一  
部分ハ黄色ノ石核細胞ヨリ成ル果壁及外胚乳ノ組織中ニハ油室ヲ符在ス第  
百三十二圖ハ著シク廓大セル胡椒ノ縦  
断面ニシテ(F)ハ果壁、(P)ハ外胚乳、(E)ハ内  
胚乳、(K)ハ芽胎トス、第百三十三圖ハ果壁  
ノ一部分ヲナセル黄色ノ石核細胞トス、  
胡椒ノ粉末ヲ検査スルニ當テハ特ニ此  
石核細胞ニ注意スルヲ要ス。



ノ氣味ニ關係ナ有スル成分ニアラス其含量十三・三%ノ多キニ至ルコトアリ灰分ハ四・三乃至四・六%トス。

**(應用)** 本品ハ世人ノ最モ嗜好セル香味料ニシテ醫藥トシテハ粉末トナシ種ニ開飲熱ニ用キ又健胃藥トシテ與フルコトアレトモ稀ナリ其他舌部ノ麻痺ニ阻礙藥トナスコトアリ。本品ノ粉末ヲ検査スルニ當リテハ上文ニ示ス所ノ黃色石核細胞ノ存否、灰分(上文ヲ見ヨ)ノ量ニ注意スベシ、左ニ本條ノ黑胡椒ニ類スルニ二種ノ胡椒類ヲ記ス。

● 白胡椒 Piper album.

● 白胡椒ハ前記ノ植物即チ *Piper nigrum* L. ノ果實ノ熟熟スルヲ待チ採集シ摩擦洗滌シテ果壁ノ半層ヲ除去セルモノナリ故ニ白胡椒ハ類灰色或ハ帶黃白色ヲ有シ其外面滑澤ナリ而シテ黑胡椒ヨリ肥大ナルモノアリ、球圓形ヲナセドモ頂端多クハ稍扁壓セラレ下部ハ少シク尖銳ナリ周圍ニハ下部ヨリ上方ニ向テ通走スル十乃至十二箇ノ脈管ヲ具有ス、氣味ハ黑胡椒ニ比スレバ佳快ナリ、成分ハ黑胡椒ニ異ナルコトナシ。

● 草荳 Piper longum.

● 草荳ハ印度マレイ半島ニ産スル *Piper officinarum* D. C. 及他ノ植物ヨリ採集セルモノナリ、本邦沖縄縣ヨリモ出ダス而シテ本生藥ハ主軸ノ周圍ニ無數ナル果實ノ隔在癒合セシモノニシテ柱狀ナナシ長サ四乃至五 *cm*、粒ノ太サ六乃至八 *mm*、黒灰色或ハ赤灰色ヲ有ス、氣味胡椒ニ類スシトモ青調ニシテ約クガ知シ、吉來漢方醫藥ニ於テハ當今種ニ發煙機ニ用ユル

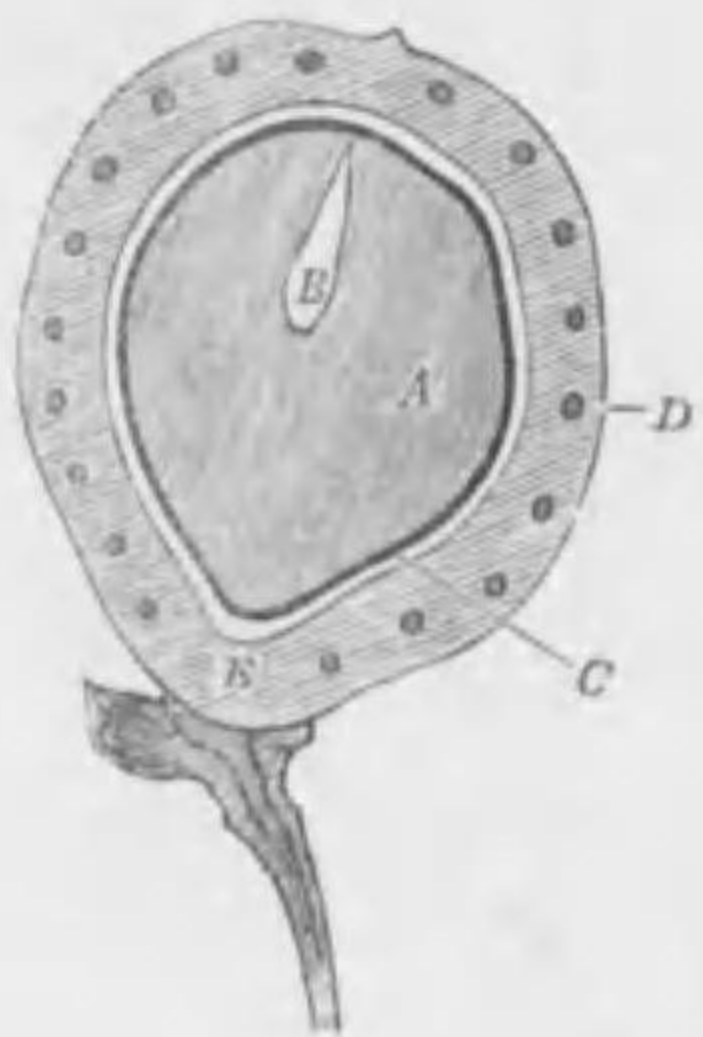
ニ過キス然レトモ此目的ニハ發煙機買ニアラス。

● 山椒 蜀椒 *Fructus Zanthoxyli.*

**(基原)** 山椒又蜀椒ハ本邦ノ各地ニ産スル芸香料 (*Rutaceae*) ノ小灌木 *Zanthoxylum piperitum* D. C. ノ果實ニシテ朝倉山椒ナルモノヲ以テ佳品トス。

**(形狀)** 山椒ハ覆果ニシテ畧球圓形ヲナシ直徑六 *mm* ニ過キス短キ果梗ヲ有シ黒色ノ種子ヲ包藏ス果殼ハ未熟ノ時ハ綠色ヲ有シ熟スルニ及ンデ黯褐赤色トナル二箇ノ心蕊ヨリ成リ熟スルトキハ其癒合部ヨリ破綻ス其表面ハ平坦ナラス「ルーペ」ヲ以テ之ヲ檢視スレバ細小ナル凹窩ヲ現ハス是レ其内部ニ存スル油室ニ適應スルモノトス、**第三百三十**

第百三十四圖



ル油室中ニ含蓋セル揮發油ヨリ來ルモノトス。

**四圖**ハ大約五倍ニ廓大セル山椒實ノ縱斷面ニシテ(E)ハ心蕊果殼(D)ハ油室(C)ハ子殼(A)ハ胚乳(B)ハ卵子ヲ示ス、山椒ニ特異ナル氣味ハ果殼ニ存シ種子ハ殆ント氣味ヲ有セス而シテ其氣味ハ果殼ノ表皮下ニ存スル巨大ナ

山椒 (獨) Zanthoxylonfrüchte.  
(英) Zanthoxylon seeds.  
(佛) Fruits de Zanthoxylon.

右ノ外ふゆさんしよ、いねさんしよ等アレヒ食料ニ適セス。

**(成分)** 右ノ揮發油ハ殆ント  $C_{10}H_{16}$  ナル Terpen ヨリ成リ少量ノアルデヒドヲ傍有ス又山椒ノ果殼ハ鐵液ニ由テ藍色ヲ呈スル所ノ一種ノ鞣酸ヲ含ム余ハ山椒ノ生藥學的及化學的實驗ヲ施シ其成績ヲ藥劑誌第二號第八葉以下ニ報道セリ。

**(應用)**

漢醫藥トシテ用キラレ其他嗜好品トシテ最も能ク行ハル。

● **大茴香** 八角茴香 *Fructus Anisi stellati.*

**(基原)**

大茴香ハ支那ニ於テハ太古ノ時代ヨリ醫藥ニ供セリト雖トモ其歐洲ニ渡來セシハ一千六百年代ニ在リ。

大茴香ハ五輪科 (*Magnoliaceae*) ノ植物 *Illicium anisatum* L. ノ果實ニシテ支那ノ南部ニ産ス。

**(形狀)**

大茴香ハ短キ花軸ノ頂端ニ水平ノ位置ヲ取り放線狀ニ排置セル六乃至八箇ノ心蕊(蒴果)ヨリ成ル(第百三十五圖)ハ其模型圖、第百三十六圖ハ其寫真圖ナリ、其各覆果ハ褐色小艇狀ニシテ皺紋ヲ帯ヒ漸ク鈍キ小嘴ニ移リ腹縫ニ沿フテ破綻ス、蒴果ノ内部ニハ光澤ヲ帶フルレンス形褐色直立性種子ヲ附

大茴香  
(獨) *Sternanis.*  
(英) *Star-anise.*  
(佛) *Anis étoilé.*

着ス、覆果ノ外層ハ鬆疎厚壁性ノ廣キ細胞ヨリ成リ揮發油蒸ニ存ス、中層ハ纖

維形ノ細胞、内層ハ散子形ノ石核細胞ヨリ成リ種子ノ占居セル部位ハ縱徑ニ排列セル圓筒形細胞ヲ被ル、種子ハ油狀ノ胚乳ヨリ充填セラレ其基礎部ニハ彎曲セル微細ノ卵子ヲ包藏ス、大茴香ハ小茴香ニ類スル佳快芳香性ノ氣味ヲ有ス。

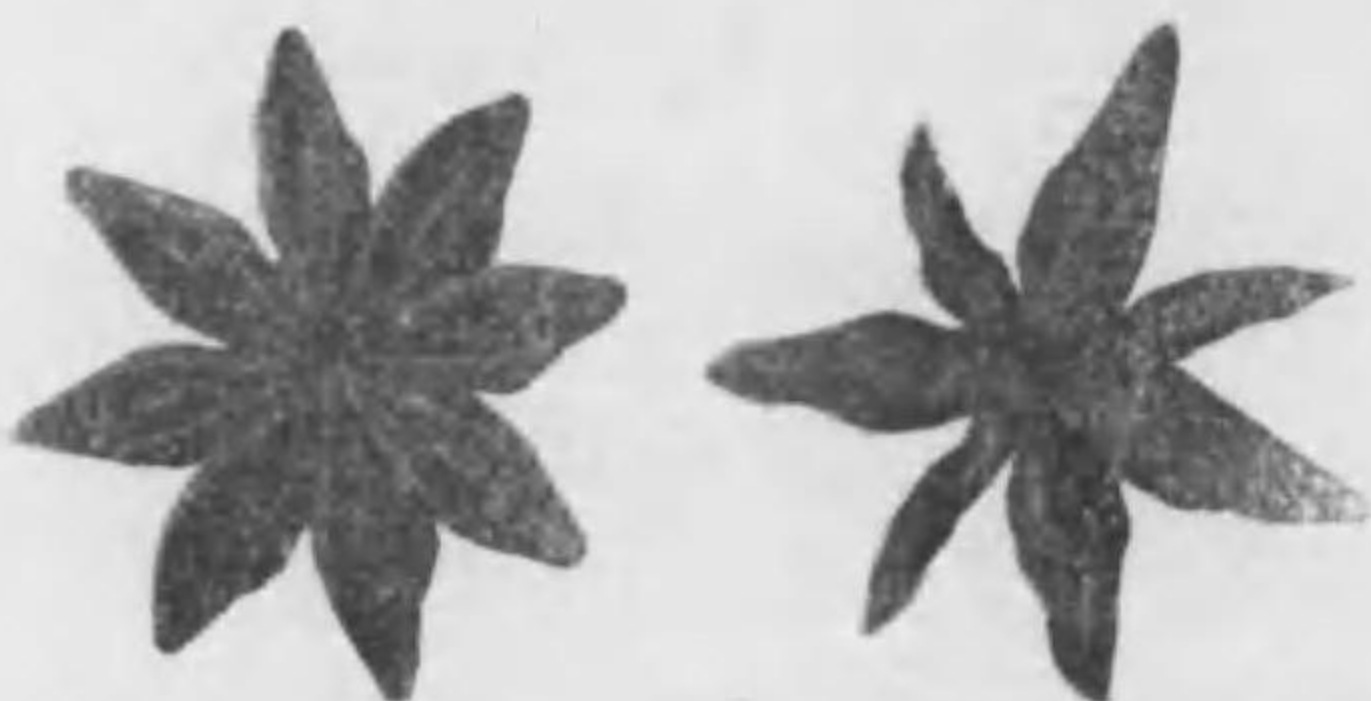
**(成分)**

大茴香ハ之ヲ水ト共ニ蒸餾スレバ揮發油大約五%ヲ得其揮發油即チ

圖五十三百第



圖六十三百第



大茴香油ハ主トシテアネトール (*Anethol*) ( $C_{10}H_{12}O$ )、サフロール (*Safrol*) ( $C_{10}H_{10}O_2$ )、アニス酸 (*Anisic acid*) ( $C_9H_8O_3$ )、 $COOH$  等ヨリ成リ又砂糖、粘液、脂肪油等ヲ含有ス。

**(應用)**

大茴香ハ興奮藥、驅風藥トシテ應用セラレ通常ハ茶劑トナシテ之ヲ用ユ。  
● 日本産大茴香 莽草實。

日本産大茴香  
(模實)

圖七十三百第



本邦各地ニ産スルシヤウ莽草(橘)即チ *Illicium religiosum* Sieb. & Zucc. ノ果實ニシテ其形狀概シテ本條ノ生藥即チ支那産大茴香ト異ナルコトナキモ精細小ニシテ覆果ノ頂端尖鋭且ツ著シク彎曲セルノ蓋アルノミ其氣味ハ全ク支那産大茴香ト異ニシテ小茴香或ハ藜蘆茄ニ對シ僅ニ一%ノ揮發油ヲ含有ス此ノ揮發油ハ佳快ノ香氣アルサフロール(Salvol) (C<sub>10</sub>H<sub>16</sub>O<sub>2</sub>)ナル化合物ヲ含有ス大ニ脂肪油ニ富ム日本産大茴香ハ毒性ヲ有ス決シテ支那産大茴香ト混有ス可カラス其有毒成分ヲシキミン酸 (Sulkininsäure) ト稱スレトモ今尙ホ疑問ニ屬ス第百三十七圖ハ日本産大茴香ノ寫眞圖ナリ。

● 橙皮 *Cortex Fructus Aurantii.*

(獨) Bitterorangenschalen.  
(英) Bitter orange peel.  
(佛) Écorces d'oranges amères.

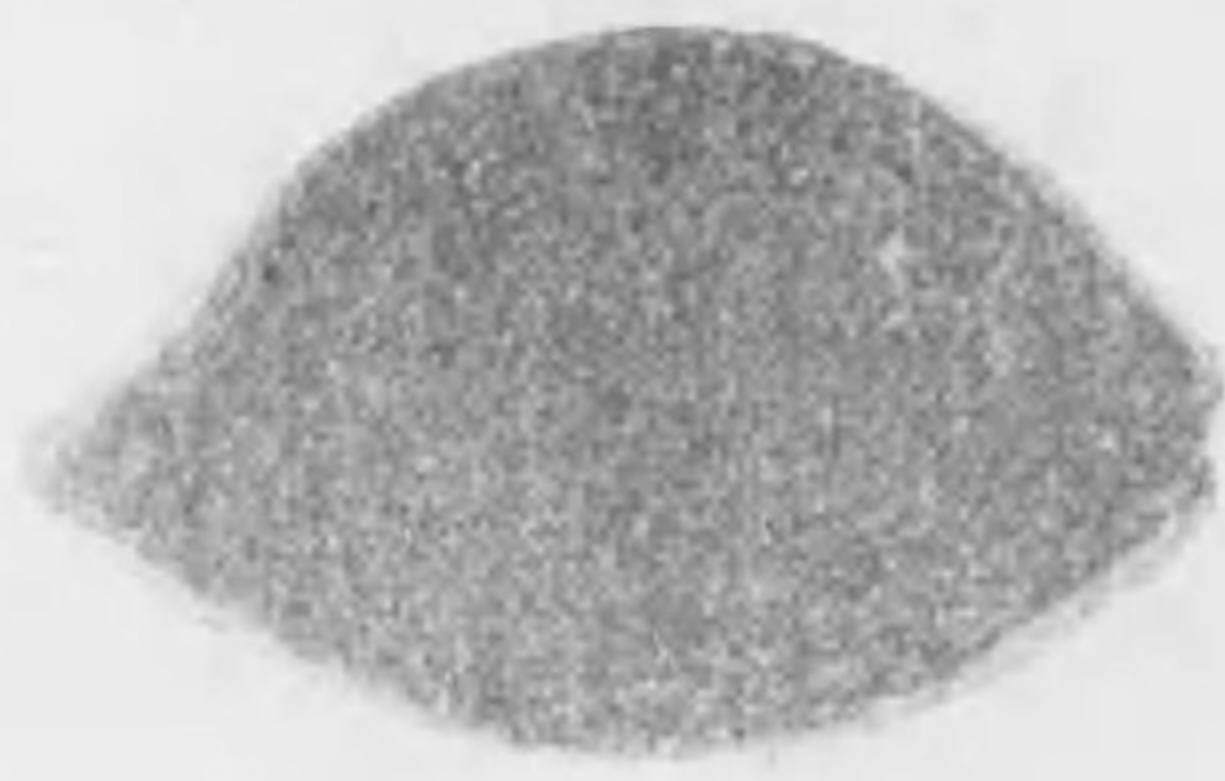
(基原) 歐洲ニテハ苦橙ビテラウカラシク 橙・本邦ニテハ臭橙オウケウノ熟果ノ皮ヲ尖橢圓形等ニ剝截乾燥セルモノナリ苦橙 *Citrus vulgaris* Risso (*Citrus Bigaradia* DuRoi) ハ前印度ノ東北部ニ天生シ地中海濱ノ各地其他温暖ノ地方ニ汎ク培植セル芸香科 (*Rutaceae*) ノ分科橙科 (*Aurantaceae*) ノ常綠樹ニシテ臭橙オウケウハ本邦及支那ニ培植セル其分類ナリ、歐洲ニ於テハ中世ノ始メ亞拉毘亞人ヨリ之ヲ傳ヘタルモノ、

如シ。

(形狀)

橙皮ハ通例橙實ノ尖端及果梗痕ヲ除キ注意シテ果肉ヲ破ラサル様四箇ノ尖橢圓片ニ分截シテ剝皮シ成ルヘク内面ノ白色部ヲ除キテ乾燥セル

圖八十三百第



圖九十三百第



モノヨリ成リ大約五 mm ノ厚サヲ有シ乾燥スルモ球面形ヲ失ハス破折スルヲ得ヘク外部ハ黃赤褐色ヲ有シ(黃色部 Flavido) 内部ハ類白色ヲ有ス(白色部 albedo) 其黃色部ニ於テハ單一若クハ重複列ヲナシテ巨大ナル油竇ノ存スルヲ見ル而シテ外面ニ於テハ此油竇ニ一致スル所ノ小凹窩ヲ現ハス藥用ニ供スルニハ其海綿様ナル白色部ヲ除ク、第百三十八圖ハ橙皮ノ一片ノ寫眞圖ニシテ第百三十九圖ハ橙皮ノ橫

断面ヲ示ス、其(a)ハ天然大、(b)ハ稍、廓大セルモノニシテ油竇ヲ示ス。橙皮ハ特異芳香性ノ氣味ヲ有シ兼テ苦味アリ。

(獨) Unreife Pomeranzen.  
(英) Petit grain.  
(佛) Orange pease.

圖 十 四 百 第



圖 一 十 四 百 第



**(成分)** 其主要成分タル揮發油ハ橙皮油トシテ搾出シ特ニ藥用ニ供セララル、者ニシテ主トシテ「リモネーン」(Limonen  $C_{10}H_{16}$ ) ヨリ成ル其他ヘスベリヂン(Hesperidin  $C_{28}H_{34}O_{15}$ ) ナル一種ノ配糖體グリコシド及一種ノ苦味質鞣酸等ヲ含有ス。  
**(應用)** 健胃藥トシテ單味ニ應用スルニトアレトモ多クハ丁幾、越幾斯或ハ舍利別トナシテ苦味健胃藥ニ入り或ハ矯臭性ノ佐使藥トナス。

● 未熟橙實 Fructus Aurantii immaturi.

**(基原)** 未熟橙果ハ橙科ニ屬スル Citrus Brevipedia Dulcan. (橙)ノ果實ヲ未熟ノ

トキニ採集シ乾燥セルモノナリ橙ハ專ラ本邦伊豆地方ヨリ出ス。

**(形狀)** 未實橙果ハ畧圓形ニシテ直徑往々二cmニ至リ基礎部ニハ果梗ノ附着セシ跡ヲ存シ頂端ニハ細小淡類黃色ノ雌蕊ヲ戴ク外面ハ類綠色或ハ類

(獨) Zitronenschalen.  
(英) Lemon peel.  
(佛) Écorce de citron.

褐色ニシテ平坦ナラス皺縮シ多數ナル窩點ヲ現ハス内部ハ八乃至十二房ニ分レ各房ハ果實ノ中心柱ニ於テ相連合シ其各房中ニハ卵子アリ二列ヲナシテ排置セラル、又果壁ヨリ皮膜ノ房中ニ竄入スルヲ認メ果壁ノ外邊ニハ融生油室ノ存在スルヲ見ル、**第四百四圖**ノ a b d c ハ未熟橙實ニシテ e ハ其橫截面ヲ示ス、**第四百一圖**ハ未熟橙實ノ自然大寫真圖ナリ。  
**(成分)** 本品中ニ含メル揮發油ハ蓋シ歐洲産ニ佛國産未熟橙果中ニ含ム所ト同一ナラン而シテ仍ホ Hesperidin ナル配糖體及苦味質ヲ含有ス。  
**(應用)** 健胃苦味藥トシテ川ユ、國逸藥局方ニ於テハ苦味丁幾ノ配合藥タリ。

● 枸櫞皮 Cortex Citri Fructus.

**(基原)** 枸櫞(檸檬)即チ Citrus Limonum Risso ハ印度ヒマラヤ山ノ南部ヨリ移植セシモノニシテ

目下地中海沿岸葡葡牙及他ノ温帶諸國殊ニ伊國ノメツシナ及パレルモニ於テ之ヲ培養シ本邦小笠原島ニモ移植セリ。

**(形狀)** 枸櫞皮ハ前記植物ノ稔熟セル果實**第四百二圖**ハ其天然大寫真圖ノ皮ヲ螺旋形帶條ニ剝取シ乾燥セルモノニシテ厚サ二cmニ過キス外面ハ其

圖二十四百第



色、類赤色ヨリモ寧ロ帶褐黄色ニ近ク多數ナル疣贅狀ノ隆起物及窩點ヲ現ハス是レ其内部ニ巨大ナル油室ヲ包藏スルニ由ル此油室ハ横断面ニ於テハ表皮ニ密接シテ存在シ又其近傍ハ完全ニ發育セル檸檬酸カルチウム及ヘスベリヂン(Hesperidin)ノ團塊ノ存在スルヲ見ル、枸櫞皮ハ特異ノ芳香ヲ有シ味ハ

**(成分)**

微ニ苦シ但シ乾燥スルニ從ヒ大ニ其芳香性ノ氣味ヲ失フモノトス。  
本果ノ主要ナル成分ハ揮發油即チ枸櫞油(Oleum Citri)ニシテ此枸櫞油ハ Limonen ト稱スル<sup>リモノネン</sup>テネン(C<sub>10</sub>H<sub>16</sub>)ノ外フェルランドレン(C<sub>10</sub>H<sub>16</sub>)ノ少量ヲ含ム其特異ノ氣味ヲ代表スル成分ハ Citral (C<sub>10</sub>H<sub>16</sub>O) ト稱スルアルデヒド及 Citronellal (C<sub>10</sub>H<sub>18</sub>O) トス其他少量ノ Linalool (C<sub>11</sub>H<sub>18</sub>O) 又醋酸ゲツニール(Geranylacetat C<sub>15</sub>H<sub>24</sub>O<sub>2</sub>)ヲ含有スルモノト如シ。

**(應用)**

調味藥トナス其他強チットマン氏煎ノ一成分トス。

● **ラムヌス實** Fructus Rhamni catharticae.

**(基原)**

ラムヌス實ハ歐洲ニ於テハ己ニ中古ノ時代ヨリ家用會利樹(Rapum tinctorum)ヲ製スルノ用ニ供セリ。

ラムヌス實ハ Rhamnus cathartica L. ナル植物ノ果實ナリ此植物ハ鼠李科(Rhamnaceae)ニ屬シ歐洲及中央亞細亞ニ播布スレトモ最北部ノ地ニハ産セス。

**(形状)**

ラムヌス實ハ球圓形ヲナシ黑色ニシテ光澤ヲ帶ヒ直徑大約一cm、頂端ニ短キ雌蕊基ヲ戴キ基礎ニハ圓板形ノ萼内萼ヲ着ク、ラムヌス實ハ乾燥スルノ際其帶綠類褐色鬆疎ノ果肉收縮シ果實ノ表面著シク皺縮ス内部ハ四房ニ分レ四箇ノ種子ヲ包藏ス然レモ其一房ハ往々萎縮シ只三箇ノ種子ヲ含有スルモノアリ、**第四百十三圖**(f)ハ自然大ノラムヌス實(d)ハ其横

圖三十四百第



断面ヲ示ス種子ハ直立性ニシテ縱徑ニ重疊セルヲ以テ腹面ニ深キ縱溝ヲ現ハシ横断面ハ畧蹄鐵形ヲナシ其黄色ナル子葉ハ子殻ニ沿フテ胚乳中ニ彎存ス、果肉ノ外層ハ葉綠素ヲ含有スル細小ナル細胞ヨリ成リ其内層ハ巨大薄壁性ノ細胞ヨリ構成セラル其細胞ハ「アルカリ」ニ逢フテ藍色或ハ帶藍綠色ヲ呈ス、新鮮ナルラムヌス實ヨリ搾出セル津汁ハ果實ヨリモ屢、藥用ニ供セラル、者ニシテ綠色ヲ帶ヒ

(獨) Kreuzdornbeeren.  
(英) Buckthorn berries.  
(佛) Baies de nerprun.

不快ノ臭氣ヲ有シ其味ハ初メ微ニ甘ク後不快ニシテ苦シ、此津汁ハ「アルカリ」ニ由テ黄色ヲ呈シ過クロール鐵ニ由テ汚綠色ヲ現ハシ酸類ニ逢ヘバ赤色トナル而シテ時日ヲ徑ルニ從ヒ赤色ニ變スルモノトス。

**(成分)**

恐クハ、キサントラムニン (Xanthoxanthin) ナル黄色結晶性ノ色素ヲ含有ス。

峻下藥トシテ用ユ、通常ハ含利別トシテ與フ。

**(應用)**

●鼠李子 Fructus Rhamni japonicae.

漢藥中瀉下藥トシテ應用スル所ノ鼠李子ハ *Rhamnus japonica* Max. var. *semitra* Max. (鼠李即チおほくろうめもぎき) ノ果實ナリ、圓形ノ漿果ヲ爲シ太サ大約五 mm 帶褐黑色ニシテ光澤ヲ帶ヒ頗ル皺縮シ間ニ基礎部ニ圓形ノ萼痕ヲ着ク、果肉ハ鬆疏ニシテ二房ヲ有シ各房中ニ一箇ノ直立性種子ヲ包藏ス、然レトモ鼠李子ハ其一房發育ヲ停止シ只一箇ノ種子ヲ包藏スルモノ多シ、種子ハ褐色ニシテ長形ヲナシ背面帶、彎隆シ腹面凹陥ス、胚乳ハ類褐色油性ニシテ其中央ニ比較的著大ノ子葉ヲ有スル、胚子ヲ包藏ス、鼠李子ハ未タ化學的檢査ヲ經サレトモ恐クハ彼ノキサントラムニンナル黄色ノ色素ヲ含有ナスナリ。

●アニース實 Fructus Anisi.

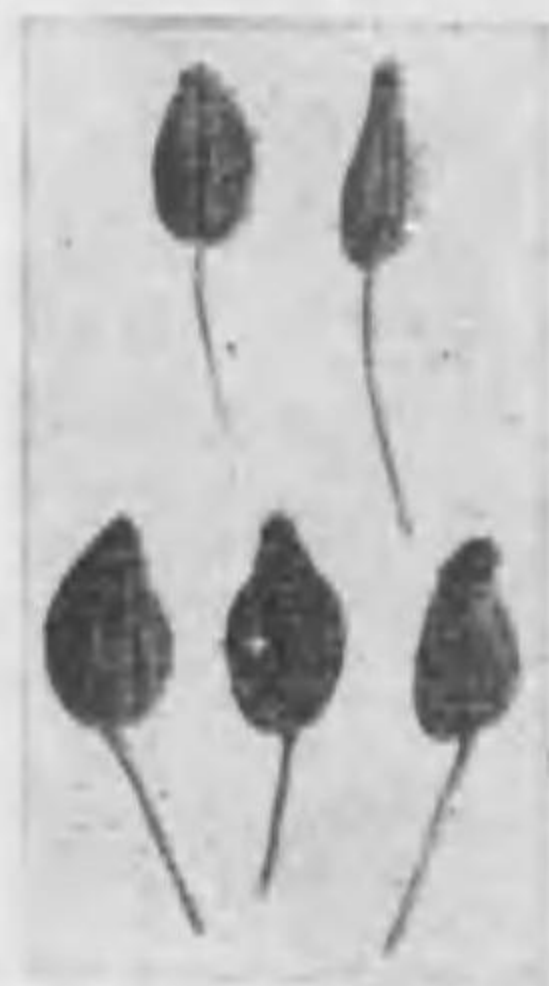
**(基原)**

アニース實ハ已ニアリストテレス氏ノ時代ヨリ世人ノ嗜好セル香味料ノ一ニ居リ *Prunella Anisum* L. ナル蕁麻科 (Umbelliferae) 植物ノ果實ナリ、温帯諸國ニ之ヲ培養ス。

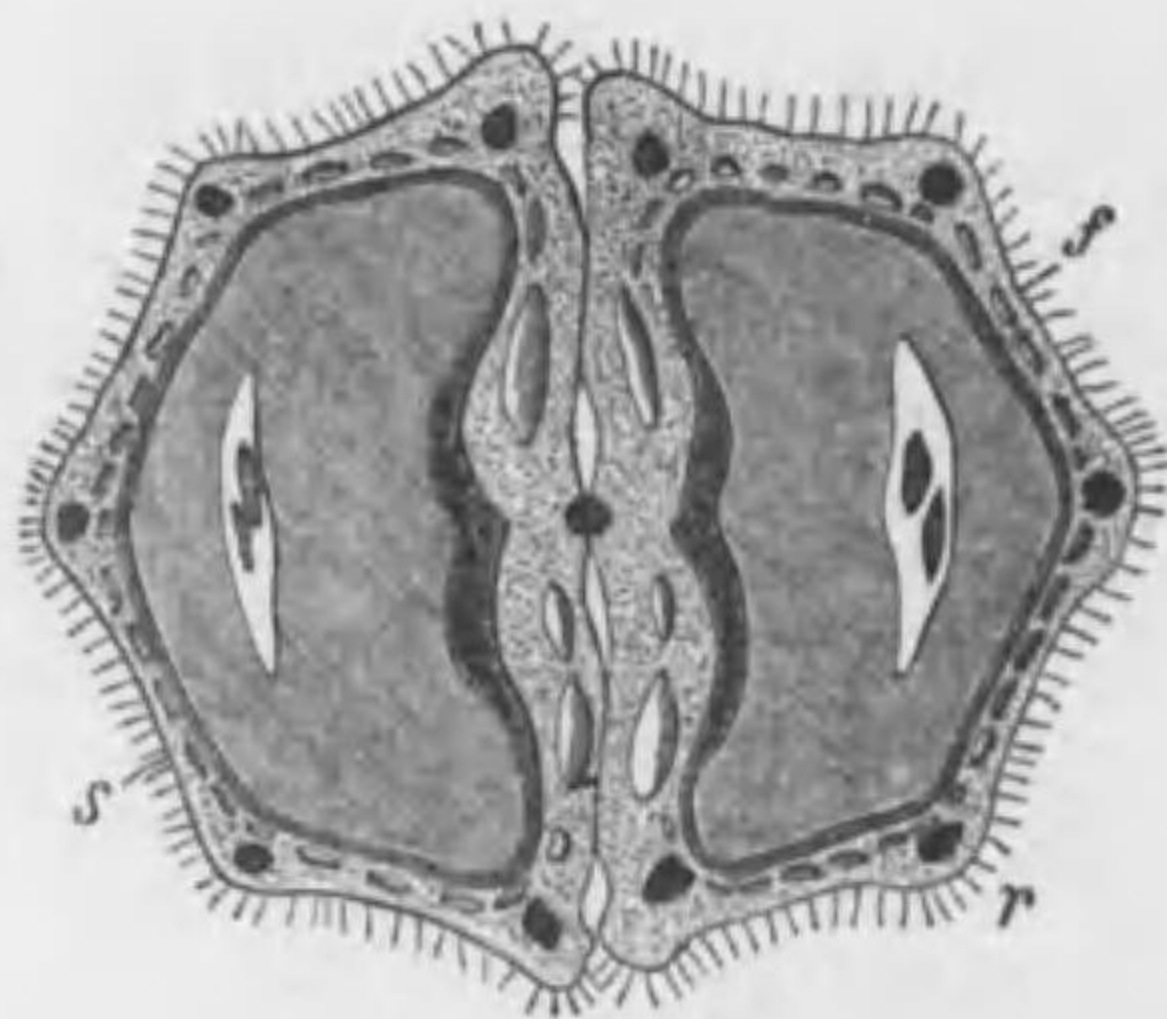
**(形状)**

アニースノ母植物見上ニハ微形科ノ分科 (Orchospermeae) 直卵科ニ屬シ其種子ノ胚乳ハ兩分果ノ符合面ニ於テ稍、凹陥ス、兩分果ハ當ニ連接シ畧、蕪菁形ヲ爲シ長サ五 mm ニ過キズ基礎部ノ太サ三 mm ニ至リ扁壓セラレ頂端著シク狹細トナリ雌蕊基及雌蕊柱ヲ戴ク外面ハ灰色或ハ類綠色ニシテ光澤ナク剛毛ヲ帶フ、其分果ハ僅ニ隆起セル五條ノ淡明ナル細キ助線ヲ具有シ其助線間(果谷)ニハ油室ヲ認視ス可カラサレトモ各分果ノ横断面ニ於テハ其果壁ノ中層中ニ細小ナル油室大約三十箇ヲ有シ又各果分ノ符合面ニハ稍、巨大ナル油室一二箇ヲ有ス、第百四十四圖ハ約五倍ニ廓大セル「アニース實」ノ寫眞圖、第百四十五圖ハ著シク廓大セル其横断面ニシテ(ア)ハ剛毛、(イ)ハ助線、(エ)ハ油室ト

圖四十四第



圖五十四第



(獨) Anis.  
(英) Anise seed.  
(佛) Anis vert.

ス。  
氣味ハ特異芳香性ニシテ少シク甘シ。

**(成分)** 揮發油即チアニース油 (Oleum Anisi) ノ含量三%ニ至ル、アニース油ハ其味甘ク緩和ニシテ殆ント全ク、アネトール (Anethol  $C_9H_{10}O$ )、ヨリ成リ傍ラ少量ノ炭化水素ヲ含有スルノミ此揮發油ハ寒冷ニ於テハ殆ント全ク固結シテ板片狀ノ結晶塊トナル是レ、アネトールヲ析出スルニ由ル、アネトールハ二十度ノ温ニ於テ熔融シ二百三十一度ニ於テ沸騰シ又大茴香茴香油等ノ如キ揮發油ノ成分ヲナスモノトス。

**(應用)** アニース實ハ健胃驅風祛痰ノ目的ニ用ユ又アニース油ヲ製スルノ原料タリ。

● 茴香 小茴香 *Fructus Foeniculi.*

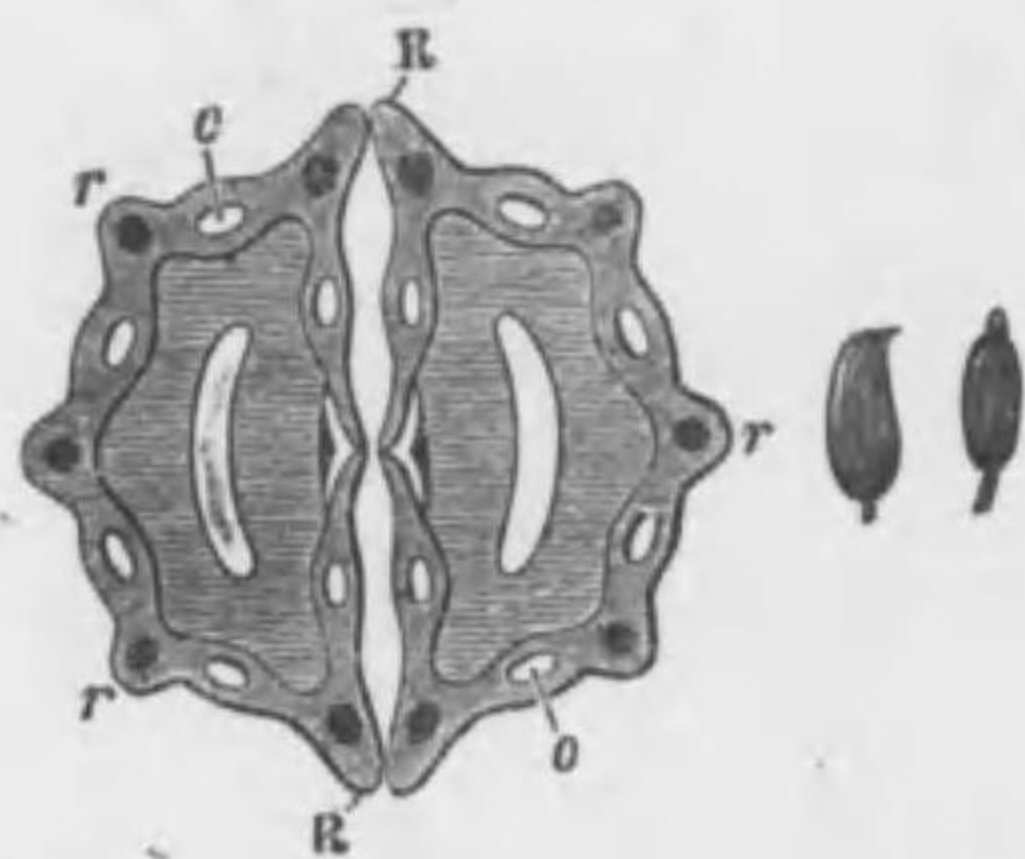
**(基原)** 茴香ハアニースニ於ケル如ク太古ノ時代ヨリ香料トシテ東西兩洋ニ嗜好セラレ歐州中古ノ時代ニ於テハ其需用アニースヨリモ汎カリキ、茴香モ亦繖形科 (*Umbelliferae*) ノ植物 *Foeniculum vulgare* Mill. (別名 *Foeniculum officinale* Mill. 及 *Foeniculum capillaceum* Gilbert) ノ果實ニシテ高加索山地方ヨリ地中海ノ沿岸歐洲西部ノ諸地ニ産ス目下獨國ウウルテムベルヒ領、埃國ガリチエン州伊

(獨) Fenchelamen.  
(英) Fennel fruits.  
(佛) Fruit ou semences de fenouil.

國佛國等ニ於テ多ク培植ス。

**(形状)** 茴香ハ畧圓筒形ヲナシ長サ四乃至三 mm 太サ三 mm 外面帶褐綠色ニシテ毛茸ヲ帶ヒズ頂端ニ殘基ヲ戴ク其兩分果ハ分離シ易シ各分果ハ背面ニ三條ノ助線ヲ具有シ其兩端ニ存スル二條ノ助線ハ特ニ著シク隆起ス而シテ助線ノ中間ニハ巨大ナル油室ヲ存シ又各分果ノ符合面ニ二箇ノ油室ヲ具有ス、第百四十七

圖六十四百第



圖七十四百第



六圖ノ右側ニハ自然大ノ小茴香二箇ヲ示シ左側ニ於テハ其橫斷面ノ廓大圖ヲ示ス(r)ハ助線(o)ハ油室(油脈)トス、第百四十七圖ハ茴香ヲ約二倍ニ廓大セル寫真圖ナリ。  
茴香ハ其氣味特異芳香性ニシテ微ニ甘シ。

茴香ハ產地ノ異ナルニ由リ管ニ大小ノ差異アルノミナラス亦其肋線羽狀ニ發育シ大ニ其形  
狀ヲ異ニスルモノアリ。  
羅馬茴香又甘茴香ト稱スルモノハ佛國ノ南部ニ栽培スル *Foeniculum dulce* D. C. ノ果實ニシテ  
尋常ノ茴香ヨリ遠ニ肥大ニシテ淡類黄色ノ廣キ羽翼肋線ヲ有ス味ハ美ニシテ甘ク世人最モ  
之ヲ貴フ。

**(成分)** 茴香ハ揮發油(茴香油 *Oleum Foeniculi*)三乃至八%ヲ含有ス、茴香油ノ成  
分ハ略シアニース油ニ均シト雖トモ「アネトール」ノ含量遙ニ少ナシ。

**(應用)** 殆ント「アニース實」ノ條ニ掲ケル所ニ同シ、藥局方ニ於テハ複方センナ紙劑、複方甘草  
散・センナ舍利別・センナマンナ舍利別其他茴香油及他ノ藥局方ノ茴香水、茴香精等ヲ製スルニ用  
ユ。

●カールム實 *Fructus Carvi.*

**(基原)** カールム實ハ繖形科 (*Umbelliferae*) ニ屬スル *Carum Carvi* L. (第百四十八圖)ノ果實ナリ、本

植物ハ歐洲ヨリシベト及西伯利亞ニ至ル諸地ニ産シ、歐洲ノ各地ニ培養ス。

**(形狀)** カールム實ハ卵圓形ヲナシ、側面ヨリ壓扁セラレ上部ニハ雌蕊ヲ戴  
キ長サ大約五  $\frac{1}{2}$ mm 毛茸ヲ帶ヒス、略鎌狀ヲナシ、分果ニ分裂セルヲ常トス、各果

(獨) Kümmelfamen.  
(英) Carvi.  
(佛) Caraway.

圖八十四百第

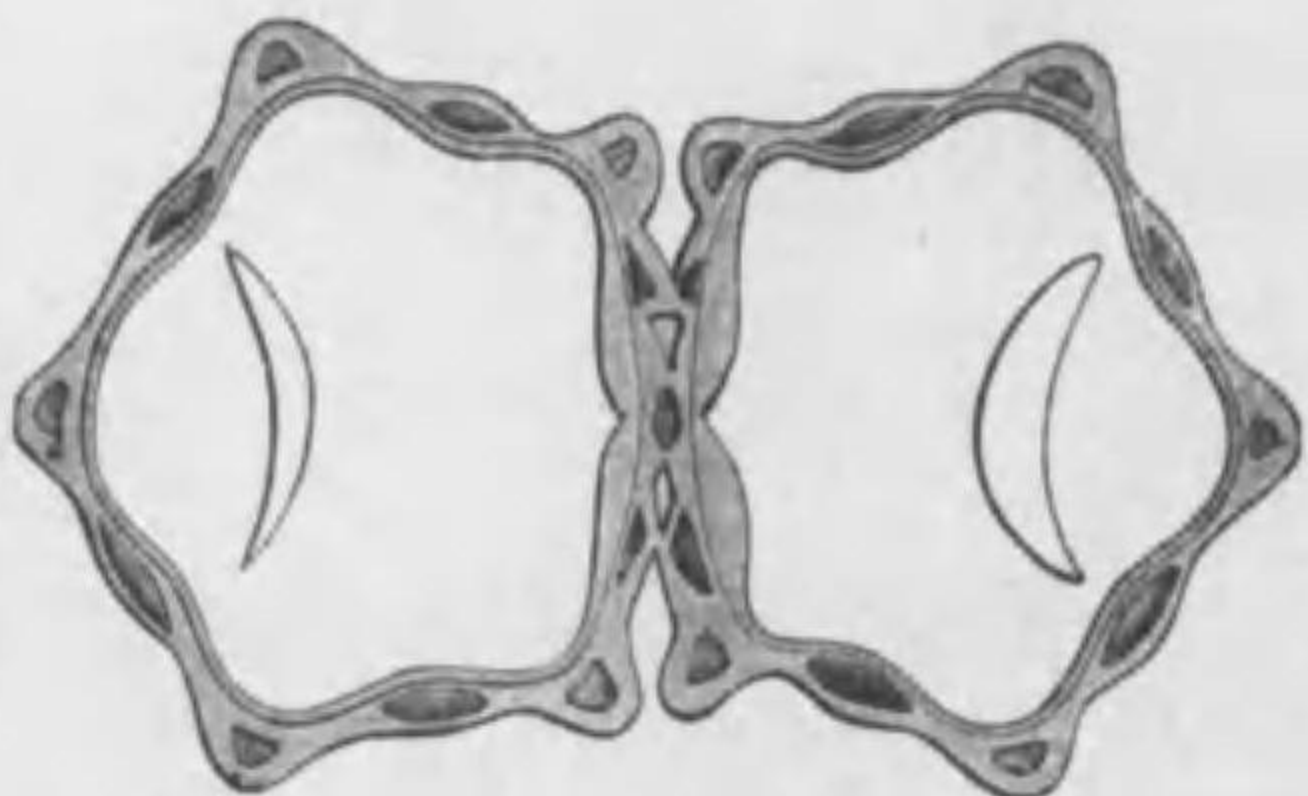


ハ横断面ニ於テハ殆ト端整五角形  
ヲ呈シ隆起セル五稜ヲ有シ、其各果  
谷中ニハ一箇、各符合面ニハ二箇ノ  
油槽ヲ見ル、胚乳ハ横断面ニ於テハ  
五箇ノ灣凹ヲ現ハス、第百四十八圖  
ハ本植物ノ一枝ヲ示ス、第百四十九

圖九十四百第



圖十五百第



圖ハカールム實ノ二倍大寫  
眞圖ニシテ右方ノ者ハ分果  
ノ分裂セル狀ヲ示ス、第百五  
十圖ハ全横断面ヲ廓大視セ  
ルモノナリ。

**(成分)** 主要ナル成分ハ揮發油  
ニシテ右旋性 *Carvon* 及右旋性 *Thimonen*  
ヨリ成リ、其含量三乃至七%トス、其  
他脂肪、砂糖、澱粉ヲ含ム。



(應用) 健胃驅風ノ目的ニ用ユ散劑又ハ浸劑トナシ一日數回〇・五乃至二〇ヲ與フ民間ニ嗜好セララル、香味料ノ一トス。

(基原)

コニウム實ハ一千七百八十八年ヨリコニウム草ノ傍ラ之ヲ *Semina Cicutae* ト名ケ越幾斯ノ製造ニ應用セリ、コニウム實ハ繖形科ノ植物 *Conium maculatum L.* ノ果實ニシテ其產地ハ本編上卷二百六十五頁コニウム草ノ條ニ掲グルヲ以テ今復タ贅セス。

● コニウム實 *Fructus Conii.*

圖一十五百第



(形狀) 本條ノ植物即チ *Conium maculatum L.* ハ繖形科ノ分科繖卵科 (*Campylospermeae*) ニ屬シ其果實ノ胚

(獨) Schierlingsamen.  
(英) Hemlock seed.  
(佛) *Semence de Ciguë.*

コニウム實

乳ハ圓筒形ヲナサズ各分果ノ符合面ニ深キ縱溝ヲ有ス故ニコニウム實ハ之ヲ横斷スルトキハ其胚乳腎臟形ヲ呈シ其凹陷セル部分ハ果壁ノ組織ヨリ充填セラレ。

コニウム實ハ廣卵圓形ヲナシ少シク扁壓セラレ長サ六ヨリ其最モ廣キ部分

ハ太サ一・五ヨリ至ル頂端ニハ圓錐體形ノ雌蕊基ヲ戴キ短キ雌蕊柱ヲ着ク各分果ハ褐色ヲ呈シ五條ノ助

線ヲ有シ其助線ハ中央

ヨリ上部ニ於テ銳鋸齒

ヲ現ハス是レ亦コニウ

ム實ノ類似植物ノ果實

ト異ナルノ點トス而シ

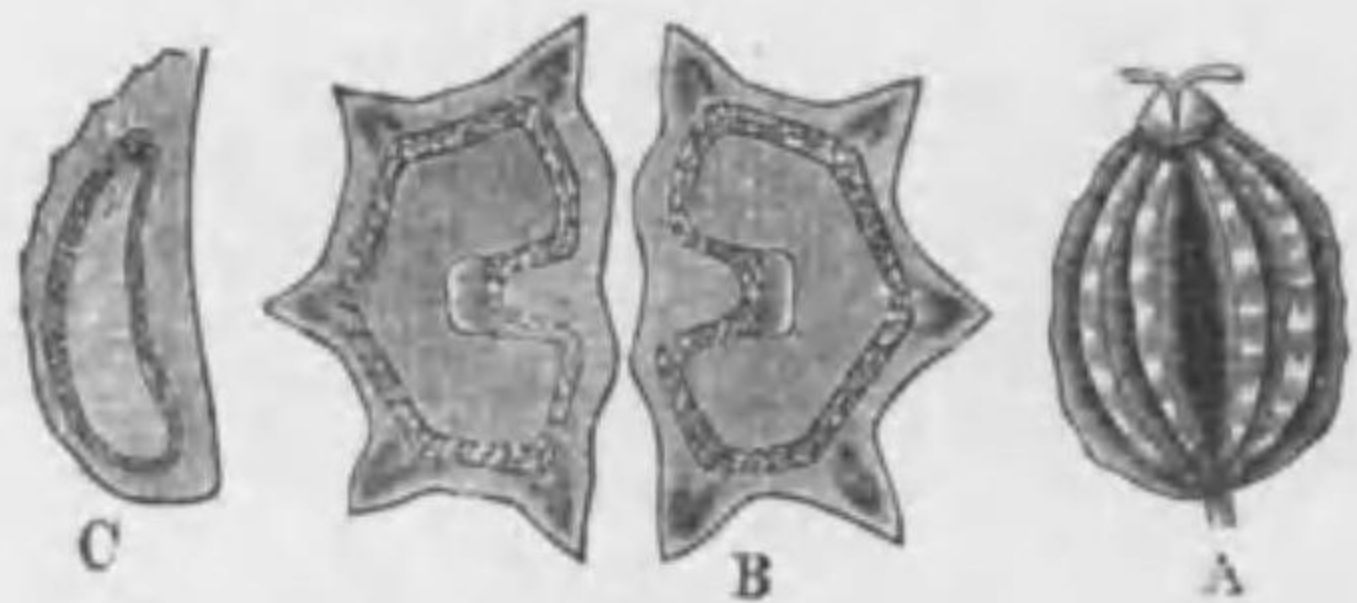
テコニウム實ハ各主助

線ノ間ニ油室ヲ存セス又其符合面ニモ之ヲ缺如ス第

百五十一圖ハ本植物ノ一枝ヲ示ス、第百五十二圖ノ(A)

ハ大約五倍ニ廓大セルコニウム實ヲ示シ、(C)ハ其縱斷

圖二十五百第



圖三十五百第



面ニシテ肋線ノ上部ニ鈍鋸齒ヲ有スル狀(B)ハ横斷面ニシテ其腎臟形ノ胚乳ヲ明視シ得ヘシ、**第一百五十三圖**ハコニウム實ノ五倍靡大寫真圖ナリ(カルステン氏ニ據ル)。

コニウム實ノ味ハ不快ニシテ稍苦シ、ナトロン油液ヲ以テコニウム實ヲ潤ホセバ特異ノ臭氣ヲ發生スベシ。

**(成分)**

コニイン (Konin  $C_8H_7N$ ) ナル揮發性アルカロイドノ少量(千分ノ二三分)ヲ含有ス而シテ、コニインハ未ダ曾テ他ノ植物中ニ發現セサルモノトス(宜シク上卷コニウム草ノ條ヲ參照スベシ)又少量ノ揮發油ヲ含有ス。

**(應用)**

コニインヲ製造スルノ用ニ供ス稀ニハ神經藥トシテ藥用ニ供スルコトアリ。

● **タマリンド** タマリンド果泥 *Pulpa Tamarindorum.*

**(基原)**

タマリンドハ百兒矢亞及亞拉昆亞ノ醫師始メテ之ヲ歐洲ニ傳播シ獨乙ニ於テハ一千四百年已ニ藥舖ニ販賣セリ。

タマリンドハ *Tamarindus indica* L. ナル決明科 (Caesalpiniaceae) ノ植物ノ果實ヨリ採集セル果泥ナリ此植物ハセネカンピヤヨリ中央亞弗利加ヲ經テ亞弗利加

(獨) Tamarinden.  
(英) Tamarinds.  
(佛) Tamarins.

ノ東岸ニ至ル諸地ニ産ス當時亞拉昆亞・印度・スンダ島ニ移植セラレ亦西印度ニモ培植セリ、**第一百五十四圖**ハ花ヲ帶フル該植物ノ枝ヲ縮小シテ示スモノナリ。

**(形狀)**

上記ノ植物即チ *Tamarindus indica* ノ果實ハ開綻セザル莢果ニシテ其



第百五十四圖

第百五十五圖



第百五十六圖



果殼(外層)ハ石核細胞ヨリ成リテ揉碎シ易ク内部四乃至十二房ニ分ル、**第一百五圖**ハタマリンドノ莢果ヲ四分一ニ縮小セル寫眞圖ナリ(カルステン氏)**第一百五十六圖**ハ此莢果ヲ横斷シタル下部ノ一片ヲ示スモノニシテ(p)ハ外皮(m)ハ中皮(r)ハ内皮(s)ハ種子ナリ、タマリンドハ即チ此莢果ヨリ取リタル果泥ニシテ販賣品ハ黑褐色柔軟ナル塊ヲナシ脈管及巨大ナル褐色ノ種子ヲ混有ス、其種子ハ胚乳ヲ有セザル子葉及細小ナル黄色ノ卵子ヲ包藏ス。

歐洲及本邦ノ藥局方ニ掲クル「タマリンド」ハ東印度諸國又東印度群島ニ於テ製造シカルカッタ・マドラス・ボンベイ等ノ各地ヨリ輸出セラル、モノトス但シ英國ニ於テハ西印度産タマリンドヲ撰用ス此品ハ帶褐赤色ヲ有シ強キ藥性ヲ有セス酸味弱シ。

凡ソ藥用ニ供スル「タマリンド」ハ脈管及種子ヲ混有スルモ多キニ過キズ又銅ヲ混有セザルヲ要ス即チ本品ニ少量ノ水ヲ加ヘ攪拌セル後研磨セル鐵板ヲ之ニ挿入シテ永ク放置スルモ其鐵板ニ赤色ヲ呈ス可カラズ又黴菌ヲ被ムリ或ハ酒精ニ陥リ異味異臭ヲ有スルモノハ極廉ス

**(成分)**

水生薬ノ酸味ハ酒石酸・酒石酸・枸橼酸等ニ基因ス又砂糖・粘液等ヲ含有ス。

**(應用)** 清涼ノ目的ヲ欲スル下薬トシテ用ユ。

● **コロシント實** Fructus Colocynthis.

**(基原)**

コロシント實ハ已ニ其產地ニ於テ古代ヨリ藥用ニ供セラレ中古ニ至リ亞拉昆亞人其用途ヲ歐洲ニ傳ヘタリト云フ。

(獨) Koloquinten.  
(英) Colocynth.  
(佛) Coloquinte.

コロシント實

第百五十七圖



コロシント實ハ胡蘆科 (Cucurbitaceae) ニ屬スル Citrullus Colocynthis Schrad. ナル植物ノ果實ナリ、亞弗利加北部亞拉昆亞ノ南部及前印度西北部ノ砂漠地ニ産シチーペルン島(サイプラス)島及西班牙ノ南部ニ培植ス、**第一百五十七圖**ハ本植物ノ果實ヲ帶フル一枝ヲ縮示ス。

**(形状)** コロシント實ハ開綻セサル球圓形漿果ニシテ直徑多クハ一<sup>二</sup>cmニ過キス坊間ノ品ハ殆ント全ク外殼ヲ剝除シ處々ニ瓢肉及種子ヲ露出ス此果實ノ内部ハ主トシテ乾燥髓狀ヲ爲セル<sup>三</sup>箇ノ胎盤ヨリ成リ其各胎盤ハ果實ノ中心ニ至リ二股ニ分裂シ果壁ノ表面ニ近接シテ果實ノ空間中ニ反曲ス故ニ「コロシント實ハ其横断面ニ於テ六箇ノ擬房ヲ現ハシ各擬房中ニ胎盤ノ股脚ヲ彎入シ多數ノ種子ヲ附着スルモノナリ而シテ其種子扁卵圓形ニシテ邊<sup>四</sup>隆起セサルヲ以テ他ノ類似ノ植物ト異ナレリ又殼ハ堅脆ニシテ數層ノ細胞ヨリ構造セラレ胚乳ヲ有セサル卵子ヲ包藏ス而シテ種子ノ重量ハ果實全量ノ殆ント四分ノ三ヲ占ム。瓢肉(果肉)ハ廣キ薄壁性細胞ヨリ成リ堅キ内容物ヲ包裹セサルヲ以テ著シク之ヲ壓縮セシムルコトヲ得而シテ果肉ノ間ニハ細キ黃色ノ脈管ヲ存シ果肉ノ外層ニハ石核性細胞層アリテ通走ス。第百五十八圖ハ稍縮小セル「コロシント實ノ横断面ニシテ(a)ハ胎盤ノ分裂セル狀(b)ハ其種子ヲ附着スル狀ヲ示ス。

第百五十八圖



番椒 (獨) Spanischer Pfeffer.  
(英) Red pepper.  
(佛) Poivre rouge.

コロシント實ハ果肉種子共ニ強キ苦味ヲ有ス、醫藥用トナスニハ種子ヲ除去スベシ。

**(成分)** 本生藥ノ有效成分ハ  $C_{15}H_{25}NO_7$  ナル配糖體ニシテ稀酸類ニ逢フテ葡萄糖ト  $C_{14}H_{21}NO_6$  トニ分ル種子ハ脂肪大約十七%ヲ含ム。

**(應用)** 峻下藥トシテ用ユ、藥局方ニ於ケル製品ハ「コロシント越幾斯・コロシント丁幾・コロシントヒヨス丸等ナリ。

● 番椒 *Fructus Capsici.*

**(基原)** 番椒ハ茄科 (Solanaceae) ニ屬スル *Capsicum* 屬即チ *C. longum* L. *C. annuum* L. 等ノ果實ヲ採集乾燥セルモノニシテ本植物ハ本來米國熱帶地ノ産ナレトモ西班牙人ニ由リ歐洲及亞細亞各地ニ之ヲ傳播セリ、本邦各地ニ培養セラレ殊ニ遠州及三州地方ニ多シ。

關西地方ニ於テハ多クたかのつめごうがらしヲ培養ス此番椒ハ小形ニシテ味峻烈ナリ亦以テ藥用ニ供スルヲ得ベシ彼ノ「ライスカレイ」ニ配合スル番椒ハ熱帶地ニ培養スル *Capsicum frutescens* L. (たちきごうがらし)ノ果實ナリ。

**(形状)** 番椒ニハ種々ノ變種アリ殊ニ果實ノ形状ニ由テ相異ナリトス、番椒ハ津汁ニ乏シキ蒴果ニシテ梗ヲ具有シ紡錘形或ハ圓錐形ヲナシ多少尖銳基

礎部ニハ上端五瓣ニ分裂セル萼ヲ着ク、長サ二乃至十<sup>cm</sup>、基部ノ太サ半乃至五<sup>cm</sup>トス、果殼(果壁)ハ火赤色、黄赤色或ハ帶褐赤色滑澤ニシテ光澤ヲ帶フ、下部ハ二乃至三房ニ分レ上部ハ空洞ナリ種子ハ多數ニシテ黄色ヲ有シ其外面ニ多數ナル窩點ヲ現ハス、新鮮ナルトキハ麻酔性ノ臭氣ヲ有スレトモ乾燥スルニ從ヒ自ラ消失ス、**第五百十九圖**ハ稍大ナル *Capiscum annuum* ノ果實(番椒)ニシテ下圖ハ其横断面ヲ示ス。

圖九十五百第



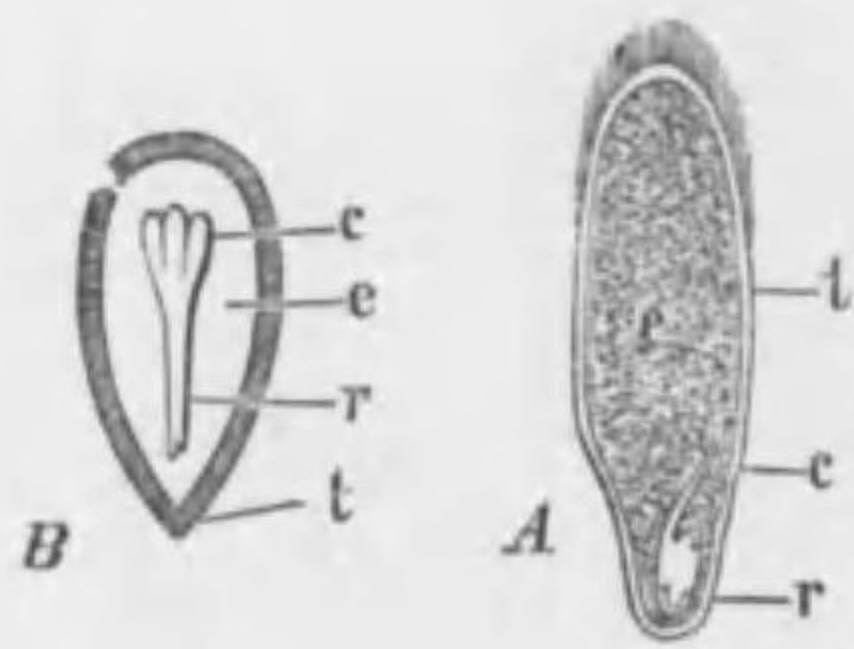
**(成分)** 本品ノ苛烈ナル有力成分ハ *Capiscin*  $C_{15}H_{15}O_2$  ニシテ酸ノ本性ヲ有シ其含量〇・〇一乃至〇・〇二ナリ從前ハ *Capiscin* 及 *Capiscin* ヲ以テ本品ノ有效成分トナシタレトモ此二質ハ、カプサイチン<sup>カプサイチン</sup>含有スル不純ナル物質ニ外ナラズ、カプサイチンハ酒精及エーテルニ溶解シ大氣中ニ於テハ徐々ニ揮散ス其他番椒赤色素 (*Capsanthin*)、樹脂様ノ物質及脂肪油ヲ含有ス、種子ハ、カプサイチンヲ含有セス、オプスト氏ハ本品中ニ一種ノアルカロイドヲ發見セリト稱ス。

**(應用)**

本品ハ皮膚ヲ引赤スルノ目的ヲ以テ皮膚瘡新ニ用ユルコトアレトモ稀ナリ毒ヲ熱帶地方ニ行ハル、藥品ニシテ消化不真、間歇熱、猩紅熱等ニ用ユ又含嗽料トナスコトアリ、製品ハ番椒丁幾ナリ。

第十一章 種子類 *Semina. Samen.*

圖十六百第



實礎ノ稔熟スルニ從ヒ卵子漸ク發育シテ種子トナリ卵膜ハ生長シテ子殻トナリ胚胎ヲ受ケタル卵胞ヨリ芽胎ヲ發生スルモノナリ而シテ其芽胎發育シテ肥大トナリ周圍ノ組織ヲ排却スルコトアリ此場合ニ於テハ種子(稔熟ノ後)ハ貝子殻及其中ニ包裏セラル、芽胎ヨリ成ルモノトス、或ル場合ニ於テハ卵子中ニ卵白(胚乳) (*Albumen*) ト稱スル特異ノ物質ヲ生ス而シテ其胚乳卵殼ノ内部ニ生スルトキハ之ヲ内胚乳 (*Endosperm*) ト云ヒ其外部ニ發生スルトキハ之ヲ外胚乳 (*Perisperm*) ト云フ種子ニ卵白(胚乳)ヲ存ニルト否ラザルトニ由リ之ヲ別テ含卵白種子及無卵白種子ノ二種トナス而シテ種子ハ大抵卵白ヲ包有スルモノトス、卵白ハ粉質様例之ハ殼類、角質様(例之ハ、コソフイト豆)堅實ナル等其稠度一定ナラズ。

芽胎ニハ肉眼ヲ以テスルモ已ニ小根、小芽及子葉ヲ明視スルコトヲ得而シテ子葉ハ薄ク葉狀ヲナシ又ハ厚ク肉質様ヲナスモノアリ、子葉ノ厚實ナル種子ハ多クハ卵白ヲ圍如シ其子葉ハ

種子ノ一大部分ヲ占有ス。

第百六十圖(A)ハ禾本科(B)ハ松杉科植物種子ノ断面ニシテ(t)ハ子殻(e)ハ胚乳(r)ハ芽胎ノ小根  
(a)ハ其子葉ヲ示ス。

(甲)單子葉植物ノ種子類 Samen der Monokotyledonen.

●檳榔子 Semen Arecae

(基原)

檳榔子ハ古ク漢藥ニ於テ收歛藥トシテ應用セラレ又馬來人ノ間ニハ咀嚼性嗜好品トシテ檳榔子ノ切片、阿仙藥及石灰ヲ「マートル」椒葉ノ一片ニ包ミ口中ニ嚼ミ咀嚼スルノ習慣アリ、歐洲ニ於テハ千八百六十年ヨリ驅蟲藥及止瀉藥トシテ用ヰラル。

檳榔子ハ馬來群島ニ産シ熱帶亞細亞殊ニ其東南部ニ汎ク培植セラル、棕櫚科(Palmæ)ノ植物 Areca Catechu L.ノ種子ニシテ纖維性ノ果肉(所謂大腹皮)ニ掩ハレ(第百六十三圖ノB)之ヲ剝離シテ出タス。

(形狀) 檳榔子ハ横徑十五mmヨリ三十mmニ至ル類圓形堅硬ノ種子ニシテ大小不同ナレトモ重量平均三瓦、其基底ハ稍壓扁セラレ而シテ一ノ凹窩(臍點)ヲ見ル、外面類褐色ヲ有シ淡色ノ網紋ヲ現ハス、胚乳ハ白色堅鞏緻密ニシテ赤褐色ノ子皮組織ハ其中ニ進入錯綜シテ其截面ハ特異不整ナル區劃ヲナシ宛

- (葡) Arecanuts (Betelnuts.)
- (英) Areca nut.
- (佛) Noix d'Areca.

第百六十一圖



モ大理石様ノ紋理ヲ呈ス、基底ノ凹窩ニ一致シテ種子ノ中央ニ組織崩壞セル空間アリ其下部ハ胚子ノ存在セル處トス、子皮ハ一般ニ赤褐色薄壁ノ細胞ヨリ成リ

而シテ其間ニ硬化セル石核細胞様ノモノヲ雜ユ殊ニ子皮内層ノ細胞ハ赤褐色ノ内容物ヲ含ミ(中ニ鐵鹽ヲ綠染スル鞣酸様物質アリ)、胚乳ハ

多數ノ孔紋ニ由テ斷續セララル、厚壁性巨大ノ細胞ヨリ成ル。

第百六十一圖 Aハ檳榔子ノ全形及其断面ノ寫真圖 B

ハ果肉ヲ被レルマヽニシテ其果肉ノ一側ヲ除キテ種子ヲ現ハシタル概型圖ナリ。

(成分)

其有效成分トシテハ  $C_{15}H_{11}N_5$  (Cathinon) ナル液狀揮發性ノ「アルカロイド」ヲ含有シ其他

「ヒヨリン」ニ類スル無力結晶性ノ物質 *Arakain* ( $C_7H_{11}NO_2 + H_2O$ ) チ含ミ仍ホ *Arakain* (メチールテトラヒドロニコチン酸ニシテ、アレコリン)ハ其メチールエステルナリ *Guvaicin* ノ少量核酸及十四乃至二十%ノ脂肪チ有ス。

**(應用)** 醫藥上ニハ往時赤痢等ニ對スル止瀉藥トシテ用ヰラレタレトモ今ハ行ハレス現今ハ專ラ家畜ノ蛔蟲驅除藥トナス、又同様ノ目的ニ供用セラレトアレコリン(獨逸藥局方ニハ「プロム水素酸アレコリン」ヲ掲ク)ヲ製スルノ原料タリ、其主要ナル應用ハ南洋土人ノ間ニ行ハル、所ノ咀嚼料トナスニ在リ。

● コルヒタム子 *Semen Colchi.*

**(基原)** コルヒタム根ハ既ニ一千六十年代ヨリ藥用ニ供セラレタリト雖トモ「コルヒタム子」ハ一千八百二十年ニ至リテ始メテ醫藥ニ入レリ。

コルヒタム子ハ *Colchicum autumnale* L. ナル藜蘆科 (*Melanthaceae*) 植物ノ種子ナリ、此植物ハ歐洲ノ原野湿地ニ産スル越年性植物ニシテ球根ヲ有ス八月ヨリ十月ニ至ルノ際花ヲ開ク花ハ漏斗形ニシテ紫紅色ヲ有シ長サ十  $cm$  ニ至レル主軸ノ頂ニ發生ス翌年ノ春ニ至リ地ヨリ直チニ廣キ鉞針形ヲナセル葉ノ三乃至五箇ヲ生シ中ニ三箇ノ果實ヲ被包ス、果實ハ蒴果ニシテ熟スルニ迨ヒ類

- (獨) *Zeitlofsamen.*
- (英) *Colchicum seeds.*
- (佛) *Semences de Colchique.*

コルヒタム子

圖 二十六百第



圖 三十六百第



褐色トナリ隔壁ヨリ開綻シテ多數ノ種子ヲ包藏ス、獨乙ニ於テハ六月ニ至リ其種子ヲ採集ス、第六十二圖ハ花ヲ帶フル「コルヒタム草」ヲ示ス、始メテ「コル

ヒタム草」ヲ獨乙ヨリ本邦ニ齎ラセシハ明治十七年ナリ。  
**(形狀)** 本植物ノ果實ハ中隔壁果第六十三圖ニシテ内部三房ニ分レ多數

種子類 コルヒタム子

百六十三

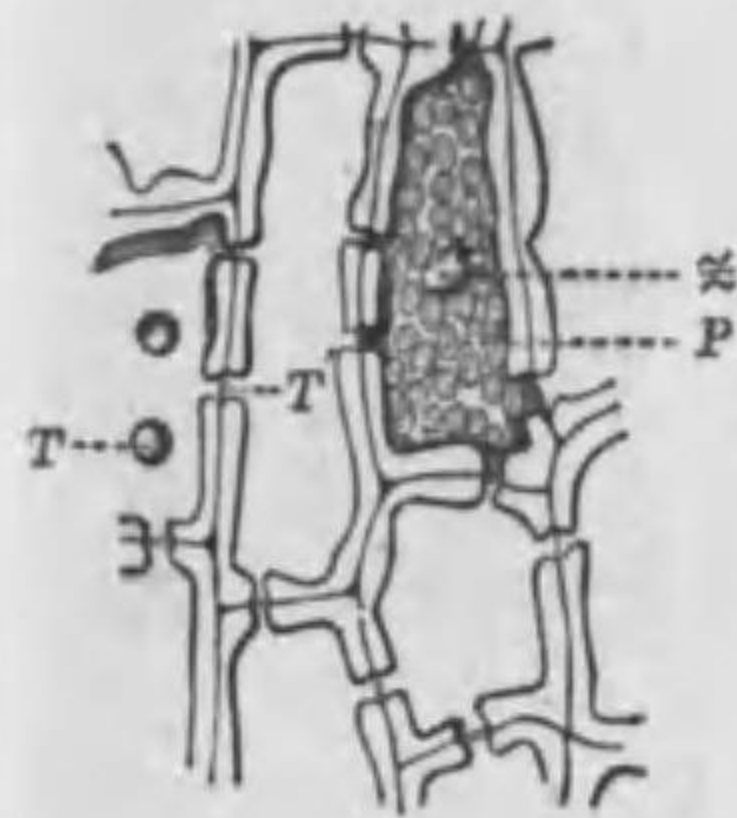
ノ種子即チ「コルヒタム子」ヲ包藏ス此種子ハ略、球圓形ヲナシ直徑三 mmニ過キス、新鮮ナルトキハ外面類白色ヲ有シ乾燥スルニ從ヒ褐色トナリ細微ナル小窩ヲ現ハスニ至ル、基礎部ニハ稍、淡明ニシテ萎縮セル臍點ヲ具有ス外面往々糖ノ分泌ニ由リテ粘着性ヲ有スルコトアリ、子殻ハ非薄褐色ニシテ頽敗セル細胞ヨリ成ル、胚乳卵白ハ角質様ヲナシ之ヲ顯微鏡下ニ檢視スルトキハ灰色厚壁性ニシテ圈輪狀ノ孔紋ヲ具フル細胞ヨリ成リ其細胞中ニハ脂肪ヲ包藏スルヲ見ル、芽胎(第百六十四圖 e)ハ臍點ニ背ケル部位ニ存ス。

圖四十六百第



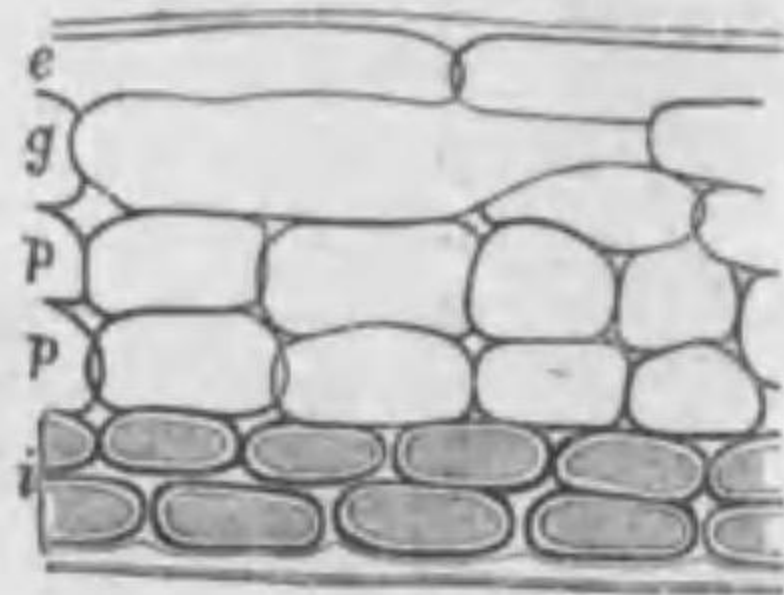
第百六十三圖ノ左ハ本植物ノ覆果ニシテ内部三房ニ分レ、(d)ハ背縫、(f)ハ壁縫ヲ示シ、右圖ハ之ヲ横斷シテ其中隔ノ分隔ニ由リ開綻セル狀ヲ示ス、第百六十四圖ノ(A)ハ自然大ノ種子、(B)ハ横斷面ヲ廓大視セルモノニシテ、(t)ハ子殻、(a)ハ卵白、(c)ハ芽胎トス。

圖五十六百第



ハ巨大ナル板形ノ細胞ヨリ成リ(第百六十六圖 e)之ニ次ケル二三ノ細胞ハ巨大圓形ナレトモ形狀寧ロ片板形ニ近ク網狀ヲナセル成性質ノ殘留物ヲ包有ス(同圖 g)此下部ニ位スル層ハ一乃至三細胞層ヨリ成リ其細胞ハ細小殆ト等徑性ニシテ褐色ノ皮壁ヲ有ス(同圖 P P)以上三種ノ子殻層ハ蓋シ外子皮ヨリ形成セラレタルモノナル可シ最内部ノ子殻層ハ内

圖六十六百第



子皮ヨリ發生セシモノニシテ片板形ニシテ褐色ノ物質ヲ含有スル細胞ノ二層ヨリ成ル(同圖 i)。

胚乳ハ厚壁性細胞ヨリ成リ其細胞ハ圓形ノ孔紋ヲ有シ其殆ト平等ナル成形體中ニ油滴、蛋白質粒(第百六十五圖 Z)ヲ包藏ス。

(第百六十五圖 T)ハ胞孔即チ圓形ノ孔紋ヲ示ス

(成分)

有効成分ハ Colchicin (C<sub>22</sub>H<sub>25</sub>NO<sub>6</sub>) ナル「アルカロイド」ニシテ本植物ノ全部ニ亘リテ存スレトモ殊ニ種子及球根ニ多シ即チ種子ハ其〇・二乃至〇・四%、球根ハ〇・〇八乃至〇・二%ヲ含ム、コルヒタム子中ニ於ケル「コルヒチン」ヲ鑿



識スルニハ其少量ヲ取り粉碎シ稀酒精ヲ以テ浸出シ蒸發シテ舍利別稠度トナシ更ニ其殘渣ニ無水酒精ヲ加ヘテ浸出シ復タ蒸發シ茲ニ得タル殘渣ヲ少量ノ水ニ溶解シ濾過シテ得タル液ニ硝酸ヲ加フレバ黃色トナリ又其水溶液ニ硫酸一滴ヲ點加スレバ其點滴ノ周圍ニ帶藍紫色ノ圈輪ヲ生スヘシ。

其他コルヒタム子ハ脂肪六乃至八%蛋白質七乃至二十%ヲ含有ス而シテ子殻中ニハ鞣酸及澱粉ヲ含ム。

**(應用)** 本品ハ使麻質斯及痛風ノ特效藥トナス通例ハ其丁酸トナシ川ニ本藥局方ニハ「コルヒタム酒及コルヒタム丁酸ヲ掲載セリ、劇藥ニ屬ス、注意シテ貯フヘシ。

● サバゲルラ子 Semen Sabadillae.

**(基原)**

サバゲルラ子ハ已ニ一千五百年代米國ヨリ之ヲ西班牙ニ齎致セリト雖トモ前百年紀ノ半ヨリ始メテ寄生物藥トシテ藥用ニ供セリ。

サバゲルラ子ハ南米ウエネシエラノ海岸ヨリ其山嶺ニ至ル諸地又グアテマラ地方及墨西哥地方ノ山中ニ産スル *Schinus molle* 植物ノ種子ナリ。

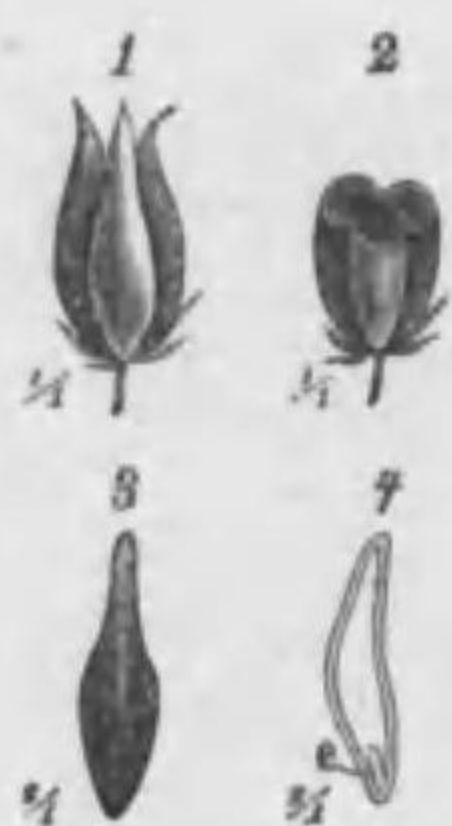
**(形狀)**

サバゲルラ子ノ果實ハ淡褐色長形上部ニ向テ狹尖トナリ長サ大約十二mm 紙様ニ菲薄ナル囊果狀ノ三房果ニシテ内ニ四乃至六箇ノ種子ヲ含ム

(獨) Sabadillamen.  
(英) Cevadille.  
(佛) Cevedille.

此種子ハ即チ「サバゲルラ子」ニシテ帶黑褐色ヲ有シ光澤ヲ帶ヒ頂端尖銳ニ走

第百六十七圖



リ縱皺ヲ有シ長サ六乃至九mm 太サ二mm ニ過キス灣曲シ不整ノ稜アリ内部ニハ灰色油性ノ胚乳ヲ有シ細小ナル芽胎ヲ包藏ス其胚乳ノ組織ハ放線狀ニシテ子殻ト癒着ス、サバゲルラ子ハ苛烈ニシテ灼クガ如キ味ヲ有ス、第百六十七圖ノ(1)ハ自然大ノ果實(2)ハ之ヲ橫斷シタルモノ、(3)ハ種子ノ二倍廓大圖、(4)ハ其縱斷面トス。

**(成分)**

サバゲルラ子ハ殊ニ「ウエラトリン」(Veratrin)ナルアルカロイドヲ含有ス、「ウエラトリン」ハ單一ノ化合物ニ非ス(宜ク第三改正日本藥局方註解ウエラトリン)ノ條ヲ參照スベシ、又サバゲルラ酸(Sabadillisine)及藥蘆酸(Verdunisine)ナル二種ノ酸ヲ含ム。

**(應用)**

特ニ藥用ウエラトリンヲ製スルニ用ユ、劇藥ニ屬ス、注意シテ貯フベシ。

乙) 雙子葉植物ノ種子類 Samen der Dicotyledonen.

● 肉荳蔻 Semen Myristicae.

**(基原)**

肉荳蔻ハ恐クハ亞拉昆亞人始メテ之ヲ歐洲ニ齎致セルモノナラン

(獨) Muskatnß.  
(英) Nutmeg.  
(佛) Muscade.



洋紅色ニシテ不整ニ瓣裂セル子衣。即チ肉豆蔻花。Nuts (第百六十九圖) aヲ見

圖八十六百第

而シテ一千二百年代ヨリ歐洲ノ市場ニ現出セリ當時頗ル高價ナル香味料ニ  
屬シ一千五百年代ノ間ニハ和蘭政府之ヲ其專賣品トナセリ。  
肉豆蔻ハ肉豆蔻科 (Myristicaceae) ニ屬スル *Myristica fragrans* *Houttuyn* ノ種子ニシテ  
印度モルツケン島嶼即チ之ニ隣接セル新ギネアノ西北ニ於ケル半島ニ産シ現  
今ハベンダ島其他パナン、  
マラッカ及スマトラノ海岸  
ニ多ク培植ス。

(形状)

上記ノ植物即チ  
*Myristica fragrans* ノ果實第  
百六十八圖 2) ハ略球形ニ  
シテ黄色ヲ有シ其質肉様  
ニシテ稔熟スルニ至リテ  
其周圍ヨリ破綻シ暗褐色  
ノ種子ヲ露出ス其種子ハ

圖九十六百第



破壊シテ子殻ヲ除去シ石灰乳ニ侵シ徐々ニ乾燥セシムルノ後品種ヲ分テ市  
場ニ出ス。

圖十七百第



第百六十八圖ハ果實ヲ帶フル本植物ノ一枝ヲ示シ、第百  
六十九圖ハ子衣ヲ着セル肉

豆蔻ノ概型圖ヲ示ス。

市場ニ販賣スル肉豆蔻ハ鈍  
卵圓形ヲナシ皺紋ヲ帶ヒ長  
サ大約三 cm 太サ一 cm 至

サ大約三 cm 太サ一 cm 至  
リ類褐色ヲ有シ白色ノ粉塵(炭酸カルチウム)ニ係ルヲ帶  
ヒ一端ニ臍點(第百七十圖) *ma* ヲ着ケ種縫 (*ra*) ヲ發出シ其終ニ電點 (*Cha*) ノ存スルヲ

圖二十七百第



圖一十七百第



ヒ一端ニ臍點(第百七十圖) *ma* ヲ着ケ種縫 (*ra*) ヲ發出シ其終ニ電點 (*Cha*) ノ存スルヲ

見ルヘシ、**第七十一圖**ハ肉豆蔻ノ自然大寫真圖ニシテ、bハ子被ノ附着セルモノナリ。

縱斷面**第七十二圖**ニハ大理石様ノ紋理ヲ有スル胚乳卵白ヲ見ル此特異ナル大理石様ノ紋理ハ褐色鬆疎ナル子皮ノ上皮ガ不整ノ放線狀ヲ爲シテ類白色緻密ノ胚乳中ニ筈入セルヨリ生スルモノトス、而シテ胚乳ノ中ニハ澱粉及結晶性ノ脂肪ヲ含有シ其ノ組織(上皮)中ニハ油室及脈管ヲ筈在ス、胚乳基礎部ニハ著大ノ子葉ヲ有スル芽胎ヲ包藏ス。

**第七十二圖**肉豆蔻ノ縱斷面ニシテ、(a)ハ子衣、(b)ハ子殼、(c)ハ胚乳、(d)ハ芽胎ナリ。

**(成分)** 肉豆蔻ハ之ヲ蒸餾スレバ揮發油即チ揮發肉豆蔻油 (Oleum Myristicae aetherium) 大約八%ヲ得肉豆蔻ヲ温壓スレバ揮發油ヲ混有スル脂肪大約二十八%ヲ得之ヲ肉豆蔻脂又ハ肉豆蔻酪 Oleum s. Butyrum Nuciferae ト稱シテ香料ニ用ユ。

肉豆蔻ニハ左ニ掲クル劣等ナル別種アリ本條ノ品ト錯誤スルコト勿レ。

(イ) *Myristica fatua* Houtt. ハブルボン島ニ産ス、其種子ハ本條ノ生薬ニ比スレバ

氣味微弱ニシテ長サ三cmニ超エ其形狀稍細シ。

(ロ) *M. malabarica* ノ種子ハ毫モ芳香性ノ氣味ヲ有セス。

凡ソ良好ナル肉豆蔻ハ微菌ヲ被ムラズ又昆蟲ヨリ蝕蝕セラレタル跡ヲ認メス其縱斷面ハ堅クシテ光澤ヲ帶ヒ又温メタル針ヲ以テ之ヲ穿刺スレバ類黄色ノ脂肪ヲ滲出ス。

**(應用)**

芳香性ノ健胃藥又ハ矯味矯臭藥トシテ用ユ、藥局方製劑ハ複方ラヘンアル丁幾ナリ、歐洲ニ於テハ香料トシテ最モ汎ク應用セララル。

●肉豆蔻花 ●肉豆蔻子被 *Maccis*

●肉豆蔻花ハ上記植物ノ實體ノ厚化スルニ由テ生成スル子被 (Arillus) ニシテ下部ニハ略橢形ヲナシテ肉豆蔻子ヲ圍繞シ上部ニハ不整ニ瓣裂ス(第六十九圖)ノルヲ見ヨ、肉豆蔻花ハ新鮮ナルトキハ洋紅色ヲ有シ乾燥スルニ從テ帶黄赤色トナリ微ニ脂肪様ノ光澤ヲ帶ヒ揉碎シ易キニ至ル之ヲ橫斷スレバ上下兩面共ニ厚壁性ノ表皮及外皮ヲ被ムリ内部ハ細小ナル細胞組織ヨリ構成セラレ多數ノ油室ヲ筈在スルヲ見ル氣味ハ肉豆蔻ヨリモ緩和佳快ニシテ微ニ苦シ。

揮發油(肉豆蔻花油 *Oleum Maccis*) ノ含量十七%ニ至ル此揮發油ノ成分ハ恐クハ上記肉豆蔻油中ニ含有スルモノニ同シカラシ、而シテ脂肪及澱粉ヲ含有セス、エーテルヲ用井テ浸出スレバ樹脂大約二十四%ヲ得。

芥子 (獨) Senffamen.  
(英) Mustard seed.  
(佛) Moutard.

肉苳蔻花ハ香味料トシテ用ユ又肉苳蔻花油ヲ製スルノ用ニ供シ又藥用ニ供スルコトアリ。

● 芥子 Semen Sinapis.

(基原)

芥子ハ本邦隨處ニ培植セル *Sinapis oleracea* *Yunck.* (からした) 第百七十三圖ナル十字科 (*Cruciferae*) 植物ノ種子ニシテ第百七十五圖ニ其寫眞ヲ示ス如キ莢果中ニ存ス。

(形狀)

芥子ハ殆ント球圓形ヲナシ太サ一・五 mm ニ至リ其一百粒ノ重量ハ

圖三十七百第



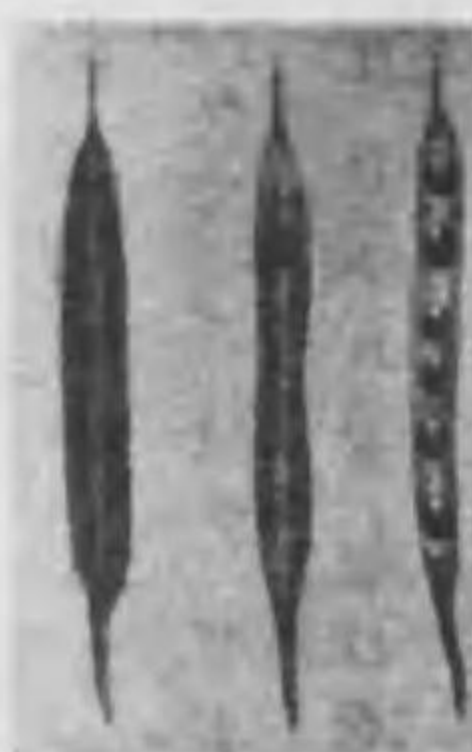
圖四十七百第



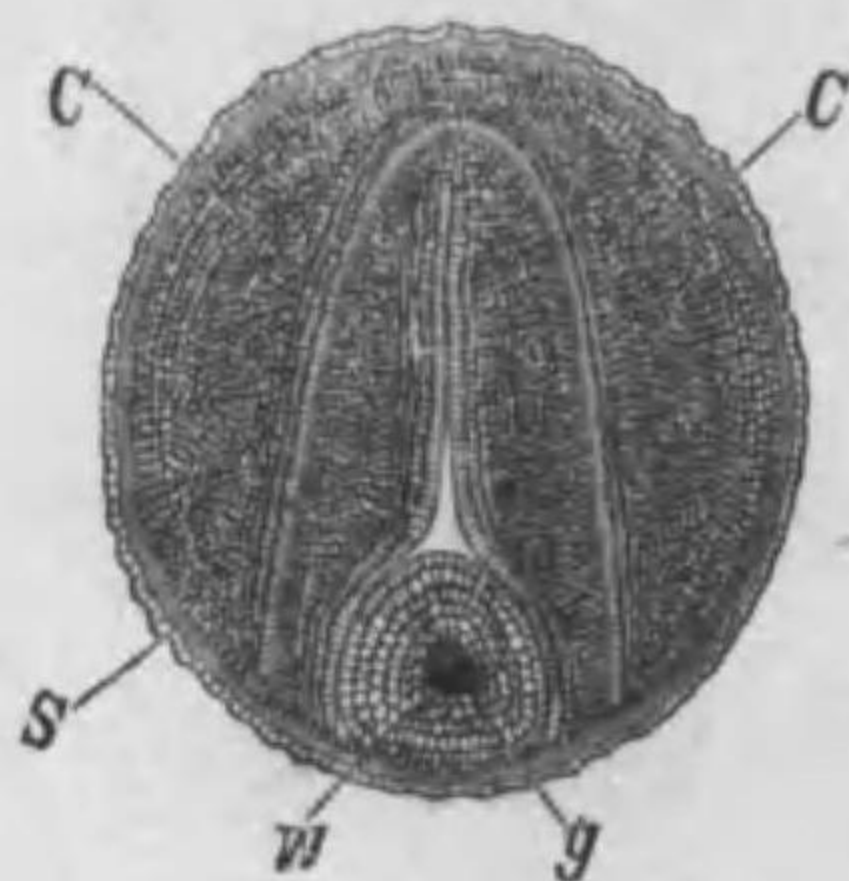
〇五五グラムニ過キズ帶褐黃色ヲ有ス、ルーペヲ以テ檢視スレバ上面ハ極メテ細微ナル小窩ヲ現ハシ又基礎部ニ於テ臍點ヲ認ム、水ニ浸漬スレバ粘液ノ

析出ニ由リ互ニ繋連ス其橫斷面ニ於テハ子葉略覆字狀ニ重疊シテ溝渠ヲナシ小根其溝渠中ニ筈在ス、第百七十六圖及第百七十七圖ハ共ニ著シク廓大セ

圖五十七百第



圖六十七百第



圖七十七百第



ル芥子ノ橫斷面ニシテ (S) ハ子殼 (C) 及 (C') ハ子葉 (W) 及 (G) ハ小根 (G) ハ其小根中ニ存スル脈管束トス、子葉及小根ノ組織中ニハ油滴及蛋白質ノ顆粒ヲ包蔵ス。

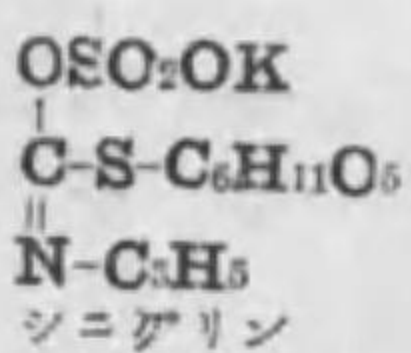
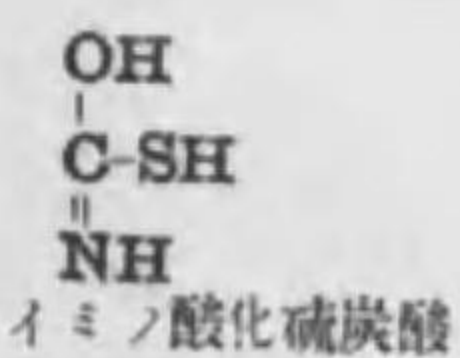
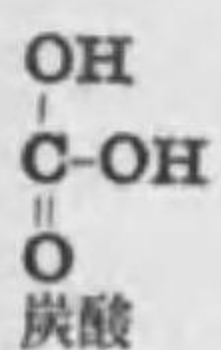
芥子ヲ咀嚼スレバ其味油様ニシテ酸性ナレトモ暫時ニシテ芥子ニ固有ナル辛辣ノ氣味ヲ發生ス。

(成分)

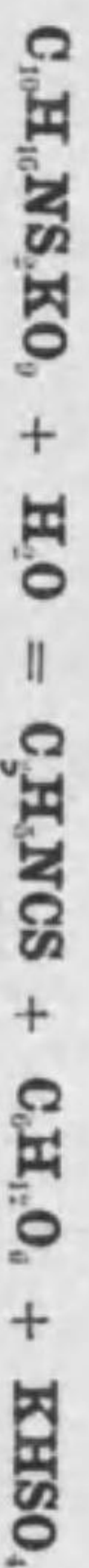
芥子ヲ搗碎シ水ヲ混攪シ大約一日間放置スルノ後更ニ水ヲ加ヘテ

蒸餾スレバ芥子油大約一%ヲ得、抑モ芥子油ハ已ニ其物トナリテ芥子中ニ存在スルモノニアラス即チ芥子中ニハ *Sinigrin* (ミロン酸カリウム *Myrosäures Kalium*) ナルモノ又其中ニ傍存スル一種ノ酵素即チ *Myrosin* (爲メニ酸酵作用ヲ受ケ芥子油酸性硫酸カリウム又葡萄糖ニ分解スルニ由リ、始メテ生成スルモノナリ然レトモ芥子ニ直チニ熱湯ヲ注加シテ蒸餾スルトキハ毫モ芥子油ヲ生セズ是レ酸酵ノ誘起者タル「ミロジン」之ガ爲メニ凝固セラレテ「シニグリン」ヲ分解スルコト能ハサルニ至レバナリ。

シニグリンハ即チ右ニ述ブル如ク「ミロン酸カリウム  $C_{10}H_{16}N_2O_6$ 」ニシテ假想的ノ化合物タル「イミノ酸化硫酸炭酸 (Iminoxythiokohlensäure)」中ノ水素三原子ガ  $SO_2OK, C_6H_5O_6$  及アルリール  $C_6H_5$  ニ由テ交換セラル、ヨリ生成セルモノナリ即チ左ニ示スガ如シ。



シニグリン「ミロジン」ノ作用ヲ受クルヤ左ノ反應ニ從ヒ芥子油(即チ「イソ硫チアンアルリール  $C_6H_5NCS$ 」)ヲ生成ス。



シニグリン

芥子油

葡萄糖

酸性硫酸カリウム

其他芥子ハ「シナピン酸 (Sinapinsäure  $C_{11}H_{12}O_6$ )」及「シナピン (Sinapin)」即チ「ヒヨリン及シナピン酸」ヨリ成レル「エステル ( $C_{16}H_{25}NO_6$ )」ヲ含有ス而シテ脂肪油ノ含量ハ大約三十五%ナリ。

**(應用)**

芥子泥トナシ皮膚ヲ引赤スルニ用ユ、又芥子油ヲ製スルノ原料トナス、香料トシテハ最も嗜好セラル。

歐洲ニ於テハ藥用及香料ニ供スルニハ黒芥子即チ *Brassica nigra* Koch. ノ種子(上文第百七十圖)及 *Brassica juncea* Hook. & Thun. ノ種子ヲ用ユ、本邦産ノ芥子ハ芥子油ヲ生スルコト黒芥子ヨリ多量ナリ是レ日本藥局方ハ本條ノ生藥ヲ採リ以テ藥用品トナス所以ナリ而シテ黒芥子中ニ存スル脂肪油ハ主トシテ「ペーレン酸 (Boadiensäure  $C_{21}H_{40}O_2$ )」及「エルカ酸 (Erucasäure  $C_{22}H_{40}O_2$ )」ナル二種ノ酸類ノ「グリセリンエーテル」ヨリ成ル而シテ本邦産芥子ノ脂肪油ハ主トシテ「エルカ酸 (Erucasäure)」アラヒン酸 (Arnulinsäure)「グリセニンエステル」ヨリ成ル。

本邦ニハ亦からしな又はがらしト稱スルモノアリ其種子ハ歐洲産黒芥子ニ類シテ稍大ナリ亦芥子油ヲ生スレトモ歐洲芥子ニ比シテ稍少量ナリ。

歐洲產白芥子即チ *Bassia alba* Hooker & Thomson、種子ハ「シニガリン」ニ代ハリキ (*Sinapis*  $C_{12}H_{17}N_2S_2O_4$ ) ナ含有シ其ミロシシニ由テ分解スルヤ真正ノ芥子油ヲ生セズシテ「シナルピン」芥子油 (*Sinapisin*) 即チ *Acetylglucosinam* ( $C_{17}H_{27}NO_6$ ) ナ生成ス此芥子油ハ赤皮膚ヲ引赤スル性アレトモ揮發性ナ有セス。

●カ、オ子 *Semen Cacao.*

(基原)

圖 八 十 七 百 第



西班牙人始メテ墨西哥ニ渡來セシトキ土人カ、オ豆及シヨコラーデヲ甚タ貴重ナル食料トシテ嗜好スルノ習慣アルコトヲ發見セリ蓋シ「カ、オ」及シヨコラーデナル名稱ハ西班牙語ニ屬ス一千六百年紀ノ初期ヨリ特ニシヨコラーデヲ西班牙ニ輸致シ獨逸ニ於テハ藥劑師之ガ傳播ニ努メタリ。

カ、オ豆ハ墨西哥灣沿岸ノ諸國南米ノ北部ヨリアマゾン河ノ支流ニ

(獨) Kakaobohnen.  
(英) Cocoa nut.  
(佛) Cacao.

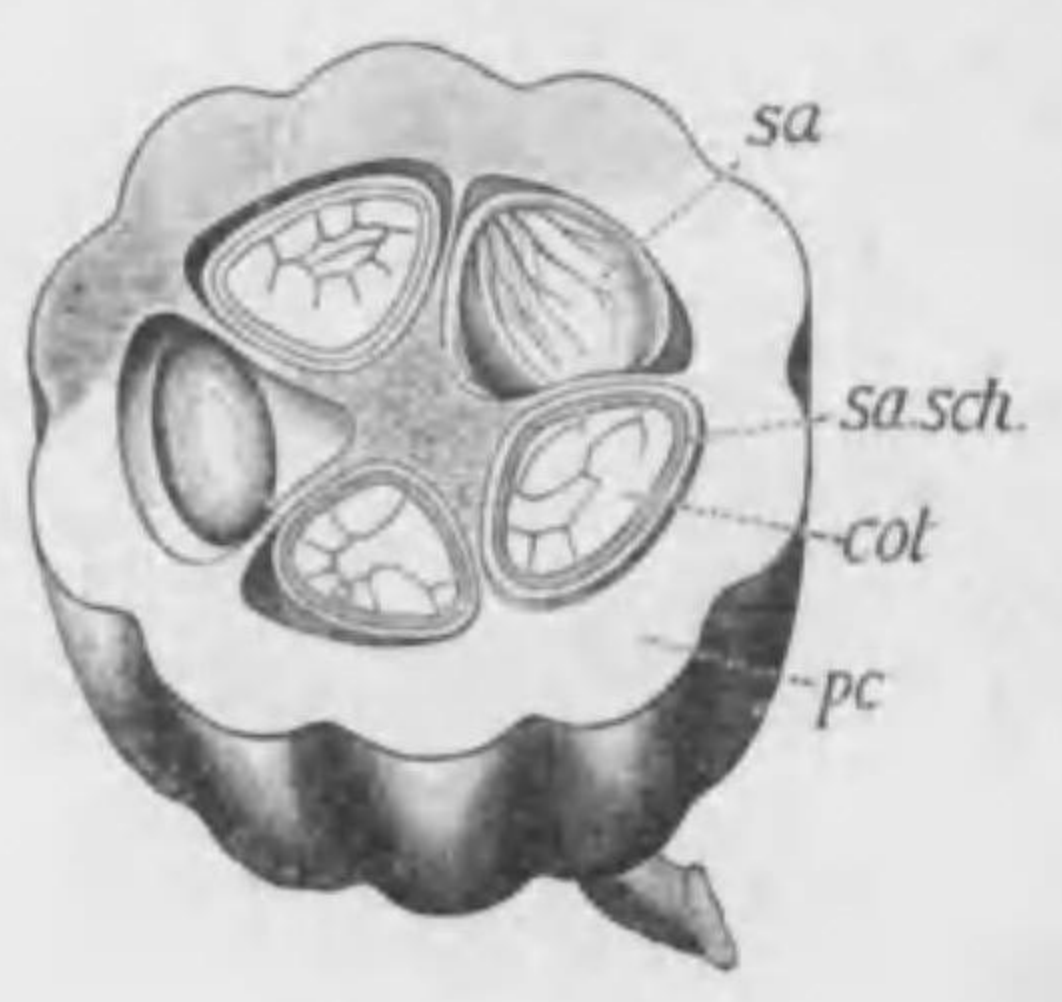
至ル諸地其他西印度墨西哥南部ノ太平洋ニ接スル地方ヨリ百露ニ至ル諸地ニ産スル所ノ *Theobroma Cacao* L. ナル梧桐科 (*Sterculiaceae*) 植物ノ種子ナリ、現今又上文ニ掲クル諸國ノ外他ノ熱帶諸國ニ多ク培植ス。坊間ノ品ハ主トシテ培植品ニ係ル、第七十八圖ハ本植物ノ果實ヲ帶フル一枝ヲ縮示(三分二大)シ、(1)ハ其全形、(2)ハ花ノ横断面、(3)ハ種子トス。

(形状)

上記ノ植物即チ *Theobroma Cacao* ハ長サ二dmニ至リ稔熟ノ後暗紫紅色ヲ呈スル五房性ノ果實ヲ結フ(第七十九圖)

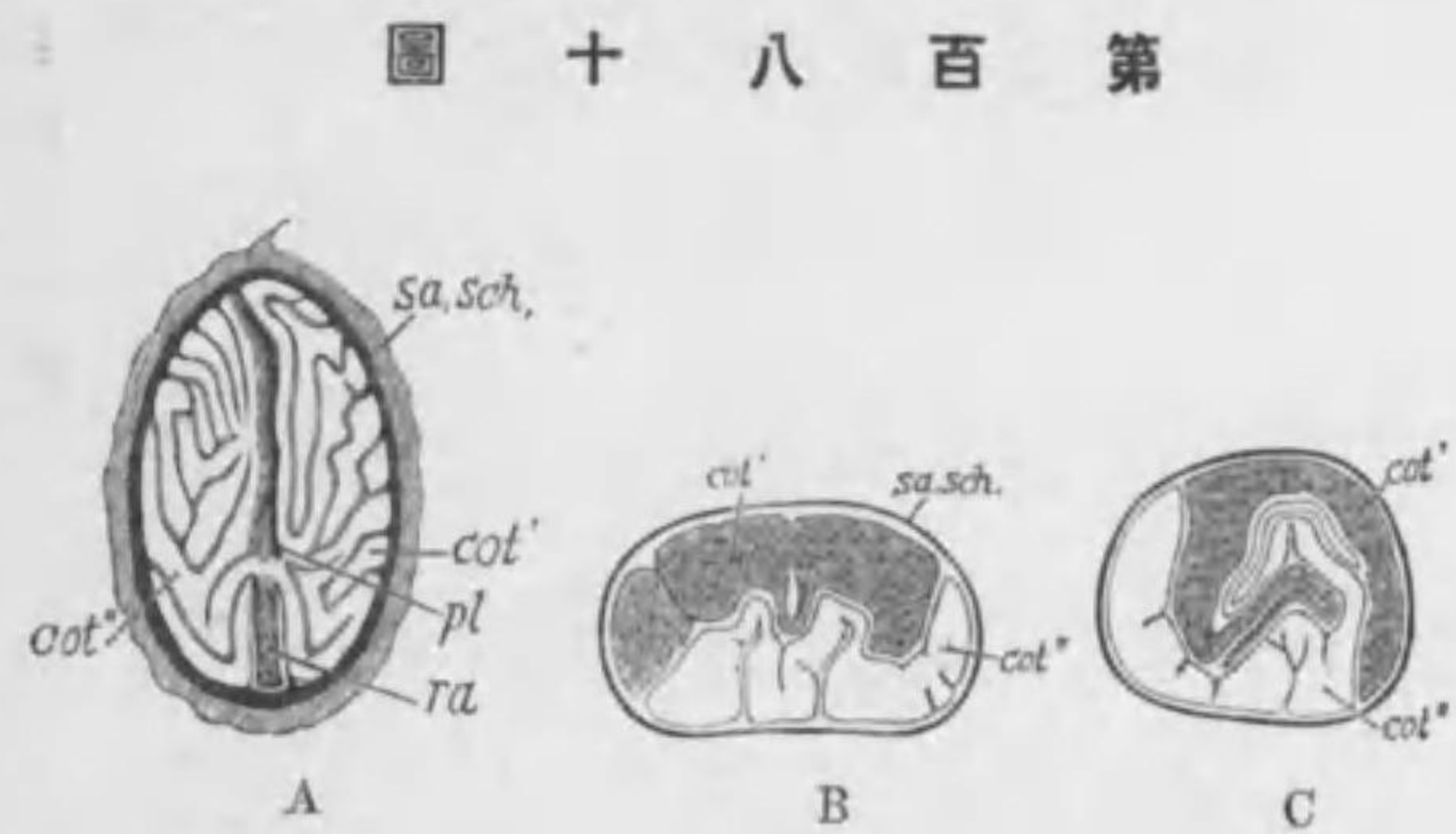
果實稔熟スルノ際其房壁及胎盤ハ頽潰シ柔軟ニシテ美味ヲ有スル果泥トナリ漸ク果壁ト分離シ種子ノ間ニ充填スルニ至ル、各果中ニハ十二乃至十四箇ノ種子アリテ縦徑ノ五列ヲ爲シテ排置セラル、種子ハ初メハ僅ニ色澤ヲ帶ヒ殆ント球形ヲ爲セルモ稔熟スルノ際有角性トナリ隆起ヲ現ハシ或ハ壓扁セラレ乾燥スルニナリ隆起ヲ現ハシ或ハ壓扁セラレ乾燥スルニナリ隆起ヲ現ハシ或ハ壓扁セラレ乾燥スルニナリ隆起ヲ現ハシ或ハ壓扁セラレ乾燥スルニナリ隆起ヲ現ハシ或ハ壓扁セラレ乾燥スルニ

圖 九 十 七 百 第



從ヒ褐色ヲ呈シ頗ル堅脆トナル、子殼ハ非薄ニシテ揉碎シ易ク内面ニ白色ノ

皮膜ヲ被ムル、其皮膜ノ一部分ハ子核ト固着シ一部分ハ子核中ニ摺入シテ重



襲ス、故ニ其褐色或ハ類灰色ニシテ處々ニ紫色ヲ  
 帯フル子核ハ輒スク之ヲ壓壞シテ有角性ノ小片  
 トナスコトヲ得、其二箇ノ子葉ノ一ハ内面ニ太キ  
 三條ノ縦肋線ヲ具有シ他ノ子葉ノ内面ニハ之ニ  
 應スル溝渠アリテ接合ス、子葉ハ其横断面ニ於テ  
 波濤狀ノ彎線ヲ現ハシ肥大ノ堅キ小根ヲ包藏ス。  
 子葉ノ組織ハ薄壁性細胞ヨリ成リ細微ナル脈管  
 束アリテ通走ス、其細胞ノ内容物ハ主トシテ脂肪  
 ヨリ成リ「エーテル」ヲ以テ浸出スレバ澱粉及蛋白  
 質ノ細顆粒ヲ見ルニ至ル又或ル細胞中ニハ紫色  
 乃至藍色或ハ稍、褪消シテ赤褐色トナレル色素ヲ  
 包藏ス而シテ種子ノ色澤ハ此色素ニ淵源スルモ  
 ノトス。

第百七十九圖 ハカ、オ果實ノ横断面ヲ示ス其ハ種子 *sa, sch.* ハ子殼 *cot.* ハ子

第 百 八 十 圖

葉 *po.* ハ果壁トス。

第百八十圖 A ヨリ C ニ至ルハカ、オ子ノ縦断面及横断面ヲ示ス *pl.* ハ小幹

*cot.* *cot.* ハ共ニ子葉 *ra.* ハ小根トス。

カ、オ豆ハ往々新鮮ナルモノヲ堆積シ或ハ一日間之ヲ地中ニ埋ムル等ノ諸  
 法ニ由リ少シク醱酵ヲ受ケシメテ調製スルコトアリ此際カ、オ豆ハ嘗ニ其  
 色澤ヲ變スルノミナラズ其味苦ク收斂性ナルモノ著シク緩和トナリ且ツ一  
 種ノ芳香ヲ發生スルニ至ルモノトス故ニ斯ノ如ク調製セル「カ、オ豆」ハ世人  
 最モ之ヲ貴フ。

カ、オ豆ハ佳快油様ノ微苦味ト微弱ノ芳香ヲ有ス。

(成分) カ、オ子ハ「テオブロミン (Theobromin  $C_7H_8N_2O_2$ )」ヲ以テ有力成分トナ

シ其含量往々四%ニ超ユルモノアリ而シテ又コフェイン (Coffein) ノ少量ヲ含  
 有ス、カ、オ子ハ其脂肪ノ含量全量ノ半バニ居ル、藥用ニ所謂カ、オ脂ハ即チ  
 其脂肪ヲ壓出セルモノニシテ此脂肪ハ常温ニ於テハ固體ヲナシ「ラウリン酸  
 (Laurinsäure  $C_{12}H_{24}O_2$ )」及之ニ近似セル同基酸類ノ「グリセリンエーテル」ノ混合物  
 ヨリ成リ傍ラ少量ノ「オレイン (Olein)」ヲ含有シ而シテ「カ、オ子」ニ固有ナル氣

味ヲ有ス。

(應用)

カ、オ脂及シヨコラトデ (Chocolate) ナ製スルニ用ユ而シテ、シヨコラトデ、ハ「カ、オ豆」ヲ烘焙シテ外皮ヲ去リ搗碎シテ製出シ歐洲人ノ最モ嗜好セル飲料ニ供用セラル、モノナリ。

● 亞麻仁 Semen Lini.

(基原)

亞麻仁ハ最モ太古ノ時代ヨリ藥用ニ供セラル、モノニシテ赤道直下ノ諸國ノ最北部ノ諸地トヲ除クノ外殆ント各國ニ培養セル亞麻科 (Linaceae) 所屬ノ植物 *Linum usitatissimum* Linn. (第百八十一圖) ハ本植物ヲ縮示スノ種子ナ

圖一十八百第



リ、亞麻ハ其莖ヨリハ纖維ヲ採リテ所謂リンネル布ヲ製造スルノ原料トナシ其種子ヨリハ亞麻仁油ヲ製スル等其用途甚タ汎ク最モ重要ノ植物ニシ

(獨) Leinamen.

(英) Linseed.

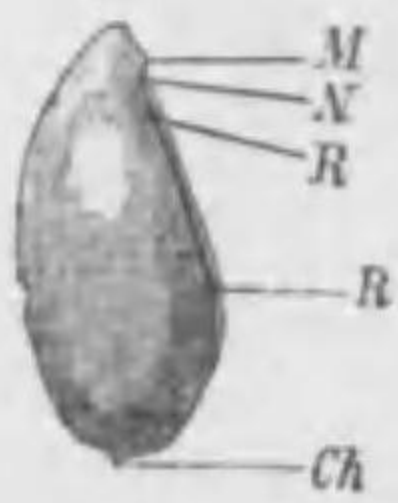
(佛) Semence de lin.

シテ近來本邦北海道ニ於テモ大ニ之ガ培養ヲ擴張セリ。

(形狀)

亞麻仁ハ長卵圓形ヲナシ壓扁セラレ長サ六 mm 厚サ四 mm ニ至リ一箇ノ重量ハ大約五ミリグラムナリ、外面ハ滑澤、褐色ニシテ光澤ヲ帶ヒルベシヲ以テ檢スルトキハ極メテ細微ナル小窩ヲ現ハシ卵門 (M) ハ其尖端ノ下部ニ存在シ暗色ノ小隆起物トシテ看取スルヲ得ベシ、其下部ニ臍點 (N) ヲ着ク、臍點ヨリ稍、淡明ナル線條 (R) ノ發出スルヲ見ル是レ種縫トス、電點 (Ch) ハ顯著ナラス亞麻仁ヲ水中ニ投シテ軟化セシムルトキハ其外皮ヨリ粘液ヲ分泌シテ種子ヲ被覆スルニ至ル。

圖二十八百第

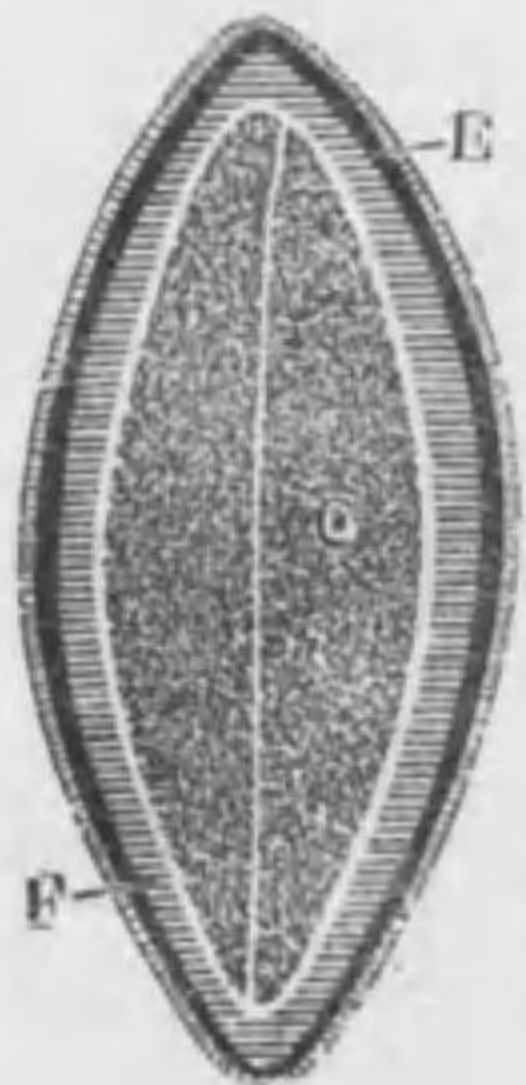


亞麻仁ヲ取り其子殻ヲ開クトキハ中ニ二箇ノ心臟形子葉及縱直ナル小根ヲ具有スル芽胎ノ存在スルヲ見ル、芽胎ニ具フル小根ハ卵門ニ向ハスシテ種子ノ尖端ニ向ヘリ類白色非薄ノ胚乳ハ子殻ヲ除去スルニ當リ子殻ニ附着シテ殘留スルヲ常トス、種子ヲ取り之ヲ橫斷スレバ胚乳及子葉ノ存在スル狀ヲ見ルベシ。

第百八十二圖ハ亞麻仁ヲ廓大示セルモノニシテ其 (M) ハ卵門、(N) ハ臍點、(R) ハ種縫ニシテ、(Ch) ハ電點ノ存在ス



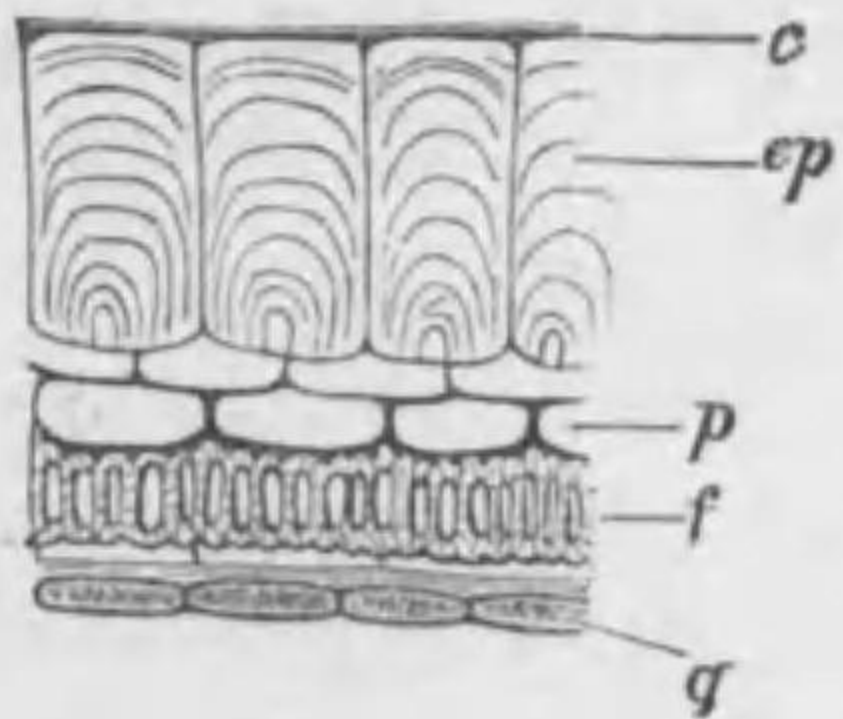
圖三十八百第



ベキ部位トス。

第百八十三圖ハ亞麻仁ノ廓大圖ニシテ其(E)ハ子殻(F)ハ胚乳(C)ハ子葉トス。

圖四十八百第



表皮ノ壁層ニシテ粘液ノ蓄積ニ由リ水ニ逢フトキハ大ニ膨脹ス。

第百八十四圖ハ亞麻仁ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢視

セルモノニシテ(ep)ハ上皮即チ粘液層ノ水ニ逢フテ膨脹セル狀(c)ハ表皮(p)ハ柔組織(f)ハ石核細胞層(g)ハ壓迫セラレタル細胞層ナリ、子殻ノ内部ニ存在セル胚乳ハ薄多方形ノ細胞ヨリ成リ芽胎ノ組織ニ於ケルガ如ク油滴及蛋白質顆粒ヲ包藏シ處々ニ完全ナル八面結晶體ノ存在スルヲ認ム。

(成分) 亞麻仁ノ主成分ハ所謂亞麻仁油(Oleum Limi)ニシテ其含量ハ亞麻仁全量ノ大約三分ノ一ニ居ル粘液ノ量ハ大約六%ニシテ灰分ノ量ハ平均三七%ナリ。

(應用) 亞麻仁ハ粘液ヲ含有スルヲ以テ煎劑トナシ内用ニハ包攝藥トナシ又瀉腸料トナス煎劑ノ條ヲ參照スベシ又罌布トナシテ外用ニ供ス、亞麻仁油製造ノ原料ナリ。

● 蓖麻子 Semen Ricini.

(基原) 蓖麻子ハ己ニ耶蘇紀元四百八十四年前ヨリ世ニ知ラレタル藥品ニ

屬ス此生藥ノ原植物第

百八十五圖ハ Ricinus

communis L. ト稱ス大戟

科(Euphorbiaceae)ニ屬シ

温帶諸國ニ培養ス。

(形狀) 蓖麻子ハ畧橢

圓形ヲ有シ長サ八乃至

十七mm幅四乃至十mm

ニシテ少シク壓扁セラ

レ背面ノ頂端ニハ短キ

圖五十八百第



蓖麻子 (獨) Ricinusfamen.  
(英) Castor-oil seeds.  
(佛) Semence de ricin.

第百八十六圖



小嘴(第百八十六圖)ヲ戴キ其前部ノ腹面ニ傾ケル部位ニハ白色或ハ灰色ノ「カルンクラ」ナル物質ヲ具有ス之ヲ除去スレバ橢圓形ノ凹窪ヲ現ハス此凹窪ニ密接シテ僅ニ隆起セル臍點ヲ存シ其臍點ヨリ下方ニ向テ欄梗(種縫)ヲ發出シ其下端ニ電點ヲ存ス子殼ハ白褐ノ二色相混シテ大理石様ノ紋理ヲ現ハシ滑澤ニシテ光澤ヲ帶フ中ニ白色油様ノ胚乳ヲ包藏シ其中間ニ扁平ナル子葉ヲ有スル芽胎ヲ存ス胚乳ノ組織中ニハ油滴及蛋白顆粒ヲ包有シ傍ラ類結晶體ヲ見ル。

蓖麻子ハ臭氣ヲ有セズ其味初メ緩和ニシテ後苛辣ナリ。

**(成分)** 蓖麻子ヲ壓搾スレバ脂肪油(蓖麻子油 *Oleum Ricini*) 五十乃至六十%ヲ得蓖麻子油ハ硬脂酸軟脂酸及リチノール酸 (*Riciniolsäure*) ノ「グリセリン」エーテルヨリ成ル其他蛋白質大約二・三%ヲ含ム蓖麻子ヨリ油分ヲ壓取セル殘滓ハ毒性ヲ有ス。

**(應用)**

蓖麻子ハ目下其儘ニ藥用ニ供セス蓖麻子油ヲ製出スルノ原料ナリ。

● 巴豆 *Semen Tiglii*.

巴豆 (獨) *Roridufamen*.  
(英) *Croton seeds*.  
(佛) *Graines de Tigly*.

第百八十七圖



**(基原)** 巴豆ハ漢方醫家ニ於テ已ニ太古ヨリ峻下藥トシテ醫療用ニ供シ大戟科 (*Euphorbiaceae*) ニ屬スル *Croton Tiglium L.* (第百八十七圖) ナル一家性小木ノ

種子ナリ東亞細亞ノ諸島及他ノ熱帶地方ニ産ス。

**(形狀)** 上記植物ノ果實

(蒴果) ハ一箇ノ種子(巴豆)ヲ包藏シ巴豆ハ卵圓形ヲ有シ長サ大約一・二 *cm* 幅九 *mm* ニ至ル外面ハ曇灰褐色ヲ有シ稍粗糙ニシテ背面ニハ屢稍穹窿セル鈍稜線ヲ有シ邊緣ハ銳稜ヲナ

ス腹面ハ殆ント平坦ナリ其鈍キ一端ニハ「カルンクラ」ヲ着ク坊間ノ品ハ多クハ之ヲ缺ク其全部ノ腹面ニ當テ僅ニ露出セル臍點ヲ存シ之ヨリ著シク露出セル欄梗ヲ發生シ其終端ニ稍暗色ナル電點ヲ着ク内部ノ構造ハ蓖麻子ニ異

ナルコトナシ、第八十八圖ハ自然大巴豆ノ概型ヲ示シ、(s)ハ小嘴トス、第八

圖八十八百第



圖九十八百第



十九圖ハ巴豆ノ寫真圖ナリ。

巴豆ハ其味初メ緩和油様ナレトモ暫時ニシテ灼クガ如キ苛烈ノ味ヲ感ス。

(成分) 巴豆ハ脂肪油(巴豆油)三十乃至四

十%ヲ含有ス、巴豆油ハ其四分ノ一滴ヲ服スルモ已ニ劇烈ノ下利ヲ起ス故ニ巴豆油

及巴豆ハ輕忽ニ取扱フ可カラズ又猥リニ之ヲ味フヲ許サズ、巴豆油ハ硬脂酸、軟脂酸等ノ如キ脂肪酸類ヲ含有スルノ外巴豆酸 (Tiglinicure C<sub>17</sub>H<sub>33</sub>O<sub>2</sub>) ナル一種ノ脂肪酸ト「クロトノール (Krotanol) ナル化合物ヲ含有ス而シテ其下利ヲ喚起スル成分ヲ或ハ「クロトノール」ニ歸セシムルモノアレトモ敢テ信ヲ置キ難シ、宜ク製藥化學下卷巴豆油ノ條ヲ參照スベシ。

(應用)

目下醫家ハ巴豆ヲ其儘ニ服用セズ唯其脂肪油即チ巴豆油ヲ峻下藥トナシテ内用ニ供シ又ハ皮膚ヲ引赤スルノ目的ヲ以テ外用ニ供ス。

● 苦扁桃

*Amygdalae. amarae.*

- (獨) Bittere Mandeln.
- (英) Bitter almonds.
- (獨) Amandes amères.

圖 十 九 百 第



(基原) 苦扁桃ハ已ニ五百年代ヨリ醫用ニ供セラルト雖トモ苦扁桃水ハ一千七百年代ニ至リ始メテ醫藥ニ入レリ、苦扁桃ハ *Prunus Amygdalus Butil. var. amara* D. C. ナル桃科 (*Amygdalaceae*) 植物(第九十圖)ノ種子ニシテ此樹ハ後文ニ掲ク

ル食用無害ノ甘扁桃ヲ生スル樹ト其形狀毫末ノ差異アルコト無ク二樹ハ相交雜シテ百兒矢亞ノ南部ニ野生スト云フ、第九十圖(A)ハ本植物ノ花ヲ帶フル一枝、(B)ハ果實ヲ有スル一枝、(C)ハ花ノ縱斷面、(D)ハ果實、

(E)ハ其割截面、(F)ハ其種子即チ苦扁桃仁ノ側面ヲ示ス(共ニ縮小圖)。

苦扁桃ハ其種子苦味ヲ有スルノ外花ハ屢鮮紅色ヲ有シ葉柄ハ腺體ヲ缺如シ

雌蕊ハ内輪ノ雄蕊ヨリ短キヲ以テ特異ナリトス、苦扁桃樹ハ蓋シ扁桃樹類ノ原樹ニシテ甘扁桃樹ハ恐クハ苦扁桃樹ヨリ變生セシモノナラン扁桃樹ハ恐クハ元來前亞細亞ノ産ニシテ今ヤ地中海ノ沿岸、中央歐洲、英國南部等ニ移植セリ、目下苦扁桃ハ亞弗利加ノ北部、佛國ノ南部及カナリヤ島ヨリ輸出ス、其中亞弗利加産ヲ以テ最佳品トス、此苦扁桃ハ比較的小ナリ、シ、リヤ島ヨリモ輸出ス、該島ノ品ハ殊ニ大ナリ。

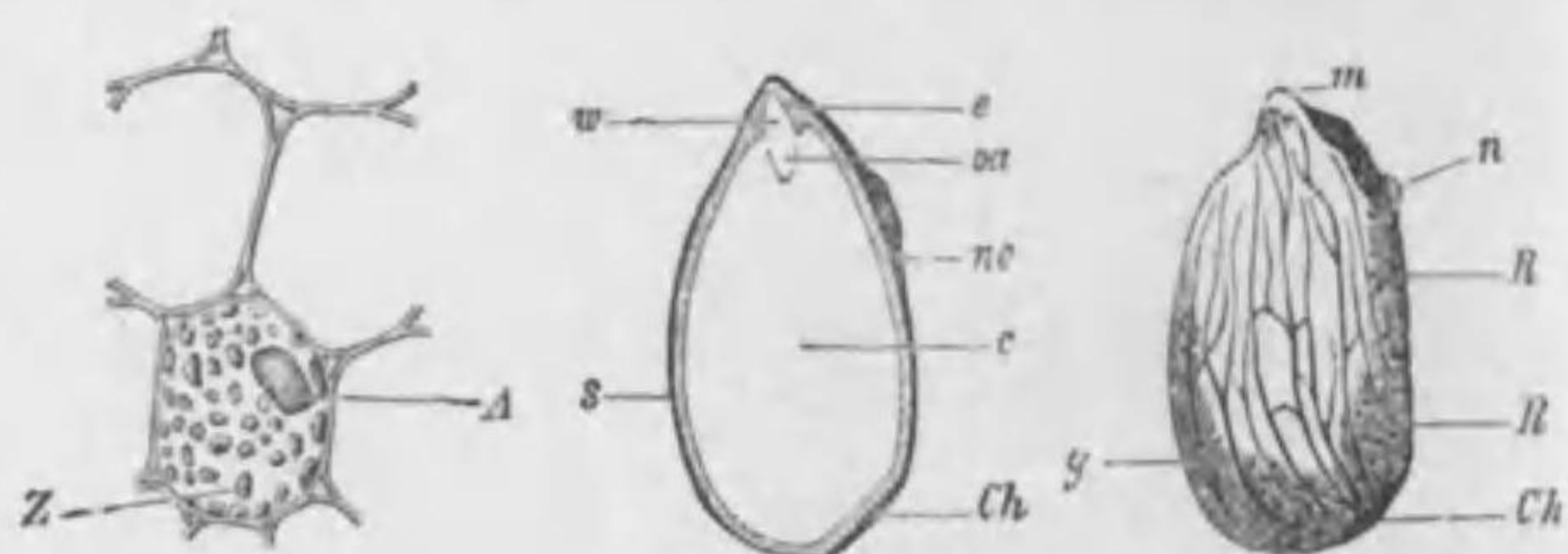
形状



第百九十一圖

苦扁桃ハ子殻ヲ除去シテ販賣シ、尖卵圓形ヲナシ、稍、壓扁セラレ、基部ニ於テハ左右均同ナラス、長サ平均二cm、基部ノ厚サ一・二cmニ至ル、外面ハ褐色ニシテ粉塵及皺紋ヲ帶フル、子皮ヲ被ムル、基部ノ一方第百九十二圖(A)ノCh部ニ於テ暗色ノ斑點ヲ見ル、是レ電點ニシテ之ヨリ種子ノ邊緣ニ沿フテ暗色ノ稜線(種縫)(R)ヲ出タシ、其(R)ニ當レル部位ニ判明ナラザル臍點ヲ存ス、卵門ハ稔熟セル種子ニ在テハ認視シ難シト雖トモ、其尖端ハ種縫ノ邊側(m部)ニ存ス、脈管束ハ電點ヨリ出デ、子皮ヲ通走

第百九十二圖



シ外部ヨリ之ヲ視レバ暗色ノ脈絡ヲナシ、種子ノ上面ニハ溝條ヲ形成ス、苦扁桃ヲ暫時水中ニ軟化セシメテ、其子皮ヲ除去スルキハ白色肥大ノ芽胎ヲ見ル、芽胎ノ主要ナル部分ハ子葉第百九十二圖(B)ノcヨリ成リ、其稍、凸隆セル外面ニハ溝條ヲ現ハシ、之ヲ分割シテ二片トナス、トキハ内面ノ尖端ニ小根(w)ヲ存シ、此小根ニハ小幹(aa)ノ連接スルヲ見ル、子皮ハ充分ニ軟化セシムルトキハ之ヲ上下ノ二皮ニ分離スルヲ得而シテ、其上皮ハ本來ノ子皮ニシテ、下皮ハ子核組織ト凋萎セル胚乳ヨリ成ル、子葉ハ菲薄ナル細胞ヨリ成リ、柔弱ナル脈管束アリテ通走シ、油滴及蛋白質顆粒(アロイロン顆粒)ヲ包藏ス、而シテ此蛋白質ノ一部分ハ結晶ニ類スル觀ヲ呈ス、エーテル又ハクロ、フィルムヲ以テ脂肪分ヲ除去スルトキハ明カニ蛋白質ノ結晶ヲ認視スルヲ得、子皮ノ組織ハ鞣酸ニ富ム。

第百九十一圖ハ苦扁桃ノ寫真圖ナリ。

第九十二圖 (A) は苦扁桃ノ外面ヲ示ス (n) ハ其苞點、(E) ハ種縫、(r) ハ臍點、(m) ハ卵門トス、同圖 (B) ハ同上ノ縱斷面、其 (s) ハ上子皮、(nc) ハ子核組織、(c) ハ萎縮セル胚乳、(w) ハ小根、(oa) ハ小幹、(e) ハ子葉トス、同圖

(C) ハ子葉ヲ形成スル組織ヨリ (クロ、フェルム) ニテ脂肪分ヲ洗去セルモノニシテ其 (i) ハ細胞核、(z) ハ蛋白顆粒トス。

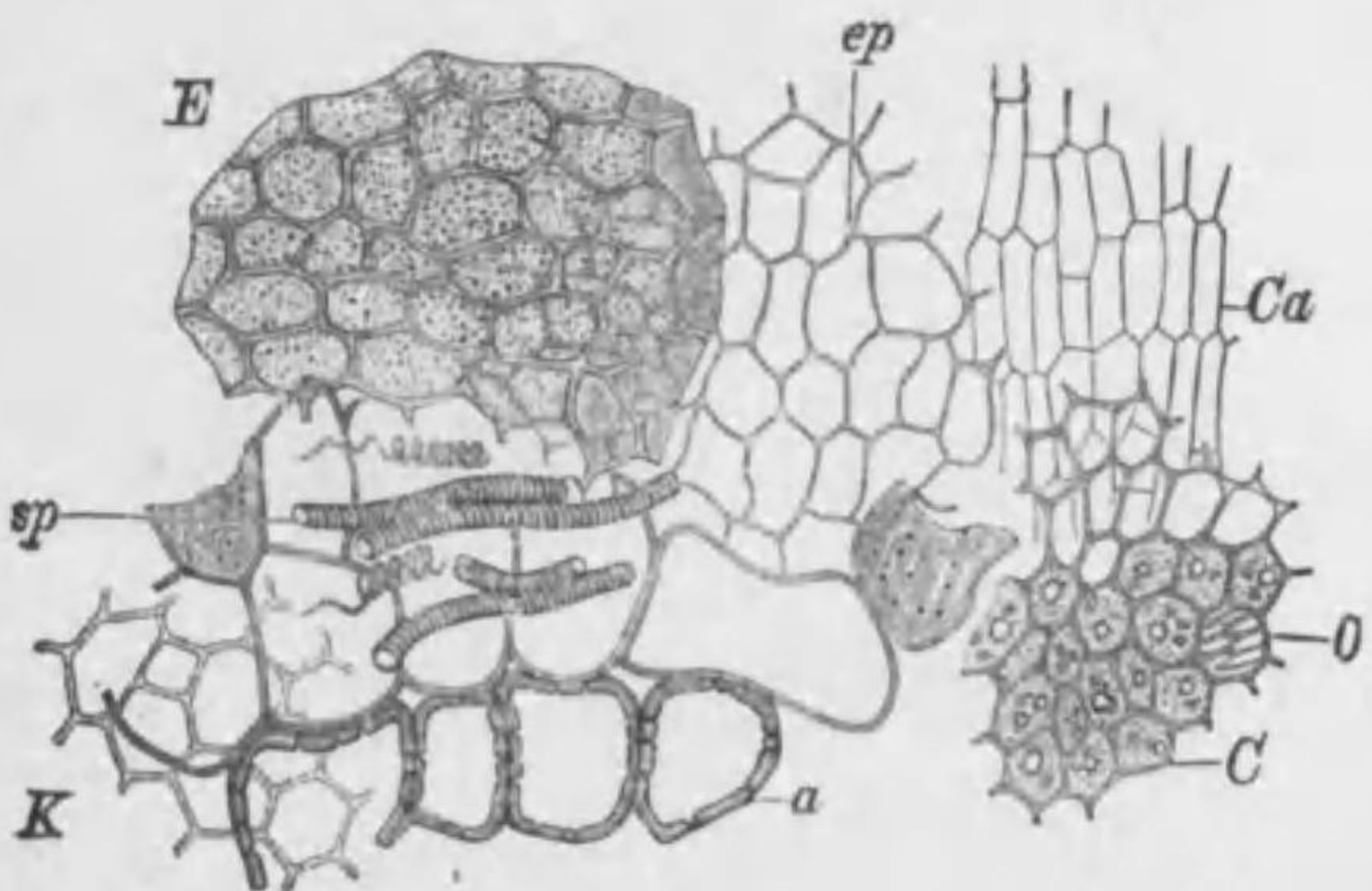
苦扁桃及甘扁桃ノ油粕(甘扁桃油ヲ絞リタル殘留物)ハ歐洲ニ於テハ專ラ洗粉トナノ應用ス故ニ其顯微鏡下ニ呈スル狀ヲ示スベシ。

第九十三圖 (E) ハ殘存セル胚乳ノ組織ヲ上面ヨリ望視セル狀、(ep) ハ子皮ノ内上皮、(a) ハ其褐色ナル外上皮、(K) ハ子皮ノ褐色組織、(sp) ハ子皮ヲ通走セル螺旋狀脈管束、(C) ハ子葉ノ組織ナリ。

### (成分)

苦扁桃ハ脂肪油(甘扁桃油)三十六乃至五十%ヲ含有ス此脂肪油ハ

第 百 九 十 三 圖



ーゲル氏ニ據レバ甘扁桃中ニ含ム所ノ脂肪油ト少シク異ナルモノトスレトモフリニキーゲル氏ハ其不同ハ只製造ノ際揮發油分ヲ混淆スルニ由ルモノトナセリ其他苦扁桃ハ蛋白質二十五%乃至三十五%、ゴム類似ノ物質二乃至三%、葡萄糖五%、水分九乃至十二%及 Amygdalin 一七五乃至三三三%ヲ含有ス、苦扁桃ヲ搗碎シ之ニ水ヲ加ヘテ放置スルトキハ「チアン水素ヲ生成ス是レ「アミクダリン」ナル配糖體ガ亦苦扁桃中ニ含メル Emulsin ナル酵素ノ媒介ニ由リ「チアン水素ベンツアルデヒード及葡萄糖ニ分解セラル、ニ由ル。



但シ苦扁桃ニ沸湯ヲ加ヘ或ハ之ニ酒精ヲ加ヘテ煮沸スルトキハ其酵素(蛋白質ニ屬ス)ハ之ガ爲メ凝固セラレ不溶性トナリテ「アミグダリン」ニ分解作用ヲ呈セス「チアン水素等ヲ生セサルニ至ルベシ。

### (應用)

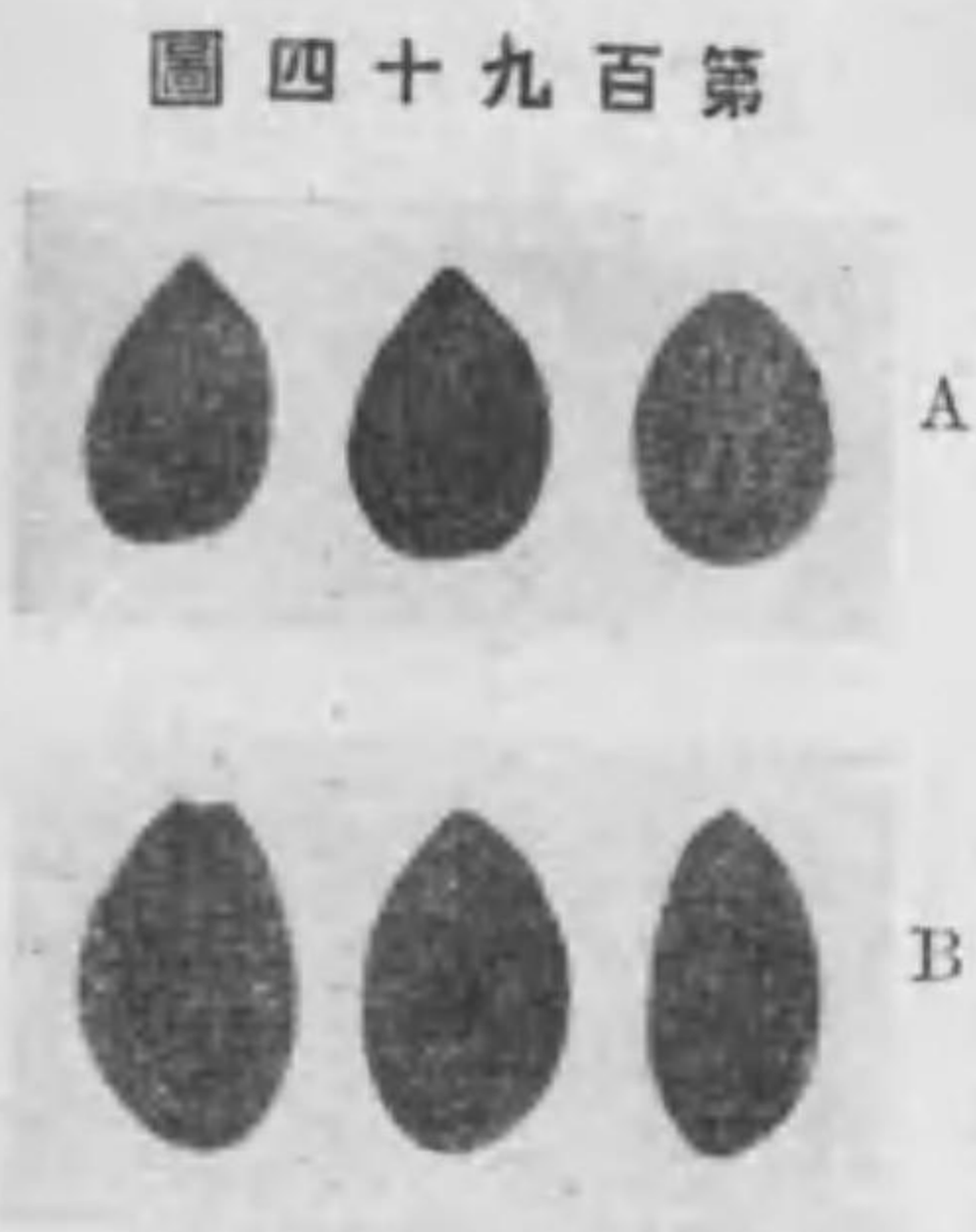
専ラ苦扁桃水ヲ製造スルニ用ニ苦扁桃水ヲ製造スルニハ先ツ苦扁桃ヲ壓搾シテ脂肪分ヲ除去セサル可カラス茲ニ副産物トシテ得ル所ノ脂肪油ハ所謂甘扁桃油ニシテ頗ル價値アル物質トシ本來毒性ヲ有セサレトモ多ク食スレバ中毒症ヲ發ス。

●杏仁 Semen Pruni armeniaca.

杏仁 (獨) Prifosenfamen.  
(英) Apricot seed.  
(佛) Semence d'apricot.

**(基原)** 杏仁ハ本邦隨處ニ培植スル杏即チ薔薇科(Rosaceae)ノ植物Prunus armeniaca Linn.ノ種子トス、杏仁ハ専ラ信州地方ヨリ出タス又清國ヨリ輸入ス。

**(形状)** 杏仁ハ畧、心臟形ヲ有シ頂端稍、尖銳ナリ多少壓扁セラレ左右均同ナラス長サ一・五cm幅一・二cmニ至ル、帶赤褐色ノ皺紋多キ子皮ヲ被ムリ水中ニ軟化セシムレバ容易ニ其子皮ヲ剝離スルヲ得ベシ而シテ其圓形ナル基礎部ニ臍點ヲ有ス、本品ノ主要ナル部分ハ子葉ヨリ成ル、本品ヲ水ニ浸漬シテ軟化セシムレバ子葉ハ二片ニ分割スルコトヲ得、尖銳ナル頂端ニ當リテ小根ト小幹トヲ見ル、子葉中ニハ夥シク油滴ト蛋白質顆粒トヲ包藏シ解剖的構造ハ苦扁桃及甘扁桃ト異ナルコト無シ。



第百九十四圖

**(成分)** 杏仁ハ脂肪油(杏仁油)ノ含量其全量ノ半バニ超ユ、杏仁ヲ搗碎シ水ニ

第百九十四圖Aハ杏仁ノ自然大寫眞圖ナリ。

混攪スルノ後蒸餾スルトキハ「チヤン水素ヲ得茲ニチヤン水素ヲ生スルハ杏仁中ニ Amygdalin ナル配糖體ヲ含有シ Emulsin ノ媒介ニ由リ分解シテ「チヤン水素・ベンツアルデヒド(苦扁桃油 C<sub>6</sub>H<sub>5</sub>COH) 及葡萄糖トナルニ由ルコト苦扁桃ニ同シ余ガ實驗ニ據レバ杏仁ハ少ナクモ「アミグダリン三%ヲ含ム故ニ此點ニ關シテハ歐米ニ於テ専ラ苦扁桃水ヲ製造スルニ用ユル苦扁桃ト異ナルコトナシ杏仁ヨリ「チヤン水素ヲ生スルハ上文ニ述フルガ如ク「アミグダリン」ガ酵素(エムルジン)ニ逢ヒテ分解ヲ受クルニ因ルガ故ニ杏仁ヲ搗碎シ直チニ沸湯ヲ注加シ又ハ酒精ヲ注キテ蒸餾スルトキハ「エムルジン」ハ凝固死滅スルヲ以テ曾テ「チヤン水素ヲ生スルコトナシ」。

**桃仁** ハ Prunus Persica L. (桃)ノ種子ニシテ杏仁ニ類シ、稍、長ク且シ薄シ又苦扁桃油等ヲ生成スレトモ少量ナリ恐クハ藥用品トナシ雖シ第百九十四圖ノ(B)ハ其寫眞圖ナリ。  
本邦隨處ニ産スル枇杷 (Eriobotrya Japonica Thunb.)ノ種子ハ亦「アミグダリン」ヲ含有シ「チヤン水素ヲ生ス」。

**(應用)** 専ラ杏仁水ヲ製スルノ原料タリ陳舊ノ品ハ用ニ堪ヘス又杏仁油ヲ製スルノ原料トナス。

● 甘扁桃 Amygdalae dulces.

(獨) Süße Mandeln.  
(英) Sweet almonds.  
(佛) Amandes douces.

(基原) 甘扁桃ハ夙ニ耶蘇紀元前小亞細亞ヨリ伊國ニ齎致シ當時已ニ同國ニ於テ甘扁桃油ヲ搾取セリト云フ甘扁桃ヲ結フ樹ハ前條已ニ述フル如ク苦扁桃樹ト全ク形狀ヲ同ウシ植物學上之ガ區別ヲナシ難シ而シテ甘扁桃樹ハ前亞細亞中シリアニ至ル温帶諸地ニ産シ當時地中海沿岸ノ各地之ニ隣接セル諸國及中央歐州ノ温帶諸國ニ移植セリ而シテ伊國佛國ノ南部西班牙及モロコシ等ノ諸國ヨリ最モ多ク輸出ス。

(形狀) 甘扁桃ハ其形狀苦扁桃ニ均シ然レトモ其大小ニ著シキ不同アリテ大ナルモノハ長サ二・五cmニ至ル而シテ其内部モ亦全ク苦扁桃ト其構造ヲ同ウス然レトモ甘扁桃ハ其味緩和油様ニシテ甘ク粘性性ナリ、甘扁桃ハ温湯ニ浸シ除去シテ用ユベキモノトス。

(成分) 甘扁桃ハハーゲル氏ニ據レバ水分六乃至八%、脂肪油(甘扁桃油)四十三乃至五十六%、ゴム類似質三%、砂糖六乃至十%、(フリニキール氏ニ據レバ) 蔗糖十%、蛋白質二十乃至二十五%、少量ノ

Asparagin 灰分三乃至五%ヲ含有ス。

(應用) 本品ハ其子被ヲ去リ水ト共ニ搗碎シ更ニ水ヲ加ヘテ濾過スルトキハ乳狀ニ潤滑セル液即チ乳劑ヲ得故ニ專ラ乳劑ヲ製スルニ用ユ又甘扁桃油ヲ製スルノ原料タリ而シテ其油ヲ壓搾スルニ由リ得ル所ノ残渣即チ油粕ハ蛋白質ニ富ミ汚物ヲ洗去スルノ力大ナリ故ニ石鹼ニ換ヘ洗粉トナシテ大ニ賞用セラル。

● カラバル豆 Semen Physostignatis. Faba Calabaria.

(獨) Kalabarbohnen.  
(英) Ordeal bean of Calabar.  
(佛) Fèves du Calabar.

(基原) カラバル豆ハ其產地ニ於テ土人罪人ヲ毒刑スルニ之ヲ使用セリ而シテ一千八百六十二年蘇國エデンボロー市ニ於テ其瞳孔ヲ收縮セシムル性アルコトヲ發見セリ、カラバル豆ハ Physostigma venenosum Balfour (第九十五圖) ナル蝴蝶形科(Papilionaceae)植物ノ種子ニシテ亞弗利加西岸ノ中央部西經九度ヨリ赤道ノ南部ニ至ル諸地方殊ニ舊カラバル河ノ近傍ニ産ス。

(形狀) カラバル豆ハ其形狀尋常ノ大豆ニ類シ長サ三・五cm 幅二・五cm 厚サ一・五cmニ至リ一箇ノ重量平均四・一グラム、子殻ハ堅脆ニシテ帶褐類赤色ヲ有シ其穹窿セル一側ニハ廣クシテ且ツ深キ臍溝アリ、カラバル豆ヲ破壊スレバ

其白色ナル子葉ハ子殻ト固着シ子葉ノ符合面ニ巨大ナル空洞ヲ現ハシ基礎部ニ於テ長サ二mmニ過ギザル小根ヲ包藏スルヲ見ル、カラバル豆ハ毒性アルニモ拘ハラズ其味尋常ノ大豆ニ異ナルコトナシ、又之ニ熱湯ヲ注ケバ尋常ノ大豆ニ於ケル

如ク一種ノ臭氣

(豆臭)ヲ發生ス、第

百九十五圖ハ大

約四分一ニ縮小

セル上記植物ノ

一枝、第百九十六

圖ハカラバル豆

ノ概型、第百九十

七圖ハカラバル

豆ノ自然大寫真

圖五十九百第



圖ニシテ其扁面及側面ヲ示ス。

(顯微鏡的構造)

子殻ハ種々ノ細胞層ヨリ成リ其最外部ノ層ハ著ク化厚

シ柵狀細胞ニ類スル子殻

ヨリ成リ、第百九十八圖(Pl.)

之ニ連接セル海綿組織層

(sch.p.)ハ厚化細胞ヨリ構造

セラレ深褐色ノ物質ヲ含

有シ過クロール鐵ニ由テ

黑色ヲ呈ス最内部ノ子殻

層(同圖P)ハ觸線性ニ延長セル厚化細

胞ノ多層ヨリ造爲セラレ子葉ノ組織

(同圖ns)ハ薄壁性細胞nsヨリ成リ蛋白

顆粒及澱粉ヲ包藏シヨード溶液ヲ加

フレハ其蛋白顆粒ハ褐色ヲ呈シ澱粉

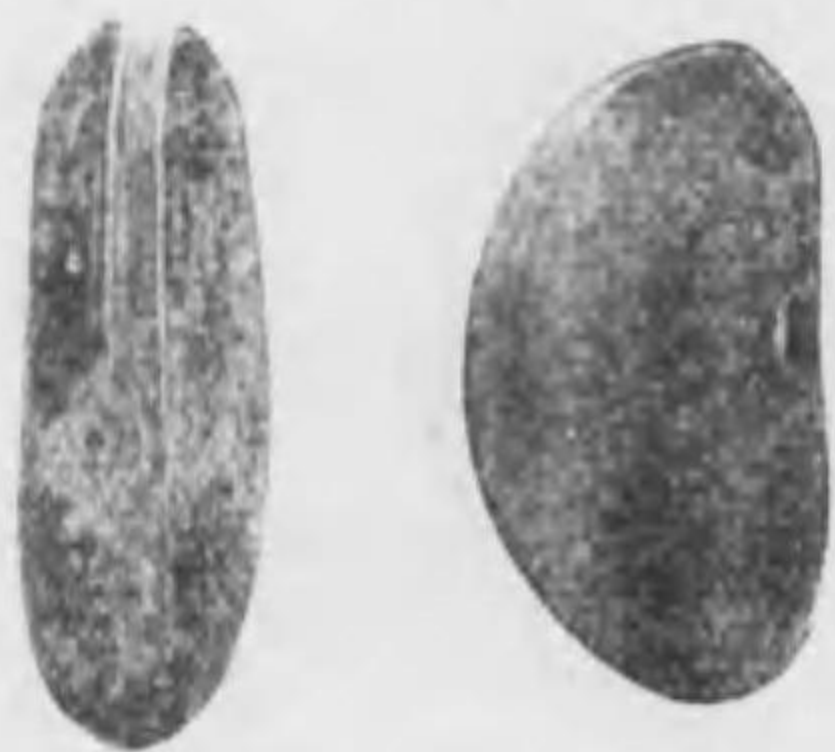
ハ藍色ヲ呈ス而シテ其澱粉ハ蝴蝶形

科ニ特異ナル形狀ヲ爲ス。

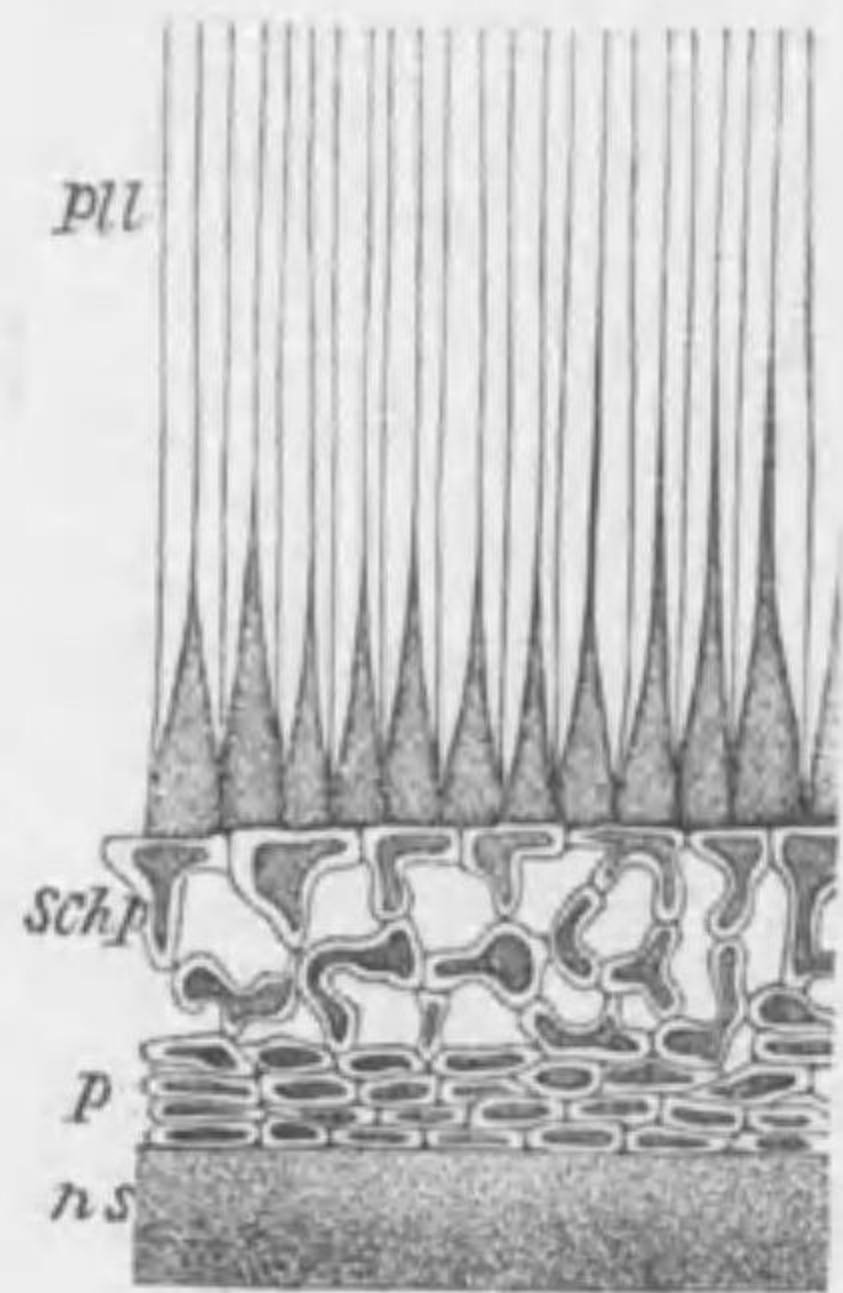
圖六十九百第



圖七十九百第



圖八十九百第





第百九十八圖ハ「カラバル」豆子殻ノ顯微鏡圖ヲ示ス其ニハ柵狀細胞形ヲナセル上皮膚 *sculp* ハ海綿組織層 P ハ最内部ノ子殻層 ns ハ子葉ノ組織ナリ。

**(成分)** カラバル豆ハ猛毒性ヲ有ス其有毒成分ハ「フィソスチグミン」(Physostigmin  $C_{15}H_{21}N_3O_2$ ) ニシテ瞳孔ヲ收縮スルノ性ヲ有ス此アルカロイド「ハーニ」(Eserin) (Eserin) ト稱ス、傍ラ又カラバリン (Kalabarin) ナル「アルカロイド」アリ此アルカロイドノ生理的作用ハ「アトロピン」ニ類スト云フ、其他エセリヂン (Eseridin  $C_{15}H_{21}N_3O_2$ ) 及エセラミン (Eseramin  $C_{15}H_{21}N_3O_2$ ) ナル「アルカロイド」ヲモ含有ス。

**(應用)** 藥局方ニ於テハ「カラバル」豆越幾斯ヲ製スルニ用ユ又「フィソスチグミン」及其鹽類ヲ製スルノ用ニ供ス。

● トンココ豆 Semen Tonco. Faba Tonco.

ト  
ン  
コ  
豆 (獨) Tonkbohnen.  
(英) Tonka bean.  
(佛) Fèves de Tonka.

**(基原)** トンココ豆又トンココ子ト *Dipentix odorata Willd.* 又 *Commersonia odorata Aubl.* ト稱スル植物ノ種子ナリ本植物ハ蝴蝶形科 (Papilionaceae) ニ屬シ南米ブラジルノ北部及ウエチジュラニ産ス、所謂和蘭トンココ豆ハ本植物ノ種子ニシテ英蘭トンココ豆ハ *Commersonia oppositifolia Aubl.* ナル植物ニ基原シ其品質和蘭ノ者ニ劣ル而シテアングラ産トンココ豆ハ最上品トス。

**(形狀)** 上記植物ノ果實ハ破綻セザル石果様ノ莢果ニシテ各果只一箇ノ種子即チ本條ノ「トンココ豆」ヲ包藏ス。

トンココ豆ハ(第百九十九圖)長形ニシテ兩端鈍ク背面ハ銳稜ヲ有シ腹面ハ鈍ナ

第百九十九圖



第百二十圖



リ長サ五 cm 至リ子殻ハ黒色ニシテ粗糙ノ皺紋ヲ現ハシ屢々狀結晶(クマリンニ係ル)ヲ帶フ子葉ハ巨大褐色ニシ

テ油分ニ富ミ肉質様ヲ爲シ肥大ナル縦直ノ小根ト二箇ノ子葉ヲ具有スル小幹ヲ包裹ス、香氣ハ佳快ニシテ「クマリン」ニ類ス味ハ芳香性ニシテ苦シ、**第百二十圖**ハ「トンココ豆」ノ寫真圖ニシテ其扁面及側面ヲ示ス。

**(成分)** 主要ナル成分ハ *Kumarin* 即チ「カールト」酸(無水桂酸  $C_9H_6O_2$ ) ニシテ「トンココ豆」ノ佳香アルハ此クマリンニ由ル、其他トンココ豆ノ脂肪分ハ二十五%ニシテ灰分ハ三・五%トス。

**(應用)** 香氣佳快ナルニ由リ矯臭藥トナス例之バ、ヨードフォルム等ノ惡臭ヲ隱蔽スルニ用ユ、  
專ラ化粧用トシテ賞用セウル、クマリシテ製造スル恰當ノ原料タリ又丁幾トナシ烟草ニ佳香  
ヲ附スルニ用ユ。

● 番木鱧 馬錢子 *Seenen Strychni. Nux vomica.*

**(基原)** 番木鱧ハ印度地方ニ於テハ其需用少ナク亞拉比亞人ハ中古ノ時代  
已ニ之アルコトヲ知リ一千年代始メテ歐洲ニ齎致セリト云フ。

番木鱧ハ錫蘭及前印度ヨリ濠洲ノ北部ニ汎布セル馬錢科 (*Loganiaceae*) ノ植物  
*Strychnos Nux vomica* L. ノ種子ナリ。



シテ天蓋絨様光澤アル帶灰黄色乃至類綠色毛茸ヲ密被ス、邊緣ハ稍隆起シ、其  
六 mm ニ過キス屢、反曲ス、兩面ニハ周邊ニ向ヒ偃伏

**(形狀)** 上記植物ノ果實ハ其形狀蜜柑ニ類スル漿

果(第百一圖)ハ其横截面ヲ示スニシテ其柔軟ナル

果肉中ニ三乃至八箇ノ直立性種子即チ番木鱧子ヲ

包藏ス、番木鱧子ハ圓板形ヲ爲シ直徑二・八 cm 厚サ

六 mm ニ過キス屢、反曲ス、兩面ニハ周邊ニ向ヒ偃伏

- (獨) Brechnüffe.
- (英) Nux vomica.
- (佛) Noix vomiques.

面即チ腹面ハ屢、陷凹シ他ノ一面ハ間、其中央ニ於テ疣贅狀ニ隆起セル電點ヲ  
具有シ此電點ヨリ僅ニ邊緣外ニ挺出セル臍點ニ向テ屢、顯著ナラザル欄梃ヲ

發生ス。

第百二圖ノ(A)ハ天然大

ノ番木鱧子ヲ示シ、(B)ハ電

點(ハ)ハ欄梃、(C)ハ隆起部

(B)ハ其縦剖面ニシテ、(C)ハ

子殼(d)ハ胚乳(c)ハ子葉、(r)ハ小根、(m)ハ臍點ヲ示ス、(C)ハ横

断面ニシテ其胚乳ノ間ニ存スル空洞ヲ明視シ得ベシ、第百

百三圖

ハ其寫

真圖ニ

シテ上

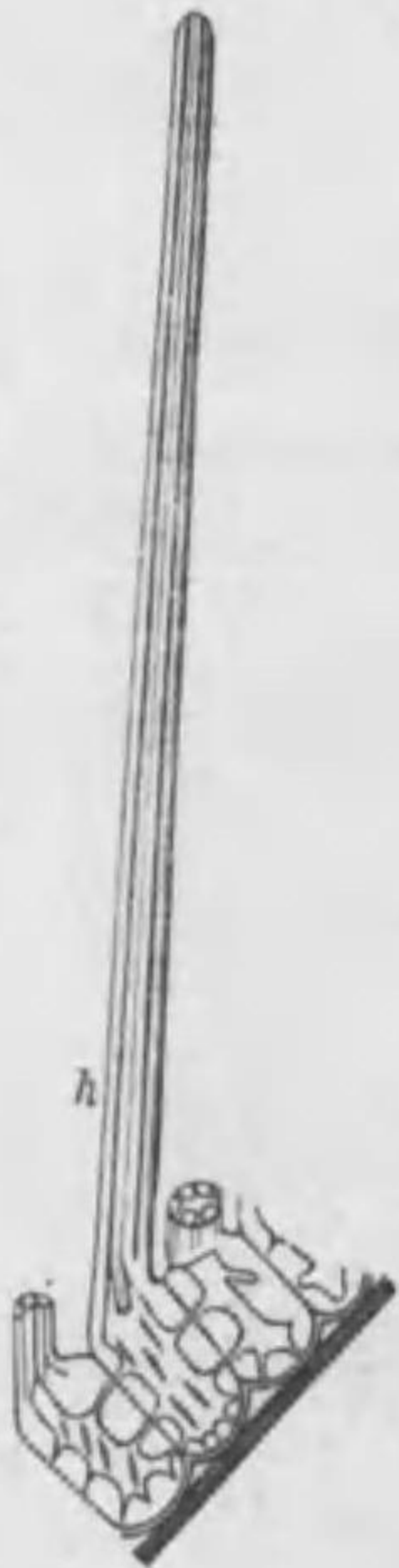
圖二百二第



圖三百二第

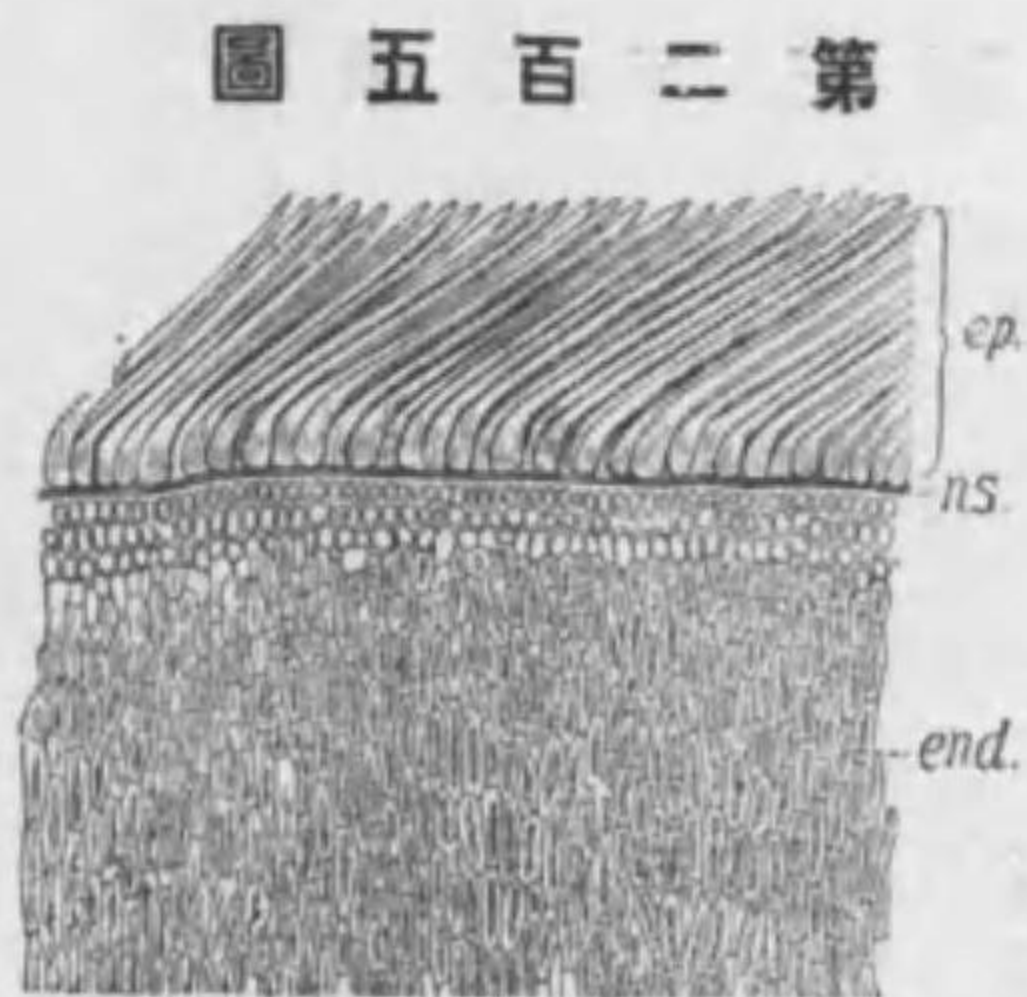


圖四百二第

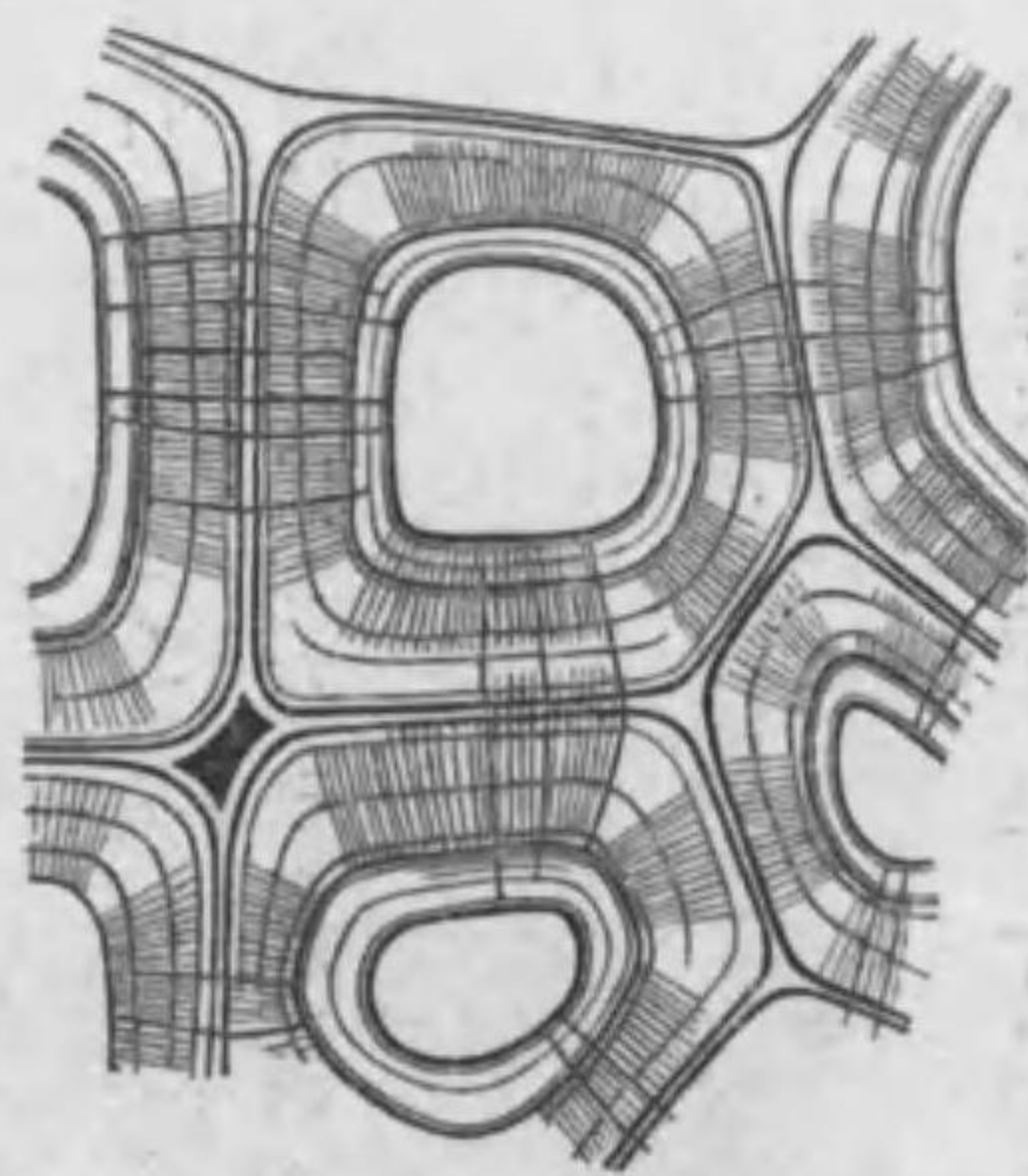


面及下面ヲ示ス、番木鱧子ヲ二三時間水ニ浸漬スルトキハ  
其周圍ヨリ輒ク之ヲ分割シテ二片トナスコトヲ得其一片

ノ内面臍點ニ近接セル部位ニハ顯著ナル子葉ヲ有スル芽胎ヲ着ク故ニ番木



圖五百二第

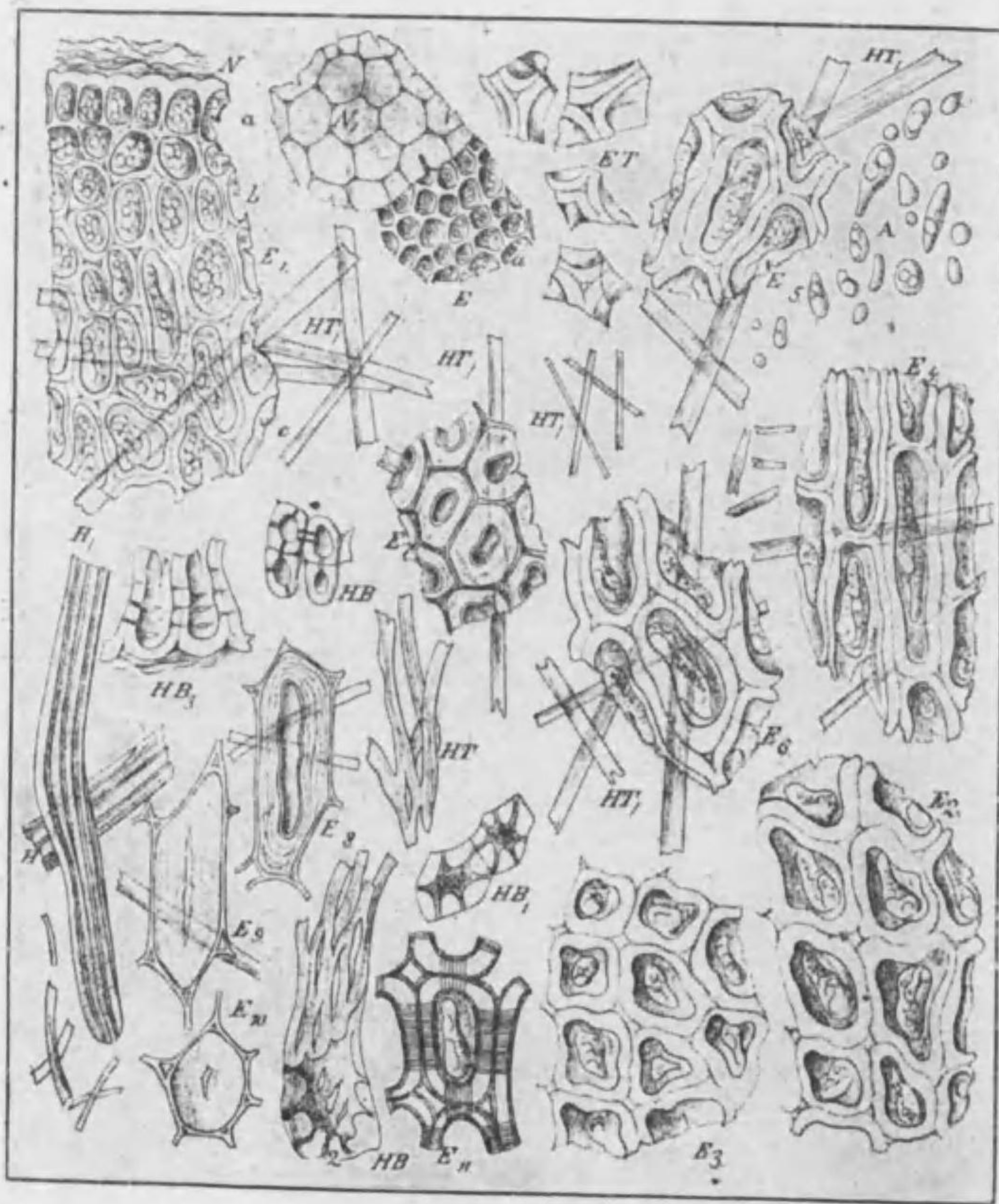


鱉ハ主トシテ胚乳  
ヨリ成リ其兩胚乳  
ノ間ニ空洞ヲ存シ  
子葉其中ニ占居ス、  
胚乳ハ其質堅實ニ  
シテ切斷シ難ク又  
粉末トナスコト難  
ク子殻ト固着ス。

(顯微鏡的構造)

子殻ノ被ムレル毛茸ハ特異ナル上皮毛ヨリ成リ各上皮  
細胞ハ發育シテ長サ展一mm 至リ其厚化セル基壁部ヨリ少シク上部ニ於テ  
屈曲シ子殻ノ上面ニ偃伏ス其毛茸ハ頂端鈍圓ニシテ皮壁厚化シ粗キ縦紋ヲ  
現ハス**第二百四圖**h及**第二百五圖**e毛茸ノ下部ニ位スル子殻層ハ膨脹セル  
暗色ノ皮層ヲ形成ス**第二百五圖**ns胚乳ノ組織同圖end)ハ之ヲ強ク廓大シ酒  
精ヲ加ヘテ檢視スルトキハ特異ノ紋條(孔紋)ヲ現シ水ニ逢フトキハ著ク膨脹

圖七百二第



シ粘液ヲ析  
出ス**第二百  
六圖**。

**第二百七圖**  
ハ番木鱉粉  
末ノ顯微鏡  
圖ニシテ(E)  
ハ胚乳表皮  
層ノ表面側、  
(E1)ニ於ケル  
(a)ハ種子橫  
斷面ニ於ケ  
ル同上、其(b)  
及(c)ハ之ニ  
接スル胚乳  
細胞(NN)ハ子

イグナチウス子

皮ノ養管層(E<sub>2</sub>)ヨリ(E<sub>1</sub>)ハ種子横断面ノ胚乳中層及肉層(E<sub>3</sub>)(E<sub>4</sub>)ハ之ニ屬スル箇々ノ細胞(E<sub>5</sub>)ハ胚乳破層(E<sub>6</sub>)(E<sub>7</sub>)ハ膨脹セル胚乳細胞(E<sub>8</sub>)(E<sub>9</sub>)ハ少時抱水コロラール溶液ノ作用セル同上(E<sub>10</sub>)ハ胚乳壁ノ形質聯絡(HI)ハ種子毛茸ノ碎片(HB)(HB<sub>1</sub>)(HB<sub>2</sub>)ハ毛茸ノ基礎部(毛根)ノ横面(HB<sub>3</sub>)(HB<sub>4</sub>)ハ毛根ノ縦面(HI)ハ毛茸厚條ノ分離破壊セル者(A)ハアロイロン顆粒ヲ示ス(二百倍)(コッホ氏ニ據ル)。

**(成分)** 有効成分ハストロキニーネ (Strychnin C<sub>22</sub>H<sub>33</sub>N<sub>3</sub>O<sub>2</sub>) 及ブルチン (Bruzin C<sub>27</sub>H<sub>45</sub>N<sub>3</sub>O<sub>2</sub>) ナル二種ノ「アルカロイド」ナリ、而シテ此二質ノ含量ハ四%ニ至ル。

**(應用)** 或ル神経系統ヲ興奮スルノ目的ヲ以テ藥用ニ供ス、其製品ハ丁幾感幾斯等ニシテ其他ストロキニーネ及其鹽類特ニ硝酸ストロキニーネヲ製スルニ用ニ、劇藥ニ屬ス注意シテ貯フヤシ。

●イグナチウス子 Semen Ignatii.

イグナチウス子ハフイリピン南島ノ一サマル島ノ西南ニ産スル *Strychnos Ignatii* *Borjav* ナル番木龍屬植物ノ種子ナリ、本品ハ畧卵圓形ヲ有シ長サ二・五cmニ至リ甚々種々ノ形状ニ懸隔セウレ多クハ暗灰色ヲ有シ亦番木龍中ニ存スル二種ノ「アルカロイド」ヲ含有ス。

●カッフェー豆 コッファー豆 Semen Coffeae.

**(基原)** カッフェー豆(咖啡)ハ茜草科 (*Rubiaceae*)ニ屬スル *Coffea arabica* L.ノ種子ニシテ亞弗利加ノ熱帶地方殊ニ北緯七度ノ間ニ位スルカッサナル高嶺地及ワイタトリア、ニアンザ湖近傍ノ山

嶺ニ産ス、現今熱帶諸國殊ニ伯拉西、錫蘭、瓜哇等ニ移植シ其培養最盛ナリ、本邦小笠原島ニ移植セリ。

(獨) Kaffeebohnen.  
(英) Coffee bean.  
(佛) Fèves de café.

カッフェー豆

第 二 百 八 十 八 圖



入ス第二百九圖ハ「カッフェー豆」ヲ數倍ニ廓大セル横断面ニシテ溝渠ノ胚乳中

種子類 カッフェー豆

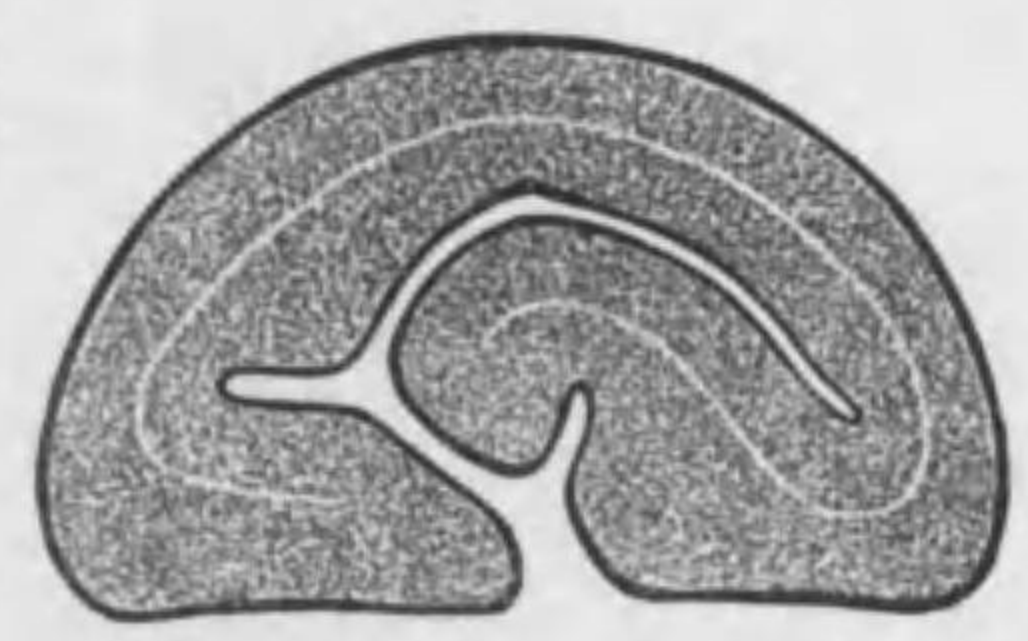
二百五

ニ至ル、品種ノ異ナルニ從ヒ其色澤ニ帶綠灰色、類藍色、類黃色、類褐色等ノ差異アリテ其形狀ニモ亦大ニ不同アリ。

カッフェー豆ハ主トシテ胚乳ヨリ成リ其扁平ナル一面ニ縱溝ヲ有シ其溝渠ハ左方或ハ右方ニ向テ角質様ノ胚乳中ニ繞

**(形狀)** 坊間ニ販賣セル「カッフェー豆」ハ羊皮紙様ノ子殻ヲ除去セル種子ヨリ成リ橢圓形ヲ有シ一面ハ穹窿シ一面ハ扁平ニシテ長サ九乃至十四mm幅六mm

圖九百二第



ニ繞入スル狀ヲ示ス、胚乳ノ基礎部ニハ細小ナルモ甚  
タ完整ニ發育セル芽胎ヲ具有ス、皮膜様ノ子殻ハ只溝  
渠ノ邊縁及其内部ニ殘存スルノミ、胚乳ノ組織ハ諸他  
ノ種子類ニ於ケル如ク有孔性ノ厚キ皮膜ヲ有スル細  
胞ヨリ成リ脂肪及蛋白質ヲ含有ス。  
カツフェー豆ノ氣味ハ其品種ニ由リ一定ナラズ特ニ之ヲ  
焦烘スルトキハ其差異愈顯著トナル。

(成分)

其主成分タル (Kaffein)  $C_8H_{10}N_4O_2$  ノ含量ハ0.3%トニノ間ニ居レトモ通常ハ一  
%トス又カツフェー酸 (Kaffeesäure) ナル一種ノ酸ノ含量5%ニ至ル、脂肪、蛋白質及砂糖ノ  
含量各大約10%ナリ、其他キナ酸 (Kininsäure) (上卷キナ皮成分ノ條ヲ見ヨ) 0.3%ヲ含ム而シテ灰  
分ノ量ハ大約5%トス。

(應用)

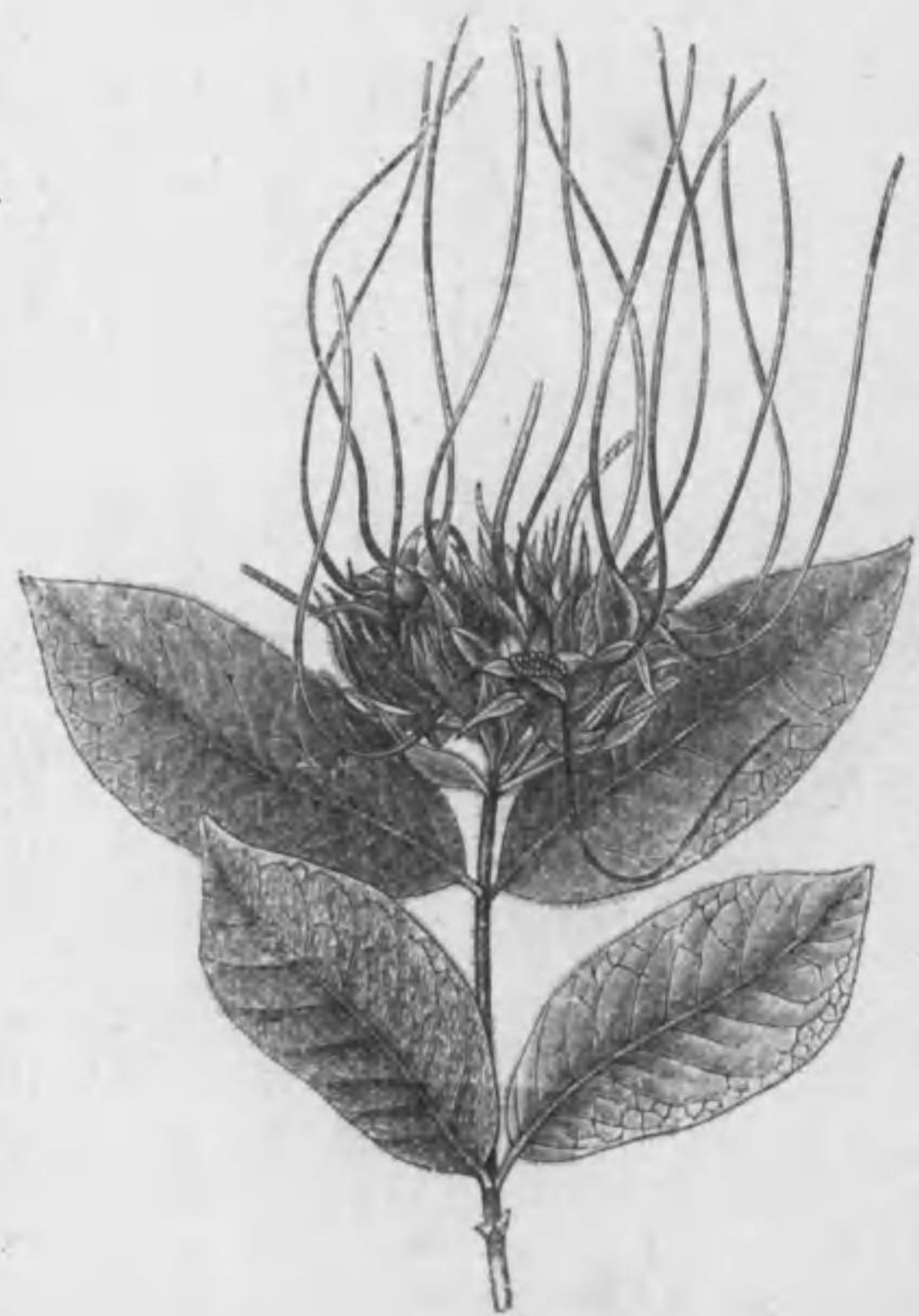
焦烘セルカツフェー豆ノ浸液ハ歐米人ノ最モ嗜好セル飲料ニ屬シ醫用ニハ興奮藥  
トナシ時ニ中毒症ニ應用ス又偏頭痛ニ實用ス近來ニ至リテハ利尿藥トナシ又心臟作用ニ影響  
スル所ノ藥品トナシテ應用スルコトアリ。

スストロファンツ  
子 (獨) *Strophanthusfanten.*  
(英) *Strophanthus seed.*  
(佛) *Semences de strophanthus.*

圖十百二第

(基原)

● ストロファンツス子 *Semen Strophanthi.*



ストロファンツス子ハ亞弗利加熱帶地方ニ産スル夾竹桃科 *Apocynaceae*  
ノ蔓生灌木

*Strophanthus* 屬  
諸種ノ種子ナ  
リ一千八百六  
十五年リウイン  
グストン氏ハ  
東亞弗利加土  
人ノ使用スル  
矢毒イネー及  
●●●●●●●●  
●●●●●●●●  
*Strop-*  
*hanthus hispidus*  
*D. C.* 等ヨリ取

ルノ心臓麻痺作用アルコトヲ世ニ公ニシ一千八百七十六年フレーゼル氏始  
メテ其丁幾ヲ醫藥ニ供シ爾後又スタインナハ氏ハ一千八百八十八年之ニ局  
處麻酔ノ効アルコトヲ發見セリ。  
Steinach

日本藥局方第二版追加ニ於テハ本生藥ノ基本植物ヲ *Strophanthus* 屬ノ諸種ト  
揭クルヲ以テ亞弗利加西部ニ産スル *Strophanthus hispidus* D. C. 第二百十圖及亞

第 二 百 十 一 圖



弗利加東部ニ於ケル  
*Strophanthus Kombé* Oe  
ニナル兩植物ノ種子  
ヲ取レリト雖トモ第  
三改正本日藥局方ニ  
於テハ現行獨逸藥局  
方ニ同シク乙種植物ノ種子即チ「コ  
ンベー Kombé」ノ種子ノミヲ取レ  
リ。

(形狀) *Strophanthus* 屬植物ハ夾竹

桃科 Apocynaceae ニ屬スル攀援灌木ニシテ肥大ノ葉ヲ着ケ花ハ概シテ鮮麗ノ色  
澤ヲ有シ其花瓣ハ稀ニハ其數二十葉ニ至リ延長シテ絲狀ヲナシ大抵相伴フ  
テ卷廻セリ果實ハ二箇ツ、排列セル蒴果ヲナシ腹縫ニ於テ開裂ス(第二十二  
一圖)稔熟セル種子ハ刺嘴ヲ具ヘ上部ニ毛冠ヲ戴ケリ藥用ノ種子ハ其刺嘴ヲ  
除去セリ。

今茲ニ甲乙兩種ノ形狀ヲ掲クレバ左ノ如シ。

(甲) ヒスビヅス子 *Strophanthus hispidus*. 此種子ハ著シク褐色ヲ有シ概シテ乙

種種子ヨリ小ニシテ長サ十一乃至十五 mm ニシテ幅三・〇乃至三・五 mm ナリ、毛  
茸ハ種子ノ中央部ヨリ發生ス、外胚乳層中ニハ甚タ稀ニ尿酸カルチウムノ結  
晶ヲ見ル。

(乙) コンベー子 *Strophanthus Kombé*. 此種子ハ鉞鉞形ヲナシ長サ十二乃至十

八 mm (二十一 mm) ニ至ルモノアレトモ稀ナリ、幅三乃至五 mm 厚サ三 mm ニ至  
リ大ニ毛茸ヲ被ムリ其毛茸ハ種子ノ尖端ニ向テ偃伏シ帶綠黃色ヲ有シ常ニ  
著シク類綠色ノ光彩ヲ帶フ、老種子ニ在テハ其色稍淡泊ナリ、味ハ甚タ苦シ、外  
胚乳層中ニハ往々完全ナル尿酸カルチウムノ結晶ヲ見ル、横断面ヲ強硫酸ニ

圖二十百第



テ濕ホセバ其邊縁ニ存スル胚乳ノ全部及芽胞ノ外部ト間、脈管束ノ周圍ニ於テ著ク綠色ヲ呈シ之ニ由テ類赤色ヲ現スモノハ藥用ニ堪ヘス(下文ヲ見ヨ)。

第二百十圖ハ *Strophanthus hispidus* ヲ縮示セルモノニ

シテ第二百十一圖ハ蒴果ヲ開キ中ニ種子ノ存在セ

ル狀ヲ現ハシ(二分一ニ縮示

ス)第二百十二圖ハ刺嘴ヲ附

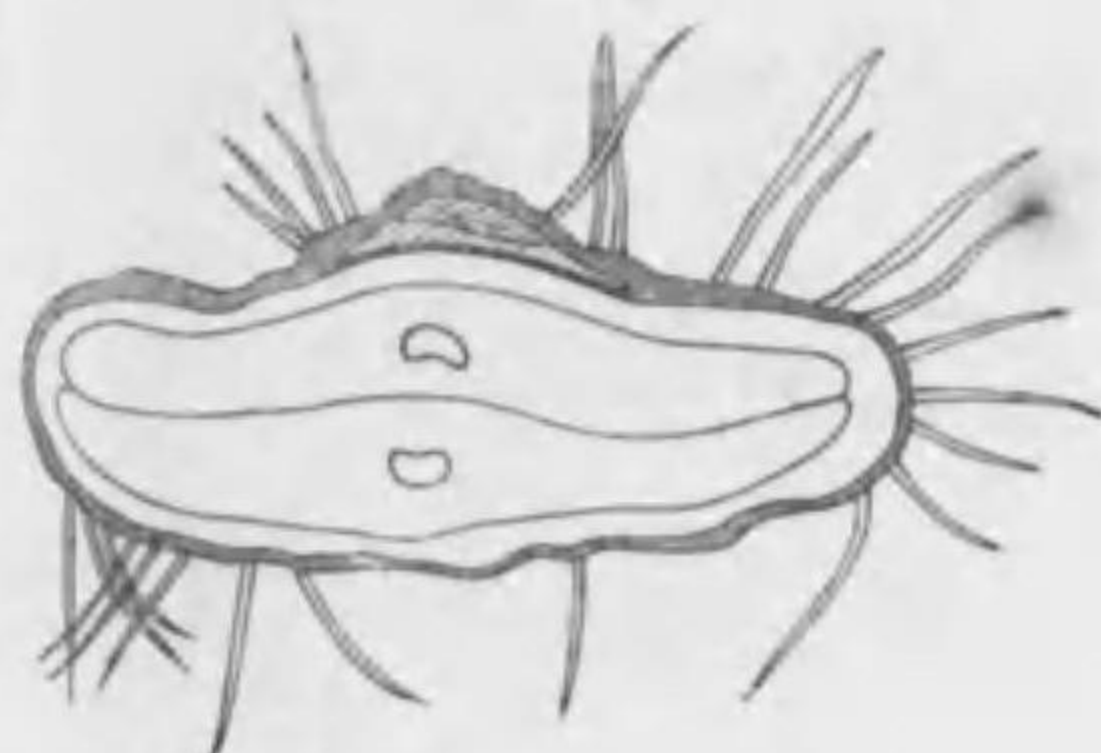
着セル種子ヲ示ス、第二百十

三圖ハ其種子ノ橫斷面ヲ大

約十倍ニ廓大視セルモノ、第二百十四圖ノ上ハコン

ベー子、下ハヒスピヅス子ノ天然大寫真圖ニシテ、第

圖三十百二第



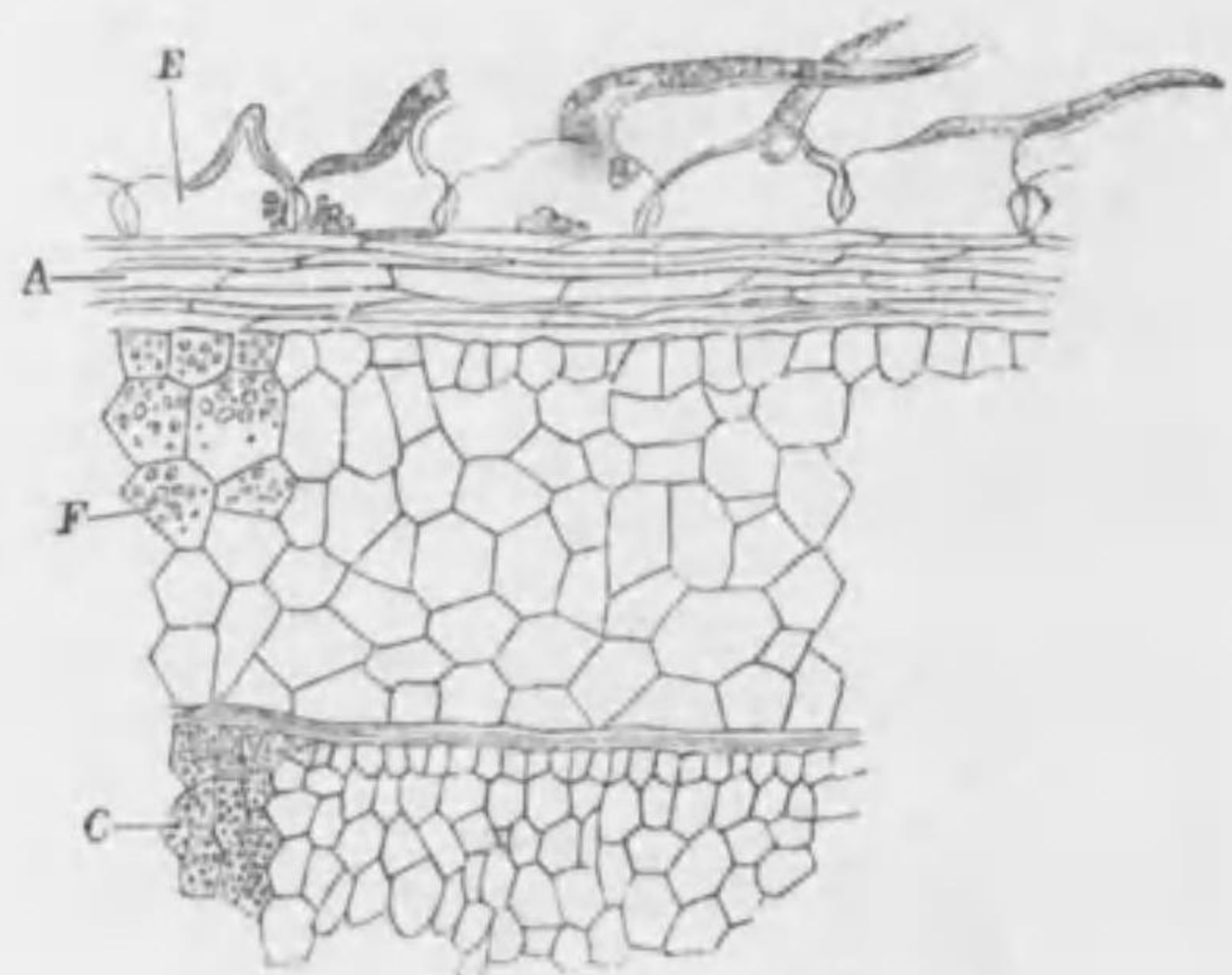
圖四十百二第



約十倍ニ廓大視セルモノ、第二百十四圖ノ上ハコン

ベー子、下ハヒスピヅス子ノ天然大寫真圖ニシテ、第

圖五十百二第



二百十五圖ハヒスピヅス子ノ橫斷面ヲ

顯微鏡下ニ於テ大約六十倍ニ廓大視セ

ル狀ニシテ其(B)ハ上皮及之ニ具フル毛

茸(A)ハ外胚乳(F)ハ胚乳(C)ハ子葉トス。

(成分)最近ノ調査ニ據ルトキハ甲乙

兩種植物ノ種子中ニ含有スル配糖體ハ

不同ニシテ乙種即チ *Kombu* 種子中ニ含

有スル配糖體 *Strophanthin* ( $C_{41}H_{66}O_{16}$ ) ハ強

硫酸ニ由テ綠色ヲ呈シ熔融點ハ百六十

七度ナリ、甲種即チ *Hispidus* ノ種子ヨリ

得タル *Pseudo-Strophanthin* ( $C_{46}H_{76}O_{18}$  或ハ

$C_{48}H_{80}O_{19}$ ) ハ強硫酸ニ由テ赤色ヲ現ハシ

熔融點ハ百七十九度ナリトス。

本品ノ橫斷面ニ強硫酸ヲ滴スレバ其胚乳ニ藍綠色ヲ呈シ漸ク赤色ニ變移ス此反應ハ「ストロファンチン」ニ原因スルモノニシテ「コンベール」ノ種子ニ非サレバ現ハレザルガ如シ。

綿 (獨) Baumwolle.  
(英) Cotton.  
(佛) Coton.

(應用) 本品ハ近來ザギタリス葉ニ併セテ重要ノ心臟強壯藥及利尿藥トシテ實用セラル、但シ主トシテ丁幾劑ノ狀ニ於テ與フ。

● 綿 *Gossypium*.

(基原) 本邦ニ培養セル綿ハ對葵科 (Malvaceae) ニ屬スヤ *Gossypium herbaceum* L. ナル草本植物ヨリ採集シ亞細亞ノ南部西印度ニ於テハ *G. arboreum* L. *G. barbadense* L. 等ノ如キ諸種ノ灌木或ハ喬木ヨリ採ル。

(形状) 綿ハ子殻ノ表皮ヨリ生スル單細胞性ノ毛ニシテ子殻ニ簇生スルモノナリ故ニ綿ハ麻・リンネル等ノ如キ内皮纖維ト異ナレトモ著ルシキ鞏固性ト柔撓性トヲ有ス長サ往々四



十六圖 (a) ハ綿ヲ顯微鏡下ニ檢視セルモノニシテ (b) ハ其橫斷面ナリ綿ヲ取り酸化銅アムモニア液 (福砂液ヲ以テ銅屑ヲ潤ホシテ) ニ浸シテ顯微鏡下ニ之ヲ

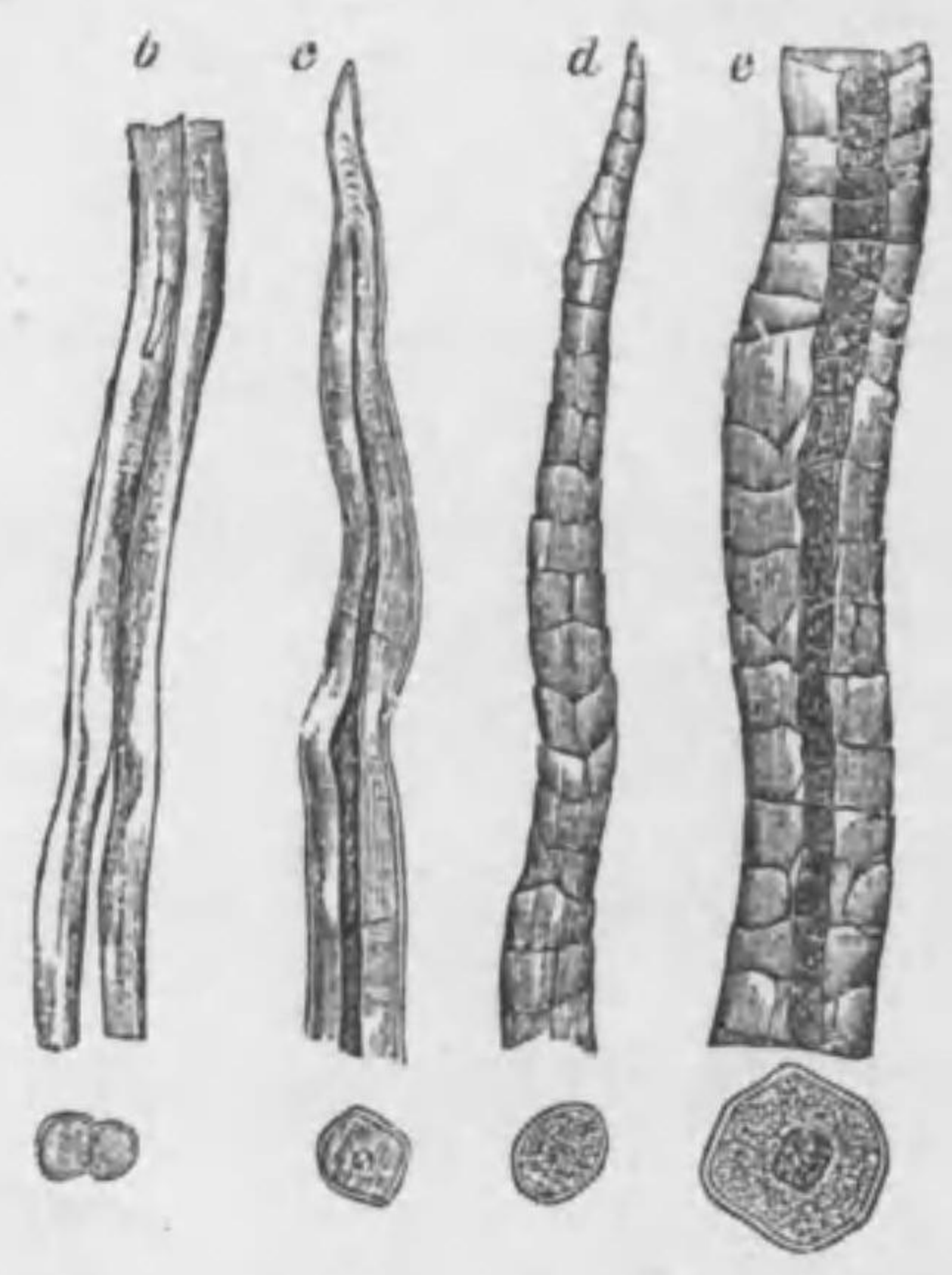
圖六十百二第

圖七十百二第



檢視スルトキハ其皮壁膨脹シ第二十圖其皮壁ノ間ニ輪狀ヲナセル表皮ノ存スルコトヲ認メ得ベシ是レ綿ガ麻等ノ如キ内皮纖維ト異ナルノ點ニシテ内皮纖維ハ斯ノ如キ表皮ヲ存スルコトナキモノトス而シテ

圖八十百二第



其植物纖維素ヨリ成レル部分ハ徐々ニ溶去シ表皮ト内管膜層及プラスマノ殘餘トヲ殘留スベシ、麻(リンネル)等ノ如キ纖維ハ顯微鏡ヲ以テ檢視スレバ全ク綿纖維ト異ナルノ觀ヲ呈ス、第二百十八圖ノ (b) ハ絹絲、(c) ハ麻、(d) ハ駱駝毛、(e) ハ羊毛トス。



**(成分)** 綿ハ殆ント純粹ノ植物纖維素(C<sub>6</sub>H<sub>10</sub>O<sub>5</sub>)ヨリ成リ之ニ磷酸ヲ注加シ重湯煎上ニ蒸發シテ其舍利別様ノ稠度トナルヲ窺ヒ或ハ之ヲ強硫酸中ニ浸シ直ニ洗滌スルノ後ヨードノ水溶液ヲ加フレバ其植物纖維素ヨリ成レル部分ハ藍色ヲ呈スレトモ上皮ハ然ルコトナシ綿ハ之ヲ燃焼スレバ一%ヨリ稍多量ノ灰分ヲ含ム。

**(應用)** 綿ハ之ヲ精製シテ(日本藥局方ヲ見ヨ)コロザウム止血綿等ヲ製スルニ用ユ其他外科術ニ於テハ其脱脂セルモノ或ハ種々ノ藥品ヲ浸飽セル者ヲ局處保屍等ノ用ニ供ス。

## 第十二章 ゴム類 Gummiarten.

### ●アラビアゴム Gummi arabicum.

**(基原)** 埃及ニ於テハ已ニ上古ノ時代ヨリ亞弗利加ノ北部ヨリ輸出セル「ゴム」ヲ工業諸用ニ供セリ後世ニ至リ之ニ「アラビアゴム」ナル名稱アルハ蓋シ亞拉昆亞ヲ經テ之ヲ地中海地方ニ輸出セシニ由ル。

最モ良好ノ「アラビアゴム」ハ亞弗利加ノ北部ニ於ケルコルドファン、ナイル河ノ枝流近傍其他アトラバ地方ニ産スル *Acacia Verek*, *Guillemin* et *Perrot* 又 *Acacia Senegal*, *Willdenow* ト名クル **決明科** (*Caesalpinaceae*, *Mimosaceae*) 植物ヨリ採集ス而シテセネガソピアニ於テハ又此植物ヨリ「アラビアゴム」ト唯僅ニ品種ヲ異ニスル所ノセ

(獨) Arabisches Gummi.  
(英) Arabic gum.  
(佛) Gomme arabique.

アラビアゴム

ネガールゴム「ナルモノヲ採集ス其他上記ノ地方喜望峯、印度及濠洲ニ産スル他ノ *Acacia* 諸種ノ植物ハ多クハ其品質ノ「アラビアゴム」ニ劣レル「ゴム」ヲ生スルモノトス。

**(形状)** アラビアゴムハ前述ノ植物ヨリ自然ニ滲出凝固セルモノヲ採集シ又稀ニハ疵傷ヲ附シテ滲出セシムルコトアリ、球圓形、長圓形或ハ蠕蟲形ヲナシ胡桃大ニ至リ通常許多ノ龜裂ヲ有シ破壊シ易ク無色或ハ類黃色乃至類褐色或ハ類赤色ヲ帶フ半量ノ水ヲ加フレバ徐々ニ溶解シテ著シク酸性ヲ呈スル濃厚無味ノ粘漿トナル他ノ溶解藥ハ「アラビアゴム」ヲ溶解スルコト能ハズ而シテ「アラビアゴム」ハ其水溶液ニ鉛糖溶液ヲ加フルモ沈澱セザルヲ以テ諸多ノ「ゴム」類ト異ナレリ但シ鉛醋(次醋酸鉛溶液)ハ其一萬倍ノ溶液ト雖トモ尙ホ能ク之ヲ沈澱セシム。

アラビアゴムハ之ヲ大別シテ東亞弗利加コルドファン産ゴム及セネガールゴムノ二種トナス、  
(甲)ハコルドファン地方ヨリナイル河ヲ下リカイロ及アレキサンドリア港ヲ經テトリエスト、マルセイユ及倫敦ニ輸出セラレ(乙)ハ亞弗利加ノ西部セネガンビヤヨリセントルイスヲ越エ多クハ佛國ボルドー市ニ輸出セラレトモノトス。

**(成分)** アラビアゴムハ主トシテ「アラビン酸 (Arbinsäure  $C_{12}H_{20}O_{10} + H_2O$ )」ノ「カルチウム鹽ヨリ成ル」アラビヤゴムハ之ヲ重湯煎上ニ熱スレバ水分ヲ放ツコト大約十四%ニ至リ之ヲ燃燒スレバ灰分大約5%ヲ留ム。

アラビアゴムハ類似ノ「ゴム」ヲ以テ贋偽スルコトナシトセス其贋造ニ用ヰラル、者ハ同種ゴムノ劣等品ニシテ其色渾淡明ナルモノ又アテリウム・櫟樹ゴム等トス、其他アラビアゴム末ハ往々デキストリンヲ混和シテ贋造セルコトアリ、アテリウムハ水ニ逢フモ溶解セズ乳劑様ノ濁濁液トナルノミ酒精及エーテルニハ過半溶解ス(アラビアゴムハ此諸液ニ溶解セズ)櫟樹ゴムハ水ニハ只膨脹スルノミ、デキストリンヲ混有スルモノハ其水溶液ニ「ヨード」ノ水溶液ヲ加フレバ褐色或ハ紅色ヲ呈ス。

**(應用)** 消化器ニ於ケル種々ノ加答兒性疾患ニ包攝藥トシテ用ユ、藥局方ニ於テハアラビアゴム漿・ゴム散等ヲ製スルニ供用セラル、其他藥學上ノ需要最モ汎ク乳劑・錠劑・丸劑等ヲ製スル佐使藥トナス。

● **トラガカンタ** トラガントゴム *Tragacantha*.

*Gummi Tragacantha.*

**(基原)** トラガカンタハ已ニ希臘時代ヨリ藥用及工業諸用ニ供シ前亞細亞・百兒矢亞ニ至ル諸地ニ産スル蝴蝶形科 (*Papilionaceae*) 植物黃耆屬 (*Astragalus*) 諸

種ノ灌木ヨリ滲出セル「ゴム」ナリ。

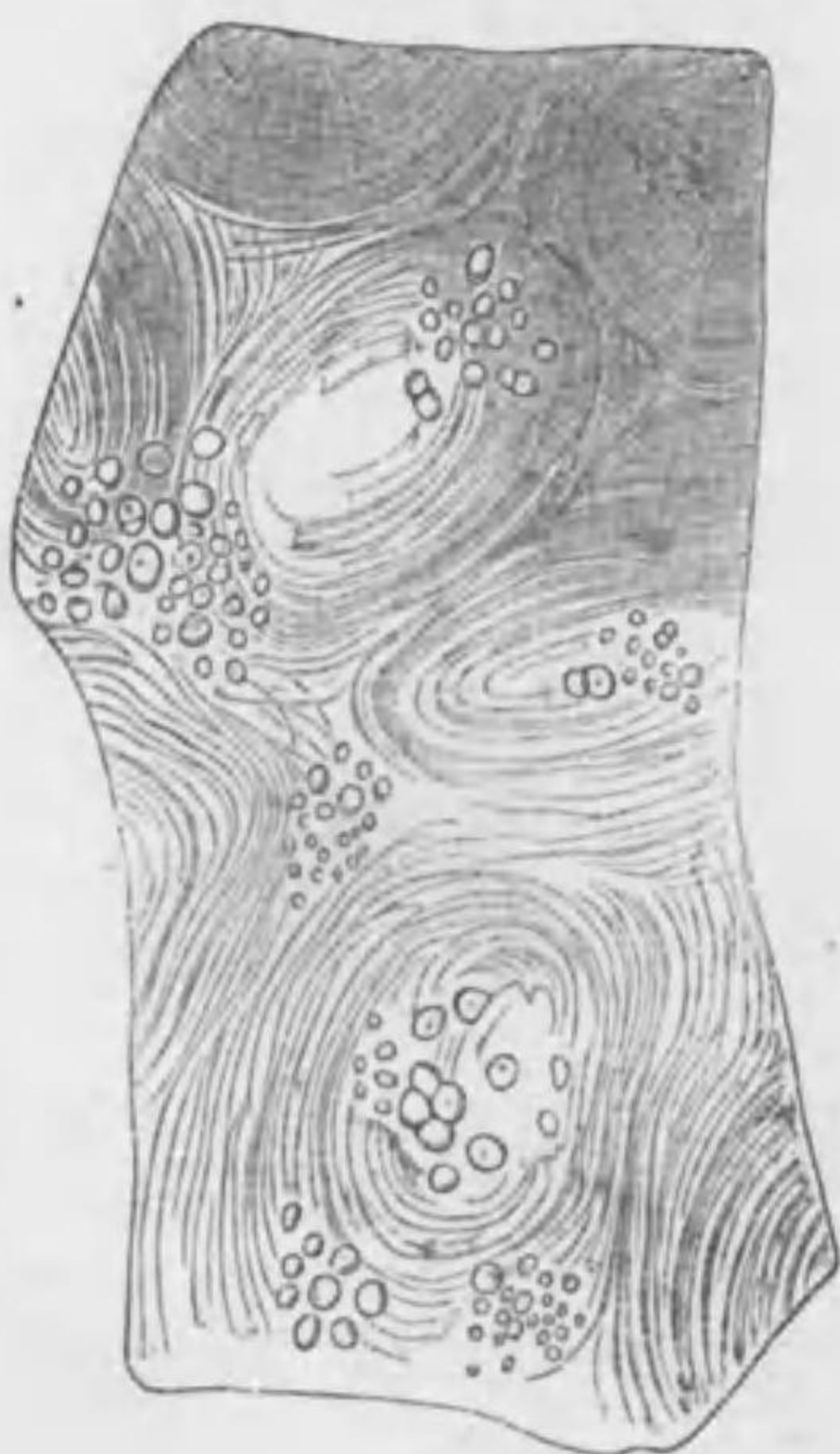
**(形状)** 前述ノ植物ヨリ自然ニ滲出シ或ハ其傍圍ニ遊牧セル獸畜ノ觸ル、ニ由リテ生シタル損傷部ヨリ滲出凝固セルモノナリ又稀ニハ該灌木ノ皮部ニ疵傷ヲ附シテ滲出ヲ促スコトアリ。

最モ良好ノ「トラガカンタ」ハ殆ント無色稍、透明手掌ノ大サニ至リ厚サ二・三mmニ過キササ板狀ノ塊ヲナス下等品ハ帶狀・蠕蟲狀或ハ珠根狀ヲナス。

トラガカンタハ上記植物ノ髓及髓線ノ變質ニ由テ生成スルモノニシテ澱粉

及細胞膜ノ殘物ヲ混有ス其質柔軟ニシテ切斷シ易カラズ又粉末トナスコト難シ水ニ溶解シ易カラザルモ大水ヲ吸収スルノ性ヲ有シ五十倍量ノ水ヲ加フレバ膨脹シ滑澤ニシテ粘着性ヲ有セザル凝膠様ノ塊トナリ之ヲ

圖九十百二第



乾燥スレバ大ニ固結性ヲ生ズ一千倍量ノ水ヲ加ヘテ振盪スレバ撒布シ溶解シテ中性ノ液トナリ其混有スル澱粉及細胞膜等ハ漸々絮狀ノ物質トナリテ沈着ス此溶液ハ鉛糖液並ニ鉛醋液ニ由テ沈澱ス水ニ浸膨セシメテ其薄キ切片ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ著シク細胞組織ノ痕跡ト各胞中ニ存スル微細ノ澱粉ヲ認ムベシ(第二百十九圖)而シテ此細澱粉粒ハ「ヨード」ニ由テ藍變ス。

最も良好ノ「トラガカンタ」ハ小亞細亞産(又土耳其格産ト名ク)ニシテ手掌ノ大サニ至リ殆ント無色扁板狀ノ塊ナシニア産ノ品ハ扁板狀ヲナスモノアレトモ多クハ球根狀或ハ葡萄狀ヲナシ稍下等品トス以上ノ二品ハ小亞細亞ノスミルナ港ヲ經テ歐洲地方ニ輸出セラルル百兒失亞及メソポタミアニ於テ採集セルモノハ甚タ不潔ニシテ巨大ナル球根形ヲナシ暗色ヲ帶ヒ之ヲ「トラガント」ト名ケテ販賣ス又「Vernice」ナル「トラガカンタ」ノ一種アリ帶狀或ハ蠟蟲狀ヲナシ往々甚タ純粹ナルモノアリテ希臘ヨリ特ニトリエス地方ニ輸出セラルルモノトス而シテ藥用ニハ殆ント無色稍透明ニシテ薄キ扁板狀ヲナセル者ヲ撰用スベシ。

**(成分)**

トラガカンタ「ハ主トシテ不溶性性粘液(Dextrin)ヨリ成リ傍ラ大約八%ノ溶解性「<sup>Arabin</sup>」其他二三%ノ澱粉ヲ含ム。乾燥スレバ灰分二乃至四%ヲ留ム。

**(應用)**

トラガカンタハ粘漿トナシ緩和包攝藥トシテ内用ニ供スルコトアリ又アラビアゴムニ於ケル如ク丸劑乳劑錠劑等ノ佐使藥ニ用ユ其他工業上ノ用途頗ル汎シ。

第十三章 甘味ヲ有スル滲出物類。

Süsse Exsudate.

●マンナ Manna

**(基原)**

マンナ「トハ素ト東邦(前亞細亞)地方ニ於テ採取シ多少歐洲ニ齎致セル植物滲出物ノ通稱ナリキ而シテ歐洲ニ

於テハ一千四百年代伊國カラブリア地方ニ於テ(Prunus Ornus L. ナル櫻屬植物(第二十圖)ノ幹及葉ヨリ自然ニ滲出セルモノヲ採集セシヲ以テ「マンナ」ヲ得タル嚙矢トス爾後一千六百年代ニ至リ始メテ上記植物ノ皮部ニ創痕ヲ附スルトキハ大ニ「マンナ」ノ滲出ヲ促シ其收穫ヲ増



第二百十二圖

(獨) Manna.  
マンナ  
(英) Manna.  
(佛) Manna.

加シ得ベキコトヲ知レリト云フ。

マンナハ上記ノ植物即チ *Fraxinus Ornus L.* ヨリ滲出セル汁液ノ凝固セルモノナリ而シテ此樹ハ木犀科 (*Oleaceae*) ノ植物ニシテ、マンナヲ採取スル目的ヲ以テ伊國シ、リア島バレルモ市ノ近傍ニ培植シ其他又伊國中他ノ諸地及地中海東部ノ諸地ニ野生スルモノナリ。

**(形状)**

伊國シ、リア島等ニ於テハマンナ樹漸ク生長シテ八年乃至十年ノ齡ニ達スルヲ待テ「マンナ」ノ液集ニ着手ス、年々七八月ノ候部位ヲ換ヘテ木心ニ達スル迄皮部ヲ水平形ニ穿チ「マンナ」ヲ採收シ十二年乃至二十年ノ永キニ至ル、茲ニ滲出セル液ハ其乾燥スルニ從ヒ多少結晶シテ三角管狀鐘乳石様ノ塊或ハ粘着セザル塊トナル而シテ最モ良好ノ「マンナ」ヲ採集スルニハ皮部ノ截口ニ草莖ヲ挿入シテ凝固結晶セシムルニ在リ故ニ最モ佳良ノ「マンナ」ヲ管狀マンナ (*Manna cannulata*) ト稱シテ販賣ス、老樹ヨリ滲出スル「マンナ」ハ柔軟不整ノ塊ヲナシ褐色ヲ帶フ之ヲ尋常マンナ (*Manna communis*) 又ハ脂肪様マンナ (*Manna pinguis*) ト名ク。

最良マンナハ類白色ヲ有シ或ハ微ニ黄色ヲ帶ヒ純甘味ヲ有ス、下等品ハ柔軟ニシテ粘着性ヲ有シ粘液性及苛辣性ノ味ヲ帶フ。

**(成分)**

良好ノ「マンナ」ニ於ケル「マンニット」 $C_6H_{12}O_{11}$ ノ含量八十乃至九十%糖ノ含量ハ大約十一%ニシテ汚物ノ含量四分ノ三%ニ至ル劣等品ニ在テハ「マンニット」ノ含量之ヨリモ遙ニ少ナシ、其他マンナハ粘液・ゴム質 (Fixin) 及苦味質ヲ含有ス、灰分ノ量ハ良好ノ管狀マンナニ在テハ一・一八%ニ過キス尋常ノ品ハ灰分ノ量四%ニ至ル。

**(應用)**

緩下藥又ハ矯味藥トシテ醫藥用ニ供シ、日本藥局方ノ複方センナ浸ヲ製スルニ用ニ、又マンニットヲ製スルノ原質トナス。

第十四章 ゴムヲ混有スル樹脂類。

Harz gemengt mit Gummi.

● 藤黄 Guttu.

**(基原)**

藤黄ハ一千六百年代ニ於テ *Chittalemou* ト稱シ始メテ之ヲ歐洲ニ傳致セリ。

藤黄ハ後印度殊ニ暹羅・カムボジア及メコン河ノ三角洲ニ産スル「クルシア」科 (*Clusiaceae*) ノ植物 *Garcinia Morella Desrosiers* ヨリ採集スル「ゴム樹脂」ナリ。

上記ノ植物ハ其皮部中ニ於テ諸多ノ菊科植物ニ存スルモノニ類似セル短キ芳香性ノ樹脂質ヲ具有シ藤黄ヲ含蓄ス而シテ藤黄ヲ採取スルニハ該樹ノ皮部ヲ螺旋狀ニ疵傷シ截口ニ竹筒ヲ挿

藤黄 (獨) Gummitutt.  
(英) Gambogia.  
(佛) Gomme-gutte.

入シ茲ニ滲出シ來レル樹脂ヲ瀧溜セシメ直火ヲ施シテ乾燥スルノ後竹筒ヨリ壓出ス。

**(形状)** 藤黄ハ圓筒形或ハ管狀ヲナシ長サ二乃至六cm或ハ不整ノ塊片ヲナスモノアリ、外面ハ汚黄色或ハ少シク綠色ヲ有シ粉塵ヲ被ムル、其質堅脆、破碎面ハ大貝殼狀ヲ呈シ帶褐黄色ヲ有シ蠟様ノ光澤ヲ帶フ、其粉末ハ鮮黄色ヲ有シ之ニ水ヲ加ヘテ研磨スレバ鮮黄色乳劑様ノ液トナル、酒精及エーテルニハ過半溶解シテ鮮黄色ノ液トナリ之ニ過クロール鐵ヲ加フレバ帶褐黑色ヲ呈シ又其酒精溶液ニナトロン滴液ヲ加フレバ著シク赤色ヲ微ス。

**(成分)** 大約七十%ノ「ガムゴジア酸」(Gambogiasäure) 又藤黄々色素 (Gummiextract) 二十五%ノ「ゴム質」五%ノ水一%ノ灰分ヲ含ム「ガムゴジア酸」 $C_{20}H_{30}O_4$ ナル集成分成ス。

**(應用)** 峻下藥トシテ用ユルコトアリ、劇藥ニ屬ス注意シテ貯フメシ、工業上ニ於テハ黄色ノ假漆又ハ黄色ノ顔料トシテ用ユ。

### 第十五章 揮發油及ゴムヲ混有スル樹

脂類 Harz gemengt mit aetherischem  
Öle und Gummi.

### ●ミルラ Myrrha.

(獨) Myrrhe.  
(英) Myrrh.  
(佛) Myrrhe.

**(基原)** ミルラハ乳香ニ於ケル如ク太古ノ時代ヨリ世人ノ知悉セル藥品ニ屬ス、ミルラハ亞弗利加東北部ノ海岸ニ於ケルソマリノ山嶺地ニ産スル Commiphora abyssinica Engl. 及 Commiphora Schimperi Engl. ナンブルセラ科(Burseraceae) 植物ノ皮部ノ裂痕ヨリ自然ニ滲出セル汁液ノ乾燥固結スルヲ待チ採集セル「ゴム樹脂」ナリ。

ミルラ樹ハ小喬木或ハ灌木ニシテ棘ヲ著ク、葉ハ僅ニ二三對ヨリ成レル羽葉ヲナシ其羽葉ハ單獨ニ或ハ數箇相伴フテ存在ス花ハ細小ニシテ四箇ツ、簇生ス。

**(性状)** ミルラハ圓形或ハ不整ノ塊片ヲナシ其色不同ニシテ類黄色或ハ褐色乃至類赤色ヲ有ス外面ハ粗糙ニシテ破碎面ハ平坦ナラス脂肪様ノ光澤ヲ帶フ其粉末ハ黄色ヲ有シ之ニ水ヲ混攪スレバ黄色ノ乳劑ヲ生シ水ニハ酒精ヨリモ溶解シ易シ其酒精溶液ニ硝酸ヲ加フレバ紫色ヲ呈ス而シテ其硫化炭素溶液ニ硝酸ヲ加フルモ亦然リ而シテ「ミルラ」ハ之ニエーテルヲ加ヘテ振盪

シ濾過シテ得タル黄色ノ液ニ「ブローム蒸氣ヲ接觸セシムレバ紅紫色ヲ呈ス  
是レボナストル氏反應ニシテ本品ト他ノ類似ゴム樹脂類トノ區別ヲ示スモ  
ノナリ、ミルラ」ハ石油エーテル」ニハ僅ニ溶解シ之ヲ染色セス。  
ミルラ」ノ酒精ニ溶解セサル部分ハ七十%ニ超エス又灰分ノ量ハ六%ニ超ユ  
可カラス。

漢藥ニ花沒藥及煉沒藥ナルモノアリ之ヲ以テ「ミルラ」ニ充ルモノアレトモ非  
ナリ此等ノ生藥ハ前文ニ掲クル硝酸ニ對スル反應及「ブローム」ノ反應ヲ缺如  
シ全ク「ミルラ」ト異ナリ而シテ「ミルラ」ト錯誤シ或ハ之ヲ贋偽スルニ使用セル  
モノハ概ネ左ノ諸品トス。

プロヂリウム (Bellium) ナル「ゴム樹脂」ハ畧「ミルラ」ニ類スレトモ暗色ニシテ間、  
黒褐色ヲ有ス、硝酸ニ對スル反應ヲ呈セス、又之ニ石油エーテル」ヲ加ヘテ振盪  
スレバ之ヲ類黄色ニ染ム、又櫻樹ゴム (Kirschgummi) ナルモノアリ此ゴム」ハ殆  
ト透明ニシテ赤褐色ヲ有シ之ヲ潤ホセバ粘着性ヲ呈ス、又アラビアゴム」ノ下  
等品ハ多少類赤色或ハ帶黄白色ヲ有シ半透明ニシテ潤ホセバ亦粘着性ヲ呈  
ス、其他白色ミルラナルモノアリ此物ハ白色ノ塊片ヲナシ味ハ苦ク芳香性ナ

ラス。

**(成分)** ミルラ」ハ「ゴム」四十乃至六十七%、揮發油二・〇乃至六・五% (Myrciol 稱  
ス) 樹脂二十八乃至三十五%ヲ含有ス、O. Koehler氏ニ據レバ本品中ニ含メル「ゴ  
ム」ハ  $C_{10}H_{16}O_2$  ナル集成ヲ有ス酒精ニ溶解スル部分ハ種々ノ樹脂類ヨリ成リ其  
一ハ中性ノ軟樹脂  $C_{20}H_{34}O_2$  ニシテ他ノ二種ノ樹脂酸類、 $C_{15}H_{24}O_2$  及  $C_{18}H_{28}O_2$  ナ  
ル記號ニ適ス、而シテ揮發油ノ主成分ハ  $C_{10}H_{16}O$  ナル記號ヲ有ス。

**(應用)** 氣管枝、膀胱、子宮等ノ諸器官ニ於ケル分泌過多ニ對シ之ヲ抑制スルノ目的ヲ以テ内  
用ニ供スルコトアリ、又通經藥及健胃藥トシテ用ユルコトアリ、其他口腔炎、齒齦糜爛ニ含嗽劑ト  
シテ外用ニ供ス、藥局方ニ於テハ、ミルラ」丁幾ヲ製スルニ用ユ。

● 乳香 Olibanum.

**(基原)** 乳香ハ埃及「プエネ」等ニ於テ上古ノ時代ヨリ拜神ノ熏烟料トシテ用ヰラレ、亞弗利  
加東北部ニ於ケルソマリ、濱岸及之ニ對峙セル「亞拉昆亞」ノ沿岸ニ産スル「ブルセラ」科 (Burseraceae) ニ  
屬スル Boswellia Carteri, Birdwood, B. Bhruudajiana, Aetlo, 其他恐クハ他ノ Boswellia 諸種ノ植物ヨリ採集セル  
モノナリ。

乳香ハ多クハソマリニ於テ前文ニ述フル植物ニ截口ヲ附シテ滲出セシメ其凝固スルヲ待テ同

揮發油及ゴムミルラ混有スル樹脂類 乳香

國ノ港ニ於テ品種ヲ分別シ先ツ亞拉昆亞ノアテン港ニ向テ輸出ス又乳香ハ亞拉昆亞東南ノ沿岸ニ於テモ獲收スレトモ是レ糖ト下等品ニ屬スルモノナリ。

**(形状)** 乳香ノ佳品ハ球形或ハ鐘乳石様ノ顆粒ヲナシ帶黃色、類赤色或ハ灰色ヲ有シ粉塵ヲ帶フ、破碎面ハ蠟様ノ光澤ヲ現ハシ小片ヲナスモノト雖トモ少シク透映ナルノミ、下等品ハ不整ノ塊片ヲナシ暗色ヲ有シ汚物ヲ混有ス、水中ニ投スレバ崩潰シテ中性ノ溷濁液トナル咀嚼スレバ軟化ス、其味ハ芳香性ニシテ微ニ苦ク粘液性ナリ。

**(成分)** 主トシテ無晶形ノ樹脂ヨリ成リ傍ラ三十%ノゴム及七%ノ揮發油ヲ含ミ其揮發油ハ「テルペン」ニシテ少量ノ酸素含有性成分ヲ含ム。

**(應用)** 従前ハ諸多ノ硬膏ヲ製スルニ應用セリ日下只虛烟料ニ供スルニ過キス。

● 阿魏 *Asa foetida*.

**(基原)** 阿魏ハ「ゴム樹脂」ニシテ已ニ中古ノ時代ヨリ亞拉昆亞人ニ知ラレタル藥品トス其基本植物ハ未タ充分詳カナラス殊ニ之ガ基本植物ト認ムベキモノハ繖形科 (*Umbelliferae*) ニ屬スル *Ferula Asa foetida* L. (*Scorodosma foetidum* *Bunge*) 及 *Ferula Nartex Boissier* (*Nartex Ara foetida Falconer*) (第二百二十一圖) ナリ而シテ

圖 一 十 二 百 二 第



ハ百兒矢亞及アフガニスタンニ産シ乙ハチベットノ北部ニ産ス。  
阿魏ノ採集ニ關スル報告ハ一千六百八十七年特リケムベル氏之ヲ爲セシノミ其報告ニ據レバ百兒矢亞南部ニ於テ阿魏ヲ採收スルニハ恐クハ *Scorodosma* 樹ヲ用ユ即チ七月ノ候該樹漸ク花梗ヲ出タスノ時期ニ至リ基幹ヲ剪去シ其

揮發油及ゴムを混有スル樹脂類 阿魏

根頭ヲ覆フニ木葉ヲ以テシニ二三週間靜カニ之ヲ放置シタル後其根頭ノ上部ヲ漸ク圓板形ニ剪去シ大約一週間ヲ經過スルノ際ニ滲出凝固セル阿魏ヲ採集シ爾後八日乃至十日間ヲ經ル毎トニ初メノ如ク根ノ上部ヲ圓板形ニ剪除シテ反復阿魏ヲ採集シ二ヶ月乃至三ヶ月ノ久シキニ至ルト云フ而シテ初期ニ滲出スル阿魏ハ揮發油ニ富ミ稀薄液ヲナスヲ以テ石膏土質或ハ穀物粉末ヲ混和シ運搬ニ適當ナル稠度ヲ與ヘテ輸出スアフガニスタン地方ニ於テハ單ニ根部(恐クハ *Ferula Narthex*)ニ截口ヲ附シテ阿魏ヲ採集スト云フ。

**(形狀)** 最佳品即チ顆粒狀阿魏 (*Asa foetida in granis*) ハ不整圓形ノ顆粒ヲナシ褐色ヲ有シ脂肪様ノ光澤ヲ帶フ、破砕面ハ白色ナレトモ直チニ鮮赤色トナリ漸ク褐色ニ變ス。

塊狀阿魏 (*Asa foetida in massa*) ハ坊間ノ普通品ニ屬シ多少粘着セル不整ノ塊片ヲナシ暗色ヲ帶ヒ屢、稍、淡明ナル顆粒(前文ニ述フル)ヲ包藏スルコトアリ顆粒ノ含蓄愈、多ケレバ愈、佳品トス、最下等品ハ往々砂石根ノ切片莖或ハ他ノ汚物ヲ混有ス、各種ノ阿魏ハ先ツ英領ボンベイ港ニ運輸シ更ニ歐洲ノ各地ニ輸出スルモノナリ而シテボンベイ港ヨリ輸出セル品ハ只百兒矢亞南部ノ產トス、

極メテ純粹ナル最上等品ハ本國ニ於テ貴重ノ香味料トシテ賞用シ曾テ他國ニ輸出スルコトナシト云フ。

阿魏ハ水ニ研磨スレバ白色ノ乳劑様濁液トナリ酒精ニハ水ニ於ケルヨリモ稍、溶解シ易ク「アムモニア」ヲ以テ潤ホセバ黄色ヲ呈シ不快蒜様ノ惡臭ヲ有ス此臭氣ハ揮發油ニ係ル故ニ阿魏ニ水ヲ加ヘテ揮發油分ヲ留去スルトキハ此惡臭ヲ消失ス殊ニ其殘渣ヲ注意シテ熱スルトキハ佳快安息香様ノ芳香ヲ發生ス、阿魏ハ其味芳香性苛烈ニシテ又久シク稽留スル所ノ苦味アリ而シテ此味ハ樹脂ニ淵源スルモノトス。

**(成分)** 顆粒狀阿魏(日本藥局方規定品)ハ「エーテル」ニ溶解スル樹脂六一・六%、エーテル」ニ溶解セサル樹脂〇・六%、ゴム質二五・一%、揮發油六・七%、*Vanillin* 〇・〇六%其他遊離阿魏酸 (*Ferulasture*) ヲ含有ス本品中ニ含有スル揮發油ハ極メテ不快ノ臭氣ヲ有シ「テルペン」類及硫黃含有ノ揮發油ヨリ成ル。

**(應用)** 阿魏ハ驅風或ハ祛痰ノ目的ヲ以テ用ユルコトアリ又蟻蝨ヲ驅除スルニ用ユ、藥局方ニ於テハ阿魏丁、幾、蘆、蒼阿魏丸ヲ製スルノ用ニ供ス。

● **ガ ル バ ヌ ム Galbanum.**



(獨) Mutterharz.  
(英) Galbanum.  
(佛) Gomme-résine galbanum.

圖 二 十 二 百 二 第



(基原)

ガルバヌムハ已ニ太古ノ時代ヨリ薰香料ニ供用セリト云フ。

ガルバヌムハ阿魏ニ於ケル如ク未ダ曾テ之ニ關スル詳細ノ報告ヲナセシモノアルヲ見ズ故ニ其原植物モ亦仍ホ不明ニ屬スレトモ百見矢亞北部ニ産スル *Foeniculum galbanifolius* Boissier & Baloe (第 二 百 二 十 二 圖) 及同地方其他百見矢亞ノ西部ニ於ケル諸地ニ播布セル *Foeniculum rubicandis* Boissier ナル繖形科

(Umbelliferae) 植物ノ「ガルバヌム」ニ特異ナル臭氣ヲ有スルヨリ見レバ本生薬ハ恐クハ此二種ニ淵源スルモノナラン。

(形状)

ガルバヌムハ前述ノ植物ニ截口ヲ附シテ滲出セシムルモノニ非ズシテ自然ニ其莖幹ヨリ富饒ニ滲出凝固セルモノナル

ベシ、坊間ニ販賣スル品ニ左ノ二種アリ。

(一) 顆粒状ガルバヌム (*Galbanum in granis*)。豌豆大ヨリ胡桃大ニ至ル顆粒ヲナシ類黄色乃至帶赤褐色ヲ有シ微ニ綠色ノ光彩ヲ帶フ、破碎面ハ類白色ニシテ蠟様ヲナス其質堅ク熱スレバ軟化ス。

(二) 塊状ガルバヌム (*Galbanum in massa*)。不整ノ塊片ヲナシ類黄色、或ハ帶褐赤色ヲ有シ綠色ノ光彩ヲ帶ビズ間、顆粒ヲ包藏シ多少粘着シ或ハ粘靱性ノ濃液ヲナスモノアリ「テレピンチーナ」ニ類スル臭氣ヲ有ス大抵汚物ヲ夾雜シ其也繖形科植物ノ果實ヲ混有ス。

ガルバヌムハ其佳品ニ綠色ノ光彩ヲ帶フルヲ以テ之ニ類似スル「アムモニア」ニ比クムト異ナルノ微トス水ニ研磨スレバ乳劑様ノ濁濁液トナリ酒精ニハ其全量四分ノ三ヲ溶解ス。

ガルバヌムハ特異ノ臭氣ヲ有ス其臭氣ハ次條ニ掲クル「アムモニア」ニ比スレバ不快ナラズ阿魏ノ臭氣ニ類ス味微ニ苦ケレトモ苛烈ナラズ時間ヲ過クルノ際鮮紅色ヲ呈シ更ニ酒精ヲ加ヘテ熱ヲ施セバ稍、紫色トナル但シ本品ノ品種ニ因リテハ此反應ヲ現ハサハルモノアリ。

又本品ノ粉末ニ發烟鹽酸ヲ加ヘテ十五分時間煮沸シ其濾液ニ「アムモニアクム」ヲ加ヘテ過飽スレバ藍色ノ螢石彩ヲ呈ス是レ日本藥局方ニ採用セル本品ノ實性反應ナリト雖トモ阿魏モ亦能ク此反應ヲ呈ス但シ「アムモニアクム」ハ然ラズ。  
ガルバスム「ハボンベ」港ニ輸出スレトモ些少ノ量ニ過キズ多クハ陸地ヲ經テ露國ニ輸出ス。

**(成分)**

樹脂六十乃至七十%ヲ含ム其樹脂ヲ乾縮スレバ藍色油ト「ウムメルリフェロン」(阿魏ノ條ヲ見ヨ)生成ス而シテ「ウムメルリフェロン」ハ又ガルバスム中ニ既存スルモノナリ如何トナレハ本生藥ノ小片ヲ取り之ニ水ヲ加ヘテ振盪シ「アムモニアクム」ノ一滴ヲ點ズレバ藍色ノ螢石彩ヲ呈スレバナリ「ゴム」ノ含量ハ二十%ニ至ル新鮮ナル「ガルバスム」ハ多重ノ揮發油ヲ含有シ坊間ノ品ト雖トモ尙其大約八%ヲ含有ス此揮發油ハ硫黃ヲ含有セス主トシテ「テルペン」(C<sub>10</sub>H<sub>16</sub>)ヨリ成リ之ヲ蒸留スルモ藍色ノ成分ヲ抽出セザルモノトス又ガルバスム「ナ」寄性カリト共ニ熔融スレバ「ゾルチン」ヲ生成ス。

**(應用)**

往時ハ興奮藥及祛痰藥トシテ内用ニ供セリ現今ハ硬膏トナシテ外用ニ供スルノミ、藥局方ノ製品ハ「ゴム硬膏」ナリ。

● **アムモニアクム** Ammoniacum.

(獨) Ammoniak-Gummiharz.  
(英) Ammoniac.  
(佛) Gomme-résine ammoniacque.



圖 三十二百二第

**(基原)** 往古ノ「アムモニアクム」ハ亞弗利加ノ北部ニ産スル *Ferula tingitana* L. ナル植物ノ滲出物ニシテ現今ノ生藥即チ次ニ掲クル *Dorema* 屬ノ植物ヨリ採集セルモノト化學的成分ヲ異ニセリ面シテ此ドレマ屬ニ基原セル方今ノ生藥ハ紀元八九百年代ト千年代ノ間ニ於テ亞拉昆亞人ニ由テ「アムモニアクム」ナル名稱ヲ得タルモノナリ。  
「アムモニアクム」ハ繖形科ニ屬スル *Dorema Ammoniacum* Don. ナル植物ヨリ採集セル「ゴム樹脂」ニシテ此植物ハ百兒矢亞中央部及東部ヨリ西伯利亞ノ南部ニ至ル諸地ニ産ス。

**(形状)** 前文ニ掲クル植物ハ**第二百二十三圖**ニ示ス如ク甚タ奇異ナル形状ヲ有ス、本條ノ生藥ヲ採集スルニハ根ヲ以テセズ其葉ヲ帶ヒサル莖幹ヨリ採集ス此植物ハ果實稔熟ノ時期ニ昆蟲ノ刺傷セシ部位ヨリ自然ニ膠シク乳汁ヲ滲出スルモノニシテ其固結スルヲ待チ之ヲ「アムモニアクム」トシテ採集ス。アムモニアクムハ豌豆大ヨリ榛實大ニ至ル滴狀ノ顆粒ニシテ汚白色或ハ類褐色ヲ有シ多少粘着ス之ヲ粒狀アムモニアクム(Ammoniacum in granis)ト名ケ最佳品ニ屬ス、或ハ巨大ナル不整ノ塊片ヲ爲シ暗色ヲ帶ヒ中ニ淡明ナル顆粒ヲ包藏スル者アリ之ヲ塊狀アムモニアクム(Ammoniacum in massa)ト稱シテ販賣ス。

アムモニアクムハ指間ニ搓捏スレバ軟化シテ粘着性ヲ微シ破碎面ハ大貝殼狀ヲ現ハシ類白色蠟様ノ觀ヲ呈ス水ト共ニ研磨スレバ白色乳劑様ノ混濁液トナリ酒精ニハ過半(全量ノ大約四分ノ三)溶解ス其酒精溶液ニ鹽酸ヲ加フルモ染色セズ特異ノ臭氣ヲ有シ其味ハ不快ニシテ苦ク苛辣ナリ。本生藥ニ熱湯ヲ加ヘ振盪シテ得タル液ハ黄色ヲ有シ酸性ヲ呈ス之ニ過クロール鐵ヲ加フレバ汚赤紫色ヲ微ス(ガルバスム)トノ區別)又本生藥一分ニ水三

分ヲ加ヘテ研磨スレバ白色ノ乳劑ヲ生ジ之ニナトリオン液ヲ加フレバ黄色ヲ呈シ終ニ褐色トナル阿魏モ亦之ニ類スル反應ヲ呈ス而シテ本生藥ハ苛性カリト共ニ熔融スレバ彼ノ「レゾルチン」ヲ生成シ之ヲ乾餾スルトキハ褐色油ヲ生スレドモ「ウムベルリフエロン」ヲ化生セズ。

**(成分)** 坊間ノ品ハ揮發油ノ含量一%ニ下ル其揮發油ハ硫黃ヲ含有セズ樹脂ノ含量大約七十%ニ至ル、ゴム大約二十%ヲ含有ス此ゴムハ僅ニ水ニ溶解スルノミ。

**(應用)** 本品ハ目下殆ント只ゴム硬膏トシテ外用ニ供スルノミ又本品ヲ粉末トナスニハ阿魏ノ條ニ掲クル所ノ方法ニ由ルベシ。

## 第十六章 著量ノ揮發油ヲ含有スル樹

脂類 Harz mit erheblicher Menge

aetherischen Oels.

### ● テレピンチーナ 尋常テルペンチン Terebinthina.

**(基原)** テレピンチーナハ樹脂類ノ揮發油(テレピン油)中ニ溶解セルモノニ

(獨) Terpentiu.  
(英) Terpentine.  
(佛) Térébenthine.  
テレピンチーナ

シテ諸種ノ松樹ニ疵傷ヲ施シテ之ヲ採集ス、佛國ニ於テハ *Pinus Pinaster Ait.* 奥國ニ於テハ *Pinus Laricio Poir.* 北米ニ於テハ *P. australis Mich.* 又 *P. Taeda. Y.* ノ二樹ヨリ採集ス、佛國ニ於テハ二月中旬ヨリ十一月中旬ニ至ルノ際其採集ニ從事ス、之ヲ採ルニハ松樹ノ三十年乃至三十五年ノ齡ヲ有スルモノヲ擇ヒ長サ三十乃至四十cm 幅十cm ノ大サニ皮ヲ剝離シ其疵傷部ニ鐵板製ノ樋管ヲ接シテ茲ニ滲出シ來レル「テレピンチーナ」ヲ壘中ニ溜溜セシム而シテ年々其截口ヲ深クシ且ツ其長サヲ増大シ第五年目ニ至リ其長サヲ四mニ達セシム斯ノ如クシテ數箇年間テレピンチーナヲ採集スルノ後一時其樹ヲ休息セシメ數年ヲ經テ其疵傷部ノ殆ト全癒スルヲ待チ又其傍ラニ初メノ如ク疵傷ヲ附シテ更ニ「テレピンチーナ」ノ採集ヲ營ムモノトス善ク松樹ヲ保護スルトキハ大約二百年間ハ之ヲ利用スルコトヲ得而シテ一株ヨリ年々收穫スル量ハ三乃至四キログラムニ達ス、本邦ノ山林ハ *Pinus densiflora Sieb. et Zucc.* (赤松) *Pinus Thunbergii Parlat.* (黒松)ニ富メリ而シテ殊ニ黒松ハ「テレピンチーナ」ノ採集ニ適スヘキヲ信スレトモ未タ工業的ニ其採集ニ着手セルモノアルヲ聞カス。

**(形状)**

テレピンチーナハ濃厚粘靱性ノ液ニシテ類黄色ヲ有シ間、顆粒狀ノ潤濁ヲ現ハシ永ク保貯スルノ際白色顆粒狀ノ下層ト殆ント澄明ナル上層トニ分離シ熱スレバ再ビ澄明ニ溶解ス而シテ其下層ハ奥國産及米國産テレピンチーナニ在テハ主トシテ「アビエツト酸 (Abietäure)」ノ結晶佛國産ニ在テハ「ビモール酸 (Pimaräure)」ノ結晶ヨリ成ル。

松脂ニ類スル特異ノ芳香及苦味ヲ有ス。

**(成分)**

テレピンチーナハ樹脂六十乃至八十%、揮發油(テレピン油)二十乃至三十%、水五乃至十二%ヲ含有ス而シテ本生薬ノ潤濁ヲ帶フルハ其水分ニ係ル、五倍量ノ酒精ニハ澄明ニ溶解シテ酸性ノ液トナル其酸性ハ前文ニ掲クル二種ノ酸類即チ「アビエツト酸 Abietäure (アビエチン酸  $C_{19}H_{31}O_2$ )」及「ビモール酸 Pimaräure ( $C_{20}H_{33}O_2$ )」ヨリ來ルモノトス其他苦味質ヲ含有ス。

**(應用)**

醫用ノ目的ニハ硬膏及軟膏ヲ製スルニ用ユ、工業上ニハ「テレピン油・松脂等」ヲ製スルニ最も多ク應用ス、藥局方ニ於テハ「カンタリス紙・カンタリス硬膏・水銀硬膏等」ヲ製スルニ用ユ。

●ウエネチアテレピンチーナ 落葉松テルペンチン

*Terebinthina veneta seu Jarcina.*

ウエネチアテレピンチーナ

奥國チロールノ南部ニ於テ落葉松ノ一種 *Taxus europaea* D.C. ナル樹ノ幹ニ冬季ノ終リニ於テ深サ木心ニ達スル孔穴ヲ穿テ木栓ヲ以テ之ヲ閉塞シ翌年秋季ノ終リニ至リ之ヲ脱シテ孔中ニ溜溜セル「テレピンチーナ」ヲ流出セシム、往時專ラ伊國ウエネチア港ヨリ輸出セルニ由リ此名ヲ得タルナラン。

此テレピンチーナハ類黄色乃至類褐色ヲ有シ微ニ螢石彩ヲ呈シ殆ント澄明ナリ、保貯スルノ際二層ニ分離セズ。

香氣ハ特異ニシテ尋常テレピンチーナヨリモ佳快ナリ、味ハ芳香性ニシテ苦シ。

揮發油ノ含量ハ十五乃至二十五%ニシテ樹脂ノ含量ハ七十五乃至八十五%ナリ。

薬用ニハ硬膏及軟膏ヲ製スルニ應用スルコトアリ、工業上ニハ假漆等ヲ製スルニ用ユ。

●加奈陀テレピンチーナ カナダバルサム

*Terebinthina canadensis. Balsamum canadense.*

加奈陀テレピンチーナ

加奈陀テレピンチーナノ原植物ハ北米洲ノ英領地方ニ産スル *Abies balsamea* Mill. 及合衆國中ペンシルヴァニア、ウィルジニア其他アレガニース山等ノ諸地ニ産スル *Abies Emseri* Pursh. ニシテ殊ニ加奈陀ノ下部ニ於テハ此諸樹ニ淺ク疵傷ヲ附シテ之ヲ採集ス。

鮮黄色濃厚ノ液ニシテ微ニ綠色ノ紫右彩ヲ呈シ保貯スルノ際愈々濃厚トナリ暗色ヲ帯フルニ至ルトモ分離シテ二液層トナラズ。

乾燥スルハ澄明ノ琥珀ヲ留ム佳快ノ芳香ヲ有シ味ハ少シク苦ク尋常テレピンチーナニ類ス。

- (獨) Fichtenharz.
- (英) Burgundy Pitch.
- (佛) Poix de Bourgogne.

揮發油ノ含量二十四%ニ至リ樹脂及苦味質ヲ溶有ス。カナダバルサムハ世上最モ之ヲ貴重スルトモ醫藥ノ目的ニハ供用セズ顯微鏡的製品ヲ包被シ又假漆ヲ製造スルニ賞用ス。本邦ノ新領地樺土島ニ於テ近來テレピンチーナノ採集ニ着手セリト云フ。

●松脂 Resina Pini.

(基原) 松脂ハ諸種ノ松樹ヨリ自然ニ滲出セル者ヲ採リ或ハ故サヲニ松樹ニ疵傷ヲ附シ滲出凝固セシメテ採集ス、本邦ニ於テハ「テレピンチーナ」ノ條ニ掲タル黒松及赤松ヨリ採リ三備地方ヨリ最モ多ク産出ス。

(性状) 薬用松脂ハ尋常松脂ニ水ヲ加ヘテ煮沸シ其軟化スルヲ待テ布袋ニテ漉過シ汚物ヲ除去スルノ後鐵鍋中ニテ加熱シ成ルヘク水及揮發油分ヲ除去セルモノナリ、松脂ハ類白色、類黄色或ハ類赤色乃至褐色ノ塊ヲ爲シ酒精ニハ殆ント全ク溶解ス。

(成分) 其基本植物ノ異ナルニ從ヒ自ラ多少ノ差異アルモノナレトモ概シテ無晶形ピニン酸 (Pininsäure) 結晶性ヲ有スル「ピニール酸 (Pimarinsäure) 及アビエチト酸 (Abietinsäure)」ヨリ成リ傍ラ少量ノ揮發油(テレピン油)及水ヲ混有ス。

**(應用)** 硬膏及軟膏ヲ製スルニ用ユ、藥局方ニ於テハ松脂硬膏ヲ製スルニ用ユ其他硬膏・蠟膏等ノ成分トス。

●コロフォニウム Colophonium.

**(基原)** コロフォニウムハ、テレピンチーナ<sup>1)</sup>ヨリ、テレピン油ヲ製造スルニ當リ殘留スル樹脂ヲ熔融セシメテ水分及揮發油ノ殘分ヲ除去スルモノナリ、本品ハ佛國及米國ヨリ輸出セラレ佛國ニ於テハ *Pinus Pinaster Ait.* (松ノ屬) 米國ニ於テハ *Pinus australis Mich.* ヨリ採集シタル「テレピンチーナ」ノ副産物トシテ之ヲ得。

**(形状)** コロフォニウムハ硝子様透明類黃色或ハ黃色、淡褐色、褐色、赤褐色ノ塊ヲナシ破碎シ易ク破碎面ハ大貝殼狀ヲ呈シ其色澤ハ製造ノ際施ス所ノ熱度ノ強弱ニ由リ一定ナラス八十度ニ熱スレバ軟化シ九十度乃至百度ニ於テ熔融ス但シ品種ニ由リテハ百二十度乃至百三十度ニ於テ始メテ熔融シ百五十度ニ至リ分解ヲ催ホス、水ニ溶解セス二十度ノ温ニ於テハ酒精(九十%)八分ヲ得サレバ溶解セザレドモ六十度ニ於テハ其等分ニ溶解ス無水酒精クロ、<sup>2)</sup>ホルム・醋酸・エーテル及ベンツォール<sup>3)</sup>ニハ容易ニ溶解シ又石油エーテル・ベンチン・硫化炭素等ニハ一部溶解ス其無水酒精溶液ハ中性ナレトモ水ヲ含有スル酒

(獨) Geigenharz.  
(英) Colophony.  
(佛) Colophone.

コロフォニウム

精溶液ハ酸性ヲ呈ス。

**(成分)** 主要ナル成分ハ「アビエツト酸」(Abietic acid  $C_{20}H_{30}O_2$ )ノ無水物ニシテ傍ラ該酸ノ異性體及疊層體、其他プロトカタヒュー酸苦味質、ラクトン體、エステル及酸性諸質ヲ含有ス。

**(應用)** 止血藥トシテ(例之ハ水蛭咬傷部ニ)用井又硬膏・蠟膏等ノ添加劑トシ其酒精又ハ「クロ、<sup>2)</sup>ホルム」溶液ヲ被覆帶料トナス、工業上ニ於テハ假漆<sup>3)</sup>ヲ製シ、金屬ヲ鍍着シ銅ニ鍍錫セシメ其他胡弓ニ塗布スル等其用途甚々多シ。

●コパイバールサム Balsamum Copaivae.

**(基原)** コパイバールサムニ關スル最初ノ報告ヲナセシハ一千五百年代ニ在リ、歐洲ニ於テハ一千百年代ノ初期始メテ之ヲ醫藥ニ供セリ。

本品ハ南米ノ北部ニ産スル *Copaifera officinalis L.* (第二十二四圖) 南米熱帶地ノ東部ニ産スル *C. Guianensis Desfontaines* 其他伯拉西ノ東部ニ産スル *C. coriacea Martius* 及中央伯拉西ニ産スル *C. Langsdorffii Desfont.* ナル決明科 (Caesalpinaceae) ノ諸植物ヨリ採集スルモノナリ、此植物類ハ其莖幹ノ中心ニ直徑往々二cmニ至レル廣大ナル「バルサム管」ヲ具有ス而シテ之ヲ採ルニハ單ニ前記諸樹ノ幹ニ深キ孔穴ヲ穿通スルヲ以テ足レリトス然ルトキハ「バルサム」ハ頗ル多量ニ滲出ス

(獨) Kopaiwabalsam.  
(英) Balsam of copaiba.  
(佛) Oléorésine ou baume de copahu.

コパイバールサム

圖 四 十 二 百 二 第



イバルサムハ甚タ稀薄ノ液ヲナシ屢殆ト無色ナルモマラカイボ産ハ濃厚液ヲナシ類褐色ヲ有シ間微ニ螢石彩ヲ呈スルモノアリ又其稠度以上二種ノ間ニ位スル「コバイバルサム」アリテ稠度ノミニ由テハ往々其基原(產地)ヲ判知シ難キコトアリ、比重ハ〇・九三五ト〇・九九九ノ間ニ居リ樹脂含量ノ多少ニ

ルモノナリ。

(性狀)

コバイバルサムハ伯拉西ノ北部ニ於ケルアラバラ及マランホア・オリノコニ於ケルチウダット及ポリワール・アンチルレン海ノ沿岸ニ位スルマラカイボ及サバニルラ等ノ各地ヨリ輸出ス。

バラヨリ輸出セル「コバ

由テ一定ナラズ樹脂分ノ量ハ六十%以下ニ在ルヲ常トス間、又十五%ニ下ルモノアリ而シテ樹脂ヲ溶有スル揮發油分ノ量ハ全ク樹脂ノ量ニ倒比スルモノニシテ樹脂ノ量ヲ増セバ隨テ揮發油分ヲ減ス本品ハ嘗ニ其樹脂及揮發油ノ含量ヲ異ニスルノミナラズ亦此二質互ニ其本性ヲ異ニシ諸溶解藥ニ對シ不同ナル關係ヲ呈スルモノナリ。

「コバイバルサム」ハ總テクロ、フォルム及硫化炭素ニハ能ク澄明ニ混和シ又多クハ純酒精及尋常酒精ニモ混和ス、本生藥ノ樹脂類ハ酸ノ本性ヲ具有シ其アルカリ鹽類ハ揮發油類ニ溶解ス故ニ或ル「コバイバルサム」類ハ一定ノ稠度ニ於ケル苛性アルカリ及アムモニア液ニハ澄明ニ混和ス故ニ又バルサムノ揮發油ヲ含有スルコト多キニ過キザルモノハ水酸化カルチウム・水酸化バリウム或ハ濕潤セル「マグネシア」ト混和スルトキハ固結ス。

本品ハ特異ノ芳香ヲ有シ其味ハ苛烈ニシテ稍苦シ。  
日本藥局方規定ノ「コバイバルサム」ハ南米ウエネズエラニ於ケルマラカイボ及アンチルレン海ノ沿岸ニ位スルサバニルラヨリ輸出シマラカイボ・バルサム・Maracaibobalsamト稱スルモノ是ナリ。

此種ノ「バルサム」ハ帶黃類褐色澄明ノ濃厚液ヲナシ比重〇・九八〇乃至〇・九九三ナリ。

**(成分)** コバイババルサムハ樹脂ノ揮發油溶液ニシテ苦味質ヲ含有ス、此バルサム中ニ於ケル揮發油分ノ含量ハ大約四十%ナリ。

此揮發油ノ比重ハ〇・八九〇乃至〇・九一〇ニシテ二百五十度ト二百七十五度ノ間ニ於テ沸騰シ酒精ト混和スレバ全ク澄明ノ液トナル而シテ本揮發油ハ主トシテ一半テルペン  $C_{10}H_{16}$  ヨリ成リ其一半テルペン<sup>カロフィレン</sup>ノ一トシテ Caryophyllen ヲ含有ス、而シテ「アルコホル性」成分ヲ含有スルモ些少ノ量ニ過キス。

樹脂分ハ殆ト全ク遊離酸ヨリ成リ「エステル」ヲ含有スルコト少量ニ過キス此樹脂ノ成分トシテ知ラレタル酸類ハ「アルファメタコバイバ酸  $C_{11}H_{18}O_4$ 」<sup>メタメ</sup>タコバイバ酸  $C_{11}H_{18}O_4$  及第三種ノ樹脂酸トス。

コバイババルサムハ他ノ廉價ナル「バルサム」類樹脂類脂肪等ヲ混和シテ製爲セルモノ少ナシトセズ故ニ本品ヲ購求スルニ當リ日本藥局方ノ検査ヲ行フ必要アリ。

**(應用)**

尿道諸器官ノ疾患殊ニ淋病ニ應用ス。

● **グルエニバルサム** Balsamum Dipterocarpi.

**(基原)**

グルエニバルサムハ後印度及爪哇ニ産スル龍腦香料 (Dipterocarpaceae) 屬ノ *Dipterocarpus alatus* *Roxburghii* 其他諸種ノ *Dipterocarpus* 屬ノ植物ヨリ採集セルモノナリ。

此バルサムヲ採ルニハ上文ノ植物ヲ截傷シ烘熱シテ滲出セシムルノ法ニ由ル。

**(性状)**

グルエニバルサムハ濃厚ノ「バルサム」ニシテ透射光ニ於テハ赤褐色ヲ呈シ落射光ニ於テハ帶綠灰色ノ螢石彩ヲ現ハシ比重ハ〇・九四七ト〇・九六四ノ間ニ在リ、クロ、フォルム、硫化炭素及揮發油類ニハ澄明ニ混和スレトモ酒精及エーテルニハ然ラス、五倍量ノ水ト共ニ振盪スレバ濃厚乳劑様ノ液トナル、本品ヲ熱シテ大約百三十度ノ温ヲ施セバ濃厚トナリ冷却スルモ其狀ヲ保持ス、味ハコバイババルサムヨリ苦ケレトモ苛辣ナラズ臭氣ハコバイババルサムニ類ス、本品ノ二三滴ニ約二十倍ノ硫化炭素ヲ加ヘテ稀釋スルノ後硝酸及硫酸各等分ヨリ成レル冷混和液ノ一滴ヲ加フレバ鮮麗ナル紫色或ハ赤色ヲ呈シ又酒精エーテル及石油エーテル等ニ澄明ニ混和セザルヲ以テコバイババルサムト異ナリトス。

**(成分)**

左旋性ノ一半テルペン約五十%、カリ油液ニ溶ケスシテ純アルコホルニ溶解スル樹脂約五十%及結晶性ノ「グルエニ酸  $C_{11}H_{18}O_4$ 」ノ少量ヲ含有ス。

**(應用)**

醫藥トシテハ殆ト應用セラレズ假漆<sup>ニス</sup>ノ製造ニ最も多ク之ヲ供用ス而シテ「コバイ

- 4 (獨) Surjumbaljam.
- (英) Wood oil.
- (佛) Olorésine de Dipterocarpus.



パペルサムレノ製造ニ使用セラル、コト甚々多シ。

### 第十七章 樹脂類 Resinae. Harze.

#### ●琥珀 Succinum.

**(基原)** 琥珀ハ前世界ノ産出物ニシテ殊ニ現今歐洲ニ産スル松樹 *Pinus vulgaris* Lank.ニ最も類似スル *Pinus succinifera Goeppert* ナル植物ニ基原スル樹脂ノ化石スルニ由テ生シタルモノナリ而シテ殊ニ普魯西東海濱ノ砂中ニ埋没シテ存シ又本邦ニモ産ス。

**(形状)** 琥珀ハ其形状一定ナラズ自然品ノ外面ハ粗糙ニシテ漏濁ヲ帯ヒ間、類白色ノ皮殻ヲ被ムルモノアリ其色澤ニハ白色黄色乃至帶褐赤色等ノ不同アリ、破砕面ハ貝殻状ニシテ蠟様或ハ硝子様ノ光澤ヲ帯ヒ其質堅硬ニシテ透明ニ或ハ乳濁シ間、昆蟲・礦石等ヲ包裹ス而シテ琥珀ハ諸溶解薬ニ溶解セザルモノトス。

**(成分)** 琥珀酸 *Bernsteinsäure C<sub>10</sub>H<sub>8</sub>O<sub>4</sub>*ノ含量九%ニ至ル、琥珀ヲ乾餾スレバ琥珀酸ヲ昇華シ水ニ伴フテ暗褐色ノ油質(琥珀油)ヲ溜出シ、レトルト中ニハ黑色物質所謂琥珀コロフォニウム *(Bernstein-kolophonium)*ヲ残留ス、琥珀ハ之ヲ燃焼スルニ當リ毫モ灰分ヲ留メズ或ハ其痕跡ヲ留ムルニ過キズ又琥珀ニ苛性カリノ濃液ヲ加ヘテ煮沸スルトキハ龍膽ニ類スル物質ノ少量ヲ昇華ス而シテ

琥珀 (獨) Bernstein.  
(英) Amber.  
(佛) Ambre.

鹽酸ヲ以テ精密ニ其液ヲ中和スルノ後過クロール紙ヲ加フレバ赤褐色ノ沈澱鹽基性琥珀酸鐵ニ係ルヲ生ス。

**(應用)** 琥珀ハ藥用ニ供セズ琥珀酸ヲ製スルニ用井又粧飾器具等ヲ製スルニ實用ス。

**(備考)** 薰陸ハ本邦磐城ノ沿岸ニ産シ琥珀ニ均ク或ル樹脂ノ化石ニ由テ生セシモノナリ本品ハ琥珀酸ヲ含有セス。

#### ●サンダラック Sandaraca

**(基原)** サンダラックハ松杉科 *(Coniferae)*ニ屬スル *Callitris quadrivalvis Vent.* ナル植物ノ幹ニ疵傷ヲ附シ或ハ自然ニ滲出スル樹脂ノ固結セルヲ待テ採集セルモノナリ、此植物ハ亞弗利加西南部ノ山嶽地殊ニアトラスニ産ス而シテ樹脂即チサンダラックハモガドールヲ經テ歐洲ニ輸出ス。

**(形状)** サンダラックハ圓形ノ顆粒或ハ鐘乳石様ノ塊ヲナシ太サ一五 cm 長サ三五 cm 至ル、最佳品ハ帶白黄色ニシテ透明ナリ、劣等品ハ帶赤褐色ヲ有ス、外面ニハ類白色ノ粉塵ヲ帯フ、破砕面ハ貝殻状ニシテ硝子様ノ光澤ヲ現ハス、咀嚼スレバ破壊シテ粉末トナリ齒牙ニ接着セス(マスタッキス)トノ區別、酒精・エーテル・アミールアルコホル・アセトン又カリ濃液及諸多ノ揮發油類ニ溶解ス、ベンゾール・トルオール・キシロール・クロ、フェルム・石油エーテル・テレピン油及硫化炭素ニハ僅ニ溶解ス、強鹼酸ニハ櫻實紅色ヲ現ハシテ溶解シ其溶液ニ水ヲ加ヘテ稀釋スレバ紫色葉片状ノ沈澱ヲ析出ス。

サンダラック (獨) Sandarac.  
(英) Sandarak.  
(佛) Sandaracque.

(成分)

サンダラック<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>バルツ<sup>ニ</sup>エル<sup>氏</sup>ニ據レバ「サンダラック<sup>ニ</sup>酸 (Sandaracolinic) C<sub>15</sub>H<sub>17</sub>O<sub>2</sub>(CO<sub>2</sub>H)<sub>2</sub> (COOH) 八十五%、カルリト<sup>ニ</sup>ロール<sup>酸</sup> (Kallitrolin) C<sub>15</sub>H<sub>17</sub>O<sub>2</sub>(CO<sub>2</sub>H) 十%、揮發油 一%、苦味質 一・八四%、水 〇・五六%、灰分 〇・一%ヨリ成ル

(應用)

硬膏ノ成分トナシ、填齒料ニ供ス又工業上ニハ假漆ヲ製スルノ原料タリ。

● コパール Copal.

(基原)

コパールトハ其質堅ク他ノ樹脂類ヨリモ一層高キ熔融點ヲ有スル或ル樹脂類ノ總稱トス而シテ英國商業界ニ於テハ之ヲ <sup>ニ</sup>Amine ト稱ス然レトモ現今英國ニ於テハ此名稱ヲ以テ或ル他ノ樹脂類ヲモ指スニ至レリ而シテ「コパール」ナル名稱ハ米國ニ始マルモノトス。

(形状)

コパールハ無晶形ニシテ其硬度ハ方解石ト石羔トノ間ニ在リ熔融點ハ百八十度乃至三百七十度ニシテ比重ハ一・〇六八乃至一・二二トス本樹脂ハ其基原ニ至リテ或ハ詳<sup>カ</sup>ナラス或ハ全ク不明ナルモノアリ蓋シ「コパール」ハ皆異郷ノ産ニ係リ或ハ半化石ニ屬スルモノアリテ河岸ノ砂地ヨリ出テ又ハ或ル樹木ノ絶滅ニ歸セシ地ニ發見セラル、ヲ以テナリ今「コパール」ノ產地

(獨) Copal.  
(英) Copal.  
(佛) Copal.

コパール

ニ由リ之ヲ種別スルコト左ノ如シ。

(甲) 亞弗利加産 コパール。

(一) 亞弗利加東岸産 コパール。

(イ) サンジ<sup>ニ</sup>パール<sup>コ</sup>パール<sup>、</sup>ボン<sup>ベ</sup>イ<sup>コ</sup>パール<sup>或</sup>ハ「サレム<sup>コ</sup>パール (Sansibar-Kopal, Bomba yoder Salem-Kopal) 基本植物ハ決明科 (Caesalpiniaceae) 所屬ノ Trachylobium verrucosum Olive ナリ亞弗利加ノ東岸南緯五度ト十五度ノ間ニ在ル地方ニ於テ土中ヨリ掘出シ直チニ歐洲ニ送り或ハ先ツ印度地方ニ送り更ニ歐洲ニ向テ輸致ス是レ「ボン<sup>ベ</sup>イ<sup>コ</sup>パール」ノ名アル所以トス此種ノ「コパール」ハ扁板形鐘乳石様ノ塊ヲナシ淡黄色ヲ有シ外面顆粒狀ヲ呈シ光澤アリ破壊面ハ貝殼狀ヲ呈ス無味無臭トス新タニ土中ヨリ掘り出ダセシモノハ風化殼ヲ帶フルヲ以テ之ヲ搔除スルノ後更ニ滷汁ヲ以テ洗淨ス、塊片ヲ爲サザルモノハ三百度ニ逢フモ熔融セザレドモ百十四度ニ至レハ已ニ溶化ヲ催ス九十%ノ酒精ニハ困難ニ全溶ス「フェノール」ハ不充分ニ溶解ス「アツェトン、ベンツオール、氷醋、クロ、フォルム、石油エーテル、トルオール、硫化炭素、エーテル、アミールアルコホル、テルペンチン油等ニハ極メテ僅ニ溶解ス。

**(成分)** トラヒロール酸 (Trachyloisäure  $C_{27}H_{45}O_3(OH)(COOH)$ ) 八十% 異性<sup>イ</sup>トラヒロール酸 (Isotrachyloisäure) 六% 樹脂質<sup>セ</sup>、苦味質<sup>キ</sup>揮發油、灰分 〇・一二% 其他本種ノ「コパール」類ニ凡ソ五種アレトモ今茲ニ畧ス。

(一) 亞弗利加西岸産コパール。

此コパールハ特リ砂石コパール (Kiesel-Kopal) 類ヲ除クノ外ハシエルラ、レオネ産ニ係リ亞弗利加東岸産ニ比スレハ其質柔カナリ。  
本種ノ「コパール」ニハ九種アレトモ茲ニ列擧セス。

**(乙) 亞米利加産コパール。**

此種ノ「コパール」ハ總テ現世ノ生産物ニ係リ *Hymenaea Courbaril L.* *Hymenaea stibocarpa Hayne*, *Trachylobium Martianum Hayne* 等ナル諸種植物ノ幹及根部ヨリ採集ス。

第一種植物ノ樹脂ハ球根狀ノ塊ヲナシ大サ十<sup>cm</sup>ニ至リ白堊ニ類スル殻層ヨリ被ハレ外面ハ不整隆起物アリ黄色乃至暗綠色ヲ有ス破碎面ハ脂肪様ノ光澤ヲ現ハス比重一〇八二咀嚼スレハ齒ニ附着ス。

近來歐洲市場ニ出ツル亞米利加産コパール二種ノ中一ハ無色乃至黄色ニシ

テ比重一〇六八、五十五度ニ於テ熔融シ始メ九十度ニ至リ全然熔融ス加壓器内ニ於テ「カリ」油液ヲ加ヘテ熱スレハ全然鹼化ス第二種ハ帶白黄色乃至琥珀黄色ニシテ比重一〇七五、五十八度ニ於テ熔融シ始メ九十五度ニ至リ全然熔融ス是レ亦鹼化セシムルヲ得ベシ。

**(丙) ニュージールランド及ニーカレドニアコパール、カウリクコパール。**

(Kopal van Neuseeland und Neuseelandia, Kauric-Kopal) *Agathis australis Salisb.* ナル松杉科 (Coniferae) 所屬植物ノ樹脂ニシテ濠洲及ニュージールランドニ産ス此コパールハ森林中ノ地面ニ蓄積セシモノヲ採集セルモノトス一箇ノ重サ五十キログラムニ至ル薄ク灰色ノ皮層ヲ被ムリ内部間汚濁シ無色、灰色又ハ淡褐色ナルモノアリ破碎ハ貝殻狀ヲ呈シ脂肪様ノ光澤ヲ帶ブ香氣バルサム様味ハ芳香性ナリ咀嚼スレハ齒ニ附着ス比重一・一〇九乃至一・一一五熔融シ易シ純酒精ニ全ク溶解ス。

**(成分)** ダムマール酸 (Dammarsäure  $C_{30}H_{50}O_2$ )、ダムマラン (Dammaran  $C_{30}H_{50}O_6$ ) ナル樹脂等ヲ含有ス。

(丁) マニラコパール (Manila-Kopal) ハ龍腦香料 (Dipterocarpaceae) ニ屬スル *Vateria indica* L. ナル植物ノ樹幹ニ瘡痕ヲ附シテ採集ス汚濁セル塊ヲナシ大サ一・五 cm 至ル比重一・二一破砕面ハ碎片狀ヲ呈シ光澤アリ香氣微ニ「バルサム様ニシテ味ハ稍苦シ咀嚼スレハ齒ニ附着ス本種コパール」ニ二種アリ一ハ堅ク上記コパールニ類スレトモ暗色ヲ帯ビ一層堅シ他ノ一ハ前記ノ品ヨリモ柔カニシテ類黄色ヲ有シ指間ニ摩擦スレハ破砕ス。

(應用) 總テ「コパール」ハ普ク假漆ノ製造ニ應用ス「コパール」製假漆ハ其乾燥後ハ甚々堅硬トナリテ永久ニ堪ヘ摩擦スルトキハ大ニ光澤ヲ生シ歐洲ニ於テ器具及ヒ器物ノ塗布料トシテ最も賞用セラル。

● ダムマル脂 *Dammar Resina Dammar.*

(獨) Dammarharz.  
(英) Damarin.  
(佛) Résine du Dammar.

(基原) 印度ニ於テ *Dammar* 樹脂ノ義ナリト唱フルモノハ點燈料及他ノ諸般ノ目的ニ應用スル樹脂類ノ通稱ナリ而シテ「ダムマル脂」ノ母植物ハ龍腦香料 (Dipterocarpaceae) ニ屬スシ *Shorea Wisneri Stapf.* ヲ首メトシ *Shorea robusta Roxburgh* (印度ニ産ス) *Shorea sericea Dyer* (マラッカニ産ス) *Hopsea odorata Roxb.* (後印度ニ産ス) *Hopen micrantha* (マラッカ及ボルネオニ産ス) *Vateria acuminata Hayne* (錫倫ニ産ス) *Vateria indica* L. (マラパールニ産ス) 等ナリ、ダムマル脂ハ右ノ諸植物ノ外フィリッピン島・アンボアナ・セレベス及ボルネヲ等ニ産スル松杉科 (Coniferae) 所屬ノ植物即チ *Agathis lorantifolia Salisbury* (A. *Dammara Richard.*, D. *alla Rumphius*, D. *orientalis Lambert*) ヲリモ採集ス、ダムマル脂ハ斯ノ如ク諸種ノ植物ヨリ採集セルヲ以テ其品質ニ於テ自ラ差異ナキヲ得ザレトモ未タ詳細ノ検査ヲ經ス。

(性状) ダムマル脂ハ白色或ハ微ニ黄色ヲ帯フル透映類圓形ノ塊片或ハ顆粒ヲナシ臭氣ナク百度ノ温ニ逢フモ軟化セズ「エーテル・クロロホルム・ベンツォール・硫化炭素」ニハ著シク、酒精・氷醋酸・石油エーテル等ニハ只一部分溶解ス。

(成分) 本品ハ種々ノ植物ヨリ採集スルガ故ニ其品種ニ山リ自ラ其成分ヲ異ニセリ、グリムマン氏ハ「ダムマル脂」ノ成分トシテ「ダムマロール酸 (Dammario-Isiure  $C_{27}H_{47}(OH)(COOH)_2$ ) 二十三%、アルファダムマル脂 ( $\alpha$ -Dammari-Resin  $C_{27}H_{47}O_2$ ) 融點六十五度) 四十%、ベタダムマル脂 ( $\beta$ -Dammari-Resin  $C_{27}H_{47}O_2$ ) 融點二十四度) 二十二・五% ヲ發見セリ其他少量ノ苦味質及揮發油・灰分 〇・一乃至三・五% ヲ含ム。

(應用)

藥用上ニ於テハ只硬膏ヲ製スルニ用ユルノミ其主要ナル用途ハ假漆<sup>ラニス</sup>ノ製造ニ在リ。

● 癒瘡木脂 Resina Guajaci.

(基原) 癒瘡木脂ハ南米ノ北岸及

西印度殊ニハイチ島ノ西部ニ位ス  
ルゴネーフュス灣ニ於テ**莢藜科** (Nyctagophyllaceae) ニ屬スル *Guajacum officinale* L. ナル植物(第百二十五圖)ヨリ採收セル樹脂ニシテ該樹ノ木材ヲ横ニ架置シ直火ヲ施シ烘熱シテ熔出セシメ又稀ニハ該樹ノ皮部ニ截口ヲ附シ滲出セシメテ製出スルモノナリ而シテゴネーフュス灣ニ對向スルポルトープランス港ヨリ多ク之ヲ輸出ス。

第 二 百 二 十 五 圖



(獨) Guajakharz.  
(英) Guaiac resin.  
(佛) Résine de gaiac.

(形狀)

熔出ニ由テ製造セル癒瘡木脂ハ暗灰色乃至帶褐黑色ヲ有シ龜裂ヲ現ハシ或ハ之ヲ現ハサル平等ノ塊ニシテ結晶性ヲ有セズ破碎シ易ク其乾片ハ有角性ニシテ透映ナリ殊ニ其粉末ノ狀ニ於テ大氣及日光ニ感スルトキハ暗綠色ヲ呈ス比重大約一・二ナリ、熱スレバ八十五度ノ温ニ於テ熔融シ稍安息香ニ類スル佳香ヲ發ス、味ハ苛辣ナリ、水ニ溶解セズ、エーテル・酒精クロ、フォルム及苛性アルカリノ濃厚溶液ニハ著シク溶解スレトモベンツォール・石油エーテル等ニハ僅ニ溶解スルノミ、本樹脂ノ酒精溶液ヲ暗處ニ於テ蒸發乾涸セシメ其殘渣ニ過クローレル鐵ノ酒精溶液 (1:100) ヲ點滴スレバ甚タ鮮麗ナル藍色ヲ呈ス但シ此藍色ハ永ク保持セザルモノトス。

(成分)

癒瘡木脂ハ結晶性ヲ有スル癒瘡木脂酸 (Guajakharzsäure  $C_{10}H_{14}O_2$ ) 十五%、無晶形ノグワヤチン酸 (Guajazinsäure  $C_{11}H_{16}O_2$ ) 九・八% 及亦無晶形ノグワヤチン酸 (Guajakonsäure  $C_9H_{12}O_2$ ) 七十三% ゴム三七% 其他少量ノ癒瘡木黃、グワヤチン酸、癒瘡木油等ヨリ成ル、本生藥ノ過クローレル鐵ニ對シテ藍色ヲ呈スルハグワヤチン酸ニ係ル。

(應用)

梅毒諸症ニ應用ス。

● マスチックス Mastix

(基原) マスチックスハ土耳其ノ領島ヒオルノ南部及西南ノ部位ニ培養スル漆樹科 (Anacardiaceae) 所屬ノ植物 Pistacea Lentiscus L. ヨリ採集スル樹脂ナリ。

(形状) マスチックスハ胡椒大ヨリ豌豆大ニ至リ圓形稀ニハ短楕形ヲナシ淡枸櫞黄色ヲ有シ破碎面ハ硝子様ニシテ光澤アリ破碎シ易ク咀嚼スレハ軟

化ニ洗淨シ成ルベク淡明ナルモノヲ以テ最モ貴トナス純酒精ニハ常温ニ於テハ過半熱スレハ全然溶解スエーテル、クロ、フオルム、ベンツオール、硫化炭

素及揮發油類ニモ亦然リ。

(成分) 成分ハ揮發油一乃至二%、樹脂及苦味質等ナリ。

(應用) 咀嚼藥含嗽料、齒擦丁、幾項齒料、薰香料等トナス最モ多ク假漆ヲ製スルニ用ユ。

● 安息香 Benzoe

(基原) 中世時代ノ末葉亞拉昆亞人ハ現今ノ安息香ニルバン、ジャウバー (Tuban Tawi) ナル名稱ヲ附セリ瓜哇 (Java) 産又スマトラ産乳香ノ義ニシテ此語歐洲ニ

(獨) Benzoeharz.  
(英) Gum Benjamin.  
(佛) Benjoin.  
安息香

第 二百二十六 圖



於テ Banjavvi 又 Benjui ナル語ニ變リ終ニ當時ノ名稱即チ Benzoe (安息香) ナル語トナレリ而シテベンチン (Benzin) 及ベンツォール (Benzol) ナル名稱ハ亦此語ニ淵源スルモノナリ一千四百年代始メテ之ヲ歐洲ニ齎致セリ。

本生藥ハ齊墩果科 (Stryaceae) ノ植物 Styrax Benzoin Dryander (第 二百二十六 圖) ニ

基原スルモノニシテ此

樹ハ蘇門答臘及瓜哇ニ

野生シ又培植セラレ、暹

羅ニ於テハ恐ラクハ他

ノ植物ヨリ安息香ヲ採

集スルナラン、蘇門答臘

ニ於テハ安息香樹ニ疵

傷ヲ附シテ樹脂汁ヲ滲

出セシメ其凝固スルヲ

待テ採集ス、暹羅ニ於テ

ハ他ノ方法ニ由テ安息香ヲ採ル即チシムバルク氏ニ據レバ安息香樹ノ皮部

Schomburgk

ヲ敲打シテ寬鬆ナラシメ樹脂汁ヲシテ皮部ト木部ノ間ニ蓄積セシメ其乾燥固結スルヲ待チ皮部ヲ剝離シテ採集ス、暹羅ヨリハ安息香ヲ牛皮ノ籃ニ容レ先ツアナム地方ニ輸致シ次ニバンコック市ニ運輸シ新嘉坡港ヲ經テ諸國ニ輸出ス。

(形狀) 安息香ニ二種アリ。

(一)蘇門答臘安息香ノ最佳品ハ白色ニシテ蠟樣ノ光澤ヲ帶フル顆粒ヨリ成リ帶赤灰色或ハ帶灰類褐色ニシテ脂肪樣ノ光澤ヲ帶ヒ多少堅脆ナル實質ニ由テ團結セラル、次品ハ白色顆粒ヲ包藏スルコト少ナク實質遙ニ多シ、而シテ最下品ハ殆ト帶灰類褐色ノ破碎シ易キ實質ノミヨリ成リ唯僅ニ甚タ細小ナル淡明ノ顆粒ヲ包藏ス、顆粒ハ大約八十五度、實質ハ九十五度ノ温ニ於テ熔融シ其際甚タ佳快ノ香氣ヲ發生シ劇熱ヲ與フレバ刺戟窒息性ノ香氣ヲ放ツ、顆粒或ハ實質中ヨリ薄キ一小片ヲ取り顯微鏡下ニ檢視スレバ安息香酸 (Benzoic acid) ノ結晶ヲ見ル、本生藥ハ其香氣顯著ナラザルモ佳快ニシテ蘇合香ヨリモ寧ロワニルラニ類ス味ハ芳香性ニシテ苛辣ナリ。

(二)暹羅安息香ハ前條ノ品ヨリモ高等ノ價值ヲ有ス、最佳品ハ樹脂樣ノ光澤ヲ

帶フル帶褐黃色乃至帶褐赤色鈍角性ノ顆粒ニシテ破碎面ハ貝殼狀ヲ呈シ乳白色或ハ灰白色ヲ有シ新鮮ナルトキハ其邊緣ニ帶赤類褐色ノ薄キ皮層ヲ被ムル、大氣ニ接觸スレバ類赤色トナリ邊緣ノ皮層ハ暗色ヲ呈スルニ至ル、下等品ハ蘇門答臘安息香ニ類スレドモ其質緻密ニシテ堅脆破碎シ易ク光澤ヲ帶ヒ暗褐赤色或ハ琥珀褐色ヲ有スルヲ以テ輒スク之ヲ蘇門答臘安息香ト區別スルコトヲ得、其他暹羅安息香ハ咀嚼スレバ軟化シ已ニ七十五度ノ温ニ於テ熔融スルヲ以テ前條ノ品ト異ナレリ、香氣甚タ佳絶ニシテ最モ「ワニルラ」ニ類ス顯微鏡下ニ檢視スレバ亦安息香酸ノ結晶ヲ見ル、日本藥局方ハ本安息香ヲ以テ藥用品ト規定セリ。

總テ安息香ハ水ニ溶解セズ五倍量ノ酒精ニ溶解ス(但シ不潔分ハ溶解セズシテ殘留ス)其溶液ハ酸性ノ反應ヲ呈シ過クロール鐵ヲ加フレバ帶褐綠色ヲ呈シ水ヲ加フレバ乳狀ニ濁濁ス。

(成分) 安息香ハ主トシテ無晶形ノ樹脂即チ Benzoresinol  $C_{16}H_{10}O_2$  及 Styracotinol  $C_{15}H_{10}O_2$  ト安息香酸 (Benzoësäure  $C_6H_5\cdot COOH$ ) トノ複性エーテルヨリ成リ又不定

量ノ遊離安息香酸ヲ含ム而シテ安息香酸ノ總含量二十四%ニ至ル、安息香ノ

粉末ニ硫化炭素ヲ加ヘ試験管ヲ閉鎖シテ冷處ニ放置スルトキハ安息香酸ハ無色板狀ノ結晶トナリテ析出ス又安息香ヲ粉碎シ其四分ニ付キ消石灰一分水四十分ヲ混攪シ更ニ水六十分ヲ注加シ蒸散スル水分ヲ補償シツ、斷ニス煮沸スルノ後蒸發シテ其全量大約五十分トナルニ至リ濾過シテ得タル液ノ冷却スルヲ待チ過量ノ鹽酸ヲ加ヘテ放置スルトキハ沈澱(安息香酸)ヲ生スベシ又安息香ヲ熱シテ百四十度ニ至ルトキハ安息香酸ヲ昇華ス。

蘇門答臘安息香ニ在テハ其安息香酸ノ全量或ハ其一部分ガ往々桂皮酸(Zim-  
 $\text{mtsäure } \text{C}_6\text{H}_5-\text{CH}=\text{CH}-\text{COOH}$ )ニ由テ換代セラル、コトアリ而シテ暹羅安息香ハ桂皮酸ヲ含マズ、安息香中桂皮酸ノ存否ヲ鑑別スルニハ前文ニ示ス如ク安息香ニ消石灰及水ヲ加ヘテ煮沸シ濾過シ其濾液ニ鹽酸ヲ加ヘテ生シタル沈澱ヲ採集シ之ニ少量ノ過マンガン酸カリウム溶液ヲ加ヘテ微温ヲ施スベシ茲ニ苦扁桃ニ類スル香氣ヲ發スルハ桂皮酸ヲ含有スルノ徵トス、日本藥局方ハ桂皮酸ヲ含有スル安息香酸ヲ藥用ニ供スルコトヲ許サズ。

安息香ハ又少量ノワニルリン(Vanillin) (前文ヲ見ヨ)ヲ含有ス、即チ鹽酸ヲ加ヘテ安息香酸ヲ沈澱セシメタル右ノ鹽酸性母液ニ「エーテル」ヲ加ヘテ振盪シ

「エーテル」分ヲ取り自然ノ蒸發ニ附スルトキハ其結晶ヲ得ベシ。

**(應用)** 祛痰藥トシテ應用スルコトアリ、香油等ニ佳香ヲ附スルニ用ユ又安息香酸ヲ製出スル原料タリ、藥局方ノ製品ハ安息香丁幾ナリ。

### 第十八章 バルサム類 Balsami. Balsame.

(芳香酸類、芳香アルコホル類及エステル類ノ樹脂ニ混合セル者ヨリ成レル生藥類)。

#### ●流動蘇合香 Styrax liquidus.

**(基原)** 蘇合香ハ古來ヨリ醫藥ニ供用セシガ一千八百六十五年ヨリ拵蘇ニ偉効アリトシテ愈價値アル藥品ノ位置ヲ占ムルニ至レリ。

蘇合香ハ Liquidambar orientale Miller (第二百二十七圖)ヨリ採集セル「バルサム」ナリ、此植物ハ金縷梅科 (Hamamelidaceae)ニ屬ス、小亞細亞ノ南部及シリヤノ北部ニハ夏季獸畜ヲ牽キ水草ヲ逐フテ同地方ヲ通過スル牧民アリ上記樹木ノ皮ヲ剥キ海水ヲ加ヘ煮沸シテ蘇合香ヲ煎出シ又其殘渣ヲ馬毛ノ囊ニ容レ尙ホ殘餘ノ蘇合香ヲ絞出シテ初メ煎出セシ者ト混合シ野羊皮ノ囊ニ盛リ或ハ樽

(獨) Flüßiger Storax.  
 (英) Liquid storax.  
 (佛) Styrae liquide.

流動蘇合香



第 二 百 二 十 七 圖



ニ充テ輸出ス。

**(性状)** 蘇合香ハ灰色混濁ノ粘稠液ヲナシ水中ニ沈下ス其灰色ヲ帶フルハ水分ヲ含有スルニ由ル、水分ヲ除去セル蘇合香ハ柔軟粘着性濃厚ノ液ヲナシ澄明ニシテ褐色ヲ帶フ、蘇合香ヲ薄ク塗布シ顯微鏡下ニ檢視スレバ暫時ニシテ結晶ヲ認ムルニ至ル其結晶ハ羽狀ヲナシ又ハ著大ノ板狀或ハ柱狀ヲナスモノアリ、エーテル・酒精・クロ、フルム・硫化炭素等ニハ植物ノ碎片及汚物ヲ留メテ溶解スレトモ石油エ

ーテル・揮發油類ニハ不充分ニ溶解ス。

蘇合香ハ佳快ノ芳香ヲ有ス其味ハ芳香性ニシテ稍、苛辣ナリ。

日本藥局方ニ從ヒ蘇合香ヲ精製シ汚物、水分ヲ除去シ精製流動蘇合香 *Syrrax*

*liquidos depuratus* トナスニハ流動蘇合香ヲ取り重湯煎上ニ温メ附着セル水分ノ大半

ヲ除去シ等分ノ酒精ニ溶解シ濾過シ攪拌シツ、蒸發シ稠厚越幾ストナスヘシ。

**(成分)** 蘇合香ハ水(十乃至二十%)及少量ノ「カウチック」(Kautschuk)(十三乃至十

八%)ヲ除クノ外主トシテ種々ノ芳香性アルコールノ桂皮酸エステルヨリ成ル即チ左ニ示スガ如シ。

蘇合香全量ノ半ハ *α* <sup>アラブ</sup> *Styracin*  $C_{15}H_{14}O_2$  ナル「アルコール様體ヨリ成ル此アル

コホル」ハ一部分ハ「アルコール」其物トナリ一部分ハ桂皮酸エステル「トナリテ存在ス、其他ノ成分ハ桂皮酸桂エステル  $(C_9H_7O_2-C_6H_5)$  *Styrazin* ト名ケ細微ナ

ル束羽狀ノ結晶ヲナス、桂皮酸エチルエステル  $(C_9H_7O_2-C_2H_5)$ 、油様ノ液ヲナス)及桂皮酸フェニールプロピールエステル  $(C_9H_7O_2-C_6H_5)$  等ニノ其他又少量ノ *Zinnamenin* (桂皮酸メンチールエステル  $C_9H_7O_2-C_7H_7$ 、佳香ヲ有シ光澤ヲ帶フル柱

狀結晶ヲナス)及安息香酸ヲ含有ス、近來ノ試験ニ微スレバ彼ノ佳香ヲ有スル *Styrol*  $C_8H_8$  ナル化合物ハ極メテ少量ニ存在スルカ或ハ毫モ含有セラレザルガ如シ又恐クハ少量ノ「エチール」ヲ含有ス、蘇合香ハ桂皮酸製造ノ唯一原料タリ、桂皮酸ノ收穫量ハ二十三%ノ多キニ至ル。

(應用)

内用ニ供セズ四分一ノ「オレ」フ油ニ混和シ塗擦劑トシテ疥癬療法ニ應用ス。

●ペルーバルサム Balsamum peruvianum.

(基原) 一千五百三

十年西班牙人百露ニ渡航セル後幾クモナクシテ土人ヨリ本生薬ノ醫藥タルコトヲ聞知シ數月ヲ待タスシテ之ヲ他ノ諸品ト共ニ本國ニ輸致シ之ニ標題ノ名稱即チ「ペルーバルサム」ナル名稱ヲ附セリ而シテ同世紀ノ終リニ至リ已

(獨) Perubalsam.  
(英) Balsam of Peru.  
(佛) Baume de Pérou.

圖 八 十 二 百 二 第



ニ獨乙ノ藥舖ニ販賣セリ。

ペルーバルサムハ蝴蝶形科 (Papilionaceae) ニ屬スル *Touaifera Pereirae Baillon* (*Myroxylon Pereirae Klotzsch*) (第二百二十八圖) ヨリ採集ス。此樹ハ南米太西洋ノ沿岸ニ位スルサンサルヴアドールニ於ケルバルサム岸ノ山林中ニ産ス。土人斧ヲ以テ該樹幹皮ノ部ヲ敲打シテ柔軟ナラシメ又皮部ノ一部分ヲ剝離シ炬火ニテ烘焦シ布片ヲ以テ其部位ヲ覆ヒ茲ニ滲出セル「バルサム」ヲ吸收セシムルノ後水ニテ沸煮シ「バルサム」ヲ溶出セシメ尙ホ其布片ニ殘存セル「バルサム」ヲ絞出シ之ヲ前ニ得タルモノト共ニ壺中ニ容レ靜置シテ水分ヲ傾瀉シ去リ清澄ナラシムルノ後販賣ニ供ス。

(性狀)

ペルーバルサムハ帶褐赤色乃至暗褐色濃厚油様ノ液ニシテ其層薄ケレバ透明ナリ粘着性ナラス又牽絲性ナラス大氣中ニ在ルモ乾燥セス酸性反應ヲ微ス味ハ初メハ緩和ニシテ後温ク咽喉部ニ於テ灼クガ如キ感覺ヲ微シ少シク苦ク佳快ナラス香氣ハ「ワニル」ニ類ス比重ハ一・一四〇乃至一・一六二ナリ獨乙藥局方ノ規定ニ據レバ一・一四〇乃至一・一五〇ナリ。クロ、フォルム、無水酒精トハ澄明ニ混和シ同容ノ酒精九十%トハ澄明ニ混和スレトモ其混

和液ニ更ニ酒精ヲ加フレバ濁濁ヲ呈シ永ク放置スレバ渣滓ヲ析出ス、エーテル脂肪油石油等ニハ一部分溶解スルノミ水ニ溶解セス温水ト共ニ振盪スレバ其水ニ佳香ヲ賦シ少量ノ桂皮酸ヲ溶出ス。

**(成分)** 第一種ノ主成分ハ液體ニシテ此液體ハ *Zinnamen* ナリ「チンナメイン」ハ多量ノ安息香酸ベンツォイル ( $C_6H_5-COOC_6H_5$ ) ト少量ノ桂皮酸ベンツォイル ( $C_6H_5-COOC_6H_4$ ) ヨリ成ル其含量五十六・五乃至六十二・二トス (獨乙ドレスアン市) 其他遊離桂皮酸及ワニルリンヲ含ム、第二種ノ成分ハ樹脂トス是レ亦エステルニシテ鹼化セシムルトキハ桂皮酸及安息香酸ノ傍ラ樹脂アルコホル即チ *Peru-resinotannol*  $C_{18}H_{20}O_8$  ヲ生成ス。

ルーバルサムハ其供給量ノ大ニ需要ニ及バザルガ故ニ甚タ高價ニシテ蘇合香、アスピリン、イナ・コロフオニウム・コバイバルサム・グレンバルサム安息香、蓖麻子油等ヲ以テ賈偽セルコトアリ故ニ本品ヲ購求スルニ當リテハ先ツ第一ニ比重ヲ檢シ次ニ日本藥局方規定ノ諸試験ヲ行フノ必要アリ。

**(應用)**

疥癬ニ偉効アリトシテ外用ニ供ス又肺癆等ニ對シ内用ニ供スルコトアルモ稀ナリ。

● トルーバルサム *Balsamum toluatum.*

**(基原)**

ルーバルサムハ一千六百年代英國及獨乙ニ傳播セリ。

ルーバルサムハ南米ノ北部殊ニマクダレナ河下流地方及ルー市ノ近傍ニ産スル *Tolufiera Balsamum L. (Myroxylon Tolufiera Humboldt, Bonpland et Kunth)* ナル



第 二 百 二 十 九 圖

蝴蝶形科 (*Papilionaceae*) ノ

植物第二百二十九圖ヨ

リ採集セル「バルサム」ニ

シテ單ニ該樹幹ノ下部

ニ淺孔ヲ穿テ下端相合

シテ銳角ヲナス様斜メ

ニ二箇ノ截溝ヲ附シ其

下部ニ淺キ凹窪ヲ設ケ

之ニ胡蘆科植物ノ果實

(瓜ノ類)ノ果肉ヲ除去シ

空洞ナラシメテ裝成セル器或ハ適當ナル器ヲ架附シテ「バルサム」ヲ溜溜セシム、已ニシテ樹幹ノ下部「バルサム」ヲ生セザルニ至レバ漸次疵傷ヲ上部ニ及ホ

(獨) Tolubalsam.  
(英) Balsam of Tolu.  
(佛) Baume de Tolu.

シ一ケ年中八ヶ月間バルサムノ採集ニ從事ス其バルサムヲ革囊ニ充テマクダレナ河ニ於ケル一小港ニ輸致シ更ニ鐵葉製ノ鑷ニ換填シテ各處ニ輸出ス。

**(性状)**

トルーバルサムハ本來帶褐黄色粘稠ノ液ヲナシ薄層トナストキハ透映スレトモ時日ヲ經ルニ從ヒ固結シテ帶褐赤色結晶性ノ塊トナル日本藥局方ニ於テハ此固體ニ變遷セルモノヲ藥用品ト規定セリ但シ英國佛國及米國ノ諸藥局方ニ於テハ濃厚半流動體ノモノヲ用ユ香氣ハ甚タ佳快味ハ芳香性ニシテ酸味ヲ帶ヒ少シク苛辣ナリ結晶性ニ變遷シタルトルーバルサムノ比重ハ大約一・二ナリ此バルサムハ三十度ニ於テ軟化シ六十度乃至六十五度ニ於テ熔融スアセトン氷醋酒精クロ、フォルム及カリ油液ニハ容易ニ溶解シ強硫酸ニハ赤色ヲ現ハシテ溶解ス、エーテルニハ以上ノ諸溶解藥ニ比スレバ溶解シ易カラス揮發油類ニハ殆ト石油エーテル及硫化炭素ニハ全ク溶解セス。

**(成分)**

トルーバルサムハ芳香ヲ有スル油様ノ液七五%ヲ含有ス此液體ハ安息香酸ベンチール及桂皮酸ベンチールヨリ成ル其他遊離ノ狀ヲナセル桂皮酸及安息香酸ノ十二乃至十五%及ワニルリン〇・〇五%ヲ含有ス本品ノ大

部分ハ樹脂ヨリ成ル此樹脂ハ鞣酸類似ノ樹脂アルコホル即チ Coluresnotannol  $C_{17}H_{15}O_6$  ノエステルニシテ傍ラ桂皮酸安息香酸ヲ含有ス。

本品ノ製造ニハ往々コロフニウム(チャン)ヲ用ユルコトアリ即チ精良ノ品ハ酒精クロ、フォルムカリ油液ニ溶解シ木屑等ヲ留ムルコトアルモ僅微ニ過キス而シテ本品ノ粉末ニ硫化炭素ヲ加ヘ振盪シ濾過スレバ微ニ黄色ヲ有スル液ヲ生シ之ヲ重湯煎上ニ蒸發スレバワニルラノ香氣ヲ有スル殘渣ヲ留ム、ゲルヘ商會ノ報告ニ據レバ硫化炭素ハ真正ノ品ト雖トモ其二十%ヲ溶解ス次ニハ日本藥局方ニ規定セル酸類及エステル類ノ試験日本藥局方ヲ行フベシ。ニ供ス藥局方ニ於テハトルーバルサム舍利別ヲ製シ又ハ、ヨード鐵丸ニ衣ヲ附スルニ用ユ。

**(應用)**

**第十九章 乳液及其諸成分**  
Bestandteile von solchen. **Milchsäfte und**

● **阿片** Opium.

**(基原)**

小亞細亞產阿片ハ現今各國藥局方ニ採用セラレタル品ニシテ已ニ

阿片 (獨) Opium.  
(英) Opium.  
(佛) Opium.

太古ノ時代ヨリ藥用ニ供セシモ歐洲中古ノ時期ニ於テハ其應用仍ホ僅少ニ過キサリキ而シテ爾來漸ク阿片ヲ麻醉藥トシテ喫煙スルノ弊風東亞細亞地方ニ傳播シ現今ニ於テハ制止ス可カラサルノ勢アリ歐洲ニ於テハ殊ニ一千六百年代ヨリ或ハ已ニ之ヨリ前埃及上部ノラバイス州ニ於ケルカルナック及ルクソル地方ヨリ出ツルラバイス產阿片(Opium thebaicum)屢ニ市場ニ現出セリ獨逸ギョッチンゲン市ノ北方アイムベック市ノ藥劑師セルチルネル氏一千八百六年始メテ阿片ヨリ其麻醉ノ効力アル成分ヲ製出シ之ヲモルフィン(Morphin)ト名ケ一千八百十一年殊ニ一千八百十六年中モルヒネ「ハアルカリ性ヲ有シ鹽類ヲ生スル機能ヲ具フル原基タルコトヲ證明シ且ツ其性質ノ最モ「アムモニア」ニ近似スルコトヲモ確檢シ此重要ナル發見ニ由リアルカロイド(Alkaloid)ナル一ノ新化合物族ヲ設クルノ偉功ヲ奏セリ。

阿片ハ未熟ノ罌粟果ヨリ滲出セル乳汁ヲ乾燥セシメタルモノニシテ阿片採集ノ目的ニ對シ小亞細亞地方ニ於テハ Papaver somniferum L. var. glabrum ナル罌粟ノ一種**第二百三十圖**ヲ培植ス此罌粟科(Papaveraceae)植物ハ其蒴果十乃至十二箇ノ柱頭ヲ戴キ略球形ヲ有スルヲ以テ特異ノ標徴トス罌粟草ノ落

圖 十三百二第



花後二三日ヲ經テ快晴ノ日ニ乘シ其果殼ノ中央ヨリ下部ニ於テ周圍ニ果壁

ヲ穿通セサル様注意シテ(罌粟子ヲ熱シシテメツ之ヲ利用センナガ爲メ)二三回**第二百三十一圖**ニ示ス如キ切口ヲ附シ茲ニ滲出セル白色乳液ノ翌日ニ至リ凝結セル者ヲ

採集シ巨塊ニ團結セシメ罌粟葉ヲ以テ被包シ籃ニ容レスミルナ港或ハコンスタンチノーブル市ニ輸出ス阿片ノ粘着ヲ防ガンガ爲メ同地方ニ於テハPapaver somniferum(羊蹄屬植物)ノ種子ヲ撒布シ又其變敗ヲ豫防センガ爲メ更ニ乾燥シテ歐洲各地ニ輸出ス但シ阿片ニハ往々石膏濃粉等ヲ混和シテ贗偽スルノ惡習アリ。

**(形狀)** (一)小亞細亞產阿片ハ重サ三百乃至七百グラムニ至ル餅狀或ハ麵包狀ノ塊ヲナシ稀ニ一乃至三キログラムニ至ル者アリ又丁寧ニ罌粟葉ヲ以テ

圖一十三百二第



被包セル小餅狀ノ阿片ハ殊ニ小亞細亞ノ西北ニ於ケルカイワ地方ヨリ出ツ。阿片ハ平等ニ褐色ヲ有シ内部ハ處々ニ白色ノ顆粒ヲ箝在ス充分乾燥セル品ハ其質堅ク之ヲ破壊シテ有角形ノ小碎片トナスコトヲ得阿片ノ少量ヲ取り水ヲ加ヘテ洗滌シ其殘渣ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ罌粟殼ノ壞片ヲ認ム**第二百三十二圖**(寫真ハ「ル」メッキス)ノ種子ヲ撒布セル圓餅形ノ小亞細亞阿片ヲ約四分一ニ縮小シ其二箇ヲ重ネテ扁面ト側面トヲ示ス。

小亞細亞產阿片ハ一種特異麻酔性ノ臭氣ヲ有ス其味ハ苛烈ニシテ苦ク灼クガ如クナレトモ辛辣ナラス。

小亞細亞阿片ハ一ニ土耳其阿片ト稱スルヲ常トスレトモ小亞細亞ニ産シテスマイルナ港ヨリ輸出スル者ヲ特ニ小亞細亞阿片トシ歐洲土耳其ニ産シテコンスタンチノーブル市ヨリ輸出スル者ヲ土耳其阿片ト稱シテ之ニ別ツコトアリ**第二百三十三圖**(寫真)ニ縮示スル所ノ圓錐形ノ品ハ小亞細亞阿片ト異ニシテ「ル」メッキス)ノ種子ヲ撒布セス紙片ヲ以テ包裹シテテ特ニ土耳其阿片ノ名稱ヲ帶フ恐クハ歐洲土耳其產ノ品ナラン。

圖二十三百二第



小亞細亞阿片

圖三十三百二第



土耳其阿片

圖四十三百二第



棒狀百兒矢亞阿片

圖五十三百二第



煉瓦狀百兒矢亞阿片

(II)埃及產阿片 (Opium Thebaicum) ハ其形狀略小亞細亞產ニ類シ扁平ナル餅狀ヲ爲シ亦罌粟葉ヲ以テ被包セリ然レトモ決シテ羊蹄屬ノ種子ヲ撒布セス又内部ニ白色ノ顆粒ヲ現ハスコト無シ而シテ其下等品ハ粉類ヲ混シテ質偽セルコトアリ埃及ハ目下只僅量ノ阿片ヲ輸出スルノミ。

(三)百兒矢亞產阿片ハ其形狀甚タ不同ニシテ重量八十乃至三百グラムノ圓錐形又重量六百グラムニ至ル扁平ナル餅狀ヲナシ無花果葉又ハ葡萄葉ヲ以テ被包シ羊蹄ノ種子ヲ撒布セス或ハ又球形煉瓦石形棒形ニ裝成シ罌粟葉ヲ以テ被ヒ赤紙ヲ以テ包ミ赤絲或ハ黃絲ヲ纏ヒテ携帶ニ便ス此阿片ハ往々葡萄汁又ハ粉類ヲ加ヘテ製造セルモノアリモルヒネノ含量十五%ニ至ル主トシテ吸服用ノ爲メ支那ニ輸出ス歐洲ニ輸出スル者ハモルヒネ製造ノ原料トナス**第二百三十四圖**ハ棒狀ノ者二箇**第二百三十五圖**(共ニ寫眞)ハ煉瓦狀ノ者二箇ヲ重テテ扁而ト側面トヲ縮示ス。

第二百三十三圖 印度阿片



(四)印度產阿片ハ殊ニガングス河ノ中流地方ベナンズノ附近ニ於テ製出ス此阿片ハ重量大約二キロノ球形ニ裝成セリ支那ニ於テハ之ヲ大土ト稱ス印度產阿片ハ製造不完全ノ爲メモルヒネノ含量僅少ニシテ六%ニ過キスナルコチンノ含量モルヒネニ超ユルモノアリ多クハ吸服用トシテ支那ニ輸出ス**第二百三十六圖**(寫眞)ハ圓球形ノ印度產阿片ヲ縮示ス。

(五)支那產阿片ハ支那ニ於テ吸服用トナスノ目的ヲ以テ四川雲南及湖北地方ニ於テ製造ス而シテ其製造法ハ專ラ印度ニ於テ行ハル、所ニ據ルト云フ。  
(六)本邦產阿片ハ明治初年ニ於テ山梨縣下ニ於テ製造シタルトモ爾後ハ大阪府下及三重縣下ニ於テ製造セリ去ル明治三十六年ヨリ明治三十八年ニ至ル三ヶ年平均產額ハ三十七貫ナリ本邦產阿片ハモルヒネノ含量十五%ニ至ルモノアレトモ間ニ二三%ニ過キスナルコチンノ含量八乃至十一%ニ至リ又稀ニハ殆トナルコチンノミナ含有スルモノアリ。

(成分) 阿片ノ主要ナル成分ハ所謂阿片アルカロイド即チ阿片鹽基ニシテ現今知ラレタルモノハ左ノ十九種ナリ其中疑ハシキモノニハ( )標ヲ附ス。

アノスロキニン	(Anuskopin)	CaH <sub>15</sub> NO <sub>7</sub> (?)	ナラツエニン	Narcotin	CaH <sub>15</sub> NO <sub>9</sub>
ユムロコカチン	Hydrokocotin	C <sub>12</sub> H <sub>15</sub> NO <sub>7</sub>	ナルコチン	Narkotin	CaH <sub>15</sub> NO <sub>7</sub>
コカチン	Kokatin	C <sub>20</sub> H <sub>25</sub> NO <sub>11</sub>	オキシサモニン	Oxydimorphin	C <sub>21</sub> H <sub>25</sub> N <sub>3</sub> O <sub>9</sub>
コチン	Kodin	C <sub>18</sub> H <sub>21</sub> NO <sub>9</sub>	パワニン	Papaverin	C <sub>21</sub> H <sub>27</sub> NO <sub>11</sub>

ケリプトピン	Kryptopin	$C_{21}H_{27}NO_3$	プロトピン	Protopin	$C_{20}H_{25}NO_3$
ラントピン	Lantopin	$C_{20}H_{25}NO_3$	ロエアチン	Rhoetatin	$C_{21}H_{27}NO_3$
ラウダニン	Laudarin	$C_{20}H_{25}NO_3$	テバイン	Thebain	$C_{16}H_{21}NO_3$
ラウダノシン	Laudanosin	$C_{21}H_{27}NO_3$	トリプトピン	Triptopin	$C_{20}H_{25}NO_3$
メコニジン	Mekonidin	$C_{21}H_{27}NO_3$	キサントリン	Xanthalin	$C_{21}H_{27}NO_3$
モルヒネ	Morphin	$C_{17}H_{19}NO_3$			

此等ノ阿片アルカロイドハ阿片中毎常存在スルモノニ非ス或ハ其含量極メテ僅少ニシテ頗ル多量ノ阿片ヲ用ユルニ非サレバ檢出ス可カラザルモノアリ而シテ其鹽基ハ一部分ハ水ニ能ク溶解スル所ノ硫酸鹽類一部分ハメコン酸鹽類トシテ含有セラル阿片鹽基中最モ多量ニ含有セラルモノハ「モルヒネ」及「ナルコチン」ニシテ阿片ノ效用ヲ代表スルモノハ主トシテ「モルヒネ」トス而シテ「モルヒネ」ノ最大含量ハ二十二・八%ニ至リ「ナルコチン」ノ含量ハ多クモ十四%ニ過キス、小亞細亞産阿片ハ「モルヒネ」ノ含量常ニ一定シテ十乃至十二%ノ間ニ居ル是レ之ヲ歐洲諸國藥局方ノ藥用品ニ規定スル所以ナリ、小亞細亞産阿片ハ「ナルコチン」ニ乃至四%ヲ含有シ「モルヒネ」ヨリ多量ノ「ナルコチン」ヲ含有スルコト絶エテ無キモノトス然レトモ印度産阿片及支那阿片等ノ如キハ往々「ナルコチン」ノ含量遙ニ「モルヒネ」ニ超ユルモノアリ、本邦三重縣等ヨ

リ出タス所ノ阿片中ニハ右ニ述フルガ如ク「モルヒネ」ノ含量十五%ニ至ルモノアレトモ間「モルヒネ」ノ含量二三%ニ過キスシテ「ナルコチン」ノ含量七乃至十一%ニ至リ又稀ニハ殆ント「ナルコチン」ノミヲ含有シ極メテ少量ノ「モルヒネ」ヲ含有スルモノアリ、本邦阿片中斯ノ如キ多量ノ「ナルコチン」ヲ含有シ「モルヒネ」ノ含量ノ少ナキモノハ蓋シ「モルヒネ」ハ「ナルコチン」ニ比スレバ甚タ變質分解シ易キ化合物ナルガ爲メ阿片ヲ採取シテ乾燥調製スルノ際其分解ヲ來スニ由ルナランカ、以上二物ニ次テ多量ニ存在スル「アルカロイド」ハ「コデイン」及「バイン」ニシテ此二質ノ含量多キハ一%ニ至ルコトアリ、モルヒネハ決シテ阿片中ニ缺如スルコトナキモノトス、乾燥阿片ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ結晶ヲ見ル是レ恐クハ諸アルカロイドノ鹽類ニ係ルモノトス而シテ阿片ヲ酒精及水ニ浸出スレバ「モルヒネ」ハ硫酸鹽トナリテ此諸液ニ溶入ス。

又阿片ハ之ニ固有ナルメコニジン酸(Mekoninsäure  $C_7H_9O_7 + 3H_2O$ )ナル結晶性酸ヲ含有シ其量五%ニ至ル、阿片末ノ少量ヲ取り之ニ鹽酸一滴ト「エーテル」ヲ加ヘテ振出シ其エーテル分ヲ取り蒸發セシメテ得タル殘渣ヲ極メテ少量ノ水ニ溶解シ之ニ過クロール鐵ノ痕跡ヲ加フレバ赤色ヲ呈ス此反應ハメコニジン酸鐵ニ係



リ裁判化學上阿片ノ檢定ニ必要ナル反應トス。  
 其他阿片ハメコニン (Mekonin  $C_{16}H_{16}O_2$ ) 及メコノイシン (Mekonoisin  $C_8H_{16}O_2$ ) ナル  
 窒素ヲ含有セサル二種ノ中性化合物ヲ含有ス其含量百分一以下トス。  
 以上掲クル諸成分ノ含量ハ平均阿片全量四分一ニ過キザルヲ常トス、自餘ノ  
 成分即チ阿片全量ノ四分ノ三ヲナセル成分中ニ發見シタルモノハ粘液、糖蠟、  
 カウチニク、カルチウム及マグネシウム等ノ諸質トス而シテ灰分ノ量ハ大約  
 四五%ナリ。

阿片ハ普ク植物界中ニ播布スル澱粉、鞣酸及糖酸等ノ如キ諸質ヲ含有セズ、凡  
 ソ阿片ノ藥用ニ適不適ヲ檢定スルニハ第一ニ「モルヒネ」ノ含量ヲ測定スベシ  
 日本藥局方ハ其含量ヲ十乃至十一%ト制定セリ、其他又阿片ノ不溶性成分  
 ヲ檢定スベシ即チ阿片百分ニ付キ其水ニ溶解セサル成分ノ量四十%以上ナ  
 ルヲ要ス、化學的檢査ノ外顯微鏡檢査モ亦決シテ等閑ニ附ス可カラズ。  
 阿片ハ六十度以下ノ温ニ於テ乾燥スルヲ必要トス蓋シ高度ノ温ヲ施ストキ  
 ハ「モルヒネ」ノ變質スル虞アレバナリ而シテ藥用阿片ヲ百度ノ温ニテ乾燥ス  
 レバ水分ヲ消失スルコト大約七%ニ至ル。

**(應用)**

阿片ハ鎮痛藥及止瀉藥トシテ汎ク應用セララル、藥局方ノ製品ハ阿片越幾斯、ドーフル  
 散、阿片丁、幾、阿片安息香、丁、幾、芳香阿片酒等ナリ又モルヒネ、コデイン、チ製出スル原料タリ、劇藥ニ  
 屬ス注意シテ貯フベシ。

●ラクツカリウム *Lactucarium.*

**(基原)**

ラクツカリウムハ已ニ太古ノ時代ヨリ應用セラレテ阿片ニ對スル藥品トナセリ而  
 シテ後世ニ至リ一時廢棄ニ歸セシガ本百年紀ノ初メヨリ再ヒ醫藥ニ供用セララル、ニ至レリ。



*Lactuca virosa* L. ナル  
 菊科 (Compositae) 苣荬  
 屬植物 (第二百三十  
 七圖) ノ乳液ヲ採リ  
 乾燥シタルモノナ  
 リ而シテ上記ノ植物  
 ハ汎ク歐洲ノ南部  
 及西部ニ産ス本植  
 物ノ皮部ノ横斷面  
 ニハ薄壁性ノ乳脈

(獨) Giftlattigsaft.  
 (英) Lettuce-Opium.  
 (佛) *Lactucarium.*

圖七十三百二第

管アリ環列シテ一箇或ハ二箇ノ圓輪ヲナシ其木心ニ由テ皮部ト區別セラル、著大ノ髓心中ニモ亦一箇ノ圓輪ヲナシテ疎ラニ排置セル乳脈管アリ而シテ此乳脈管ハ縱斷面ニ於テハ横ニ連繫セル甚々長キ囊體ヲナシ分岐シテ本植物ノ綠色ヲ有スル諸部ニ攪入ス、ラクツカリウムヲ採取スルニハ前記植物ノ帶花季節ニ至リテ莖幹ノ上端ヲ剪去シ其剪痕ヨリ滲出スル乳液ヲ手指ニテ皿中ニ拭取シ固結スルヲ待チ乾燥ヲ備進セシメンガ爲メ之ヲ小片ニ細切シ日光ニ曝シテ乾燥セシム、獨乙・モセル河ノ近傍ニ於テハ上記ノ方法ニ由リテ野生植物或ハ培養植物ヨリ採取ス、又埃國其他佛國・英國等ニ於テモ之ヲ製造ス。

**(形状)** 黄褐色或ハ帶灰褐色不整ノ塊片ヲナシ其質堅硬ナレトモ截切シ易シ截面ハ淡明ニシテ蠟様ノ光澤ヲ有ス、温湯中ニ投スレバ軟化ス、阿片ニ類スル特異ノ臭氣ヲ有ス、味ハ極メテ苦シ。

ラクツカリウムハ左ノ検査ニ適スルモノヲ以テ藥用ニ供スベシ。

水ヲ加ヘテ煮沸スレバ軟化シ之ヲ濾過シテ得タル液ハ冷後潤滑スレトモ酒精或ハアムモニアルヲ加フレバ更ニ澄明トナル此アムモニア溶液ニ硫酸カルチウム溶液ヲ加フレバ著シク白色ノ沈澱(硫酸ニ係ル)ヲ生シ其酒精ニ由テ澄明トナリタル液ハ過クローレル紙ニ透フモ變化ス可カラス(硫酸面シテ十分以上ノ灰分ヲ留ム可カラス)。

佛國ニ於テ應用スル *Triplaris* ナルモノハ尋常莖葉ノ一種 *Lactuca sativa L. var. capitata* ノ津液ヲ搾取シ濃縮シテ得タル者ヨリ、本條ノ生藥ト混ス可カラス。

**(成分)**

本品ニ水ヲ加ヘテ煮沸スレバ只僅微ニ溶解シ其濾液中ニハ乳酸・マンニット(Mannit)・石等ヲ含有ス冷酒精ヲ加ヘテ浸出スレバ、ラクツチン(Tactuzin  $C_{12}H_{16}O_4$ )及ラクツコピクリン(Taktin-kopulin)ナル苦味質ト莖莖酸(Taktinasture)ヲ得然レトモ此諸質ハ甚々少量ニ含有セラル、ノミ沸騰強酒精ニ溶解シ寒冷ニ在テ結晶スル所ノ、ラクツコン(Taktikon)一ニ Taktuzerin ト名ク、ノ多量、大約五十%ヲ含有ス然レトモ此物質ハ單一ノ化合物ニ非サルガ如シ、其他多量ノ、カウチニック及蛋白質等ヲ包有ス。

**(應用)**

催眠藥及鎮痙藥トシテ阿片ニ代用スルコトアリ現今ハ殆ント應用セザルガ如シ、劇藥ニ屬ス注意シテ貯フヘシ。

● オイフルビウム *Euphorbia*

**(基原)**

古代ヨリ刺戟藥トシテ歐洲ニ行ハレタレトモ其母種ハ殆メテ千八百七十年ニ至リベルヒ氏ニ由テ明白トナレリ、即チ本品ハ亞弗利加洲麻洛古國ノミニ産スル大戟科(*Euphorbiaceae*)ノ植物 *Euphorbia resinifera* Boj. (第二百三十八圖)ノゴム樹脂ナリ。

本植物ハ柱狀霸王樹ニ類スル一種ノ大戟(*Euphorbia*)屬ニシテ高さ二mニ至ル肉質性ノ莖幹及其多數ナル短キ分枝ニハ著シク隆起セル四箇ノ稜線上ニ於テ整然タル距離ヲ取レル細小散落性ノ鱗層アリテ葉ニ代ハリ又互ニ相擴開セル刺棘アリテ之ニ伴ヒ以テ副葉ノ位置ヲ占ム此刺棘ハ箇々一對ヲナシ少ナル枕狀ノ隆起上ニ存シ其上ニ密接シテ短キ花梗ヲ生シ各三箇ノ鐘狀花

- (獨) *Euphorbium*.
- (英) *Euphorbium*.
- (佛) *Euphorbium*.

ム  
オイフルビウム

圖八十三百二第



チ着生ス其花ノ遺構ハ尋常大戟屬ノ花ニ同シ。本植物ハ他ノ大戟屬ニ同シク枝分少ナキ單乳管ニ由テ通走セブレ之ヲ傷ツタレハ乳液ヲ流出ス。第百三十八圖ハ本植物ノ花ヲ帶フル枝尖ヲ示ス。麻洛古人ハ該植物ノ稜線ヲ切傷シ流出セル乳液ヲ乾潤セシメ花實刺蝟等ヲ混シタル塊片トナシテ市場ニ出ス。

**(形狀)** オイフォルビウムハ曇類黄色無晶形ノ塊ニシテ通常ノ溶解藥ニ溶解セズ臭氣ナク熱スレバ微ニ芳香ヲ放ツ味ハ燒クガ如ク辛烈ニシテ永ク留存シ其粉塵ハ眼鼻等ノ粘膜ヲ刺戟ス。

**(成分)** 其重量ノ三分一ハ無晶形ノ樹脂ニシテ傍ラ結晶性ノオイフォルボン(Euphorbon)大約二十ニ百分ヲ包有ス其他ゴム(十八%)カウチニク・林檎酸鹽ヲ含有シ灰分十%ヲ殘留ス。

**(應用)** 只刺戟藥トシテ外用ス獨乙藥局方ノ弱光膏硬膏ノ成分タリ。

● 彈力ゴム カウチニク Gummi elasticum.

**(基原)** 彈力ゴムハ其產地ニ於テハ已ニ古來汎ク諸般ノ用ニ供セラレ米國ニ於テハ一千六百年紀ノ初期ヨリ歐洲人ノ着目スル所タリシト雖トモ千八百年代ノ始メニ在リテハ鉛筆ノ書蹟ヲ擦去スルノ用ニ供スルノ外他ノ用途アルヲ知ラサリキ而シテ Kautschuk ナル語ハブラジル土人ノ語 Cauchuニ始マルモノトス。

彈力ゴムハ諸多ノ植物ノ乳汁中ニ含メル成分ナリ然レトモ汎ク存在シ且多ク彈力ゴムヲ含有スル植物ニ非サレバ彈力ゴムノ採集ニ利用シ難シ而シテ特ニ彈力ゴムノ採集ニ適用スベキハ桑科 (Moraceae) 蕁麻科 (Urticaceae) 大戟科 (Euphorbiaceae) 及夾竹桃科 (Apocynaceae) 等ノ諸植物ニシテ此等ノ植物ハ其皮部及髓部ニ乳脈管ヲ包藏シ其脈管中ニモ亦往々乳汁ヲ含蓄スルコトアリ彈力ゴムハ細微ナル滴狀ヲナシテ乳汁中ニ存在ス。

彈力ゴムハ只稀ニハ自然ニ滲出スルモノヲ採集スレトモ普通ハ當該植物ニ痕疵ヲ附シテ滲出セシム而シテ彈力性ゴムノ採集ニ利用スル主要ノ植物ヲ其產地ニ就テ示セバ左ノ諸種トス。

(一) 米國。Hevea brasiliensis Mill. Arg. 及 H. Guyanensis Aubl. 其他 Micrandra 屬ノ植物

(獨) Kautschuk.  
(英) Elastic. gum  
(佛) Gomme elastique.

ハ大戟科ニ屬シ彈力ゴム中最モ優等ノ品タルバラゴムハ南米ブラジルニ於テ專ラ此樹ヨリ採集ス而シテ之ヲ採收スルニハ該樹ノ皮部ニ縱直或ハ斜メニ又ハV字形ニ創痕ヲ附シ茲ニ滲出スル乳液ヲ採集シ其内ニ扁平ナル巨大ノ木篋ヲ浸シ煤烟強キ火焰ニ熏シテ乾潤セシメ更ニ此操作ヲ反覆シ木篋上ニ被覆セルゴムノ層ノ厚サ十乃至十二cmトナルニ至リテ止ム之ヲ乾燥セシムルノ際其厚サ半バニ減却ス而シテ此ゴムヲ木篋ヨリ分取スルニハ其一方ヲ切リテ剝離セシム此彈力ゴム(Island Rubber Para fin)ハ各種彈力ゴム中最上等ノ位置ヲ占ムルモノニシテ煤烟ニ熏蒸セルニ由リ褐色乃至褐黑色ヲ有シ明カニ層積ヲ現ハシ内部ハ淡明ナリ本ゴムヲ製造スルノ際注意ヲ怠ルトキハ品質海綿様ニシテ均等ナラサルモノヲ得之ヲ Para entrefin, Para Erroza ト稱シテ販賣ス、近年ニ到リ往々酸類又ハフェノールヲ用キテ乳液ヨリ「ゴム」ヲ分取スルノ法ヲ用ユルコトアレトモ此法ニ由テ得タルモノハ品質劣等ニ屬ス。

Manihot glaziovii Mull. Arg. ハ大戟科所屬ノ植物ニシテツエアラゴム或ハフェルナムブゴム(Ceara-oder Fernambuco-Kautschuk)ヲ生スルモノナリ此種ノ「ゴム」ヲ採集スルニハ該樹ノ皮ヲ一部分剝離シ之ニ由テ滲出スル乳液ヲ其幹ニ乾附セシ

メ之ヲ分取シ來リテ卷疊シ或ハ其儘ニ市場ニ出タス(Ceara Scraps)。

Hancornia speciosa Gom. ハ夾竹桃科ニ屬シ「バヒアゴム」或ハ「マンガベイラゴム」(Bahia-oder Mangabeira-Kautschuk)ヲ生スルモノナリ此「ゴム」ハ従前ハ劣等トシテ重ンゼザリシガ近年ハ賞用スルニ至レリ乳液ヨリ之ヲ分別セシムルニハ之ニ明礬ヲ加ヘ或ハ之ヲ煮沸シテ凝固セシム Castilla elastica Cervantes ハ桑科所屬ノ植物ニシテ墨西哥ヨリ中央亞米利加ヲ經テウヰネツエラ、エクアドール及ペルーニ到ルノ諸地ニ汎布シコルムピアゴム及カルタゲナゴムヲ生スルモノナリ此「ゴム」ヲ取ルニハ右ノ樹幹ニ深く創痕ヲ附シテ乳液ヲ滲出セシム之ニ由テ該樹ハ枯死スルヲ常トス又該樹ヲ仆シテ乳液ヲ取ルコトアリ而シテ此乳液ヨリ「ゴム」ヲ析出セシムルニハ單ニ之ヲ放置シテ「ゴム」分ヲ凝固セシメ或ハ之ニ食鹽或ハ重炭酸ナトリウム又ハ石鹼溶液其他 Iponoan Dona non 葉ノ津汁ヲ加ヘテ「ゴム」分ノ凝固析出スルヲ助ケ或ハ上記ヘウヰアゴム(Heven-Kautschuk)ニ於ケルガ如ク熏烟法ニ由テ製出スルコトアリ。

(II)亞細亞 Ficus elastica Rox. ハ桑科ノ植物ニシテアッサム、ベナン、シンガポール及爪哇等ニ産シ良好ノ「ゴム」ヲ生スルモノナリ、ゴムヲ製スルニハ従前ハ該樹

ノ全部ニ創痕ヲ附セシガ今ハ其下部ノミニ創傷ヲ附シテ乳液ヲ滲出セシム故ニ従前ハ往々「ゴム樹ノ枯死ヲ來セシコトアリ而シテ此乳液ヲ沸湯ニ注入シテ凝固セシメ或ハ之ヲ鐵葉ニ塗布シ又ハ該樹ノ幹部ニ乾涸セシメテ彈力ゴムトナスナリ。

Willoughbya firma *Bruce*, *W. flavescens Dyer* 及本屬所屬ノ他ノ植物ヨリボルネオニ於テ *Getah Borneo* 及 *Getah Suret* ト稱スル「ゴム」ヲ採集ス而シテ其法ハ該樹ノ枝ヲ一定ノ長サニ切り其一端ヲ火ニ熱シ他ノ一端ヨリ流出スル乳液ニ鹽水又ハ石灰水ヲ加ヘ煮沸シテ「ゴム」ヲ凝結セシムルニ在リ。

*Urceola elastica Koz.* 及 *Ur. esculenta Benth.* ハ夾竹桃科ニ屬シ是レ亦ボルネオ「ゴム」ヲ生スル基本植物トス。

(三)亞弗利加。グイネアニ於テハ夾竹桃ニ屬スル *Landolphia ovariensis P. Beauv.* 及 *L. comorensis K. Schum.* 東亞弗利加ニ於テハ *L. Kiriki Dyer* ヨリ「マダガスカル」ニ於テハ *L. Gummifera K. Schum.* ヨリ採集ス其乳液ヨリ「ゴム」ヲ分出スルニハ種々ノ方法ニ據ル即チ土人乳液ヲ取り之ヲ己レノ身體ニ塗布シテ蒸發セシメ或ハ之ニ酸味アル植物ノ津液(枸櫞又ハ「ゴム樹ノ果實ノ津液等)ヲ加ヘテ「ゴ

ム」ヲ凝固セシム。

(形狀)

彈力ゴム「ハ之ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ概ネ極メテ不整ナル網狀ノ紋理ヲ呈シ往々些少ダモ空洞ヲ現ハサ、ルモノアリ、色澤ハ採集法ニ由テ一定ナラス火烟ニ熏シテ乾燥セルモノハ褐色乃至黑色ヲ有シ溶液ヨリ沈澱セシメタルモノハ往々初メハ純白色ニシテ大氣ノ作用ニ由リ暫時ニシテ暗色ヲ呈シ内部ハ永ク淡明ナリ又類黃色及類褐色ナルモノアリ而シテ其色澤ハ專ラ夾雜セル樹脂分ニ原因ス、良好ノ品ハ粘着性ナラス又破碎性ナラス柔軟彈力性ヲ有ス零度ノ温ニ逢ヘバ其彈力性ヲ失ヒ五十度ノ温ニ於テ軟化シ百二十度ニ至リ熔融ヲ催ホシ百八十度ニ至レバ熔融シテ液體又ハ半流動體トナリ冷却スルモ凝結セス永ク粘着性ヲ保有ス比重〇・九二乃至〇・九六ナリ電氣ヲ導カサレトモ強ク摩擦スレバ電氣ヲ起ス水ニ溶解セサレトモ水ニ逢ヘバ膨脹シ之ヲ攝取スルコト百分ニ付キ二十五分ニ至ル之ニ由テ其色、淡明トナル、ベンツォール、クロ、フォルム、硫化炭素殊ニ純酒精六乃至八分及硫化炭素百分ノ混和液ニハ容易ニ溶解シ又彈力ゴム油彈力ゴム「ヲ乾餾シテ得タル油」ニモ容易ニ溶解ス、然レトモ品種ニ由リ其諸液ニ溶解スル關係一定ナラス。

彈力ゴムハ精製ノ要アリ、蓋シ製造ノ際自然ニ或ハ不注意ヨリ混入セル汚物又ハ賈造ノ目的ヲ以テ混入セル夾雜物ヲ除去センガ爲メナリ而シテ之ヲ精製スルニハ先ツ少量ノ「アルカリ」ヲ加ヘ刀又ハ切斷器ヲ用キテ切斷スルノ後水ヲ灌注シツ、反覆ロールニ掛ケ延展シテ夾雜物ヲ洗除シ乾燥セシメ更ニ之ヲ加熱セル「ロール」ニ掛ケ搓捏延展シテ板狀ニ裝成シ強キ水壓ヲ加ヘ壓搾シテ團塊トナシ冷水ヲ注キツ、板形ニ切斷スルナリ。

日本藥局方ニ掲クル彈力ゴムハ即チ右ニ示スガ如ク精製セルモノナリ。  
彈力ゴムハ之ヲ火山化セシムルニ由リ語ヲ換ヘテ云ヘバ之ヲシテ硫黃ト結合セシムルニ由リ甚タ貴重ナル特性ヲ得即チ其固有ノ彈力性ヲ失フコトナク大氣ノ侵襲ニ抗シ諸化學藥等ニ侵サレサルニ至ル而シテ彈力ゴムヲ火山化セシムルニハ之ニ硫黃ヲ煉合シテ高度ノ温ヲ施シ或ハ之ニ硫黃化合物硫化カリウム等或ハ鹽化硫黃ノ硫化炭素溶液等ヲ加ヘテ處置スル等種々ノ方法ニ由ル、斯ノ如クシテ火山化セシメタル彈力ゴムハ之ニ「ナトロン」滴液ヲ加ヘテ熱スレバ其硫黃ノ一部分ヲ奪却セシムルヲ得ベシト雖モ之ガ理學的性質ニ至テハ曾テ變化ヲ來スコトナシ、硬ゴム或ハ「イボナイト」ト稱スルモノハ

彈力ゴムニ多量ノ硫黃其量五十%ニ至ルヲ混合シテ製造セルモノトス。

**(成分)**

*Hevea brasiliensis* ナル「ゴム樹」(參照上文)ノ乳液ハ彈力ゴム三十二%、含窒素物

二・三%、鐵物性成分九・七%、樹脂痕跡、水(性アルカリ)五・五乃至五・六%ヲ含ム。

販賣ノ粗製ゴム(生ゴム)ハ少量ノ蛋白質、脂肪、揮發油及色素等ヲ夾雜シ此等ノ夾雜物ハ順次水、酒精及エーテルヲ加ヘテ溶出スルニ由リ之ヲ除却スルヲ得ベシ而シテ茲ニ溶解セシメテ殘留セル主要ノ成分ヲ「クロ、フォルム」ニ溶解シ酒精ヲ加ヘ沈澱セシメテ精製シタル者ハ其集成 $C_{10}H_{16}O_2$ ナル記號ニ適應ス、彈力ゴムハ之ヲ乾縮スルトキハ炭酸、酸化炭素アムモニア、硫黃、クロールヲ含有スル物質イソプレン ( $Isopren C_5H_8$ )、カウチン ( $Kauechin C_{10}H_{16}O_2$ )、ケウチーン ( $Heveen C_{16}H_{24}$ ) 等ヲ生成ス此等ノ炭水素ハ上文ニ述フル「ゴム油」ノ成分トス。

**(應用)**

彈力ゴムハ什具器械ノ製造ニ應用セラル、日用必須ノ品ニシテ特ニ其貴重ナル性質ハ上文ニモ述フル如ク適當ニ硫黃ヲ蘊包セシムルニ由リ其彈力性ヲ増進シ又堅硬角質樣ノ物質トナシ得ルニ在リ。

● **グッタペルカ** Gutta Percha.

**(基原)** 「グッタペルカ」ハ恐ラクハ古來ヨリ馬來人ニ由テ諸用ニ供使セラレタ

(獨) Gutta-Percha.  
(英) Gutta percha.  
(佛) Gutta percha.

ル者ニシテ一千八百四十二年歐洲人始メテ之ヲ知レリ。  
後印度及印度群島ニ産スル *Dichopsis gutta* *Banhan et Hooker* 及他ノ *Dichopsis* 屬  
其他殊ニスマトラ島ニ産スル *Payena Loezii Haskarl* 又山欖科 (*Sapotaceae*) ニ屬ス  
ル諸種ノ喬木ハ之ニ截口ヲ附スルトキハ膠シク乳液ヲ滲出ス、グッタペルカハ  
即チ其乳液ノ殆ント全ク凝固スルヲ待チ熱湯ニ搓捏シテ汚物ヲ除去シ乾燥  
シテ得ルモノナリ。

**(形状)** グッタペルカハ褐色或ハ屢類赤色大理石様ノ紋理ヲ有スル柔軟性ノ  
塊ヲナシ五十乃至六十度ノ温ヲ施ストキハ軟化シ適宜ノ形状ニ裝成スルコ  
トヲ得更ニ高度ノ温ヲ施ストキハ熔融シ其際多少ノ分解ヲ免カレズ、クロハ  
フォルム、硫化炭素、石油エーテル等ニ溶解ス。

グッタペルカハ水液ノ侵襲ニ抵抗シ、電氣及温熱ヲ誘導スルノ性弱ク、又硫黄ヲ  
攝取シテ貴重ナル特性ヲ得ルニ至ル等毫モ弾力性ゴムニ異ナルコトナシ然  
レトモ弾力性ゴムヨリハ大氣ニ侵サレ易ク永久ニ保存セス。

**(成分)** グッタペルカハ主トシテ七十五乃至八十二%ノグッタ (*Gutta*) ト稱スル  
炭水素 ( $C_{10}H_{16}$ ) ヨリ成ル(其クロ、フォルム溶液ヨリ酒精ニ由テ沈澱ス)、其他ノ成

分ハ四乃至六%ノフルアウイ (*Fluavil*  $C_{10}H_{16}O$ ) 冷酒精並ニ温酒精ニ溶解ス、十四  
乃至十六%ノアルバン (*Alban*  $C_{10}H_{16}O_2$ ) 只沸騰酒精ニ溶解ス) 及グッタニ類スル物  
質グッタ (*Guttan*) ナリ。

凡ソ良好ノグッタペルカハ、フォルムニ溶解シ僅微ノ汚物ヲ留ムルニ過キス純酒精ニ  
ハ僅ニ溶解ス常温ニ於テハ柔軟ニシテ少シク弾力性ヲ有シ破壊性ナラズ六十度乃至七十度  
ノ温ニ於テハ軟化シ可塑性トナルベシ、本生薬ニ就キ硫黄ヲ檢定スルニハ之ニカリ油液ヲ加  
ヘ煮沸シテ得タル液ヲ水ニテ稀釋スルノ後ニドロブルミッドナトリウム溶液ヲ注加スベシ  
硫黄並ニ存在スルトキハ紫紅色ヲ呈ス。

**(應用)** 什具器械ヲ製造スル等其用途最モ汎シ、醫術ニ於テハグッタペルカ板 (*Gutta Percha lamina*)  
Iida トナシ電治療法、補助ニ供用スル等甚々緊要ノ品ニ屬ス又グッタペルカ液ヲ製スルニ用ユ

第二十章 越幾斯類 *Extracta. Extrakte.*

● 蘆薈 *Aloe.*

**(基原)** 日本藥局方規定ノ蘆薈ハ亞弗利加ノ南端喜望峰地方ニ於テ製出シ  
坊間ニ透明蘆薈 (*Aloe lucida*) 又喜望峰蘆薈 (*Aloe capensis*) ト稱スルモノ是レナリ、  
此蘆薈ハ殊ニ *Aloe ferox Miller* 其他 *A. spicata Howard*, *A. vera L.*, *A. lingua Thunberg*

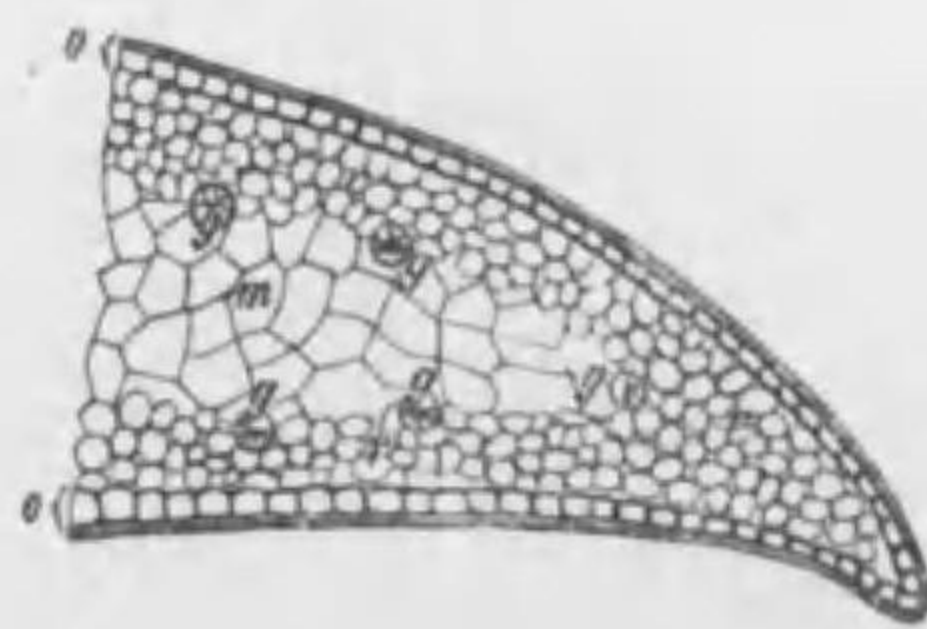
(獨) Aloë.  
(英) Aloes.  
(佛) Aloès.

等ノ如キ百合科 (Liliaceae) ノ植物ヨリ製出セルモノナリ此等ノ植物ハ草本植  
物或ハ灌木ニシテ高サ數尺ニ至リ津汁ニ富メル肥大ノ葉ヲ有シ其葉ハ洋刀  
形或ハ鎌狀ヲナシ刺針ヲ帶フ(第二三十九圖)ハ一種ノ蘆薈屬植物ヲ示ス、本

圖九十三百二第



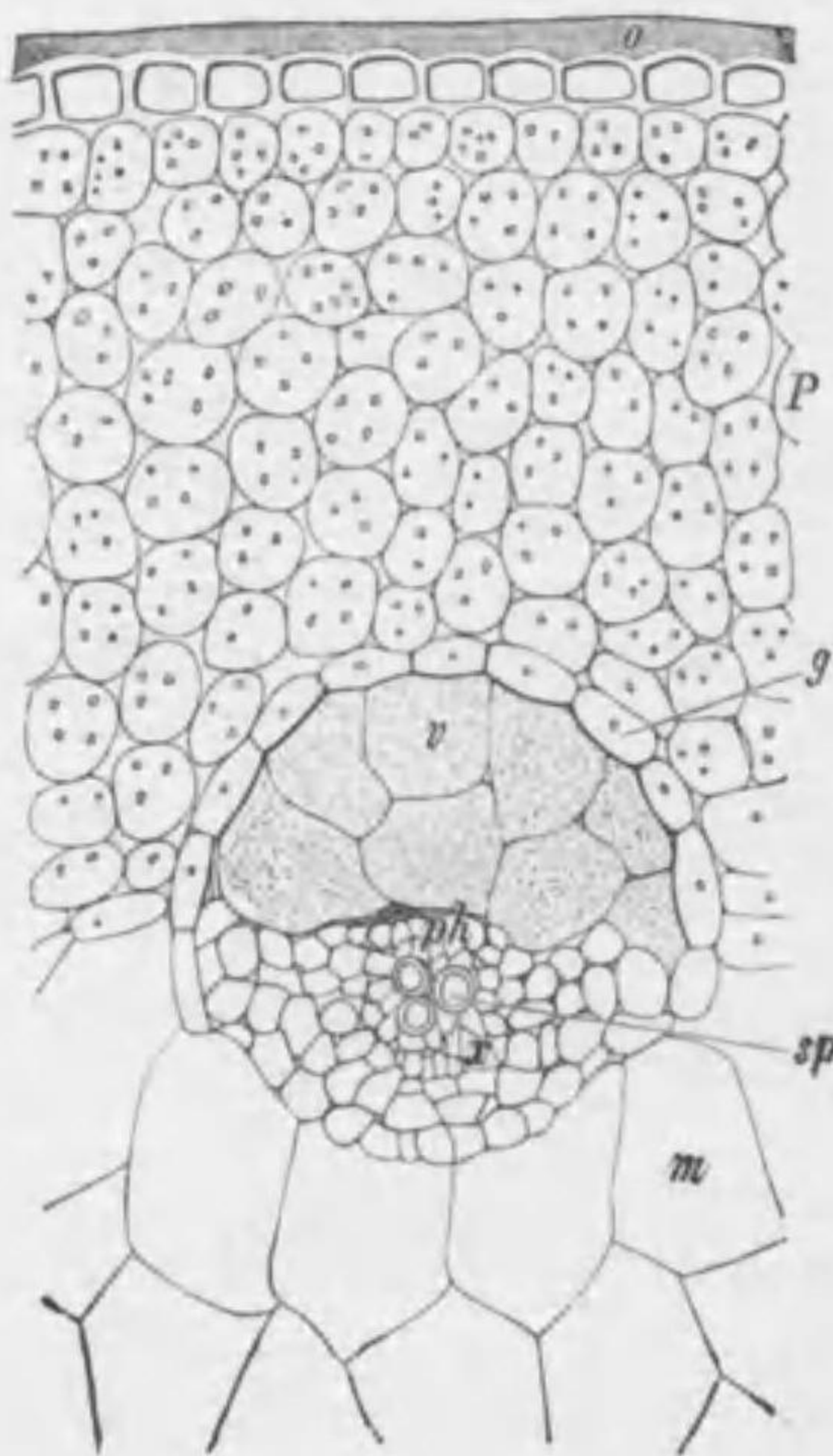
圖十四百二第



植物ノ葉ノ橫斷面ハ  
上下兩面ノ上皮(第二  
百四十圖 o o)ノ下ニ  
平等ニ發育セル皮部  
組織(同圖 r)ヲ現ハシ  
此組織ヨリ圍繞セラ  
ル、中層或ハ髓層同

圖 m)ハ比較的厚ク巨大無色ニシテ植物粘液ヲ包裹セル細胞ヨリ成ル、皮部ト  
中層トノ境界ニハ多數ナル脈管束(同圖 g)ヲ存ス其篩管部(二百四十一圖 ph)ノ  
一部ハ甚タ擴張セル組織(v)ヨリ成ル此組織ノ細胞ハ縱斷面ニ於テハ隔壁ニ  
由テ區劃セラレ蘆薈汁ヲ含蓄シ而シテ其蘆薈汁ハ樹脂分ト蘆薈溶液トヨリ  
成リ植物乳液ト看做ス可キモノトス。

圖一十四百二第



第二百四十圖ハ蘆薈葉ヲ廓大視セルモノニシテ其(o及o)ハ上下ノ兩上皮(r)  
ハ皮部組織(g)ハ脈管束(m)ハ中層組織(髓)トス。  
第二百四十一圖ハ蘆薈葉ノ橫斷面ヲ更ニ廓大視セルモノニシテ、(p)ハ皮部組  
織(g)ハ脈管束ヲ掩護セル

細胞層(sp)ハ脈管束ノ脈管  
部(ph)ハ其篩管部ニシテ其  
上邊ニ位シ膨脹セル細胞  
(v)ハ即チ蘆薈汁ヲ包有ス  
ルモノトス。

喜望峰地方ニ於テ蘆薈ヲ  
製出スルノ法ハ地中ニ淺

キ陷窪ヲ設ケ中ニ山羊ノ皮ヲ展敷シ其周圍ニ斜メニ剪取セル蘆薈葉ヲ疊々  
排置シテ茲ニ滲出セル汁液ヲ陷窪中ニ溜溜セシメ其汁液既ニ陷窪中ニ充ツ  
ルニ至レバ之ヲ鐵鍋ニ傾瀉シ直火ヲ施シ煎稠シテ適當ノ稠トナスニ在リ。  
(性狀) 透明蘆薈即チ藥用蘆薈ハ暗褐色ノ塊ヲナシ破碎シ易ク其碎片ハ透



明ニシテ貝殼狀ヲナシ銳稜ヲ現ハシ硝子様ノ光澤ヲ帶ヒ類赤褐色乃至淡褐色ヲ有シ顯微鏡下ニ檢視スルニ結晶性ヲ呈セス(日本藥局方)是レ Aloin ナル物質ヲ含有セザルニ由ル他ノ蘆薈ハ「アロイン」ノ含有ニ由リ結晶性ヲ呈ス藥用蘆薈ハ「クロロフォルム」及「エーテル」ニハ只僅ニ溶解ス即チ「エーテル」ニハ大約三%溶解スルニ過キス故ニ「エーテル」溶液ノ蒸發殘留物之ヨリモ多大ナルトキハ樹脂又ハ「コロフニウム」ヲ加ヘテ賈僞セルモノナリ本蘆薈ヲ熱湯ニ溶解シ硼酸ナトリウム溶液ヲ加フレバ類綠色ノ螢石彩ヲ呈ス本蘆薈、キヲソ一蘆薈及バルバドス蘆薈ニ限リ之ヲ徵シ「ナタール」蘆薈ハ此反應ヲ現サス蘆薈ニハ本藥用蘆薈ノ外左ノ諸種アリ。

(一)肝色蘆薈 (Aloe hepatica) ハ東印度ニ於ケル孟買、亞弗利加ノ東岸ニ於ケルサングバル島其他西印度ノキヲソ一及バルバドス島等ヨリ輸出シ孟買蘆薈、サングバル蘆薈、キヲソ一蘆薈及バルバドス蘆薈等ノ種別アリ此各種蘆薈ハ Aloe Vera ノ一種ヨリ製出セラル、モノニシテ暗肝褐色乃至黑色ヲ有シ光澤ヲ帶ヒス細碎スレバ金黄色乃至シヨコラーデ様褐色ノ粉末トナル、顯微鏡ヲ以テ檢視スレバ細小ナル結晶(アロイン)ヲ見ル而シテ此蘆薈ハ專

ラ英國ニ於テ應用シ獨佛、埃國等ニ於テハ使用セス。

(二)ナタール蘆薈ハ亞弗利加ノ東南ニ於ケル英領殖民地ナタールヨリ輸入スルモノニシテ曇淺肝褐色ヲ有シ其氣味顯著ナラス水ニハ僅ニ溶解シ顯微鏡下ニ檢視スレバ結晶ヲ呈ス(ナタロイン)ヲ含ル。

總テ蘆薈ハ沸湯ニ溶解スレドモ放冷スレバ再ヒ過半析出ス酒精ニ溶解シ、エーテル、クロロフォルム、石油エーテル、硫化炭素等ニ溶解セス蘆薈ノ酒精溶液ハ過クロール鐵ニ逢ヘバ暗褐色ヲ呈シ其水溶液ニ「ブローム」ヲ加フレバ其液甚タ稀薄ナルモ沈澱ヲ生ス一種特異ノ臭氣ヲ有シ味ハ不快ニシテ苦シ。

**(成分)** 蘆薈ノ主トシテ瀉下作用ヲ誘起スル成分ハ之ヲ Aloin ト通稱ス其含量大約六十%トス肝色蘆薈即チ「バルバドス蘆薈」中ニ含有スル Barbaloin 及 キヲソ一蘆薈中ニ含有スル Curagaloin ハ皆  $C_{16}H_{16}O_7$  ナル記號ヲ有ス而シテナタール蘆薈中ニハ Nataloin  $C_{15}H_{16}O_6$  ヲ含有ス此等ノ「アロイン」ハ總テ結晶性ヲ呈ス、透明蘆薈即チ藥用蘆薈中ニハ結晶ヲ認メス其他藥用蘆薈中ニ含有スル成分ハ Emodin  $(C_{11}H_{16}(CH_3)(OH)_2O_6)$  是レ亦瀉下成分トス揮發油ノ痕跡樹脂、越幾斯質

等ナリ而シテ水分ハ大約七%ニシテ灰分ハ二・一%トス。

蘆薈ハ當今賤偽セラル、コト稀ナリ而シテ從來蘆薈中ニ發見セラレタル夾雜物ハ鑛物質、ベッチ樹脂、コロフォニウム等トス。

**(應用)** 本品ハ健胃藥トシテハ少量、峻下藥ノ目的ニハ多量ヲ用ユ、藥局方ノ製品ハ蘆薈越幾斯、蘆薈丸、蘆薈ヤラツ、ハ丸、蘆薈鐵丸、コロシントヒヨス、丸、蘆薈丁、幾等ナリ。

● 甘草羔 尋常甘草越幾斯 *Succus Liquiritiae.*

**(基原)** 甘草羔ハ甘草(上卷ノ本條ヲ見)ヨリ伊國ノカラブリア、佛國南部、西班牙及小亞細亞等ニ於テ製出スル越幾斯ナリ、カラブリアニ於テ製スル法ハ甘草ヲ搗碎シ水ヲ加ヘ煎汁ヲ放置シテ澄明ナラシメ上澄液ヲ銅鍋ニ傾瀉シ煎稠シテ適當ノ稠度トナシ机上ニ延轉シテ梃子狀トナシ更ニ大理石製或ハ金屬製ノ模型ニ壓シテ均等ノ大サトナスニ在リ而シテ伊國ニ於テハ甘草羔ニ其製法所ノ章標或ハ地名ヲ附スル慣習アリ。

**(形狀)** 甘草羔ハ黑色ヲ有シ寒冷ニ在テハ破碎シ易ク破碎面ハ黑色ヲ有シ大貝殼様ニシテ光澤ヲ帶フ、微温ヲ施セバ屈撓スベク又切斷スルヲ得ベシ水ニハ溷濁シテ溶解ス味甚タ甘シ。

**(成分)** 甘草羔中ニ含有セル成分ハ甘草中ニ含有セル所ト同様ナレトモ此

- (獨) Süßholzwasser (Sakri.)
- (英) Italian extract of Liquorice.
- (獨) Jusousuc de réglisse.

甘草羔

諸成分ハ製造ノ際著シク變化ヲ受ケ「グリチルリチン酸アムモニウム」ハ「アムモニア」ノ多少ヲ消失シテ難溶性トナリ澱粉ハ糊化シ糖分モ亦變質ス。

凡ソ良好ノ甘草羔ハ大約五十度ノ温ヲ有スル水ヲ加ヘテ數回浸出スレバ軟滑性均等褐色ノ殘渣ヲ留メ之ヲ濾紙上ニ採集シ洗淨スルノ後大氣中ニ乾燥スレバ破壞シ易キ塊トナリ其重量二十%ニ超ユ可カラズ。

甘草羔ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ糊化セザルヲ要ス、又正當ノ甘草羔ハ百度ノ温ニ於テ乾燥スルニ水分ノ消失十七%ニ越ユ可カラズ。

精製甘草羔(日本藥局方)ノ甘草越幾斯 *Extractum Liquiritiae* ハ直チニ甘草ヨリ得ル所ノ越幾斯ニシテ之ト異ナリハ上記ノ品ヲ精製シ不溶分ヲ除去セルモノトス而シテ之ヲ精製スルニハ木槽中ニ甘草羔ト藥トヲ交互ニ疊積シ槽内ノ物質ヲ浸スルニ至ル迄冷水ヲ注入シ二十四時間放置スルノ後槽ノ下部ニ於ケル栓ヲ脱シ浸液ヲ排出セシメ更ニ冷水ヲ加ヘ十二時間浸出シ同浸液ヲ放置シ澄明ナラシメ爾後重湯煎上ニ蒸發シテ稠厚越幾斯トナス、精製甘草羔ハ水ニハ澄明ニ溶解スルヲ要ス。

**(應用)** 丸劑ノ賦形藥トシテ用ユ又屢、矯味藥トシテ應用ス。

● キノ Kino.

**(基原)** キノハ素トセネカンピアニ産スル蠟蝶形科(Papilionaceae)ノ植物 *Platanus erinaceus* Purst.

(獨) Kino.  
(英) Kino.  
(佛) Kino.

ヨリ採收セル樹液ヲ指スモノニシテ遂ニ類似滲出物ノ通稱トナリ一千八百十年頃ニ至リ本條ノ生薬及濠洲ニ産スル「オイカリ」ブツス樹 (Eucalyptus) 屬諸種ヨリ得ル滲出物ノ名稱トナレリ。  
キノハ前印度殊ニマラバール海岸ノ森林中ニ産スル胡蝶形科 (Papilionaceae) ノ植物 *Pterocarpus Marsu-*  
*yanus Jamburghii* ヨリ得タル滲出物ヲ乾燥シタルモノナリ。  
キノヲ採收スルニハ上記植物ノ下部ニ截口ヲ附シ其截口ヨリ滲出スル液汁ノ凝固スルヲ待テ之ヲ採集シ日光ニ乾燥シテ市場ニ出ダス。

**(形状)**

キノハ暗褐赤色乃至黑色ノ塊ヲナシ其質堅脆ニシテ破壊シ易ク其碎片ノ邊緣ハ赤色ニ透映シ研磨スレバ赤色ノ粉末トナル、冷水ニハ僅ニ溶解シ其溶液ハ酸性ヲ呈シ收斂性ノ味ヲ有シ重金属ノ鹽類・クローム酸鹽類・硫酸類ニ由テ沈澱セラル、其新製ノ水溶液ニ硫酸鐵(酸化鐵ヲ含マザル)ノ一小粒ヲ投スルニ初メハ殆ント染色セザレトモ暫時ニシテ綠色ヲ呈ス而シテ其水溶液ニ硫酸鐵ト炭酸カルチウムヲ加フレバ紫色ヲ呈シ直チニ綠色ニ變ス過クロール鐵ハ綠色ノ沈澱ヲ生セシム、キノハ酒精ニハ著シク溶解シ、エーテルニ溶解セズ臭氣ナク收斂性ノ味ヲ有ス。

**(成分)**

キノ鞣酸 (Kinogerbstoff) ナル一ノ鞣酸ヲ含有ス此鞣酸ハ苛性カリト共ニ熔融スレバ  $C_6H_3(OH)_3$  ナ生成ス而シテ右ノ諸反應ハ此鞣酸ニ因由スルモノトス、水ト共ニ永ク煮沸

スレバ漸々不溶解性ノ「キノ」紅色素トナル又キノハ少量ノ *Brenzkathechin*  $C_6H_3(OH)_3$  キノ紅色素及 *Kinoin* ナ含有ス而シテ「キノ」ハ諸多ノ關係ニ於テ阿仙藥ニ類スル生薬ナレトモ *Katechin* (次條阿仙藥ノ條ヲ見ヨ) 缺如ス。

**(應用)**

阿仙藥ニ於ケル如ク收斂藥トシテ應用ス。

● 阿仙藥 Catechu.

**(基原)**

阿仙藥ハ東印度地方ニ於テハ古來ヨリ貧人之ヲ咀嚼シテ饑餓ヲ凌クノ慣習アリ而シテ獨乙ニ於テハ一千六百年代ヨリ藥局ニ販賣シ本邦ニテモ亦古來ヨリ藥用ニ供セリ。

阿仙藥ニハバグ阿仙藥及ガムビール阿仙藥ノ二種アリ。

(甲)バグ阿仙藥 (Pegu-Catechu) 印度ノ半島ニ産スル *Acacia Catechu Willdenow* 及殊

ニ前印度ノ北部ニ産スル *Acacia Soma Kurz* (第二百四十二圖) ナル二種ノ決明科 (*Caesalpinaceae*) 植物ヨリ採收ス。

前記二種ノ植物ハ其木心及其間隙中ニ夥ク「カテヒン」(後文ヲ)ヲ含蓄ス此阿仙藥ハ殊ニバグニ於テ多ク製造ス、其法ハ該樹ノ木心ヲ細切シ水ヲ加ヘテ瓷器

阿仙藥 (獨) Katchu.  
(英) Catechu.  
(佛) Cachou.

圖二十四百二第



産スル 茜草科 (Rubiaceae) ノ 蔓生灌木 *Ourouparia Gambir Brill.* 又 *Uncaria Gambir Booburgh (Nandea Gambir Hooker)* (第二百四十三圖) ヨリ 採收ス此植物ハ 又新嘉坡トスマトラ島ノ間ニ位スル和蘭領ノ小島ニ於テ多ク培養シ上記諸國ニ移住セル支那人ガ製造ニ從事ス前述灌木ノ葉及稚芽ニ水ヲ加ヘテ煮沸シ煎汁ヲ傾瀉シ斷エズ攪拌シツ、煎稠シ冷後凝固スベキ稠度トナルニ至リ扁平ノ木

中ニ煮沸シ更ニ其  
 煮汁ヲ煎稠シ日光  
 ニ晒シテ乾燥スル  
 ニ在リ。  
 (乙)ガムビール阿仙  
 藥又ガムビール  
 Gambir-Catechu, Gam-  
 bir.) 印度マラッカ  
 海峽ニ位スル諸島  
 及該海峽ノ沿岸ニ

圖三十四百二第



處々ニ淡褐色ノ部分ヲ箝在ス其質堅脆ニシテ破碎面ハ大貝殼狀ヲ呈シ光澤ヲ帶ヒ僅ニ透映ナルノミ冷水ニハ溷濁シテ溶解シ微ニ酸性ヲ有スル暗褐色ノ液トナリ類白色ノ残渣ヲ留ムルヲ常トス此残渣ハ沸湯ニハ過半溶解スレトモ冷水ニハ殆ント全ク析出ス、沸騰酒精ニハ遙ニ溶解シ易ケレトモ屢、不溶解性ノ不潔物ヲ留ムルコト全量三分一ノ多キニ至ルモノアリ。

函ニ注入シ其充分ニ固結スルヲ待チ散子形或ハ方柱形ニ截裂シ陰乾シテ輸出ス然レトモ當時ハ散子形ニ裝填セズ不整形ノ大塊トナシテ輸出スルヲ常トス、本邦藥舖ニ販賣スル阿仙藥ハ總テ「ガムビール阿仙藥ナリ」。

(形狀) (甲)バグ阿仙藥。曇暗褐色粗糙ノ大塊ヲナシ屢、

本生薬ノ水溶液ニ過クロール鐵ヲ加フレバ綠色ニシテ速ニ黑色ニ變スル沈  
至ヲ呈シ更ニ重炭酸ナトリウムヲ加フレバ藍色トナリ紫色トナリ終ニ紫紅  
色トナル味ハ甚タ收斂性ニシテ後稍甘シ。

ペグ阿仙薬ハ主トシテ「カテヒン」(Katechin  $C_{15}H_{10}O_6$ )ヨリ成ル、カテヒンハ沸騰酒  
精或ハ「エーテル」ヨリ結晶セシムルトキハ無色ノ結晶トナスコトヲ得而シテ  
「カテヒン」ハ炭酸ナトリウムト共ニ煮沸スレバ阿仙薬鞣酸 (Katechingerbsäure)ト  
ナリ又稀酸類ヲ加ヘテ煮沸スレバ不溶性ノ阿仙薬紅 (Katechuroth)トナル又  
阿仙薬紅色素ハ「クエルツェチン」(Quercetin  $C_{15}H_{10}O_7$ )ト共ニ本生薬中ニ少量ニ存  
在スルモノトス、本生薬ノ佳品ハ一%已下ノ灰分ヲ留ム。

(乙)ガムビール阿仙薬。散子形或ハ方柱形ヲナシ間、不整形ノ大塊ヲナス者アリ、注意シテ製造セル品ハ類白色ヲ帯ヒ其質輕ク破壊シ易ク其外面速ニ褐色  
ニ變ス、顯微鏡ヲ以テ檢スレバ甚タ細小ナル針狀結晶ヲ認ム、高度ノ温ヲ與ヘ  
煎稠シテ製造シタル品ハ暗褐色ヲ有シ内部ハ間、柔軟ニシテ顯微鏡下ニ檢視  
スルモ著シク結晶性ヲ呈セズ味收斂性ニシテ少シク苦ク後微甘ナリ。

ガムビール阿仙薬モ亦主トシテ「カテヒン」ヨリ成リ、沸湯及沸騰酒精ニ溶解セ

ザル不潔物ヲ含有スルコト大約十%ニ至ル、前文ペグ阿仙薬ノ條ヲ参照スベ  
シ。

日本薬局方ハ以上二品共ニ薬用品トナス。

(應用) 收斂薬トシテ用ユ、薬局方ノ製品ハ阿仙薬丁幾ナリ、工業上ニハ獸皮ヲ鞣化スルニ多  
ク應用ス。

### 第二十一章 粉末状生薬類 Pulverige Stoffe.

#### ●ホップ腺 Lupulin Glandulae Lupuli. Lupulinum.

第 二 百 四 十 四 圖



(基原) ホップ腺ハ一千八

百十三年已後醫薬上ニ應

用ス、歐洲諸國ニ培養スル

大麻科 (Cannabaceae)ノ蔓生

植物 *Humulus Lupulus* L. (ホッ

プ)ノ果本ヲ形成スル諸葉

並ニ果實及花被ニ附着ス

(獨) Lupulin.  
(英) Hop glands or grains.  
(佛) Lupuline.

ル小腺體ニシテ八九月ノ候ホップノ稔熟セル季節ニ至リ之ヲ敲打シテ採集シ  
篩過シテ混有物ヲ除去ス、**第二百四十四圖**ハ果本ヲ  
帶フル「ホップ」ノ一枝ヲ縮示シ**第二百四十五圖**ハ其果  
本ヲ形成スル鱗葉ノ一片ヲ示ス。

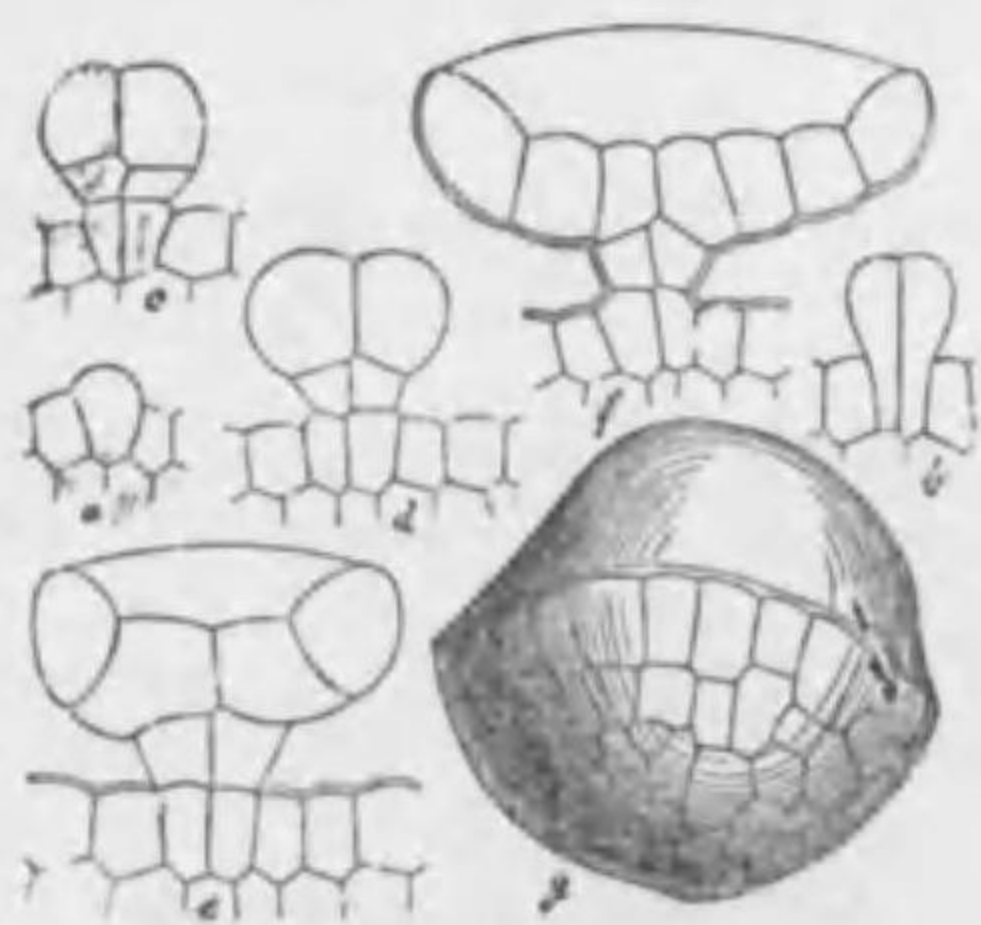
**(形状)**

ホップ腺ノ發育ハ外皮細胞ノ突起スルヨリ始マリ先ツ縦徑ニ分レ次  
ニ横劃セラレ更ニ細胞ノ分割ニ  
由テ多數扁形ノ細胞ヲ生成シ表  
皮ヲ生シテ之ヲ被包シ表皮ト扁  
形細胞ノ間ニ腺質ヲ蓄積シ表皮  
ハ之ガ爲メニ穹窿形ニ膨起シ腺  
體ノ生成茲ニ終局ス、**第二百四十  
七圖**(a)ヨリ(f)ニ至ル諸圖ハ腺體

圖六十四百二第



圖七十四百二第



發育ノ經過ヲ示ス、(g)ハ充分ニ發育セル腺體ナリ。

ホップ腺ハ帶綠黄色乃至帶褐黄色粘着性ニシテ均等ナラザル粗末ヲナシ大サ  
〇・一四乃至〇・二 mm ノ多細胞性腺體ヨリ成リ著シク穹窿セル表皮ヲ被ムリ

略、椀形或ハ葚狀ヲナシ表皮ト腺體ノ間ニ暗色物ヲ含有ス之ヲ顯微鏡下ニ檢  
視スレバ**第二百四十六圖**ニ示ス如キ形狀ヲ呈ス。  
ホップ腺ハ「ホップ」ニ固有スル芳香ヲ有シ味甚タ苦シ。

**(成分)**

揮發油・ホップ苦味酸 (Hopfenbittersäure) ナル苦味性ノ酸其他アルカロイ  
ド・揮發性酸類ヲ含有ス。

**(應用)**

健胃藥トナシ又生殖器ノ疾患ニ應用スルコトアリ往々之ヲ鎮痙藥及鎮痛藥トナシ  
テ賞用スルモノアレトモ其効疑ハシ。

● **カマラ** Kamala.

**(基原)**

カマラ「ハ印度地方ニ於テハ古來ヨリ絹絲類ヲ黄色ニ染ムルニ應用  
セリ、一千八百四十一年英國ノ醫師始メテ之ニ殺蟲ノ効力アルコトヲ報告セ  
リ。

カマラ「ハ印度ノ兩半島・印度群島・濠洲ノ東北部・支那ノ東南部ニ産スル大戟科  
(Euphorbiaceae) ノ植物 *Mallotus philippinensis* Muller Arg. (又 *Rotlera tinctoria* Roxburgh.  
**第二百四十八圖**)ヨリ採集セル腺體ナリ。

(獨) Kamala.  
カマラ  
(英) Kamala.  
(佛) Kamala.

圖八十四百二第



(形状)

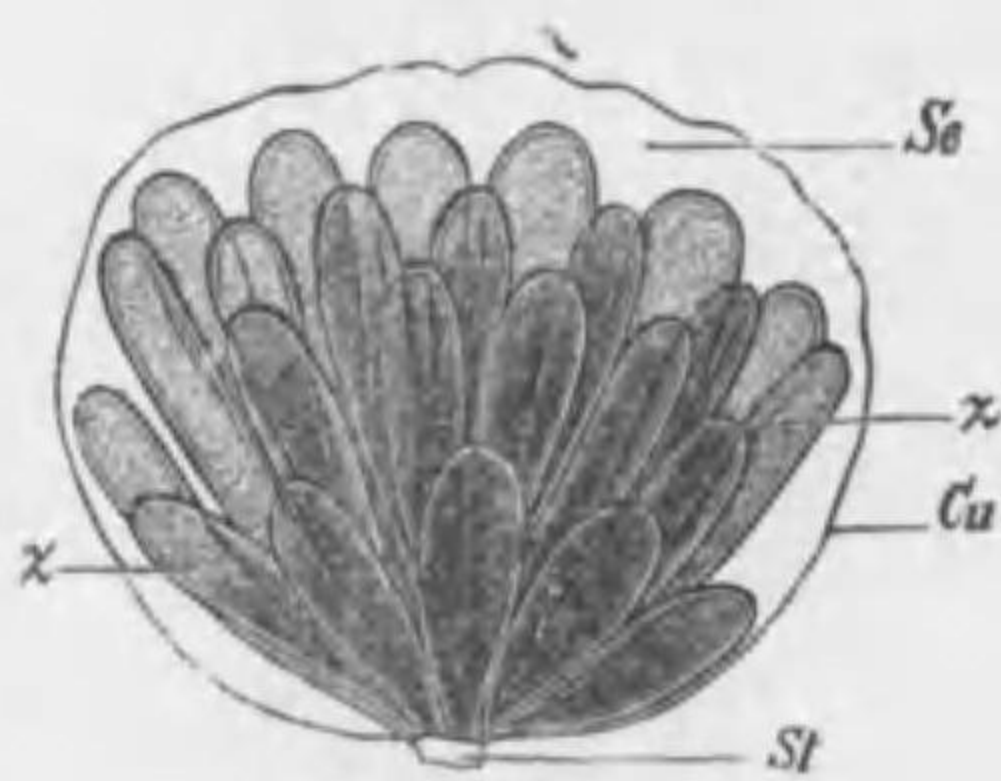
カマラハ前文ニ掲クル植物ノ三頭性或ハ殆ント球形ノ果實ニ星狀ノ毛茸ト共ニ密附スルモノニシテ該植物ヲ振動シ或ハ敲打シテ採集ス、坊間ノ品ハ無味無臭代赭色鬆疎ノ粉末ヲナシ顯微鏡下ニ檢

視スレバ透明黄色星狀ニ排置セル短楕棍狀ノ細胞ヨリ成リ球形ノ皮膜ヨリ被包セラル又星狀ニ排列セル鎌狀ノ毛茸ヲ混有スルヲ見ル、第二百四十九圖ノ(a)ハカマラ腺(b)ハ星狀ノ束毛ヲ顯微鏡下ニ檢視セルモノトス、而シテ第二百五十圖ノ(Si)ハ細胞軸、(Se)ハ粘液、(E)ハ細胞膜、(Cu)ハ表皮ナリ、カマラハ之ニエーテル、酒精、クロ、フォルム其他アルカリヲ加ヘテ振盪スレバ此諸液ニ鮮赤色ヲ

圖九十四百二第



圖十五百二第



附與ス(樹脂ニ係ル)。

(成分)

主要ナル成分ハ ロトラーン Rottlerin

( $C_{11}H_{16}O_2$ )ナリ、本化合物ハ黄色針狀ノ結晶ヲナス從前 マリトキシン Maltoxin ト稱セシモノト同一物トス又

イソロトラーン Isorottlerin ナルモノヲ含有ス其他樹脂、黄色素、蠟等ヲ含ム。

最佳品ハ灰分三%ヲ留ムルニ過キザレドモ尋常ノ品ハ其大約六%ヲ留ム最モ粗惡ノ品ニ至テハ灰分ヲ留ムルコト二十%ノ多キニ居ルモノアリ、其製造ニハ専ラ酸化鐵ヲ用ユ。

本品ヲ精製スルニハ篩過シテ成ルベク毛茸等ノ如キ夾雜物ヲ除去シ水ニ混攪シ大約五分時間放置シテ汚物(砂石)ヲ沈降セシメ其水面ニ浮遊セル「カマラ」ヲ挹取シ皿中ニ擴布シ常溫ニ於テ乾燥スベシ。

(應用) 海綿ヲ駆除スルニ用ユ。

### 第二十二章 動物界ヨリ出ツル生薬類 Drogen aus dem Tierreiche.

#### ●海綿 Spongiae.

(獨) Badeschwämme.  
(英) Sponge.  
(佛) Éponges.

**(基原)** 海綿ハ上古ノ時代ヨリ世ニ知ラレヒッポクラテス氏ハ己ニ之ヲ醫療上ニ應用セリ是レ各地ノ海底ニ産スル下等動物即チ海綿類 (Porifera) 角質海綿科 (Ceratospongiae) ノ *Fuspongiae* 屬ニ隸スル *Fuspongia adriatica* O. Schm. 等ノ幹管ニシテ所謂海綿蟲ノ分泌經營セル角質纖維ヨリ成リ其海綿蟲ハ暗色粘液狀ノ塊ヲナシテ該纖維ノ外面ヲ被覆シ且内部ニ縱横錯綜スル孔管ノ間ニ充填ス換言スレバ海綿ハ海綿蟲ノ群居スル巢窟ニシテ實ニ其共有ノ骨格タリ而シテ地中海ノ東部亞弗利加北部ノ海岸又米洲西印度群島中ノバハマ島ニ於テ採取スルモノヲ最モ良品トス海面下五乃至二十mノ深處ニ於ケル岩石ニ附着スルモノヲ叉狀ノ器械ニテ刮削採取シ或ハ潜水者水底ニ入テ之ヲ獲取ス爾後搓捏及洗滌ニ由テ海綿蟲ヲ除キ其骨格即チ海綿ヲ大氣ニ乾燥シ缺ヲ

以テ外形ヲ裝成シ必要ナレバ漂白シテ市場ニ出タスモノナリ。

**(形状)** 海綿ハ圓形卵圓形或ハ壓扁セラレタル形状ヲ呈シ往々數瓣ニ分裂シ又ハ盃盃狀ヲナシ著シキ彈力ヲ有スル柔軟ノ纖維幹管ニシテ其大ナルモノハ三十 cm 已上ニ至ルモ多クハ適カニ小ナリ此幹管ハ極メテ饒多ニ枝分セル角質纖維組織ヨリ成リ最モ多數ノ細管ニ由テ通走セラル其管ハ海綿ノ外面ニ開ケル細孔ヲ以テ始マル内部ニ至ルニ隨テ漸ク擴大シ遂ニ一箇若クハ數箇ノ廣管ニ開口ス此廣管ハ海綿ノ基底ヨリ表面ニ至ル迄腸管狀ニ通過スルモノニシテ之ヲ口竇 (Orifice) ト名ケ海綿蟲ノ生活スル際細管ヨリ吸收セル海水ヲ吐出スルノ途ヲナス海綿ハ其品種ノ異ナルニ隨テ種々ノ色ヲ有シ帶白黃色ヨリ暗褐色ニ至リ已ニ漂白セル品ト雖トモ多少特異ノ海臭ヲ帶フ其孔管ノ最モ微細ニシテ其質柔軟其色淡白其形狀完美ナル者ヲ良品トス而シテシリヤ産海綿ハ歐洲ニ於テ最モ貴重セラル品ナリ所謂馬海綿 (Spongia equinae) ハ其孔管粗大ニシテ〇.五乃至一.〇 cm ニ至リ粗糙堅強ニシテ醫用ニ堪ヘズ全ク別種ニ屬ス本邦ノ海岸ニハ往々此種ノ小ナルモノヲ發見ス海綿ヲ醫用ニ供スルニハ坊間ノ良品ヲ撰取シ敲打シテ砂石ヲ除キ水ヲ以テ



洗滌スベシ。

**(成分)** 海綿ノ組織ハ「スポンギン Spongin」ト名クル含窒性ノ物質ヨリ成ル此物質ハ生膠質及生絲ノ基質タル「フィプロイン」ニ近似ス沸湯ニハ侵サレザルモ沸騰カリ滲液ニ逢ヘバ「アムモニア」ヲ發生シテ溶解ス洗滌乾燥セル海綿ヲ燃化スレバ十六%ノ窒素ヲ生シ三乃至四%ノ灰分ヲ殘留ス往々海綿中ニ石灰性ノ小團塊ヲ包含スルコトアレトモ少許ノ鹽酸ヲ含有スル水ヲ以テ洗滌スレバ容易ク之ヲ洗去スルコトヲ得。

**(應用)** 海綿ハ主トシテ洗滌ノ目的ニ供用シ外科術上ニハ之ニ特別ノ形状ヲ與ヘテ使用ス。前日本藥局方ニハ「壓搾海綿 (Spongia compressa)」ヲ掲ク是レ良好ノ海綿ヲ水ニ浸シ強ク壓搾シ次ニ「アラビヤゴム漿」ニ浸シ再ヒ壓搾シ絲ヲ以テ緊密ニ纏繞シ手指大ノ圓筒形トナシ乾燥シ製ス是レ排膿等ノ爲メ天然若クハ人工的ノ溝管ヲ擴開スルニ用ユルモノナリ。

● 臘脂蟲 呀喃蟲 コクニル Coccinella.

(獨) Stochenille.  
(英) Cochineal.  
(佛) Cochenille.

**(基原)** 貴重ノ紅色料タル臘脂蟲 (Coccus Cacti L.) ハ植物蟲科 (Phytophthires) ノ蟲ニシテ昆蟲類中有吻族ニ隸スルモノナリ墨西哥國ニ産シ仙人掌科 (Cactaceae) ノ植物殊ニ *Opuntia coccinifera Muller*, *O. Tuna Muller*, 等ニ寄生ス目下ハ専ラ同

國及中央亞米利加ノホンデラス・グアテマラニ於テ人工ニ蕃殖シ瓜哇・福島等ニモ移養セリ千五百二十六年西班牙人始メテ之ヲ歐洲ニ齎來セリ。

此蟲ヲ蕃殖セシムルニハ熱帶亞米利加ニ於テ降雨期ノ經過後豫シメ貯養セル雌蟲ヲ「オプンチ」ア植物ノニ放テバ茲ニ卵子ヲ産シ其孵化セル仔蟲ハ速ニ全植物ヲ被フニ至ル而シテ雄蟲ハ其數極メテ少ナク(雌蟲三百ニ一ノ比例)交接後直チニ死亡ス雌蟲ハ其短嘴ヲ以テ吸着シ受胎後其後體ハ二倍ノ太サニ膨大ス産卵前少時ニ於テ之ヲ該植物ノ葉ヨリ掃取シ水蒸氣置或ハ太陽ノ熱ニ曝シテ之ヲ殺シ而シテ乾燥スルモノトス。

**(形状)** 臘脂蟲ハ無翼ノ雌性蟲ニシテ有翼ノ雄性蟲ニ比スレバ其體稍大ナ



リ卵圓形ヲ有シ下面ハ平坦上面ハ凸隆シ長サ五 mmニ至リ帶褐赤色ヲ有ス頭ハ頗ル大ニシテ上面二三ノ凹窪アリ、觸肢ハ側邊ニ向ヒ八節ニ分レ短厚ナリ頭ニ次ク所ノ三輪ハ下面大ニ皺縮シ後體ハ七乃至八節ヨリ成ル體ノ外面ニハ皮腺アリテ疣狀ニ振簇シ之ヨリ蠟質



供セラレ支那ニ於テモ古ク醫藥トシテ應用セリ但シ土地ノ異ナルニ隨ヒ藥用ニ供スル甲蟲ノ種類ヲ異ニス歐洲ニ於テハ專ラ *Lytta vesicatoria* (芫菁後文ヲ見ヨ)、東印度ニ於テハ *Mylabris Cichorii* 北米ニ於テハ *Cantharis vitata* 西印度ニ於テハ *Meloe trichthemum* (地膽Chalcid)ノ屬ヲ用キ本邦ニ於テハ *Epicauta Gorhami* *Meloe* (豆斑猫豆斑猫)、葛上亭長 (豆斑猫ナル和名ハ此蟲好クテ食フニ基ツキ葛上亭長ナル漢名ハ此赤帽ヲ著ケルモノニ似テ)ヲ應用ス此蟲ハ本邦各地殊ニ江州伊賀土州等ニ産ス而シテ支那ニ於テ同一ノ目的ニ供用スル蟲ハ *Mylabris rubripennis* (斑蚊)ナリ。

**(性状)** 日本藥局方規定ノ「カンタリス」ハ豆斑猫ノ乾燥屍ニシテ通常長サ十五乃至十八 mm 幅四乃至五 mm、頭ハ心臟形ニ類シ三箇ノ隅角ヲ有シ其後部ハ代赭様赤褐色ヲ呈ス粗大ノ點刻ヲ具ヘ太キ黒毛ヲ帶フ、甲翅(翅鞘)ハ黒色ニシテ光澤ナク其兩側縁及中央ニ類黃色ノ線條ヲ具ヘ短毛ヲ密生シ點刻ハ判明ナラス腹部ハ光澤アル黒色ヲ呈シ其後體ニ類黃色ノ輪帶四條乃至五條ヲ現ハス翅鞘上ノ類黄色ノ線條及此輪帶ハ共ニ類黄色ノ毛ヨリ成ル而シテ觸肢ハ内方ニ向ヒ前脚及中脚ハ五箇ノ肢節ヨリ成リ後脚ハ四箇ノ肢節ヨリ成ル、**第二百五十二圖**ハ豆斑猫ノ雌虫ヲ稍、廓大示セルモノナリ。

本品ハ固有ノ臭氣及灼クガ如キ苛烈ノ味ヲ有ス其粉末ヲ皮膚ニ接觸セシムレバ痲痛赤泡ヲ呈シ終ニ水泡ヲ發生スルニ至ル。

三宅理學士ニ據レバ販賣ノ「カンタリス」(豆斑猫)ニハ往々 *Epicauta trichensis* *Leu.* (黑豆斑猫)ヲ混有スルトナセリ然レトモ賣品ノ豆斑猫即チ藥用カンタリスニ

第二百五十二圖



第二百五十三圖

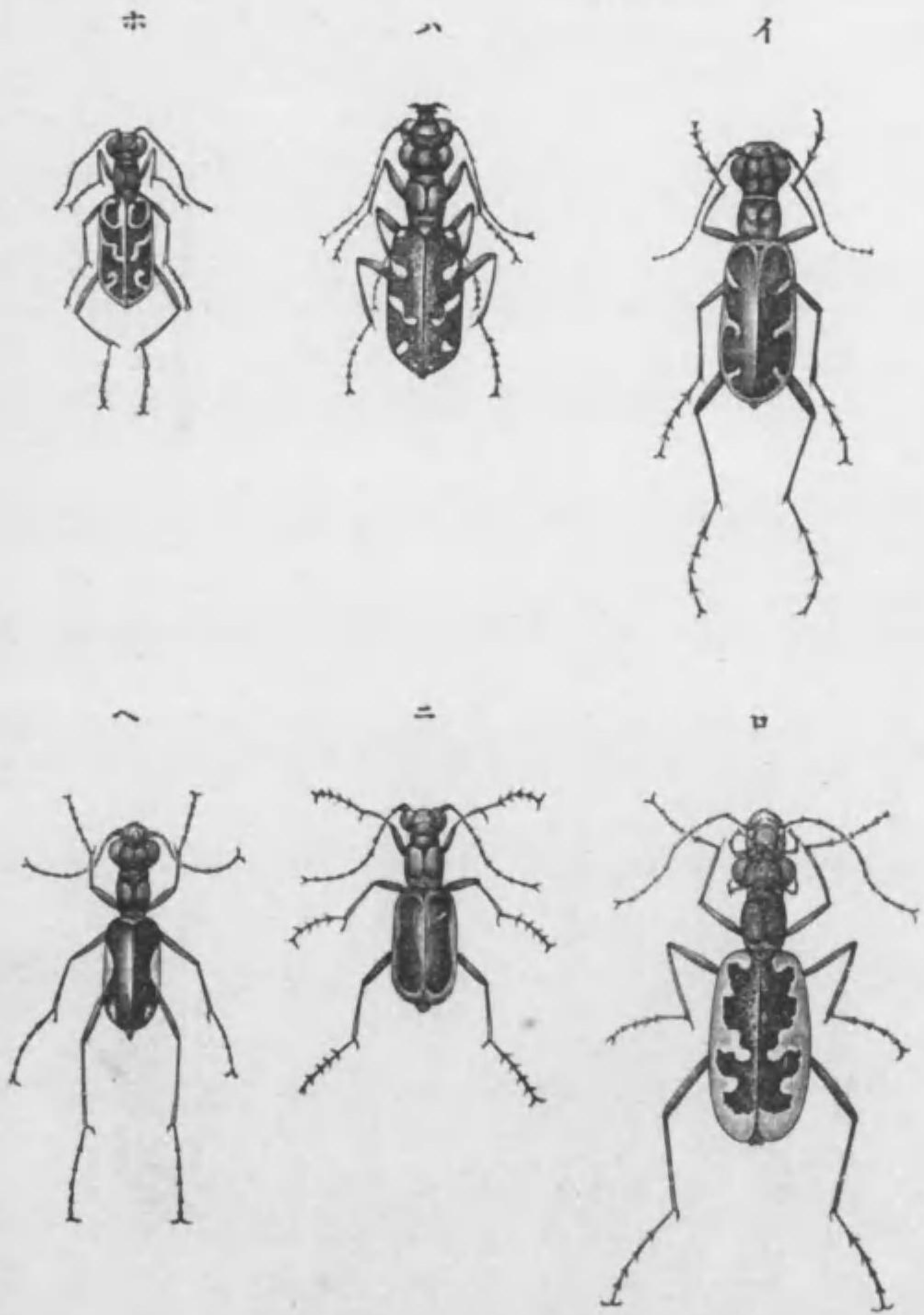


ハ其類黄色線條ノ磨剝セラレタルモノ少ナカラスシテ却テ黑豆斑猫

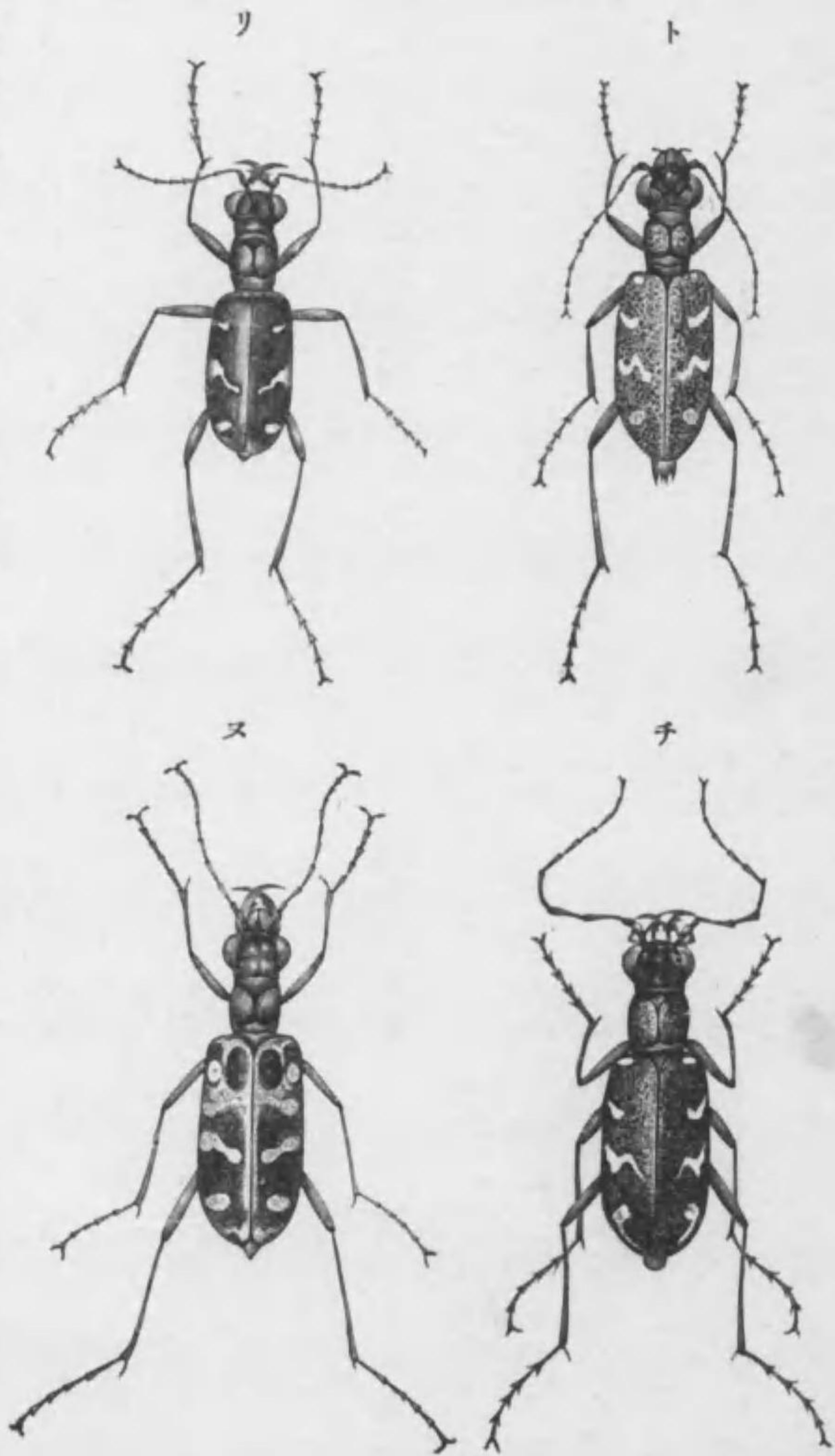
ニ類似スルノ觀ヲ呈ス宜シク注意スヘシ而シテ黑豆斑猫ハ豆斑猫ニ比スレバ寧ロ稀ニ發現スルモノナリ豆斑猫ト黑豆斑猫トヲ區別センニハ黑豆斑猫ノ形徴ニ注目スヘシ其體ハ黒色ニシテ頭部ハ光澤アル黃褐色ヲ呈シ胸背ニ點刻ヲ密布シ黒毛ヲ粗生ス翅鞘ニ細キ一縱隆起アリ點刻多クシテ黒毛ヲ密生ス翅ノ前縁ハ灰白ニシテ雄ニ限リ中央ニ灰白ノ縱線ヲ有ス、**第二百五十三圖**ハ黑豆斑猫ヲ稍、廓大示スルモノナリ、此黑豆斑猫ニモ亦カンタリゲンフ含

有スルヤ否ヤハ他日ノ試験ヲ待ツ。

第 二 百 五 十 五 號



第 四 十 四 圖



本邦ニハ右ニ掲クル所ノ外發泡ノ効アリト稱セラル、モノ仍ホ左ノ數種アリ本條ノ豆斑猫ト所屬ヲ異ニシ五節類(Pentamera)斑猫科(Cicindelidae)ニ屬ス。  
 第二百五十四圖(イ)ハこはんめう(Cicindela speculifera Chev.)同圖(ロ)ハかはらはん



芫菁

● 芫菁 *Spanische Fliegen*

歐洲諸國ノ藥局ニ於テハ專ラ芫菁 *Lytta vertiginosa Fabr.* ナ以テ藥用ニ供ス。

芫菁ハ上記ノ甲翼蟲ニシテ歐洲各地殊ニ氣候温暖ナル地方ニ産シ殊ニ木犀科(罌屬・オリイブ樹屬等)忍冬科忍冬屬(接骨木屬)ニ棲息ス、之ヲ捕集スルニハ夏月早晚ニ際シ樹下ニ布片ヲ敷キ此蟲ノ尙ホ半眠ノ狀ニ在ルニ乘シテ樹ヲ振搖シ其布片上ニ墜落スルモノヲ集メ、エーテル・硫化炭素・テレピン油等ヲ充テタル壺中ニ投シ之ヲ殺シテ篩器上ニ置キ太陽ノ熱或ハ電熱ヲ與ヘテ之ヲ乾燥ス。

圖五十五百二第



ハ殆ント四角形ヲナシ甲翅ハ二條ノ線ヲ現ハス、其色ハ全體光澤アル金綠色ヲ呈ス。

芫菁ハ灰分六乃至十%ヲ含有ス、諸書ニ記載スル所ニ據レバ本品ニ於ケル、カンタリヤン<sup>ノ</sup>含量ハ獨乙藥局方ニ規定スル所(約0.8%)ヨリモ遙ニ少量ニシテ0.3乃至0.6%トス。

パウヤン氏ハ本品中ニ含メル遊離カンタリヤン酸ヲ0.72%結合カンタリヤン分ヲ0.72%合計1.04%ト記載セリ。

其佐氣味・貯法・調製ノ注意・應用等全ク「カンタリス」ニ同シ。

● 白阿膠 *Gelatina alba.*

(基原及形成) 凡ソ白阿膠ト稱スルモノハ菲薄ノ板狀又ハ葉狀トナセ

- 白阿膠 (獨) Weißer Leim.
- (英) Animal Gelatin.
- (佛) Gélatine animal.

ル膠ニシテ特ニ注意ヲ加ヘ牛及犢ノ骨ヨリ製造セルモノナリ、醫藥ノ目的ニ Gelatina in foliis alba. La Grénétine ト稱スルモノヲ佳トス近來獨乙ニ於テモ良好ノ白阿膠ヲ製出スレトモ佛國製及白耳義製膠ヲ以テ今尚ホ最佳品トス、白阿膠ハ全ク或ハ殆ト無色透明菲薄板狀或ハ葉狀ヲナシ硝子樣ノ光輝ヲ帶ビ無味無臭ナリ酒精及エーテルニ溶解セス冷水ニハ膨脹スルノミニシテ溶解セス熱湯ニハ容易ニ溶解シ其稠度ニ由リ多少粘着性ノ液トナリ冷ユレバ設トビ百倍ノ溶液ト雖トモ尚ホ能ク凝固ス、白阿膠ノ溶液ハ反應中性ニシテ之ニ酒精ヲ加フレバ白色絮狀ノ沈澱ヲ生シ而シテ其甚タ稀薄ナル水溶液ト雖トモタンニン酸并ニ「フォルムアルデヒド」ニ由テ全然沈澱ス、最良ノ品ハ灰分ノ量2%以下トス。

(成分) 白阿膠ハ殆ト純粹ノ膠素ヨリ成ルヲ以テ醋酸及黃色血鹵鹽其他中性醋酸鉛・鹽基性醋酸鉛・硫酸酸化鐵・明礬・硫酸銅・硝酸銀・稀釋セル鎖酸類等ニ由テ沈澱セララル、コトナシ之ニ反シテ昇汞并ニタンニン酸ニ由テ沈澱セララル食鹽・硝石・クロール亞鉛ノ如キ諸鹽類其他亦或ル稀薄酸類例之バ醋酸及硝酸ノ如キハ阿膠ヲシテ其凝固スル性ヲ失ハシム而シテ亦阿膠ハ屢之ヲ煮沸シ

魚膠 (獨) Haufenblase.  
(英) Isinglass.  
(佛) Colle de poisson.

圖 六 十 五 百 二 第



或ハ百度以上ニ熱スルトキハ其凝固スルノ性ヲ減ジ或ハ之ヲ失フモノトス。  
**(應用)** 白阿膠ハ膠囊劑例之バ「コバイ」パールサム囊、膠劑ヲ製シ又ハ丸劑ニ塗布スルニ用ユル等用途最モ汎シ。

● **魚膠** Colla piscium. Ichthyocolia.

**(基原)** 魚膠ハ主トシテ鱈魚屬 Acipenser Huso L. ノ鰾(浮囊)ヨリ得ルモノニシテ已ニ上世希臘時代ヨリ魚膠ヲ取ランガ爲メ本屬ノ魚ヲ捕獲セリ、鱈魚屬ハ硬鱗屬(Ganoidae)ノ大魚ニシテ北地ノ河川ニ棲息シ又ハ海洋中ニ生活シテ産卵ノ爲メニ河川ニ上ホルモノアリ我北海道ニ於テモ其一種ヲ産ス歐洲ニ於テハ黒海及アソヴ海及之ニ開口スル河川ニ於テ多ク之ヲ捕獲ス、**第二百五十六圖**ハ此魚ノ全形ヲ縮小ス、其魚膠ハ多ク露西亞ニ於テ同魚ヨリ「カヴィアル」名其卵ニシテ著名ノ食品ナリヲ製スルノ傍ラ鰾ヲ採リテ之ヲ製ス。  
魚膠ノ製法ハ鱈魚屬ノ鰾(浮囊)ヲ採リ截割シ之ヲ翻轉シテ内面ヲ現ハシ能ク洗滌シ少時水ニ冷浸シ外皮及血管ヲ除キテ内皮ノミヲ取り内面ノ粘膜層ヲモ剝去シタル後チ截片シ展張シテ

乾燥スルニ在リ露國産ノ魚膠ハ市場ニ於テ第一位ヲ占ム歐洲及北米等ニ於テ大口魚屬等ヨリ産スルモノアルモ劣品ニ屬ス。

**(形状)** 魚膠ハ類白色滑澤強韌可撓性半透明角質様ノ膜片ニシテ光彩ヲ帶ヒ其纖維ノ方向ニハ容易ク扯裂シ得ベク葉片疊片線索纖維等種々ノ形状ヲナス、味ハ澁泊ニシテ臭氣ナク冷水ニ浸漬スレバ膨起シ沸湯及沸騰稀酒精ニハ殆ント全ク溶解シ其一分ヲ熱湯三十分ニ溶解シタルモノハ冷後殆ント無色透明ナル凝膠塊ヲナスベシ。

**(成分)** 良好ノ魚膠ハ主トシテ「グルチン」Gluena (膠素)ヨリ成ル、百度乃至百十度ニ之ヲ乾燥スレバ十六乃至二十%ノ水分ヲ放出シ之ヲ燃燒スレバ大約〇・五%ノ灰分ヲ止ム。

**(應用)** 内用ニハ其粘漿ヲ緩和藥トシテ與フルコトアレトモ稀ナリ只「ワエリート」ナシテ食用ニ供ス、外用ニハ英法粘着硬膏トシテ用ユ。

● **麝香** Moschus.

**(基原)** 麝香ハ麝ノ牡獸ニ固有スル線囊ノ分泌物ニシテ支那ニ於テハ上古ヨリ香料及醫藥ニ供用シタレトモ歐洲ニ於テハ紀元後五百五十年始メテ書

(獨) Moschus.  
(英) Musk.  
(佛) Musc.

圖 七 十 五 百 二 第

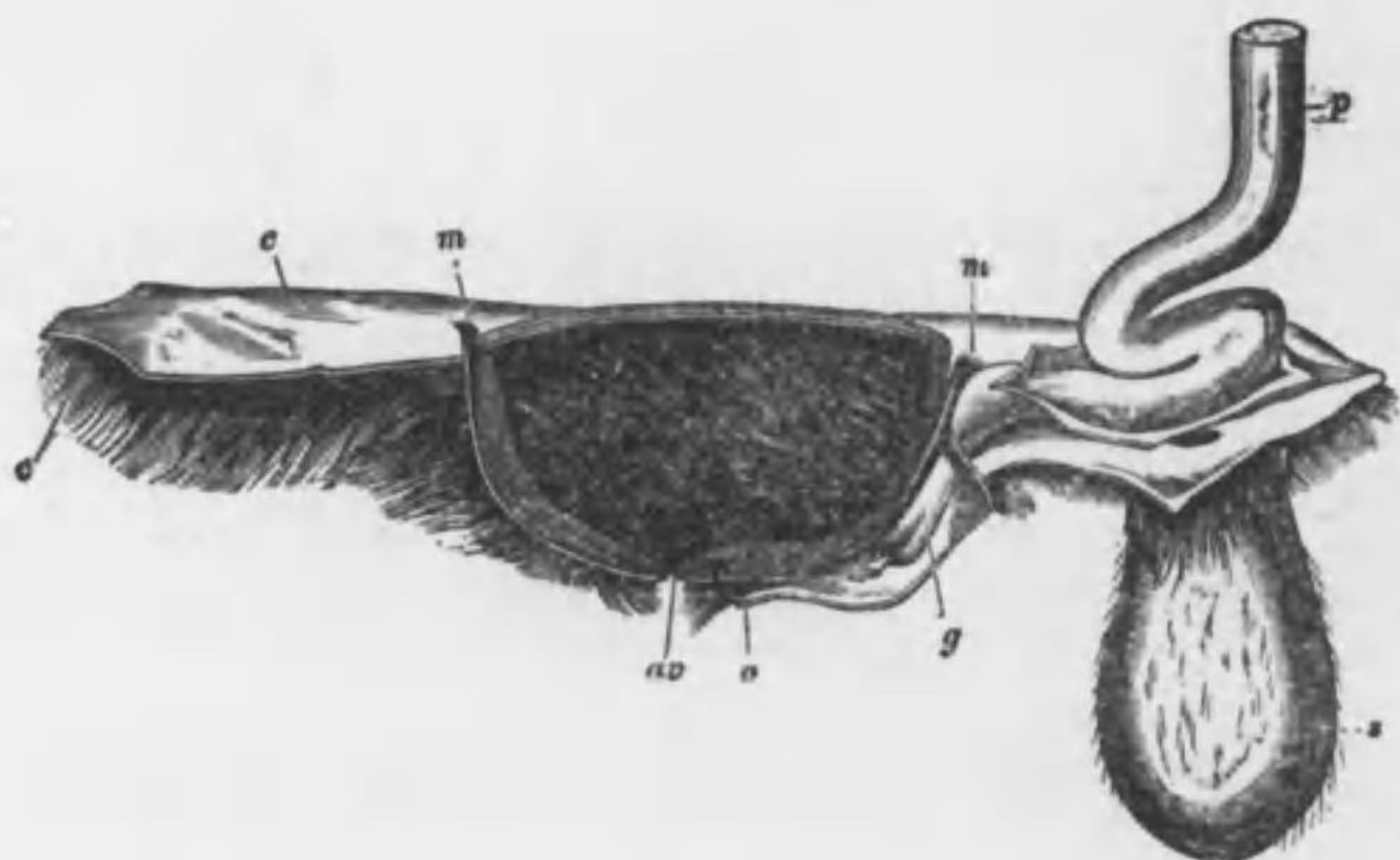


篇ニ記載セラレ中世ニ至リ亞拉昆亞ノ醫師其應用ヲ開キ近世典畜藥トシテ行ハルヽニ至レリ。

(三) ナルモノヲ具有シ之ニ峻烈ノ香氣アル分泌物ヲ包有ス是レ即チ麝香ナ

麝 *Moschus moschiferus* L. (第二五十七圖)ハ支那西部西藏及西伯利亞ニ連亘スル山嶺ニ棲息スル反芻雙蹄族 (*Artiodactyla ruminantia*)ノ獸ナリ其形鹿ニ類似シテ體軀稍小ナリ角ハ全ク缺如スルモ牡獸ハ其兵器トシテ下方ニ挺出シ少シク後方ニ向ヘル強大ノ角牙ヲ有ス牝獸モ亦之ヲ有スレトモ遙ニ小ナリ牡麝ハ腹ノ中線ニ當レル外側ニ陰莖ト臍トノ間ニ於テ一種ノ腺所謂麝囊 (*Moschusbeu-*

圖 八 十 五 百 二 第



リ、此麝囊ヲ皮ト共ニ截取スレバ外面ハ毛ヲ被リ内面ハ無毛ニシテ稍穹隆セル側邊ヲ現ハシ包皮溝開口ノ直前ニ當リ麝囊短キ排泄管ヲ開キテ旋渦狀ノ毛ヲ以テ之ヲ圍匝ス、麝囊自己ハ二重ノ筋層ニ由テ圍包セラレ三層ノ膜ヨリ成ル、第二五十八圖ハ牡麝ノ麝囊及生殖器ヲ示スモノニシテ(c)ハ外皮、(s)ハ陰囊、(p)ハ陰莖、(g)ハ龜頭、(o)ハ尿道鞘ノ開口、(av)ハ麝囊ノ開口、(m)ハ其筋包ナリ(ブランド氏ニ據ル)。

(性状) 本邦ニ販賣スル所ノ麝香ニ三種アリ雲南麝香、本口及白毛是レナリ而シテ雲南麝香ヲ以テ最佳品トス。雲南麝囊ハ略球圓形ヲナシ重サ三十ダ



ラムニ至ル其類褐色ヲ帶フル毛ハ大抵短ク剪除セリ其周邊ニ存スル毛ハ類褐色ヨリモ寧ロ灰色或ハ類白色ニ近シ而シテ此麝囊中ニ包有セル物質即チ



圖九十五百二第

麝香ハ柔軟ナラス暗褐色球形ノ顆粒ヲナス香氣佳絶ニシテ尿臭又ハ「アムモニア性」ノ臭氣ヲ帶ヒス其量ハ麝囊全量ノ四十五乃至六十五%トス。



圖十六百二第

本口ト稱スル麝香ハ恐クハ西人ノ所謂東京麝香ナリ此麝囊ハ圓形或ハ略椭圆形ニシテ其上面ハ穹窿シ下面ハ平坦ナリ又下面ハ中央ニ向テ偃伏セル類黄色ノ毛ヲ帶ヒ周邊ニハ白色剛強ノ毛ヲ着ケ而シテ大抵濕氣ヲ帶ヒ粘着性ヲ有ス其内部ニ包裹セラル、麝香ハ柔軟軟膏様ヲナスヲ常トスレトモ間、顆粒狀ヲナスモノアリ香氣ハ佳良ナレトモ少シク「アムモニア性」ノ臭氣ヲ帶フ**第二百五十九圖**ハ本口(東京)麝囊ニ

シテ左圖ハ上面ヲ現ハシ右圖ハ側面ヲ示シ(s)ハ上面(h)ハ下面トス。

白毛ハ蒙古及西伯利亞ヨリ出タスモノニシテ西人ハ之ヲ西伯利亞麝香又ハ

カバルヂニヤ麝香 *Moschus sibiricus s. caburdinicus* トナス此麝香ハ麝ヨリ採ルモ

ノニ非スシテ麝ト稱スル別種ノ獸ニ基原スルモノナリ(麝麝考ニ據ル)白毛ハ

圓形ナラス**第二百六十圖**ニ示スガ如ク畧、卵圓形ヲ有シ上面ニハ白色ノ毛ヲ

帶ヒ周邊ノ毛ハ類褐色ヲ有ス其内部ニ存スル麝香ハ柔軟ニシテ大ニ尿臭及

アムモニア性ノ臭氣ヲ放ツ。

麝囊ヲ開キテ麝香ヲ採集スルニハ利刀ヲ以テ其周邊ヨリ二片ニ切斷シ其内

部ニ存スル麝香ヲ丁寧ニ搔取シ「ピンセット」ヲ媒用シテ毛茸又ハ皮片ヲ搔去シ

硫酸上ニ乾燥スベシ其重量ノ減却分ハ大約十乃至十四分ニ至ル。

麝香ハ細微ノ粉末トナスコト甚タ困難ナルヲ以テ大抵ハ粗末ノ儘ニシテ應

用ス、又等分或ハ二倍量ノ乳糖ト共ニ細微親密ニ研磨シテ貯フルコトアリ是

レ他ノ散藥等ニ調和スルノ便ヲ與ヘンガ爲メナリ。

(成分)

麝香固有ノ香氣成分ハ未タ詳カナラス最近ニ至リシムメル商會ニ

Schimmel

性液體ヲ分離セ

(獨) Bibergeit.  
(英) Castor.  
(佛) Castoreum.

リ、自餘ノ成分ハコレステアリン、膽汁質、卵白質、アムモニウム、鹽類、磷酸カルチウム等トス、水ニハ大約其四分ノ三量、稀酒精ニハ大約其半量ヲ溶解シ、無水酒精、クロホルム、テレピン油等ニハ極メテ僅ニ溶解スルノミ、小茴香、麥角、樟腦、硫黄乳等ト混和シ、又ハ全ク乾燥セシムルトキハ其香氣ヲ消失ス、但シ水ニ濕潤セシムレバ再ヒ之ヲ發生ス、硫酸上ニ乾燥スレバ大約十乃至十四%ノ水ヲ失フ、灰分ハ通例六乃至八%ニ居ル。

**(應用)** 麝香ハ粉粧的香料トシテ最モ汎ク東洋ニ行ハル、ノ外興舊藥トシテ粉劑、丁機劑ノ狀ニ於テ醫藥ニ供ス、三ニトロアチルトルオール  $C_6H(NO_2)_3CH_2OCH_2^H$  ハ其香氣甚メ麝香ニ類スルヲ以テ人工麝香トシテ行ハル。

### ●カストレウム 海狸香 Castoreum.

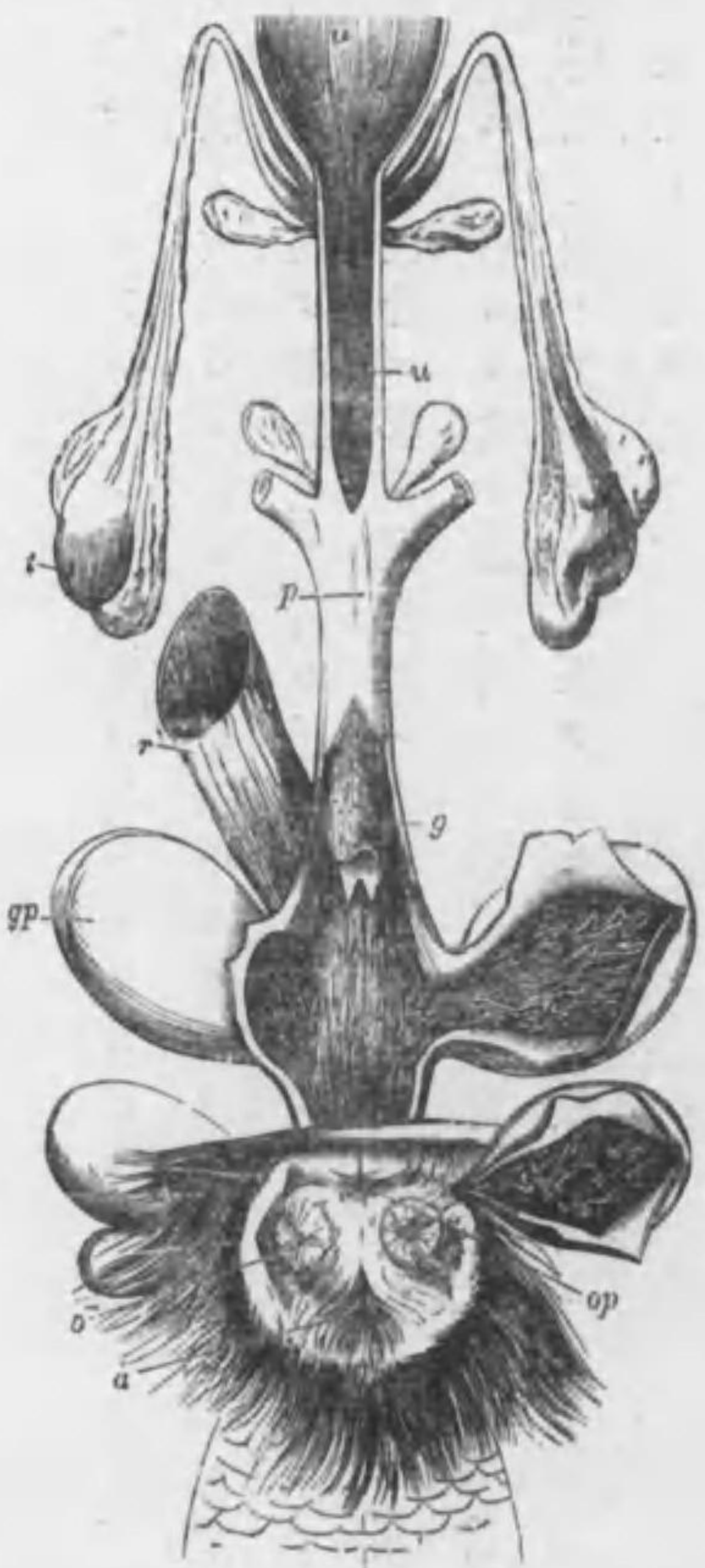
#### (基原)

カストレウムハ齧齒族 (Rodentia) 海狸科 (Castoridae) ノ獸 (Castor fiber L. (海狸) ノ生殖器ニ聯通スル囊體及其内容物ヲ乾燥セシメタルモノニシテ、上古ノ時代ヨリ婦人病藥トシテ世ニ知ラレ、ヒポクラテス氏及アリニウス氏ハ當時已ニ精密ニ記載セリ、此獸ハ亞細亞、亞米利加及歐羅巴ノ北部ニ於ケル河湖中ニ生活シ全長三十六目、肩潤ニシテ鱗片ヲ帶フル、尾ヲ有シ、後肢ノ趾間ニ泳膜アリ、體毛緻密深軟ナルヲ以テ其毛皮ハ貴重ノ衣料タリ、水邊ノ地ヲ掘リテ溝管狀ノ巢

ヲ營ム。

此獸ハ牝牡ノ別ナク其生殖器官ニ連通シテ特異梨子形ノ囊狀腺ヲ有シ、流動性ノ分泌物ヲ包有ス、而シテ該囊體ハ自カラ其内容物ヲ分泌スルモノナルヲ只外陰部ノ分泌物ヲ保存スルモノナリヤ、未タ詳カナラス、此腺囊ハ左右各一對ヲナシテ外陰部ノ皮下ニ存シ共同ノ排泄管ヲ經テ牡

第 二 百 六 十 一 圖



直腸(2)ハ腺囊、右側ノモノハ開綻セル狀ヲ示ス、ノ包皮溝ニ開口スル狀(3)ハ包皮溝ノ開口(4)ハ肛門(a)ノ上部ニ於ケル油囊ノ開口ヲ現ハス、(ブランクト氏ニ據ル)。

- (1) 包皮溝ニ
- 牝獸ハ腔ニ其
- 分泌物ヲ排出
- ス、第(二百六十
- 一圖ハ牡獸ノ
- 生殖器ヲ現ハ
- スモノニシテ
- (e)ハ膀胱、(h)
- ハ尿道、(p)ハ陰
- 莖、(q)ハ龜頭、
- (r)ハ睪丸、(a)ハ

市場ニ於テハ主トシテ二種ノ「カストレウム」ヲ區別ス一ハ米國ヨリ出ツル「加拿陀カストレウム」、一ハ露國ヨリ出ツル「西伯利亞カストレウム」ナリ、甲ハ其品位劣レルモ價廉カニ低廉ニシテ各國藥局方多クハ之ヲ收載シ乙ハ品位優良ナルモ高價積有ノ品ニ屬ス、本條ニ於テハ加拿陀カストレウムニ就テ記載スベシ。

**(形状)** カストレウム(加拿陀カストレウム *Castoreum canadensis*) ハ前文ニ記載セル腺囊ノ乾燥セル者ニシテ稍扁壓セラレタル長梨子形ヲナシ外面皺縮不平坦ニシテ堅ク褐黑色ヲ有シ長サ八 cm 厚サ二・二五 cm ニ至リ末端漸ク狹長トナリテ排泄管ニ移ル其皮膜ハ之ヲ二片ニ剝離スルコトヲ得而シテ其一片ハ各一更ニ二層ヨリ成ル其内容物ハ新鮮ノ際黄色液狀ナルモ熏烟乾燥セル後ハ赤褐色脆性ノ塊ヲナシ色澤ヲ帯ヒ内皮ノ皺褶間ニ充填シ特異峻烈ノ臭氣及苛辣性ノ苦味ヲ有ス。

西伯利亞カストレウム (*Castoreum sibiricum*) ハ長サ六乃至十二 cm 厚サ二乃至四 cm ニ至リ(即チ加拿陀品ヨリ大ナリ)外面滑坦ニシテ皺縮セズ寧ろ類圓形乃至卵圓形ヲナシ内容物ハ暗褐色ニシテ光澤ナク其氣味加拿陀品ニ比スレバ遠カニ峻烈且ツ佳快ナリ。  
カストレウムノ偽品ハ屢々市場ニ出ツ例之ハ羊ノ陰囊及犢牛ノ噴囊等ノ中ニ異ノ「カストレウム」ノ少量ト種々ノ樹脂類トノ混和物ヲ充填セルモノ、如キ是レナリ。

**(成分)**

カストレウムノ大部分ハ酒精ニ溶解スル樹脂性ノ物質ヨリ成リ傍ラ鹼化ス可カラザル脂肪(カストリン *Kasturin*)、一種ノ揮發油(本品臭氣ノ基原)コレステリン、安息香酸、エノール類、類殊ニ炭酸カルチウムヲ含有ス。

**(應用)**

婦人ノ生殖器官及神經病ニ特效薬トシテ應用シ殊ニ「カストレウム」丁幾トナシテ與ヘタレドモ今ハ漸ク減少ニ傾ケリ。

● 稠厚牛膽 *Fel Tauri inspissatum.*

**(基原)** 牛 (*Bos Taurus L.*) ノ膽汁ヲ煎稠シタルモノニシテ之ヲ製スルニハ新鮮ナル牛膽ヲ開キ其膽汁ヲ採リ瓷皿中ニ流入シ直チニ重湯煎ニ上セ蒸發シテ稠厚越幾ストナス。

**(形状)** 稠厚牛膽ハ帶綠褐色ノ塊ニシテ味ハ初メハ微ニ甘ク後甚タ苦ク特異ナリ新製ノ品ハ水ニハ澄明ニ溶解シテ帶綠褐色ノ液トナレトモ時日ヲ經タルモノハ稍混濁セル液トナル、牛膽ノ水溶液ニ少量ノ蔗糖ヲ加ヘタル後硫酸ヲ注加スレバ暗紫紅色ヲ呈シ更ニ多量ノ水ヲ加ヘテ稀釋スレバ著シク混濁ス此反應ハ牛膽酸(後文ヲ見ヨ)ニ基因ス。

**(成分)**

膽汁ニ固有ナル物質ヲ含有ス故ニ其成分ハ膽汁酸類(即チ膽酸 *Glykolsäure*  $C_8H_9NO_6$ )

(獨) *Dohfengalle.*  
(英) *Ox-gall.*  
(佛) *Fiel de boeuf.*

稠厚牛膽

及牛膽酸 (Taurocholsäure  $C_{26}H_{45}NO_7$ ) ノアルカリ鹽類、膽汁色素 (Bilirubin, Biliverdin)、膽脂 (Cholesterin) 及無機鹽類ナリ。

(應用) 牛膽ハ健胃苦味薬トシテ用ユルコトアレトモ之ヲ服スルトキハ胃酸ヲ中和シ、ペプシンヲ沈澱スルニ由リ消化機ヲ損シ爲メニ嘔吐ヲ醸スニ至ル故ニ牛膽ハ無效ナルノミナラス却テ有害ナルコトアリ。

(獨) Suflattichblätter.  
(英) Coltsfoot-leaves.  
(佛) Feuilles de tussilage.

圖 二百六十二第



○ 追加

● ファルファラ葉 Folia Farfarae.

(基原) ファルファラ葉ハ歐洲各地・亞非利加ノ北部及亞細亞ニ産シ現今又亞米利加ニ傳播セル菊科 (Compositae) ノ宿根草 Tussilago Farfara L. (第 二百六十二圖) ノ葉ヲ採集セルモノナリ。

(形状) ファルファラ葉(第 二百六十二圖) ハ心臟形ヲナシ長サ十五 cm ニ至リ葉體厚ク掌狀ノ脈絡ヲ現ハシ葉柄長シ上端ハ尖銳ニシテ邊緣ハ多少灣狀ヲナシ其灣内ニ鋸齒ヲ着ケ其鋸齒ハ軟骨様ヲナス上面ハ暗綠色ニシテ光澤ヲ帶ヒ下面ハ鞭狀ヲナセル毛茸ヨリ

追加 ファルファラ葉

成レル絨毛ヲ帶フルヲ以テ特徴トス稚葉ハ毛衣ヲ被ムルニ由リ雪白色ヲ有ス。

ファルアラ葉ハ氣味顯著ナラス淡泊粘液性ナリ。

**(成分)** 揮發油ノ痕跡配糖體ニ屬スル苦味質・デキストリン・ゴム質粘液沒食子酸等ナリ。

**(應用)** 本品ハ粘液ヲ含有スルニ由リ氣道加答兒ニ對シ咳嗽刺戟ヲ鎮靜スルニ用ユ、浸劑又ハ茶劑トナシ與フ。

● ウェルバスクム花 Flores Verbasi.

**(基原)**

ウェルバスクム花ハ玄參科 (Scrophulariaceae) ニ屬スル *Verbasum thapsiforme* Schrad. (第二百六十三圖) 及 *Verbasum phittonoides* L. ナル二種ノ植物ノ花ヲ乾燥セルモノナリ此二種ノ植物ハ共に越年草ニシテ全歐洲・前亞細亞・及亞弗利加ノ北部ニ汎布ス。

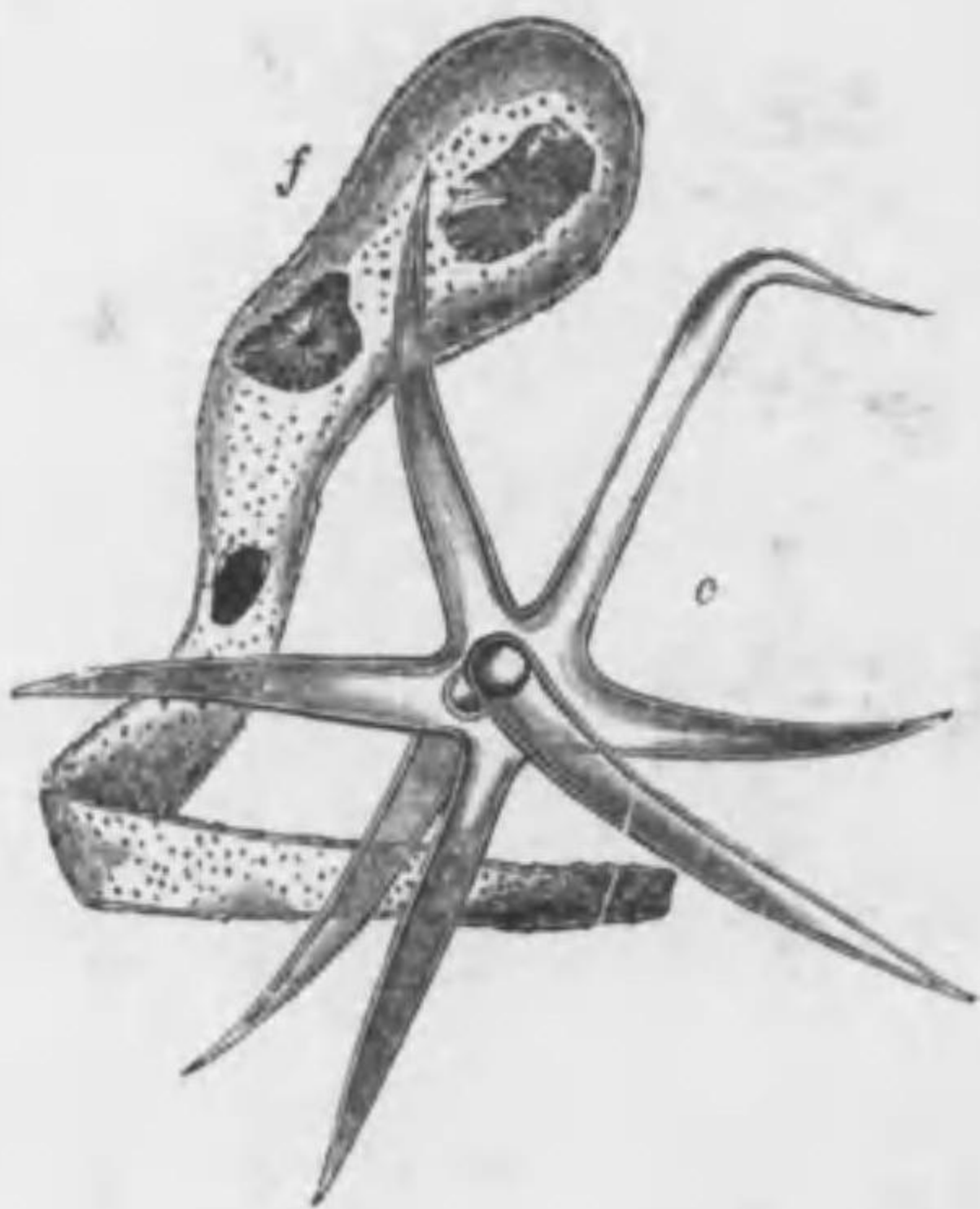
花 (獨) *Wolffblumen.*  
(英) *Mullein flowers.*  
(佛) *Fleurs de bouillon-blanc.*

圖三十六百二第



**(形狀)** ウェルバスクム花ハ黄色ヲ有シ短キ管狀ヲナシ上端五瓣ニ分レ(第二百六十三圖)ノ下方ニ花ヲ披開シテ示ス

圖四十六百二第



其下方ノ一瓣ハ他ノ四瓣ニ比シ遙ニ巨大ナリ五箇ノ雄蕊ハ花瓣ト交互ニ配列シ其大ナル花瓣ノ左右ニ位スル二箇ノ雄蕊(a)ハ他ノ三箇ノ雄蕊(b)ヨリ長クシテ毛茸ヲ帶ヒス他ノ雄蕊ハ短楕形ヲ有スル特異ノ毛茸(第二百六十四圖)ヲ着ク之ヲ乾燥シ又ハ水分ヲ吸取スル液中ニ浸シテ顯微鏡下ニ檢視スルトキハ球狀晶ヲ見ル、又花冠ハ星毛ヲ帶フ。

本品ハ特異峻烈ノ香氣ヲ有ス。

第二百六十四圖ハ短楕形ヲ有スル毛茸ヲ示ス、球晶ヲ明視スルヲ得ベシ(c)ハ其星毛ヲ示ス。

本品ハ鮮黄色ヲ有スルモノヲ用ユベシ褐色ノモノハ用ニ堪ヘズ。

**(成分)** 本品ハ揮發油ノ痕跡ヲ含有ス、爾餘ノ成分ハ糖及他ノ抱水炭素並ニ脂肪色素等ナリ。

(應用)

本品ハ溫和ナル粘滑薬トシテ用ユ、主トシテ歐洲民間ニ於テ茶劑トシテ行ハル。

附録 第二

稀用生薬 (下)

(五) 葉類。

- 樺木葉 *Folia Betulae*. 歐洲及亞細亞各地ニ産スル樺木科 (*Betulaceae*)ノ樹 *Betula alba L.* (シベニア)ノ葉ナリ、緩和性利尿薬トシテ浸劑茶劑トナシ用ユ。
- ケカン葉 *Folia Chekan*. 南米洲智利國ニ産スル桃金娘科 (*Myrtaceae*)ノ樹 *Eugenia Chekan Hook. et Arnott.*ノ葉ニシテ收斂防腐及分泌増進ノ作用アリ、慢性氣管支加答兒・赤痢・膀胱炎等ニ應用セラル。
- エリオチクチオン葉 エルバサンマ *Folia Eriodictyvi. Yerba santa*. 北米カリフォルニア州ニ産スル「ヒドロフィルラ科」ノ植物 *Eriodictyon glutinosum Benth.*ノ葉ニシテ氣道ノ慢性加答兒及膀胱加答兒ニ之ヲ用井殊ニ好シテ其水製酸澱粉及舍利別ヲ應用ス。
- 胡桃葉 *Folia Juglandis*. 東西洋各地ニ産スル胡桃科 (*Juglandaceae*)ノ樹胡桃 *Juglans regia L.*ノ葉ニシテ腺病ノ特效薬タル稱アレトモ今ハ行ハラス。
- ラウルス葉 月桂葉 *Folia Lauri*. 歐洲ニ産スル樟科 (*Lauraceae*)ノ植物 *Laurus nobilis L.*ノ葉ニシテ其佳快ナル香味アルガ爲メ興奮薬トナシ又好シテ食品ニ附加ス。
- マテ葉 パラガイ茶 *Folia Maté*. 南ブラジルニ産スル冬青科 (*Aquifoliaceae*)ノ樹 *Ilex paraguayensis St. Hil.*ノ葉ニシテ興奮性ノ嗜好品トナス、コフェインヲ含有ス。
- マチコ葉 *Folia Matico*. 南米伯拉西ニ産スル胡椒科 (*Piperaceae*)ノ樹 *Piper angustifolia Jacq. et Pers.*ノ葉ニシテ收斂作用ヲ有シ淋病・赤痢・下利等ニ之ヲ用ユ。
- ミルツス葉 *Folia Myrti*. 地中海濱及南亞細亞ニ産スル桃金娘科 (*Myrtaceae*)ノ樹 *Myrtus communis L.*ノ葉ニシテ慢性加答兒諸病ニ收斂薬トシテ浸劑トナシ用ユ。

●ジャムボエ葉 *Folia Psidi*. *Folia Djamboc*. 爪哇ニ産スル桃金娘科(Myrtaceae)ノ植物 *Psidium pyrifolium* L. ノ葉ニシテ「タンニン酸及没食子酸ヲ含ムニ由テ收斂作用ヲ有シ慢性下痢ニ應用セラル。

●パチュリ葉 *Folia Patchouli*. 東印度群島ニ産スル唇形科(Labiatae)ノ草 *Pogostemon patchouli* Hilleb. ノ葉ニシテ佳香アル揮發油ヲ含有シ近時ニ至リ最も愛用セラル。芳香料タリ。

●芸香葉 *Folia Rutae*. 歐洲及亞細亞ニ産スル芸香科(Rutaceae)ノ宿根性植物(芸香) *Ruta graveolens* L. ノ開花時ニ採集セル葉ニシテ特異不快ノ臭氣ヲ有シ其浸劑ヲ通經藥トシテ内用シ洗口含嗽水及灌腸劑トナス。

(六) 花類。

●蜀葵花 *Flores Althaeae*. *Fl. Malvae arboresc.* 歐洲及亞細亞ニ産スル錦葵科(Malvaceae)ノ植物 *Althaea rosea* L. ノ花ニシテ緩和性瀉劑トナシ又呼吸器病ニ煎劑トシテ用ユ。

●九輪草花 *Flores Primulae*. 歐洲産總草科(Primulaceae)ノ植物 *Primula officinalis* Jess. (黄花くりん草)ノ花ナリ、主ニ歐洲ノ民間藥トシテ行ハレ興奮及發汗藥トナシ又偏頭痛・眩暈等ニ用ユ。

●除菊蟲 *Flores Pyrethri*. アドリア海ノ濱岸地方ニ産スル菊科(Compositae)ノ草 *Chrysanthemum cinerariaefolium* Vis. ノ花ヲダルトシテ除蟲菊トナシ同科ノ *Chrysanthemum caucasicum* Pers. ノ花ヲ百見矢亞除蟲菊トシテ虫・鼠・臭蟲(南京蟲)等ヲ驅除スルノ目的ニ其粉末ヲ撒布シ又ハ之ヲ煎燒シテ蚊蠅ヲ殺スノ用ニ供ス。

●麗春花 *Flores Rhoeados*. 東西各地ニ産スル罌粟科(Papaveraceae)ノ草 *Papaver Rhoeas* L. (ひなげし)ノ花ニシテ緩和粘滑藥トナシ兼テ美赤色ヲ附センガ爲メ其舍利別子佐ノ水劑ニ附加ス。

(七) 果實類。

●鳳梨 *Fructus Ananassae*. 西印度諸島及中米ニ産スル鳳梨(Bromeliaceae)ノ植物 *Ananassa sativa* Lindl. (Bromelia Ananassa L.)ノ果實ニシテ新鮮ナル者ハ好シテ食用ニ供セラレ又果實及果汁ヲ驅蟲及利尿ノ效アリトシテ用ユ。

●酸漿實 *Fructus Alkekengi*. 歐亞各地ニ培植セラル科(Solanaceae)ノ草 *Plysalis Alkekengi* L. ノ果實ニシテ利尿及瀉下ノ作用ヲ有シ又痛風藥トナス。

●アヨワン實 *Fructus Ajowan*. 東印度・百見矢亞等ニ産スル繖形科(Umbelliferae)ノ草 *Carum Ajowan* Benth. *d. Hook.* ノ果實ナリ、健胃藥・驅風藥トシテ用ユ。

●大麻仁 *Fructus Cannabis*. 各地ニ培植セラル科(Moraceae)ノ草 *Cannabis sativa* L. (麻)ノ果實ニシテ緩和藥トナシ又乳劑ニ之ヲ附加ス。

●ツネラトニア實 *Fructus Ceratoniae*. 歐洲ニ産スル豆科(Leguminosae)ノ植物 *Cerantonia siligua* L. (ひんまめ)ノ果實ニシテ加答兒性疾患ニ緩和藥トシテ應用セラル。

●胡荽實 *Fructus Coriandri*. 歐産繖形科ノ草 *Coriandrum sativum* L. (コリアンダー)ノ果實ニシテ健胃藥及驅風藥トシテ之ヲ用ユ。

●エムベリア實 *Fructus Embelliae* *Ribes*. 印度ニ産スル紫金牛科(Myrsinaceae)ノ植物 *Embellia Ribes* Burm. ノ果實ニシテ其粉末ヲ織蟲驅除藥トシテ用ユ。エムベリア酸  $C_{12}H_{16}O_4$  ヲ以テ其主成分トナス。

●メーザ實 *Fructus Maesae*. 亞弗利加洲・アビシニアニ産スル紫金牛科(Myrsinaceae)ノ植物 *Maesa pelta* Hook. ノ果實ニシテ「サオリア」*Saoria* ナル名ヲ以テ織蟲驅除藥トシテ用ユ。

●洋芹實 *Fructus Petroselin.* 歐洲ニ産スル繖形科 Apium *Petroselinum* L. ノ果實ニシテ亦健胃驅風ノ目的ニ用井ラル。

●フェルランドリウム實 *Fructus Phellandrii*. 歐産ノ繖形科 *Oranthe* *Phellandrium* L. 果實ニシテ喘息及慢性氣管支加答兒ニ用井ラレ亦間歇熱ニモ有効ナリト稱ス。

(八) 種子類。

●コックルス子 *Semen Cocculi*. 東印度群島ニ産スル防已科(Menispermaeae)ノ植物 *Anamita Cocculus* A. et H. ノ種子ニシテ中樞神經藥ニ作用シ蟲類ヲ驅リ又ハ魚族ヲ麻酔セシムルニ用ユ。

●南瓜仁 *Semen Cucurbitae*. 各地ニ培植セル瓜科(Cucurbitaceae)ノ植物 *Cucurbita Pepo* L. (かぼち)ノ種子

ニシテ驅蟲藥トシテ用弗ラレ。  
 ● 梔 梔仁 *Semen Cydoniae*. 歐亞各地ニ産スル林檎科 (*Pomaceae*) ノ樹 *Cydonia vulgaris Persoon.* (きんごろう) ノ子仁ニシテ粘滑藥トシテ粘劑ヲ作ル料ニ供ス。  
 ● 胡盧巴子 *Semen Foenigræci*. 歐洲産ノ苜科 *Trigonella Foenun graecum L.* ノ種子ニシテ粘滑性苦味藥トナシ又僅布トシテ用ユ。  
 ● ヒヨス子 *Semen Hyoscyami*. 歐産ノ茄科植物 *Hyoscyamus niger L.* ノ種子ニシテヒヨス葉ニ同シク麻酔藥トナシ用ユ。  
 ● コラ子 *Semen Kolae*. 熱帯ノ各地ニ産スルビニヤトリア科 (*Bhinieriacae*) ノ植物 *Serenlia acuminata Pal.* ノ種子ニシテカフネインチ含有シ鎮痛藥及心臓強壯藥トナス。  
 ● 罌粟子 *Semen Papaveris*. 温帯熱帯各地ニ培植セラレ阿片ノ母種トシテ汎ク知ラレタル罌粟科 (*Papaveraceae*) ノ一年艸 *Papaver somniferum L.* ノ種子ニシテ緩和藥トナシ乳劑用種子トナシ用ユ。  
 ● 榎子 *Semen Quercus*. 歐洲及亞細亞ニ産スル殼斗科 (*Fagaceae*) ノ樹 *Quercus pedunculata Ehrh.* 及 *Quercus sessiflora Sals.* ノ種子ニシテ之ヲ焦烘シタルモノヲ煎出シ咖啡ニ同シク收斂與奮性ノ飲料ニ供ス。

(九) 樹脂類。

● エレミ脂 *Resina Elemi*. 熱帯各地ニ産スル種々ノ植物株ニ烏攸屬 (*Canarium*) 及アマリス屬 (*Amirsis*) ノ植物ヨリ採スル「ゴム」樹脂ニシテ刺戟性軟膏ノ成分トナス。

生藥學下卷畢

生藥學下卷索引

イノ部	伊豆縮砂	一一二	ニノ部	二葉薄荷	二二二	ニノ部	二葉薄荷	二二二
ロノ部	ローレルケルス葉	一七一	ハノ部	ハママリス葉	二二〇	ハノ部	ハママリス葉	二二〇
ハノ部	八角茴香	二二八	ニノ部	ニシクシ	二二五	ハノ部	ハママリス葉	二二〇
ニノ部	日本産杜松實	一一六	ハノ部	ハママリス葉	二二〇	ハノ部	ハママリス葉	二二〇
ハノ部	白胡椒	三三三	ハノ部	ハママリス葉	二二〇	ハノ部	ハママリス葉	二二〇
ハノ部	白胡椒	三三三	ハノ部	ハママリス葉	二二〇	ハノ部	ハママリス葉	二二〇
ハノ部	白胡椒	三三三	ハノ部	ハママリス葉	二二〇	ハノ部	ハママリス葉	二二〇
ハノ部	白胡椒	三三三	ハノ部	ハママリス葉	二二〇	ハノ部	ハママリス葉	二二〇
ハノ部	白胡椒	三三三	ハノ部	ハママリス葉	二二〇	ハノ部	ハママリス葉	二二〇





● 藥學博士下山順一郎編纂  
**製藥化學**  
改正 第十二版 全三冊  
正價金四圓五拾五錢  
小包料 金貳拾四錢

● 藥學博士下山順一郎 藥學博士 小山哉校閱  
**新藥篇**  
改正 第三版 全一冊  
正價金貳圓五拾八錢  
小包料 金拾八錢

● 藥學博士下山順一郎 藥學博士 小山哉校閱  
**藥品製鍊法**  
改正 第二版 全一冊  
正價金壹圓參拾錢  
小包料 金拾貳錢

● 藥學博士下山順一郎編著 柴田承桂校訂  
**藥用植物學**  
改正 第十三版 全一冊  
正價金貳圓貳拾錢  
小包料 金拾貳錢

● 藥學博士下山順一郎著  
**日本藥局方註解**  
改正 第四版 全一冊  
正價金五圓六拾錢  
小包料 金參拾錢

● 藥學博士下山順一郎 藥學博士 高橋秀松  
**提要無機化學**  
第二版 全一冊  
正價金貳圓八拾錢  
小包料 金拾八錢

● 藥學博士下山順一郎 藥學博士 高橋秀松  
**提要有機化學**  
全一冊  
正價金貳圓八拾錢  
小包料 金拾八錢

● 藥學博士下山順一郎校閱 藥學博士 慶松勝左衛門譯述  
**重量分析實驗指導**  
全一冊  
正價金四圓八拾錢  
小包料 金八拾錢

終